

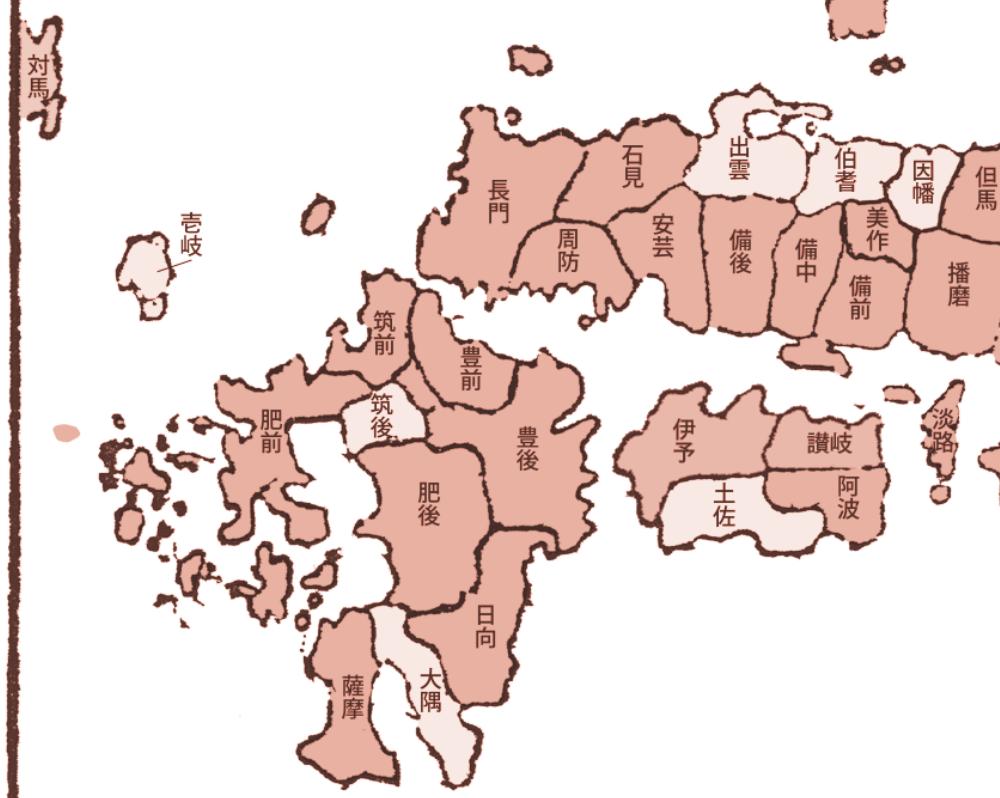
芭蕉堂主園更先生之像

李下畫

問



金木東山敬亮墓



# 『花傳齋』翻刻集成 I

—園更の時代 天明六年（1786）～寛政十年（1808）—

# 『花供養』翻刻集成 I

—— 閻更の時代 天明六年（寛政十年）——

## 目 次

凡例

翻刻本文

1	天明六年	闇更主催	『花供養』
2	天明七年	闇更主催	『花供養』
3	寛政元年	闇更主催	『花供養』
4	寛政二年	闇更主催	『花供養』
5	寛政三年	闇更主催	『花供養』
6	寛政四年	闇更主催	『花供養』
7	寛政五年	闇更主催	『花供養』
8	寛政六年	闇更主催	『花供養』
9	寛政七年	闇更主催	『花供養』
10	寛政八年	闇更主催	『花供養』
11	寛政九年	闇更主催	『花供養』
12	寛政十年	闇更主催	『花供養』

付表一 各年本の編成

付表二 各年別・国別入集発句数

『花供養』所蔵一覧

付記

俳号索引

129 128 91 83 74 60 50 41 31 22 16 11 8 4 1

## 凡例

④ 漢字の字体は、概ね現行の常用漢字体等に統一する。ただし、俳号については當時の習慣を尊重して、原文の表記に従うことがある。

左のものは原文の表記に従う。

一、本翻刻集成は、京都東山芭蕉堂主催の『花供養』を収録したものである。天明六年の初刊から明治三年までの現存する総てを、四期に亘って翻刻する計画である。本冊のIは、天明六年から寛政十年までの、闌更主催の十二冊を翻刻する。

二、各巻の翻刻に用いた底本・校異本の略称は次のとおりである。

### ○略称一覧（敬称略）

- (1) 糸井 京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫  
(2) 白鹿 兵庫県西宮市篠部桜コレクション  
—白鹿記念酒造博物館寄託—  
(3) 愛知県大 愛知県立大学付属図書館  
(4) 綿屋 天理大学付属天理図書館綿屋文庫  
立命館大学アート・リサーチセンター櫻井文庫  
(5) 櫻井 石川県立図書館月明文庫  
(6) 月明 松宇 文庫  
(7) 松宇 今治市河野美術館  
早稲田大学図書館雲英文庫  
(8) 河野美 竹内 千代子  
高岡市立高岡図書館  
(9) 雲英 竹内  
(10) 竹内  
(11) 高岡 小林 孔  
(12) 小林 某家 個人  
(13) 某家 個人  
(14) 燕々 岡山市立中央図書館燕々文庫

三、翻刻にあたっては、次の方針に従つた。

- ① 丁移りは、丁の最後に、柱刻によって漢数字で示し、丁の表は「オ」裏は「ウ」で略記する。柱刻が無い時は、「見返し」「序」「跋」などと適宜補う。  
また、算用数字による丁数は、柱刻によらない通り番号である。柱刻と甚だずれる場合は、適宜下段に併記した場合がある。  
② 本文の改行は概ね原文のとおりとする。  
③ 連句における短句は、一字下げとする。

選・撰 野・埜 村・邨 船・舟 縁・椽 掘・堀 食・喰  
淵・測 碗・椀・盃

また、左のものは次のように改める。

○虎→虎 鮎→帰 囂→網 疾→候 帆・巾→草  
○朝貢→朝顔 貌→顔 厂→鴈→雁 广→摩・磨・魔 壳→殻 太良→太郎  
暮、→暮る 野、→野の 令→零  
○挑灯→提灯 盞→盆 術→衿 竜→龍 垣→巵 皋→臯 驢→駒 蘆→芦  
穢→梅 磯→磯

⑤ 濁点・半濁点は私に付し、原文にあるものは「(濁ママ)」とする。なお、濁音が繰り返されない場合の踊り字は、左のように統一する。  
親こゝろ→親ごゝろ としきく→としぎく 年くく→年ぐく

⑥ 原本にあるルビはそのまま記し 私にルビは振らない。

⑦ 踊り字については、原文の表記に従い、次のように統一する。  
漢字一字（一音） や

ひらがな一字・同濁点

カタカナ一字・同濁点

ヽ・ゞ

二音以上の繰り返し・同濁点

ヽ・ゞ

⑧ 音訓記号は原文の表記に従う。  
⑨ 底本の虫損などによる判読不能箇所については他本で校合するが、それが不可能な場合は、□で示す。

⑩ 校異等の注記は、【校異】で記し、本文に該当箇所がある時は傍線を付す。

1 天明六年『花供養』

底本	糸井本	葵	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
校異	白鹿本	喜竹		、
		芭柳		詔はぬ色ぞ自然の山桜
		巴凌		ちる桜有やうれしき嵐山
		嵐月		代を潜む児麗しや山ざくら
花供養		夫木		心なや桜にかけし牛の沓
		仙牛		毛氈も筵も花の座敷哉
		言道		掛茶屋が訛も侘し山ざくら
		長広		如此
丙午花供養		志諺		老人の本性見たり花の下
		女紫蘭		花の庭踏あらしけり上童
蕉翁桜木の尊像に		尼得終		一峰
花を奉ること、年毎の日に		女桃		桜ちる山静なる詠かな
なんめぐり来にければ、		月峰		ナニハ 芽木
おの／＼草堂につどひて		定雅		南路
しづかさや真くづが原も花供養		在貫		南我
春日照り添ふ像の衣手		百栄		百明
蜂の巣に袋きせ置掃除して		女みほ		暁山
口のきたなき男どもなり		呑鳥		重厚
舟の興竹の筒より酢の出る		甫尺		大渢
黒珊瑚といふものを送りぬ				かゝし
月のもと机も紙も露にそみ				
父母となく虫の居にけり				
余略				
酒飲ば下主になりよく花の山	渭川	葵	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の雲都の不二も詠あり	南栄	車蓋		、
花咲て山口しるき家居哉	蛙面	白岱		詔はぬ色ぞ自然の山桜
幕取に走る野中の桜かな	平呑	南栄		ちる桜有やうれしき嵐山
山挽の木地に咲也奥の花	角蜂	其成		代を潜む児麗しや山ざくら
花のちる日比はうかれ心かな	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
散花や切飯分る天窓数	渭川	葵	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
般若読口へちり込さくら哉	南栄	車蓋		、
花の里花もたぬ子もなかりけり	蛙面	有庸		詔はぬ色ぞ自然の山桜
散かる桜にむかふ童べ哉	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
花守や衣を洗ふ苔の水	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
初桜遙に寒し猿の声	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
片心花に通ふや風の音	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
花の里花もたぬ子もなかりけり	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
散かる桜にむかふ童べ哉	南栄	花街		、
花守や衣を洗ふ苔の水	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
初桜遙に寒し猿の声	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
片心花に通ふや風の音	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
	其成			心なや桜にかけし牛の沓
				毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷哉
				掛茶屋が訛も侘し山ざくら
				如此
				老人の本性見たり花の下
				花の庭踏あらしけり上童
				一峰
				桜ちる山静なる詠かな
				ナニハ 芽木
				南路
				南我
				百明
				暁山
				重厚
				大渢
				かゝし
道芝に誰筆やそもそも花曇	渭川	寄筇	(一〇)	花ちるや松の梢を吹送る
花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき	南栄	花街		、
常にさへ遊ぶに花の東山	蛙面	文推		詔はぬ色ぞ自然の山桜
鐘樓守醉せていなん花の暮	平呑			ちる桜有やうれしき嵐山
人はいさ花に幾代の幕のゆれ	角蜂			代を潜む児麗しや山ざくら
花ならぬ花や誠の花見女郎	東雨			心なや桜にかけし牛の沓
	其成			毛氈も筵も花の座敷

酒買に宇治へ出けり山桜  
子をつれた人はまれ也初桜  
杣一人花に暮たる山路かな  
又よその花見る山や山の上  
旅人も宿をはづれて花見哉  
  
哀さは寝に去ぬ鳥と散花と  
我は迷ふ立名もあり花の山  
手折らめや唯末の花も匂ふなる  
初花やそぞろに寒き片原野  
花堤て行子に道を除にけり  
  
魂は山をはなれてざくらかな  
明がたや雲の下より初ざくら  
手を当て見れど嵐の桜かな  
いとによる芽の煙り桜かげ  
また今年花につれなき命哉  
  
かびくさき味噌踏里や花の道  
人声の桜にふかき谷間かな  
散花にうかく暮る日毎かな  
片里や花咲中に衣打  
隈はたゞ空のみどりや花の山  
  
日々に城は隠れて山桜  
曙や蝶より先へ花の山  
桜／＼また日くらして帰りけり  
夕栄や藪を見越して村の花  
  
辻村 梅仙 菩提寺 鉄翁 石部 良交 亀洲  
平松 亞溪 新城 泉柳 青牛 クヅハ 不染  
大ツ 巨州 小谷 湖青 カイヅ 琴桃 南化 龍子  
踏月 夕鳥 鼠角 狐来  
ダイゴ 百哺

(六〇)	花の枝に長刀掛る奴かな 昼まではあだに廻りて初桜 斧の柄の朽るまでさけ山桜 山桜ちらぬほど吹あらし哉 塩竈の煙は惜しき桜かな 奥山やあたら桜に道もなし 我よくやあまた所の花思ふ	白子連 嶋水 澄水 荻人 無曲 可計	女 千之	カヂミ 志計 成山 梅支 声志 可笑
(五九)	侍のはかま着ぬ日や山ざくら 散花にうかく過て行身哉 心よや花に日毎の山廻り 菅笠は麓に捨て桜かな 川一つ越されて床し山ざくら 橡先の火箱かりけり初桜	如江 芦角 素水 翅英 蓼車 梨風	水口 肘邦 、蟹州	(四ウ)
(五八)	花守や朝な夕なの花に染み 膝もとへ散花染る硯かな 哀花を独たのしむ庵かな 咲満て煙がごとし山ざくら	仁保 思声		
(五七)	、 、 、 、 、 、			

喰合ふて花なちらしそ山鳥	津ベタ	梅二
雨空や翌の桜に眠りかね	米二	
七つ八つの子の遠乗や江戸の花	万化	
花の比闘の戸ひらく仮寢哉	一身田	支朗
山里やげに人多きさくら花	野田	雨降
持かけし女ぢからや山ざくら		
笈士の影に迷ふやはつ桜	大通	
色に香に心を初る花見かな	津文波	
詠でも／＼只さくらかな	有方	
花笠を着つゝ駒にし舞子共	架橋	
諸人の声ちる花のあらし山	桂岐	
雨雲はさばけて花の夕かな	楚鴻	
散る花に心留るや酒の中	文岱	
花満て袖も諸肌ぬぐ日哉	淇園	
酒壳に花のちり込音羽哉	路鳥	
蝶／＼や能うもだまつて花の中	丹波梶原	
殻樽に恋しき峰や桜狩	洞々	
店やからしる人名乗花見哉	ヒカミ	
但馬イクノ 松童	文虎	
花盛り人のあらしや渡月橋	千原	
弁当や桜流るゝはしり先	夜ト	
乞食の卒都婆によもの花見哉	渡江	
おしめども／＼風の桜かな	和旦	

神も出て在かしらず花曇  
日南にも生れ付なり遅桜

麦太

谷泉

麦太

花の不二神の都はほとゝぎす  
幾度か月に見かへる花戻り

朔宇  
(一一〇)

(裏表紙)  
(裏表紙)

風の花心届くかたもちける　志州鳥羽　東渓  
小荷駄借る京の女中や朝の花　伊勢四日市　馬曹

志州鳥羽　東渓  
伊勢四日市　馬曹

桜咲やまがね堀山も一さかり　甲州牧父  
山越えて咲や桜の朝ぼらけ　錦河

甲州牧父  
錦河

雨の花葉がちに成て日の暮る　備笠岡　湖嵐  
散や花花や此身をいかにせん　月の夜や花を出て行人の影

備笠岡　湖嵐  
月の夜や花を出て行人の影

暮る日や木の間に花を散し出  
嵐して峰に見え初る桜哉  
山嵐やうしろあらはす糸桜

静菅  
作良  
樗冠  
真洞

此山は此一もとで花見哉　房州磯村　倭風

房州磯村　倭風

夕榮や零するかと桜陰　ツルガ　悦溪  
花にうかれ花に静けき翁哉　梅里

ツルガ　悦溪  
梅里

花飛で来るや前壳の膳の上　山桜遠寺の鐘の響けり  
庭に有花から花を見初けり　東我

山桜遠寺の鐘の響けり  
庭に有花から花を見初けり

梅喜　楚流  
柳月　東我

梅喜　楚流  
柳月　東我

羽二重の肩に一枝桜かな　羽二重の肩に暮たる独り哉

羽二重の肩に一枝桜かな  
羽二重の肩に暮たる独り哉

倭水　英  
梅喜　梅喜

倭水　英  
梅喜　梅喜

松は花の景色をそへて嵐山　加賀馬来　祖竹

松は花の景色をそへて嵐山

(一〇〇)

日かげ／＼花ちる中の松くろし　祖竹  
是は誰が麦の烟や初ざくら

日かげ／＼花ちる中の松くろし  
是は誰が麦の烟や初ざくら

高砂　布舟  
下総　尺艾

高砂　布舟  
下総　尺艾

嵐山桜ぞ秋の草木より　浪花二柳　麦風

嵐山桜ぞ秋の草木より

(一一〇)

ちる花を拾ひあげつゝ又一盃　山父　麦雅  
散る花の庭静也タづとめ　石二つ向ふの山や初ざくら  
首筋や花見なれたるのびぢゞみ　江涯　不十

江涯　不十  
首筋や花見なれたるのびぢゞみ

高砂　布舟  
下総　尺艾

高砂　布舟  
下総　尺艾

(一一一)

狩人も鳥見失ふ桜かな　上下仁田　魚渕  
わらひ合心競へよ花の旅　宮崎　柳旨

上下仁田　魚渕  
宮崎　柳旨

京三条通御幸町西江入丁　蕉門書林　菊舎太兵衛梓

京三条通御幸町西江入丁  
蕉門書林　菊舎太兵衛梓







花によくつかざる人もなかりけり 、 以中

どちらから見ても桜の表哉

貫巣

咲華の中に隠る、翁かな

鬼雀

花盛り開捨て置庵かな

呑狐（一一オ・14）

滝壺や夕日散込む山ざくら

吐雲

滝壺や夕日散込む山ざくら

吐雲

○

我家を見かけて淋し花もどり 同川原方 一和

醉させて花散かゝる夕かな

希龍

○

なま中に書よこしたり寺の花 丹梶原 洞々

花ざかり鳥につれなき蝶かな

但生野 松童

○

醉ふて来る人を枝折の華の山 豊岡 菊隱（一二ウ・14）

夕暮は僧ひとりなり山ざくら

渡江

○

十も目の惜しきよふ也花の山 千原 和旦

我心花にうつりてやつれけり

すゑ

○

散初る花より起るあらし哉 播加古川 青蘿

楨の尾や犬飼ふ寺の夕ざくら

姫路 寒鴻

○

桜見に人みな這入小寺哉 龍野 化碩

○

曙や桜に近き寺の門 備後田房 古声

天女爰に遠方の高根や花の雲

阿州徳島 枝舟

誠しき人に見よとや花の雨

備 篠岡 文里（一二オ・15）

○

山風や我家を越て散さくら 豊 小倉 馬成

鶏を人のくれけり華の庵

、虚白

花といひ曙といひ此世かな

木賄

○

獨来てよき友にあふ花見かな 、 露竹

遠山の桜しらみぬ宵の雨

長赤間関 薫里

世の中に出けり花のよし野山

筑 柳川 東閣

半ば来て足袋踏抜ややま桜

肥 長崎 車文（一二ウ・15）

此春や二月の末を華の比

対馬 孚湫

○

春の情桜一つに尽しけり 加賀金沢 吳山

酔に匂ふ花の辺りの時宗寺

津バタ 風逸

泥亀の甲に花ちる堤かな

賛夫

夕月や照すく花の裏おもて

小松 鳥跡

世に匂ふ翁の花の零満つ

、 汀画

花の陰磨が提たる草紙哉

、 松磨

○

きたなくも花に梟の声す也

越 敦賀 五鼎（一三オ・16）

掃除する男しかるや花の庭

同 福井 鷺雪

酒臭き土と成まで花見哉

同 城端 杜市

○

日は松の中を明行さくら哉

出羽秋田 烏橋

花に来て花の盛を見る日かな

信州松本 可笑

木のもとの旅寝や花の客心

美濃 佳乙

木像の守する花の木陰かな

上州 夢半

○

岸に花麓に酒店あなかしこ

ナニハ 江涯

人なみや我等も花の握めし

雲水 瓜坊（一三ウ・16）

散る花に三絃たゞく日暮哉

和州 不朽

江戸の花駕賃式百奢りけり

上毛 似鳩

さまくや花見戻りの坊主もち

津 万化

華の情空にうつりて暮近し

洛 白黛

花戻り珊瑚の鞭をふらつかす

、 車蓋

山／＼や花にくだけし杖の先

闌更（一四オ・17）

京三条通御幸町西江入町  
蕉門書林 菊舎太兵衛梓

（一四ウ・17）  
(裏表紙見返し)  
(裏表紙)

有が中に花折人のこゝろ哉

石見日原 虎山



花の陰歌よむ女見付たり								
花の中東へ通る聖かな								
花の山我衣手に鳥の糞								
なら坂や桜の中を狂女行								
花廿日浮世を出て眠る哉								
老落の足もつゞきて桜狩								
曙や雲に乱る、花の色								
鐘撞の僧醉せばや花の寺								
山彦に花は散けり旅の宿								
牛の背迄花咲にけりよしの山								
切すかす山のはなれに桜かな								
黄昏の花折る細きかひな哉								
被見て犬の吼けり山ざくら								
虚無僧の三井寺諷ふ花見哉								
花の下に忘れし杖の主は誰								
合点のうへにまよふや山ざくら								
咲花にいとは白し嵐山								
柴の戸や留主守やうに遅桜								
此山の名を覚えけり初桜								
桜見に足元くらき戻り哉								
さくら散る日もちりぐの麓哉								
花守も見しりてけふは笑けり								
老僧もよろぼひ既に散桜								
花盛麓に女太夫かな								
花散や唯しづかにて風もなし								
山かげや花に嘯く墓の面								
花に寝ん夜は白妙と暮にけり								
けふ見るは翌日のむかしの桜かな								
ちる花を引浪ひくやいづこ迄								
百池	筑黒崎	筑里	(五〇)					
定雅	龍花							

暮たりな曇りしまゝの花の下  
跡追ふて登るは誰そや花の山  
咲つゞく花のなかばや堂の椽  
花曇谷間の家のおぼつかな

醉ふせる上戸めでたや花の陰  
しづくと千種に置や花の雪  
日当りの能枝ばかり初桜  
都辺や花に切たる筆の先

花に霞かすみぞ花の行ゑ哉  
うちつけに得ほめぬ花の盛哉  
おそはれて桜おらるゝ夢を見し  
寝にかえる鳥見てさりぬ花の下

之尺

嵐月

都雀

志諺

義童

朝叟

白黛

車蓋

瓜坊

眉山

(八〇)

(五〇)

花に霞かすみぞ花の行ゑ哉  
うちつけに得ほめぬ花の盛哉  
おそはれて桜おらるゝ夢を見し  
寝にかえる鳥見てさりぬ花の下

女紫蘭

一 座

ナニハ

江涯

人絶て大路の桜散にけり

越後

桃睡

僧葵

在貫

カバ

李三

(九〇)

花供養静まる心ありがたき  
人絶て大路の桜散にけり  
花は桜御出家がたは身持哉  
ほろ酔で花ながめやる姿かな

佳計

如風

鄙雀

柴の戸やさくらの中の花供養

雨よはき花のほとりの曇かな

能登

木鳴

トハ

角蜂

其成

闌更

(七〇)

袖の香や童子つき添花戻り  
幸におくれる足や花の道  
さゝがにも心ありてや糸ざくら  
見とけり桜にものを言やうに

三子

女遊鶴

至幸

花に来て心外なる供養かな

雨よはき花のほとりの曇かな

カバ

李三

花木の像をつたえて花供養

遠近の人折そえつ花供養

カバ

角蜂

其成

寺の前行過したりさくら花  
逃ざまに花ぬす人が狂歌せり  
誘はれて宵は桜の直宿哉  
夜桜や君おどろける流星

京三条御幸町西工入ル

蕉門書林

菊舎太兵衛梓

遅来

醉覺や花にうつろふ星の数

上総長者町

汀鳴

天然の始は一重ざくら哉

土鴨

潛鯉

わけ行ばしらぬ里あり桜狩

正翠

蝶ひとつ桜戸に入曇かな

似雪

山里の夕暮白きさくらかな

押日村

楽中

さくら狩日に来て月に戻りけり

青徐

有庸

(九〇)

(六〇)

醉覺や花にうつろふ星の数

上総長者町

汀鳴

天然の始は一重ざくら哉

土鴨

潛鯉

わけ行ばしらぬ里あり桜狩

正翠

蝶ひとつ桜戸に入曇かな

似雪

山里の夕暮白きさくらかな

押日村

樂中

さくら狩日に来て月に戻りけり

青徐

(九〇)

(六〇)

落花ふむ藁畠清し朝桜  
よし野にて

日最中は花より起る曇哉  
のら舟の花にあやうき渡り哉

在他邦

瓜坊

(八〇)

愛宕山にて

土器に付て散行桜かな

愛宕山にて

花暁脂目のおこる日なりけり

青徐

有庸

(九〇)

夜桜や臘々の片庵 、中滝村 瀧水  
 さく比を過てあたごの遅ざくら  
 花と詠めざくらとながめ日は暮ぬ 江戸 白雄  
 五六日桜にぬる、硯かな  
 花に嵐居士衣のたもとむすばる、  
 拳うつや袂にちりし糸桜 イセ 万化  
 人しらでながらふ花の命哉 姫路 寒鴻  
 紙すくやあらしもふかず花ぞ散 築前 君花  
 出嫌もうかれ出にけり花の昼 梅人  
 見帰りて翌も来る気や夕桜 蘇蝶

(一〇九)

(裏表紙見返し)  
 (裏表紙)

(一〇ウ)



三代の花ぞゆかしき座敷かな  
花や咲石碑を建て帰る人  
、  
花の主下戸とはさらにおもはれず  
翌人のしらぬ昔や山桜  
、  
見ゆるなり遠山里の花ぐもり  
藤橋を苦もなく越つ花の時  
花浴て山鳥さりぬ谷間より  
家土産の花に門戸を開きけり  
花七日あるは月の夜雨の暮  
順に咲花に日和の加減かな  
四五日の顔近付や花の中  
蝶ならば朝夕とはむ花の庵  
芭蕉堂に桜木を奉りて  
あはれ幾世花の台に冥加あれ  
誰ために竹にかくれて遅桜  
ゆふ桜白がねちらすたぐひ哉  
まのゝ江やある夜桜にながれ星  
世わすれに来たれば花の移る哉  
糸桜鞆にかゝる御遊かな  
半ちる花の後の夜道哉  
花の香に夢おもひ出すあゆみ哉  
花の山月より花のわかれかな

桃柳	觀水	(二ウ・5)
桃睡	一峰	
百池	都雀	
志諺	紫暁	(三オ・6)
倭泉	定雅	
	在貫	
	山之	
	楚梁	
	百哺	
	宥深	
	寛算	
	素川	
	黄口	
	梅英	
	鬼薦	
	玉慶	
	魯長	
	君徳	(四ウ・7)
	補佐	
	夜桜	
	近江	
	潮花	
	賀州	
	可石	
	青楓	
	江舟	(六ウ・9)
	龜渕	
	鉄翁	
	青牛	
	柏由	
	如毛	
	錦月	
	湖亭	
	其交	(七オ・10)
	梨風	
	醉月	
	千鶴	
	吟呂	

桃柳	観水	(二ウ・5)
坂の花糸のころぶ午時の風	二日遅し花に三日の届状	
あらましに花見て過ぬ西東	ちる桜またこぼれけり狩衣	
ちる花のほとりを袖の日たゞ樵る	あらましに花見て過ぬ西東	
	静さの田井に花喰ふ鯨かな	
	立よれば竹の秋あり嵯峨の花	
	山陰や猪の吹まはる花のもと	
	桜守ながめあまりの眠かな	
	開帳や花見てくらす人多し	
	うちかすみまばゆき花の御室哉	
	月の輪の月に雨降桜哉	
	難波女を見て居る花の後哉	
	初花やよし野を出る古手買	
	花の中に物喰ふ人のあちら向	
	分入て花におぼるゝや芳野山	
	寺の中桜咲日を子にうらむ	
	染色のおとこ女にちる桜	
	静なり花の中なる桔槔	
	くろがねにかかる大手の桜哉	
	うき島や危き上のはつ桜	
	花咲て人の狂はぬ里もなし	
	ゆふ影の里を過ぎり峰の花	
	花咲て女房のうらみ聞日哉	
	青くても赤くともよし花の野辺	

桃柳	観水	(二ウ・5)
坂の花糸のころぶ午時の風	二日遅し花に三日の届状	
あらましに花見て過ぬ西東	ちる桜またこぼれけり狩衣	
ちる花のほとりを袖の日たゞ樵る	あらましに花見て過ぬ西東	
	静さの田井に花喰ふ鯨かな	
	立よれば竹の秋あり嵯峨の花	
	山陰や猪の吹まはる花のもと	
	桜守ながめあまりの眠かな	
	開帳や花見てくらす人多し	
	うちかすみまばゆき花の御室哉	
	月の輪の月に雨降桜哉	
	難波女を見て居る花の後哉	
	初花やよし野を出る古手買	
	花の中に物喰ふ人のあちら向	
	分入て花におぼるゝや芳野山	
	寺の中桜咲日を子にうらむ	
	染色のおとこ女にちる桜	
	静なり花の中なる桔槔	
	くろがねにかかる大手の桜哉	
	うき島や危き上のはつ桜	
	花咲て人の狂はぬ里もなし	
	ゆふ影の里を過ぎり峰の花	
	花咲て女房のうらみ聞日哉	
	青くても赤くともよし花の野辺	

桃柳	観水	(二ウ・5)
坂の花糸のころぶ午時の風	二日遅し花に三日の届状	
あらましに花見て過ぬ西東	ちる桜またこぼれけり狩衣	
ちる花のほとりを袖の日たゞ樵る	あらましに花見て過ぬ西東	
	静さの田井に花喰ふ鯨かな	
	立よれば竹の秋あり嵯峨の花	
	山陰や猪の吹まはる花のもと	
	桜守ながめあまりの眠かな	
	開帳や花見てくらす人多し	
	うちかすみまばゆき花の御室哉	
	月の輪の月に雨降桜哉	
	難波女を見て居る花の後哉	
	初花やよし野を出る古手買	
	花の中に物喰ふ人のあちら向	
	分入て花におぼるゝや芳野山	
	寺の中桜咲日を子にうらむ	
	染色のおとこ女にちる桜	
	静なり花の中なる桔槔	
	くろがねにかかる大手の桜哉	
	うき島や危き上のはつ桜	
	花咲て人の狂はぬ里もなし	
	ゆふ影の里を過ぎり峰の花	
	花咲て女房のうらみ聞日哉	
	青くても赤くともよし花の野辺	

桃柳	観水	(二ウ・5)
坂の花糸のころぶ午時の風	二日遅し花に三日の届状	
あらましに花見て過ぬ西東	ちる桜またこぼれけり狩衣	
ちる花のほとりを袖の日たゞ樵る	あらましに花見て過ぬ西東	
	静さの田井に花喰ふ鯨かな	
	立よれば竹の秋あり嵯峨の花	
	山陰や猪の吹まはる花のもと	
	桜守ながめあまりの眠かな	
	開帳や花見てくらす人多し	
	うちかすみまばゆき花の御室哉	
	月の輪の月に雨降桜哉	
	難波女を見て居る花の後哉	
	初花やよし野を出る古手買	
	花の中に物喰ふ人のあちら向	
	分入て花におぼるゝや芳野山	
	寺の中桜咲日を子にうらむ	
	染色のおとこ女にちる桜	
	静なり花の中なる桔槔	
	くろがねにかかる大手の桜哉	
	うき島や危き上のはつ桜	
	花咲て人の狂はぬ里もなし	
	ゆふ影の里を過ぎり峰の花	
	花咲て女房のうらみ聞日哉	
	青くても赤くともよし花の野辺	

誰跡か花の径の匂ひせり

朝の花寝巻の袖の弥古し

埒もなき味曾すりこぎぞ花の中

うと／＼と花の中より登る日ぞ

李明  
花橋  
周路  
(七ウ・10)

余念なき身にも報ふか花暁  
花をわれにけなげなもの、くれにけり  
能寺や女房も持て山ざくら  
天下る乙女もあらむ花の雲  
雨の日や遠山もとの花黒し  
羽織着て遊びの戻る花見哉  
夜桜に御遊の灯うつりけり

珉山  
(九オ・12)  
支朗

立よればわれうつくしき花の下  
朝暁晴ゆく花の雫哉  
【校異】月明本、作者名「李朝」。  
あるが中にやさしき一重桜哉  
こゝろから音ある花の雪吹哉  
目ざましき黄昏時や花と人

李牧

行違ふ人何者ぞ花くさし

花の日や坊から指し小脇くさし

宵の雨けふの花見の盛哉

狗の子や桜がもとに身をふるふ

千羅  
歌雄  
二浪  
一之

夜桜や千金もたぬ身の果報  
庵かりて乳呑子寝さす花見哉  
花供養くれなば月も見え給へ  
興尽ぬ花に杯なげくれむ  
桜見や茶に行当る所まで  
花陰や芝に伏たる下部ども  
水茶屋の薄縁青しはつ桜  
浦山や散来る花を帆にはらふ

若州  
巨川  
(九ウ・12)  
東烏  
陶河  
百馬  
柳支  
希由  
其堂  
呑空  
吐雲  
鬼雀  
(一〇オ・13)

花暁王一姓の国もなし  
曙や花の波くむはね釣瓶  
酒二石うりて花ちる小家かな  
山下りて桜がもとの放下見む  
獸の柄をかゆるさくらかな  
花のもと立て寝に行鳥かな  
琵琶の音もきくや御室の花盛  
骨喰し犬匍匐や花のもと  
降らばゆきて小袖にしめむ花の雨  
七日とは誰がかぎりてやちる桜

能登  
珠ト(一一オ・14)  
銀岱

龍登

珠ト

珉山  
(九オ・12)  
支朗

無曲

馬仏  
兎文

馬來

立よればわれうつくしき花の下  
朝暁晴ゆく花の雫哉

【校異】月明本、作者名「李朝」。

あるが中にやさしき一重桜哉

こゝろから音ある花の雪吹哉

目ざましき黄昏時や花と人

馬來

立よればわれうつくしき花の下  
朝暁晴ゆく花の雫哉

【校異】月明本、作者名「李朝」。

初桜ちるや湯立の煙る空 花の中に育てうるや蕨もち 傘も出しきる雨の桜哉 花か我か嬉きうかれごゝろかな	大坂 尺艾 画涼 夢友 江涯(二二ウ・15)
花落る声や日ぐれの嵐山 三尺の花に深山のにほひ哉 酣に花降かゝる天窓かな	和州 可翠 三樂 芦雪
花守の果は鶴にも乗人か 花咲や十日の雨も雲にのみ	紀州 海牛 魯水
こゝろある膝行車や花の影 花咲や石の竈もふたつみつ	播州 君中(二三オ・16)
苔衣今も八千代のさくら哉 遠近の酒に酔たり花の主	紫燕 五水
雨ばれや雲も桜のはなれ際 三月や家を出れば花の人	觀水 百和 寒鴻
麓から夜は明にけりはつ桜 花桜一本持けり俗聖	備中 南枝 (二三ウ・16)
たしなみや花に間に合ふ摺火打 箱根八里乘掛遅し初桜	備後 何笠 李朝
ちる桜見事や残るゆふ日まで 白妙や峰も麓も花雪吹	花毛 馬杖 一島
ちる花や風にゆられて月薫る 咲ばこそ散事おもふ桜かな	午琴 瓦二 右汐
二三畳寝所ほしき桜かな うかれ女や灯かげろふ夜の花	古声(一四オ・17)
、	
山桜たゞごと歌の姿かは 菅笠のつゞく路あり花の山	芸州 東吹 金竟 可友 凡十
峰つたふ山伏ゆかし花の頃 われが身のしづこゝろなし散桜	、
花守といざふたり寝ん夜は月夜 無事にして一期花見む願哉	豊前 清水(一六オ・19)
人恋し鼠花喰ふ宝寺 山の辺や公泥障して花の雲	木腸 夏夕 南明
庵かりて住たき花の山辺哉 風もはやすゞるになりて桜ちる	雲州 龍尾 石州 凤沖 志山(一四ウ・17)
庵かりて住たき花の山辺哉 風もはやすゞるになりて桜ちる	鹿鳴 如珪
花なくばいかに住べき谷の庵 出うり屋に宿の無心や桜時	吐阿 嵐峰
あの谷の霞はいかに峰の花 花にさへかくぞつき世の夕嵐	甫山 雨山
造り木はすて、見に行桜哉 此日和蝶も出る日ぞ初桜	見漁 里暁 藤紫(一五オ・18)
千々に物おもふ日ぞなし花盛 、	如蕙
市中や子供くづれる花の枝 こゝろよやそゞるに醉て花の雨	阿州 莼花 長州 花密
御姿に色香たがへぬ桜かな 山蜂や花ついくゞりく	湖水 白遊
跡ながく休む花見のそなへ哉 都辺やゆふべ音なく花の散	比雪 麦子
守人や旦を名残る花の跡 散花に灯ほそきすまゐかな	女ます(一五ウ・18) 里芳
花なれや天上人の手になれし おもほへず花見る里に野宿せり	楚柳 里梅
、	
花守に酒まいらせて詠め哉 昨日よりけふ猶花のよし野山	鉄寿 南江 吳溪 薰里
世を軽く花の片荷の瓢哉 埋れて花に昼寝の乞食哉	、
花守といざふたり寝ん夜は月夜 花守といざふたり寝ん夜は月夜	、
無事にして一期花見む願哉 無事にして一期花見む願哉	、
人恋し鼠花喰ふ宝寺 人恋し鼠花喰ふ宝寺	、
山の辺や公泥障して花の雲 山の辺や公泥障して花の雲	、
花の後浮世に戻る気のつかず 汐木とる妹に落けり花の雲	筑前 笋里 帰来
誰の建し庵ぞ花の老にける 鶯の桜になくや鄙ぐもり	墻山 藍江
朝ばれや月ふるふ鳥の花の枝 峰の花薄着をけふの手柄哉	君花(一六ウ・19) 肥後 柿青
峰が妻魚喰ひに里の花見哉 坊が妻魚喰ひに里の花見哉	、
なまなかにひとり花見ぞ心よき あれにしも桜は咲や奥芳野	箕溪 篠路 清壺
花の枝にかけし風折鳥帽子哉 御陵や都にむかふ花の中	化仙 文暁
たまさかや花もととはむ妾がもと 此頃や花の上ゆく人ごゝろ	、
いつ花に遊ぶべきものか雨の酒 病中辞世のこゝろにて	豊後 磨牛(一七オ・20) 肥前 車文 文塘
守人や旦を名残る花の跡 散花に灯ほそきすまゐかな	、
花なれや天上人の手になれし おもほへず花見る里に野宿せり	、
花守に酒まいらせて詠め哉 昨日よりけふ猶花のよし野山	、
世を軽く花の片荷の瓢哉 埋れて花に昼寝の乞食哉	、
花守といざふたり寝ん夜は月夜 花守といざふたり寝ん夜は月夜	、
無事にして一期花見む願哉 無事にして一期花見む願哉	、
人恋し鼠花喰ふ宝寺 人恋し鼠花喰ふ宝寺	、
山の辺や公泥障して花の雲 山の辺や公泥障して花の雲	、
花の後浮世に戻る気のつかず 汐木とる妹に落けり花の雲	筑前 笋里 帰来
誰の建し庵ぞ花の老にける 鶯の桜になくや鄙ぐもり	、
朝ばれや月ふるふ鳥の花の枝 峰の花薄着をけふの手柄哉	君花(一六ウ・19) 肥後 柿青
峰が妻魚喰ひに里の花見哉 坊が妻魚喰ひに里の花見哉	、
なまなかにひとり花見ぞ心よき あれにしも桜は咲や奥芳野	箕溪 篠路 清壺
花の枝にかけし風折鳥帽子哉 御陵や都にむかふ花の中	化仙 文暁
たまさかや花もととはむ妾がもと 此頃や花の上ゆく人ごゝろ	、
いつ花に遊ぶべきものか雨の酒 病中辞世のこゝろにて	豊後 磨牛(一七オ・20) 肥前 車文 文塘
守人や旦を名残る花の跡 散花に灯ほそきすまゐかな	、
花なれや天上人の手になれし おもほへず花見る里に野宿せり	、





奉納句順任至來

おしまれて散る世のさまや初桜 伊賀上野 未塵  
 十八里おくもゆかしや花ざかり 一如  
 花もどり水振舞はゞはなくれん 勢州白子 無曲  
 白浜やさくら消こむ山おろし 帯川  
 けふもまた見残す花や三井の鐘 、津 万化  
 かかる時命も延む花のもと 銀岱  
 制札は去年のまゝなり初ざくら 、自酬  
 千金の価つもるやさくら花 春鶯  
 よひ中の垣もくずれて桜哉 歌計  
 花ちりて禁を埋むさくらかな 御風  
 花みちて空さだめなく成にけり 山田 雀汐  
 山伏の鼻に氣のつく花見かな 茶菊  
 明暮を花にたらはぬこゝろ哉 連之  
 肘笠も花かざす夜の眠りかな 石薬師  
 朝風や禁のさくら咲おくる 琨山  
 栗樅に市のしるべや花のおく 四日市 馬曹  
 山はあらしとてもけふより散る桜 尾州 五周  
 花の雲花の滝経てさくら狩 遠州浜松 白輶  
 さくら見や人のこゝろも八重一重 知白  
 島台に乗べき花のあるじ哉 春忻  
 匂ひせり花の辺りの忘れ水 約我  
 汗まくら雨のさくらの憂かりけり 川崎 演之  
 花にそむ心野山にあまりけり 甲州 可都里  
 花の山守と思はゞ住倦ん 江戸 完来  
 疊あり花の木の間のねぢけ人 宗讚  
 花咲そめて散れどもくさかり哉 左鶴  
 夕ざくら我に一枝曇りけり 古龍  
 山もとや花になるべきけふの雨 青瓠  
 誰が庵ぞ花の雪吹の中やどり 黒郎

(五ウ)

大名の花守るかはりぐにも

長厚

朝風や花潜る鷹の雫する 房磯村 英  
 薄暮て月に又見るさくらかな 此君  
 有がたき姿拝む花供養 倭風  
 寝覚ては花のおもはるゝ夜の雨 梅破  
 年をへて花の手向もいくゑにし  
 けふはまだゆるす桜のあらしかな  
 ちる花にいざよふ浪やよしの川  
 騎射す、む半は雪のさくら哉  
 女房の花見を宵の願ひかな  
 星ひとつ隕に猶しはなの雲  
 山形に夜は明にけり花の雲  
 花満て曇る木下の雪かな  
 まだかぜのうき肌しらず初桜  
 庵せむ都の左やまさくら  
 飛星の影に散りけり夜の花  
 見ぬ花の便りの人に馴染けり  
 うたかたや船に詠る島の花  
 花散て浮世に遠き庵かな  
 おそ桜淒き松間に咲にけり  
 山陰や花の梢を日のめぐる 篠原 晓宇  
 咲初る日やうつり来て花の守り 杉江 素風  
 夢にだに魂うばはるゝ桜かな  
 立山や地ごくもあればさくらあり  
 茶の会はいつか過行花見かな  
 花にくれてかえりものうしがけ伝ひ  
 花にめで暮していたし首の骨  
 五六人花に行身のそぶり哉  
 我を見ず美童子入ぬ花のおく

(七オ)

散かる花やさはちの魚の骨

水口 梨風

翌とおもふうちにも雨の桜かな 吳雪  
 我まゝに山踏わける花見かな 斯馨  
 這伝ふ児甘嗅し花の下 李明  
 齒葉の居合一ふり花の中 竹葉  
 夕ざくら破たる窓の詠め哉  
 富士かとも見まがふ峰の桜かな  
 聞てさへよし野はさぞや山桜  
 花盛り凡十日の日和かな  
 夜桜や此時世をぞ忘れけり  
 日をうけて山静なり夕ざくら  
 本の夜は後に明けり山ざくら  
 花守に去年の盛りを問にけり  
 叱られて馬士の上見る桜哉  
 うかるはこうに余る花見哉  
 花守に去年の盛りを問にけり  
 酔させて山ざくら戸の月夜哉  
 夕山や花の中なる鳩からす 上州前橋 土蘭  
 山城のかまへゆるみて花ざかり  
 月の出て漸花にわかれけり  
 御出入のおやしつけにき花盛  
 あの山の花に寝るかもやまがらす 上州高崎 雨什  
 世忘れに花見る身こそ命なれ 境町 専車  
 狩入し花をかえさの葉りかな 宮崎 虹宇  
 花守の花に肥たり帶の尺  
 木鼠の飛で花散るゆふべかな  
 我窓や真向ならずも山ざくら  
 香に匂ふ花のあたりの土竈  
 人さつて桜しづまる夕べ哉  
 夕桜松のくろきは星月夜

(九オ)

南浦

才丁

羽黄

(一〇オ)

花に独山路鳥の一つ啼 はつ桜禁に眠る供廻り	かぎり有と花に戸ざゝぬ夜は月夜 入相に風静りぬ花の寺	富岡 露情
桜八重葎は二葉片折戸	みなみ向何塵もなし花の庭 紅ゐの小袖はづかし薄ざくら 夕榮や磯並ざくら舟にちる	都野 女
散る花に日傘かざすや知恩院 めづるとてどふ折りよりぞ初桜	吉井 知十 其蝶	知十
鐘つきの雲踏登るざくら哉 眞白に見ゆる杉間の桜かな	龍山 津輕	津輕
花満て山門覆ふさくらかな 花に生き身育りてうれし無垢世界	巨川 晓翠	巨川 晓翠
いたづらに花散埋む御廟哉 花の雨湯谷を諷ふて立さらず	百馬 草夫	百馬 草夫
花に咲や花にをく身のいそがしき 花に寝ん都の東にしのはて	若州小浜	若州小浜
月落て桜しらみぬ山かづら 山桜花の下風吹にけり	藤井 千里	藤井 千里
花なくばしらじ谷間の籠り堂 眸に外山の花の薄ぐもり	斗南 陶河	斗南 陶河
滌の音も静になりぬ花ざかり 山桜花の下風吹にけり	仙舟 左橋	仙舟 左橋
花ざかりふたひら三ひら散にけり 花は盛少し隔て酒呑ん	西津 鬼雀	西津 鬼雀
散る花や外山の雲の動きより 薄暮やひとり残りし花の陰	鶯少 雪肆	鶯少 雪肆
島山や花に啼鳥は何ぞ 、	鳥友 柳只	鳥友 柳只
、	春空	春空

(一  
一  
ウ)

動きなき花の曇りの真昼かな  
花守となりて其日をくらしけ  
雲低し花ある山としられたり  
花のかげ宿るこゝろに日は暮  
花の山雲にわけ入こゝちかな  
たまひたる花いたゞけば散に  
散る花や高根をつたふうかわ  
朝の間や尾長啼たつ花の奥  
松山の出崎に夜のさくらかな  
桜よりくれて朝のぬれ鳥  
片沢や花降る中の鷺の声  
うつりかはる世にもたのしき  
下部等は穴市したる桜かな  
タゞ、にまたわけ入ん花の山  
夜昼のわかちなき花の臘哉  
朝の間や隣のさくら静なる  
人里を過て花見る禁かな  
折かづくたぶさに花の薰り哉  
程ぶりて逢ふ友うれし山桜  
結ぶ手にさくらかゝるや淹の  
奈良坂や疊る鳥は花の奥  
見おくれて花の流るゝ小川か  
すぐるゝや風なき空を桜ぢる  
朝日さす桜に駒のいさみかな  
来て見れば川のあちらぞ山桜  
曙や花の波たつ鯨道  
細脛やしどろに登る花の山  
春秋に切出せども山ざくら  
春呑ぬ人のすゝみや桜狩

(一一二)

白義	雨の後塩屋吹こす桜かな
文顥	さくらふく風落付て夜の雲
漁船	遠山の花おぼろなり朝の幕
甘谷	あけぼの、桜折ゆく馬上かな
五曹	煙たつ花の小ぐちの墓屋哉
素兒	幾人が桜手折やゆふまぎれ
凌冬	過來るや散花へだつ花の奥
學遠	硝子のさかづきふきぬ家ざくら
馬來	藪過か軒端にすこし桜かな
馬	山陰やむこぎところに初ざくら
暮臘	風寒し花の灯すひがし山
一形	九重や金棒ならす夜の花
能州所口	ものいはぬ人に逢けりやま桜
黒島	八重九重花をうる人浮世人
珠ト	野桜や曙しらぬ鳥の声
斐水改	空色や浅黄ざくらの吹ちるか
素玉	灯火につく虫もなし夜の花
女	散る花の草にみだる、あした哉
布遊	柳汀
玻井	麦秀
怡水改	馬涼
都山	加由
瑣丘	李友
文朝	花満てさほ姫鷹の羽音哉
鶴川	花ともにくれて月照る姿哉
岐草	白鷺の白きをうばふさくらかな
輪ジマ	散る花を追行蝶のたはれ哉
馬群	花鳥や常さへ鳩の夕げしき
川田	はなちける鶴の啼けり家桜
佳超	花鳥や窟の壁あらはるる
穴水	花過て雨に暮けり須磨の里
鈴川	流行春や小川の花筏

(一四ウ)

(一五才) (一四ウ) (一四オ)

笠捨て我こそ出ぬ花の空  
雨ありし後をさくらのさかり哉  
風どめを天に祈らん花ざかり  
花半山かさなりて見ゆるかな  
花の中まだ人がほの暮きらず  
家ごしや雨あたゝかに初ざくら  
西東花に二日のいとまかな  
夕榮や樓にさし入山ざくら  
花の雲峰にも尾にもかゝる哉  
初桜さくらの中を咲にけり  
さくら木は雲の天井の柱かな  
笛の音や桜に雨のはれがまへ  
薄ぐらき空の氣色や遅ざくら  
面白ふ鳥に花散る夜明かな  
花曇り鐘を聞日は舟の中  
笠に散る花も見むかず茶摘哉  
花盜む袖にしがらむ胡蝶かな  
花咲て近道多し嵯峨あたり  
花に狂ふ科は緊那羅摩暎羅哉  
雨となり風となる我心花曇り  
花咲や侘る人又驕るひと  
花の日や船に諷ふて舞子はま  
としぐや花に費す口ぶくろ  
鳥さしの何おもひけん花のもと  
花にさはぐ都の人よあらし山  
行過て見れば日のさす山ざくら  
花いく重かさねて咲や九折

(一五ウ)

花や笑ふいざ脱捨む破紙衣  
暮ばくれよ花を主に旅すゞり

沾節

暮や笑ふいざ脱捨む破紙衣  
酒のみの氣持を浅黄ざくらかなヒメジ  
花売は山を出るか花ざかり  
夜桜やたゞ一声の鳥は何  
花散るか虻の音する夜の庭 備中笠岡 李山  
中／＼にねぶたき花の真昼哉  
山ざくら埃に埋みし硯かな  
人去て臚／＼と花にほふ  
したゝかに散る日もさすが八重桜  
何となくしづけしけふの花曇  
けふの人皆馴染あり花ざかり  
燕の巣はまださびはつ桜  
鞠それで主は仰向さくら哉  
花ざかり主のしらぬ人もなし  
鞠にしほる手ぶりや明徳利  
初花にしほる手折や花供養  
たのもしき道の手折や花供養  
月落て烏しらむや花の空  
植かへて哀れや花の咲かぬる 備後福山  
守る人の留主か桜の散そむる  
おしむべき花を山路の枝折哉  
唯ひとり花に箕踞して日暮けり 三原  
雨いかに遠山ざくら晴わたる  
山買へば初ざくらありて人告る 何笠  
行さきぐ／＼紅魚の三月花の海 府中  
花に酔し人が散る日の泣上戸 田房 古声  
花に如意是も都の手ぶりかは アキ広シマ 東吹  
然るとき木樵の案内ざくら狩  
市中のさくら見おるせ岡の寺  
山ざくら白馬驕て人はちる  
晒之

(一七八ウ) (一七八オ) (一七七ウ) (一七七オ)

山桜人こそしらね老夫婦  
太刀持や袖白妙に花の山  
おさな名を問れてゆかし軒の苑  
文鎮の童子も笑つ庵の花  
雨晴や桜のもとの牛車  
植木屋の花を売てはおしみけり  
花に聞蛙鶯啼上戸  
制札は小僧の手也初ざくら  
驚かぬ花に暮行鐘の声  
花曇りけふはうかれぬ日なりけ  
酒くむや花になく声笑ふ声  
さくらには鳴声もなき蛙かな  
二本とは花さへいや草の庵  
わくら葉に茶を烹る峰の花曇  
分けふも又心残りや山ざくら  
分入や道のなきまで桜狩  
花咲て茶のあらたまる山家かな  
花守の覚し枕言葉かな  
白浪の音せぬ花の梢かな  
柴の戸や桜の月に客ふたり  
龍灯に桜を照らす野川哉  
静さや窓に吹込花の音  
大寺やさくらに交る鉛屑  
斧にもれて半ば朽し桜哉  
誤て花見ぬ里に出にけり  
花の雲およばぬ人の伊勢參り  
花の道耕す人にことゝはん  
桜ちり終て畠の夜明かな  
花の山羹喰ふ人臭し  
庵の花仏と我と見る日かな

花多く足れば日によく月に欲	後風
世のさまや花の中にも花雲り	ハカタ 俚雪
花にすむ雪の額の夫婦かな	直方 君花
究まらぬ山の次第を花めぐり	蝸石
朝夕や花にはづれて人見ゆる	裏梅
花散て魂我にかかるかな	元二
簪削る人に向ばや花の宿	橋雨
背負出る薪の上に花ぞ降	何来
おろかさや花に餌をまつ親鶴	飯塚 竹両
山かづら花新らしき尾上かな	文里
人さつて月にさくらの匂ひかな	奇峰
磯山や桜降日の波しづか	舍丁
唐土の舟に散込さくら哉	莞尔
水はきや桜流る、仮御殿	士沢
花ちりて淋しきもよき舍り哉	（二二一）
豊前小倉	夏夕
けふの日もみすく花に暮る哉	南明
長崎 左琴	（二二二）
花の盛松は静にあらし山	南明
肥後山家 駒童	士卵
麦味噌に桜も吸ふや須磨の里	嘉菊
サツマ 全潮	（二二三）
花に迷ふこのころ老が飯うまし	巴六
対馬 手漱	巴六
花咲や鹿の生る、朝ぼらけ	平春
大坂 旧国	（二二四）
匂ふなる花も左近のさくら哉	路春
伊丹 東瓦	（二二五）
夢にだも貞室を見ず花七日	山尾
和州上巿 可翠	（二二六）
人はよき女房持けり花の陰	私青
咲花によごる、酒の通かな	露虹
煙打の花にかけおく瓠かな	管鳥
そここゝの花に追る、こゝろかな	杞柳
酔顔を人の見て行花見かな	車蓋
門を出て月夜さびしき桜哉	白黛
槍ふせて寄武士やゆふざくら	眉山
馬雪 良水	（二二七）

觀音の桜しだる我等かな	眞菅
三輪の灯に眠るも花の劳れ哉	泊麦子
春の夢さくらを見るもうき心	（二二八）
しのゝめや夏雲うつる遅桜	ダイゴ <sup>モミ</sup> 百哺
日の朝や夜の雨落る山ざくら	宇治 松風
花に明て花に宿かるよしの哉	田原 紫圭
宦女や人見たらはぬ花のくれ	古律
竹門を開けてゆく花見かな	魯長
花いろ／＼塵塚崩す小鳥哉	ヤハタ 蛙方
坂なくば母に見せたし山ざくら	（二二九）
雨の花あるじ静に守夜かな	洛志諺
山ざくら夜はみどりの林かな	一照
月の桜雲あるかたにつゞきけり	（二二一〇）
このごろや花ちりかゝり咲かゝり	夢友
名にめで、散らめ花の嵐山	蕙蝶
今朝の雨含で花の真昼哉	（二二一一）
幾人か桜かざしつ嵯峨の暮	玄兎
朝の花咲はんとして散そむる	（二二一二）
鬼若が墨に摺けり山ざくら	嘉菊
入相や雲おさまりて峰の花	（二二一三）
鬼若が墨に摺けり山ざくら	（二二一四）
桜今不斷ざくらもさかり哉	（二二一五）
かけ襟に花吹込や京女郎	（二二一六）
明暮に山静かなるさくらかな	（二二一七）
暁の花に拾へり舞あふぎ	（二二一八）
拂前や花に清香月に影	（二二一九）
夜桜や羽織かけたる白拍子	（二二二〇）
暮行や次第に花のかすり雲	（二二二一）
花に葉にむごくもちらす山桜	（二二二二）

おしむ日を雨に桜の時うつる	一座捻香
月雪や花に踏出す足のまめ	鉄翁
薄く濃く色かさなりぬ遠桜	完而
散るこゝろ抱きてあけの桜哉	定雅
木のものむかしゆかしや散る桜	玉屑
茎／＼のともぢから也花ざかり	桃睡
たてまつるいくよの花の匂ひかな	百池
山吹や桜重ぬる日もすがら	不木
こゝろとむなど申けり犬桜	巴龍
春の夢ふたゝびさめて花の雨	不朽
風にちらぬ花十分のけしき哉	月峰
道ふかく此日の桜咲にけり	一峰
しる人の声やくらきに花戻り	古塘
鳥啼でかけるや花の山かづら	尼得終
野宿して花に瘦たる心かな	自来
としごとやちり敷庭の花供養	草牙
花の香や月にも日にも大内裏	其成
花の雲幾重こえしそ夜の山	芦涯
花の手向の数／＼とりぐ／＼物する	闌更
ほどに、年並のごと梓にのぼさ	（二二二三）
ましと、はやりおのほのめかしあへるに、	（二二二四）
心あはたゞしけれど、此堂のぬしさ	（二二二五）
越の空なつかしとて花の吹雪に	（二二二六）
笠うちかづき、とみに出給ひぬれば、	（二二二七）
つたなき筆にかひあつめぬる	（二二二八）
種々のおぼつかなく、人わらわぐ	（二二二九）
ならんもいとわびし。いさや師の	（二二二一〇）
かしこきすさびにまかせてんと、かの	（二二二一一）

（二二二一〇）	（二二二一一）
---------	---------

国にたよりす。しかはあれど舟車の  
ついへにはからずも月かさなり、日  
たけていまし漸草稿成ぬ。

同志のむつまじきに送るとて  
等閑のそしりを逃んと、禿筆を  
かみしだきて、其しりへにかいつけ  
【校異】松宇本、「其しるへに」。  
侍る事しかり

芦涯述

(二五ウ)

後れて来しを寔にするす

下嵯峨や桜の散て後の人

ナニハ 画涼

牛飼の花の木陰の素面哉

筑前黒崎 舎鳩

鯛の値の鮓に替るや花盛

藍江  
(二六オ)

寛政三辛亥三月

京三条通寺町西入丁  
雋門書林 菊舎太兵衛梓

(二六ウ)

(裏表紙見返し)  
(裏表紙)

## 6 寛政四年『花供養』

乾鮓を一駄送りて戻る也  
風ふきねぢるとぼし火の影  
濁たる劍の水をいたゞかせ  
みな投つけて碎く皿鉢  
市中の人去果る夕曇  
鶴の休む白き巖に月移り  
法の因みに夏住居して  
引出す黒髪永き飯の中  
吾妻の末に笠停む頃  
直切の杭にも花のにほひけり  
麦藁苞の鱗つかみける  
陽炎の思ひもよらぬ処より  
狐の穴に御捻をおく  
傾城の清水がもとに立寄て  
たはれごとのみいひあへる也  
浮雲にちら／＼雪の窓の先  
壁生草の黒くなりぬる  
四十にて死ねと書しもことはりや  
醉どれどもの世をそしり居る  
なま中に棚なし小船波をきる  
雷や落らん松煙りたつ  
塔のみに今は名もなき法觀寺  
猛者引すゝむ捨石の上  
右 下略

底本 月明本  
校異 河野美本  
花供養  
(表紙・題簽)  
(表紙見返し)

(一オ)

酒桶横にほしならべをく  
麗に散るや野の鳥花の鳥  
花咲て顯るゝ島の家屋かな  
軒の花几の塵と散にけり  
白雲や花に粧ふ筑紫不二  
よしの山のさくらも同じ桜かな  
深山辺や天狗倒に花の散る  
月の出て花に別るゝふもと哉  
花にさへ散る日は欲の発けり  
山里や花うちかるふふる筵  
反古干に出ては花をゆすりけり  
少年 芦月  
蜂むれて林の中やちるさくら  
都友  
花ぬすみほむるも花の主かな  
山はさくらさすがかざらず繕はず  
文塘  
吹かなくに風もつ花の夕かな  
江良  
雲下りていよく白し山桜  
龜水  
日もながく回るなるべし花の山  
雨夕  
朝照の峰にしらつく桜かな  
玉李  
帰には月を荷ふて桜かな  
少年 芦月  
御幸かなけふ桜戸の開はじめ  
文知  
雪と見て只花がちに桜かな  
行先に春の有つく桜かな  
肥前島原  
散比に人の最中や花の山  
平戸  
分行くや花見の中を油売  
一壺  
麓よりつらね／＼のさくら哉  
肥後熊本  
夕ぐれや桜に狂ふ僧一人  
皿山  
浦里や網干す花の前後口  
雪扈  
古き世の唄も交て花見かな  
橘泉  
花を見るけふ我人の顔若し  
李夕  
花ちら／＼散かる岩の不動哉  
(二ウ)

白眉 桃睡 鯉仙  
桃睡 青錢 君峯  
吳雪 在貫 東伴  
斗流 士卵 青虎  
百池 眉山 尾山  
可能 眉山 梅路  
眉山 梅枝 梅路  
斗流 土卵 尾山  
百池 在貫 東伴  
可能 吳雪 青虎  
可能 士卵 梅路  
可能 眉山 尾山  
(三オ)

曙やさくらに旅の眼をこする  
麗に散るや野の鳥花の鳥  
花咲て顯るゝ島の家屋かな  
軒の花几の塵と散にけり  
白雲や花に粧ふ筑紫不二  
よしの山のさくらも同じ桜かな  
深山辺や天狗倒に花の散る  
月の出て花に別るゝふもと哉  
花にさへ散る日は欲の発けり  
山里や花うちかるふふる筵  
反古干に出ては花をゆすりけり  
少年 芦月  
蜂むれて林の中やちるさくら  
都友  
花ぬすみほむるも花の主かな  
山はさくらさすがかざらず繕はず  
文塘  
吹かなくに風もつ花の夕かな  
江良  
雲下りていよく白し山桜  
龜水  
日もながく回るなるべし花の山  
雨夕  
朝照の峰にしらつく桜かな  
玉李  
帰には月を荷ふて桜かな  
少年 芦月  
御幸かなけふ桜戸の開はじめ  
文知  
雪と見て只花がちに桜かな  
行先に春の有つく桜かな  
肥前島原  
散比に人の最中や花の山  
平戸  
分行くや花見の中を油売  
一壺  
麓よりつらね／＼のさくら哉  
肥後熊本  
夕ぐれや桜に狂ふ僧一人  
皿山  
浦里や網干す花の前後口  
雪扈  
古き世の唄も交て花見かな  
橘泉  
花を見るけふ我人の顔若し  
李夕  
花ちら／＼散かる岩の不動哉  
(四オ)

曙やさくらに旅の眼をこする  
麗に散るや野の鳥花の鳥  
花咲て顯るゝ島の家屋かな  
軒の花几の塵と散にけり  
白雲や花に粧ふ筑紫不二  
よしの山のさくらも同じ桜かな  
深山辺や天狗倒に花の散る  
月の出て花に別るゝふもと哉  
花にさへ散る日は欲の発けり  
山里や花うちかるふふる筵  
反古干に出ては花をゆすりけり  
少年 芦月  
蜂むれて林の中やちるさくら  
都友  
花ぬすみほむるも花の主かな  
山はさくらさすがかざらず繕はず  
文塘  
吹かなくに風もつ花の夕かな  
江良  
雲下りていよく白し山桜  
龜水  
日もながく回るなるべし花の山  
雨夕  
朝照の峰にしらつく桜かな  
玉李  
帰には月を荷ふて桜かな  
少年 芦月  
御幸かなけふ桜戸の開はじめ  
文知  
雪と見て只花がちに桜かな  
行先に春の有つく桜かな  
肥前島原  
散比に人の最中や花の山  
平戸  
分行くや花見の中を油売  
一壺  
麓よりつらね／＼のさくら哉  
肥後熊本  
夕ぐれや桜に狂ふ僧一人  
皿山  
浦里や網干す花の前後口  
雪扈  
古き世の唄も交て花見かな  
橘泉  
花を見るけふ我人の顔若し  
李夕  
花ちら／＼散かる岩の不動哉  
(四オ)

曙やさくらに旅の眼をこする  
麗に散るや野の鳥花の鳥  
花咲て顯るゝ島の家屋かな  
軒の花几の塵と散にけり  
白雲や花に粧ふ筑紫不二  
よしの山のさくらも同じ桜かな  
深山辺や天狗倒に花の散る  
月の出て花に別るゝふもと哉  
花にさへ散る日は欲の発けり  
山里や花うちかるふふる筵  
反古干に出ては花をゆすりけり  
少年 芦月  
蜂むれて林の中やちるさくら  
都友  
花ぬすみほむるも花の主かな  
山はさくらさすがかざらず繕はず  
文塘  
吹かなくに風もつ花の夕かな  
江良  
雲下りていよく白し山桜  
龜水  
日もながく回るなるべし花の山  
雨夕  
朝照の峰にしらつく桜かな  
玉李  
帰には月を荷ふて桜かな  
少年 芦月  
御幸かなけふ桜戸の開はじめ  
文知  
雪と見て只花がちに桜かな  
行先に春の有つく桜かな  
肥前島原  
散比に人の最中や花の山  
平戸  
分行くや花見の中を油売  
一壺  
麓よりつらね／＼のさくら哉  
肥後熊本  
夕ぐれや桜に狂ふ僧一人  
皿山  
浦里や網干す花の前後口  
雪扈  
古き世の唄も交て花見かな  
橘泉  
花を見るけふ我人の顔若し  
李夕  
花ちら／＼散かる岩の不動哉  
(四オ)

曙やさくらに旅の眼をこする  
麗に散るや野の鳥花の鳥  
花咲て顯るゝ島の家屋かな  
軒の花几の塵と散にけり  
白雲や花に粧ふ筑紫不二  
よしの山のさくらも同じ桜かな  
深山辺や天狗倒に花の散る  
月の出て花に別るゝふもと哉  
花にさへ散る日は欲の発けり  
山里や花うちかるふふる筵  
反古干に出ては花をゆすりけり  
少年 芦月  
蜂むれて林の中やちるさくら  
都友  
花ぬすみほむるも花の主かな  
山はさくらさすがかざらず繕はず  
文塘  
吹かなくに風もつ花の夕かな  
江良  
雲下りていよく白し山桜  
龜水  
日もながく回るなるべし花の山  
雨夕  
朝照の峰にしらつく桜かな  
玉李  
帰には月を荷ふて桜かな  
少年 芦月  
御幸かなけふ桜戸の開はじめ  
文知  
雪と見て只花がちに桜かな  
行先に春の有つく桜かな  
肥前島原  
散比に人の最中や花の山  
平戸  
分行くや花見の中を油売  
一壺  
麓よりつらね／＼のさくら哉  
肥後熊本  
夕ぐれや桜に狂ふ僧一人  
皿山  
浦里や網干す花の前後口  
雪扈  
古き世の唄も交て花見かな  
橘泉  
花を見るけふ我人の顔若し  
李夕  
花ちら／＼散かる岩の不動哉  
(四オ)

分入て水上見たり山ざくら								深里
花さくや裏道あけるまた隣								
遅ざくら又来ん春の記念かな								
人すまぬ小家もゆかし山ざくら								
うき／＼と花に出て行瘞かな								
鐘つきの袖にすれけり糸桜								
花みちて花こそ見えね夜の山								
夜のはな散るかたよりぞ月告る								
木兔のねぶたき顔や花ぐもり								
足もとに花の滝あり峰の坊								
人去てしら雲下りぬ暮の花								
咲花や野鍛冶が軒に人の声								
傍の松に鶴来ぬ花七日								
山寺や桜に青き観竹								
酒のまぬ人は香に醉花見哉								
又けふも隙ぬすみ行花見哉								
宵月は桜のあまり見る夜哉								
狩暮すさくらが本の夜は月夜								
見せ申母の笑顔やはつ桜								
とふ人はまた男也はつざくら								
栗の毬踏で驚く山ざくら	奥ツガル	熊本	芦隱	半橋	李程	有之	石羊	求麻
心して筏棹させ岸のはな	宜応	浦圭	半橋	禹功	有之	有之	石羊	求麻
花守の夜あらしいとふ枕寝哉								
雨雲の色にも染ず山ざくら								
夜ざくらに羽たゝきいとへ泊り鳥								
たのしさに亡友思ふさくら哉								
花守よ酒ふる舞んひとつ舞へ								
戻る時初て淒し山ざくら								
明がたや朧はなる、山ざくら								
鐘つきの袖にすれけり糸桜								

(四ウ)

さくら花雨に定て夕ながめ  
人去てさくら且散る夕かな  
百年の句塚をいとなみ

露牛 雪岡

うらゝかな日は一しほに花雲り  
しづけさや翌の噂の山ざくら  
此あたひ申さず花のちる夜哉

桃栗 軒雫

遅ざくら又來ん春の記念かな  
人すまぬ小家もゆかし山ざくら  
うき／＼と花に出て行瘞かな

亀几

遅ざくら又來ん春の記念かな  
人すまぬ小家もゆかし山ざくら  
うき／＼と花に出て行瘞かな

蘇泉 松童 箕溪

花裁て遠き主をしたひけり  
すぎはひやは是を折売初桜

クロイシ 梅成 羽ノ久保田 五明

さとられぬ世をさとりけり山桜  
うらゝかな日は一しほに花雲り

伊与今治 車南

しづけさや翌の噂の山ざくら  
此あたひ申さず花のちる夜哉

烏夕 南枝

雪水やにはかに花の橋供養  
山ふかく鐘きこえけり夜の花

挹波

さとられぬ世をさとりけり山桜  
うらゝかな日は一しほに花雲り

桃栗 軒雫

(五オ)

散りてこそ供養もあらん花も人も  
春は名のみの山ほとゝぎす  
いなみ野や霞の裾に水戸守て  
三ツ輪くみつゝ梳する

、柳沢 蕉夢坊  
瓜英 儲香

(六ウ)

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

河内 川里 小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

あの雲も散ゆく花のかたみ哉  
あの雲も散ゆく花のかたみ哉

小笠原 右書

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

甲ノ平岡 如雪 河内 川里

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

桃栗 軒雫

岩橋のおもかげ深し夜の花  
吹るゝもうれし桜の袖に散

目は花に居て河原に來りけり 大原や花に往來の草むすび 夕暮の雲すみのほる桜かな	蝶石 裕梅 文鯉
散うきて泡に見なせる桜かな 花の雪うつるや眉の水かゞみ 散る花に裳かゝぐる小姫かな	ワカミヤ クラテ 蘭溪
桜／＼峰は日脚の曇りけり 夜の花や我にすがれる虹一ツ 夕暮や賦を諷ひ行花の中	其外 素釣
幕絶へてけふは葉がちの桜哉 花過て間遠になりぬ夜の夢 花ぐもり唯花皿の音のみぞ	木耳 花情
山売で花見る客と成にけり 極楽は外にはあらじ花の山 咲つゞくつくしの花を供養哉	サツマ鹿児島 南明
和水 後風	里桂 芦江
極樂は外にはあらじ花の山 花ぐもり唯花皿の音のみぞ	豊前小倉
咲つゞくつくしの花を供養哉 折捨て凋むも花の最中哉	サツマ鹿児島 和水
散る花をつけて行けり墓の面 かはる／＼花見の留守の独かな	備後三原
花一木ゆづれる畔に添てけり 我人の桜咲けり春のそら	梨陰 土芝
折／＼や夜半の桜に雁の声 寺町や花見くらべん西東	逸芳 吾中
散あととの花たしかなる梢かな 醉ざめや桜にうつる山の月	何笠 北雁
こゝろざまやさしかれとや花見連 人通る畑のそなたや花の里	加賀金沢 馬来
こゝまでは去年も來たり花の山 野曇りや里は桜の花ざかり	南峰
糊ごわな小袖出しけりはつ桜	野芹 文顛 漁船

(九ウ)

身につかでもどる家路や夜の花  
初月の峰も幾つかさくら狩  
なかば散桜にそひて峰の雲  
野ざくらや児供遊す松葉かき  
子供衆やかた路駕に嵯峨桜  
花ありとおもふ寝覚や障子越  
商人の心やすめるさくらかな  
二三里を一日がけに花見哉  
つくりと眠る鶴や山ざくら  
花衣はづして持や山桜  
花折て桂へもどる暮の船  
青麦の畑買ばやさくら狩  
岡の花外に米搗家もあり  
故郷の母に見せたき桜かな  
【校異】河野美本、中七「親に」。  
はつ桜其日も已に暮にけり  
折くは柳のすれて桜かな  
見に入は紙漉く里の桜かな  
ふさくと名桜さけり雨の門  
桜見や中の十日は一ゆるぎ  
【校異】河野美本、上五「桜日や」。  
我宿や花に絶さぬ酒二升  
行違ふ人は多けれ桜山  
桜さく山く明の薄もよひ  
山本やさくらが中の石地蔵  
駒繫ぐ柳おしえてさくら守  
桜見や舟と陸との声合  
ちる花に頭のかゆき日和かな  
、 柏茂  
ノト宇出津 女 枝水 黄鳥  
十廿 其青  
五曹 勇夫 犁松 楚流  
馬水 楠花 完車 鯉湖  
大溪 白義 馬水 鯉湖  
岐北 花翁 梅曉 泊鳩  
泊鳩 雨柳 柏舟 其石  
柏舟 里叟 夏陸 九夏  
夏陸 九夏  
里叟

(一) ワ

先へたつ人をなぶりて花見哉 花の本いかつに人の顔白し 夕暮や花散る丘の鍬づかひ 目がはたて麓は近し遅桜	ツバタ 金沢 一抄 兎文
明ぼのや花とはみえぬ松の中 庭の花散果て屋根の普請哉 清らかや花の浪汲む閑伽の棚 夜桜や時ぐならす鳥の觜	伊賀名張 、上野 、能登 、暮留
花時や簾つゞくる膝行人 苔から人にしられつ初ざくら 曙や花に夢見し宇津の山 雨の花僧都イむ鐘楼かな	岷靈 一如 巴丈 李渙
馬繫ぐ上野の花のほこりかな 岩窟を越ておどろし花の奥 中絶し人にも逢ふや花の頃 夕榮や花さく岡に人の声	御園 白子 里旧 菊阿坊
前髪の坊主にはつす花見哉 花さら／＼散行中の破家 みよしのや世を一円にはな心 何なくと花に宿せん奥山家	四山亭 指月 （一五〇） 無友
引越て花の田舎の住居かな あぢきなや花さく頃の朝嵐 能因の晩鐘にくし山ざくら 幾人も花に薄らぐ青みかな	津 矛滴 洋水 石薬師
木の下に栄花定るさくらかな 古木にもむかわすれぬ花の笑 太刀もちを召すゆゝしさや桜狩 照る星のくぼみて花の真空哉	甘谷 憂玉 既白 山田 栗花 白子 宇兆

(一五〇)

馬道へ出て照かへる花ぐもり 唐人に見せばや花のよしの山 なまざき水のたまりにちる桜 手鼓や桜折る間の乱れ打	能登僧 巴陵 イセ寺家 五瀬
恋草や長が井筒の糸桜 花一木人声満るすだれかな	帶川 無曲
友ありや吸殻薰る花の下 杯のさし処花にわすれけり	二ノ宮 久居 指月坊 如水
花に添て乳母はなく子をすかしけり よく見ればさくらが本の桜かな	桃川 雨青
野の末や花に暮行はな心 遠山や花にすれ行ながれ雲	二宮 椿葉 ノト七尾 暮臘
大空に花の香満る曇かな 山入や水音あらき遅桜	其之 菊人 （一六〇） 于康
紙漉を下に見て行桜かな 月落て花と定る尾上かな	嵐樵 月
雲水にうつらふ花の夕かな あけばのゝ桜に直き小雨かな	何芳 微斤 萩邑
散る花に馬の瞬く昼間哉 散る花に馬の瞬く昼間哉	川田 佳超 （一七〇） 乃至
散る花を鎮めて篠の上手哉 水色のかはるや堀の花の影	武部 好古 五雲
雪見えて桜のたかき攀かな 夜ざくらに灯移る舟の鞍かな	ノトベ 北生
いざゆかむ花は翌又あらふ共 くだり坂や花につたる牛の面	ノトベ 北生
山鳥の幾代を経りぬ遅桜 くだり坂や花につたる牛の面	錦川 玉史 朝々
鈴鹿山鬼もなき世の桜かな 花の山哀なりけり鹿のほね	素玉 麦秀 梨邑 馬涼 波井 （一八〇） ノトベ
花の山哀なりけり鹿のほね 人声や花を離るゝ鳥の声	桂 金丸

(一七〇)

さかりなる桜に人のなき日哉 山陰や桜にしらむ朝日請 島の山雲井につゞく朝日かな	九河 （一七〇） 嘯雅
【校異】河野美本、上五を「島の花」に墨書訂正。	
玉垣の外見る谷のさくら哉 只人と見えぬ白髪や夜の花 桜見し其夜はやすき心かな	三爻 （一六〇） 石支
花にくれ艶に匂ふあらし哉 常はたゞ榎の木原の桜かな	不染 春瓜
岩陰や花を見付てまぎり舟 晚鐘の遠音に散るや遅桜	春瓜 （一七〇） 一形庵
奥里や家毎に見ゆる山桜 花の山峰の巣つかむ座当哉	李月 百尔 （一八〇） 岐草
花に埋む弥勒の堂の夜明かな 乞食に花折貰ふ女中かな	珠ト 都山 都山
静かさや常念仏の花の奥 召つれし児まいらするさくら哉	筍牙 布遊 筍牙
花咲て鳴かぬ鳥なき山家哉 山本や花に付たる車あと	柳汀 柳汀 文朝
花咲や夜半を過る沓の音 花ざかり見るとなふ児の機嫌哉	馬涼 梨邑 馬涼 （一八〇） 文朝
鶴啼て花も興あるさくら哉 魂在す思ひを花のはやしかな	波井 麦秀 素玉 北生
鈴鹿山鬼もなき世の桜かな いざゆかむ花は翌又あらふ共	錦川 玉史 朝々
花の山哀なりけり鹿のほね 人声や花を離るゝ鳥の声	桂 金丸

(一九〇)

石打で蝙蝠出さん洞の花  
川舟や人声曇る花園  
花売やあとに苔の打こぼれ  
子鳥の花ぶさ落すゆふべ哉  
散る花に濁りを上の小魚かな  
汐くむや花と岩との間より  
初花に伊勢の司代の白髪かな  
やゝけぶる滝のしぶきや遅桜  
道問へばやはり桜を目當哉  
杉山の奥静なりはつざくら  
庭の花ぬか火に曇る山家哉  
あれ／＼し木々の中より初桜  
酒醉の骸あづけし桜かな  
門を出て三井寺諷ふ花見哉  
花ざかり家の建たきふもと哉  
有明に山は桜のうねりかな  
鏡磨越路の花にもどりけり  
坂口は松重りてはなの山  
曛な都被のうへに散る桜  
おもたげに花をつくねてよ  
山下や桜にうづむ賤が家  
散行とおもへば花の胡蝶哉  
花守の寝覚床しや破れ窓  
山ざくら桜に付て咲にけり  
畠前や桜見て来るわらは病  
分入て琴柱拾ひぬはなの山  
二階から杯投るさくらかな  
恐しうのぞけば渢の桜かな  
柴人に顔みしらるゝ花見哉  
花の山もどりは道を忘たり

千路 文中  
管史 破衣 壺涼 惇鳥  
飯田 記史 可上  
カミ  
眉山  
久江 後流  
二ノ宮 柳枝  
所口 定斎  
万遷  
馬涼  
ノハマ 大牙  
ノトベ 麦杜  
ノ高岡 馬丈  
那古 東河  
大西 里泊  
之柳 史甫  
麦秀 友卦  
分路 李芳  
烏川

（一  
九  
ウ）

深山路や藤橋つたぶ桜がり  
醉さめて見る時桜散にけり  
花の雨五尺に結ぶいほりかな  
なよ竹にすれてこぼるゝ桜哉  
花山や花に心の飛まどひ  
詠入てかなしきほどに暮の花  
汐風になれて花咲く浦輪哉  
散る花に睡を覆ふ被かな  
山門の音や桜の朝ぼらけ  
山寺の桜にくゝる御手の糸  
花手折人に寄添ふ雅かな  
小座敷や宗和折敷に花の影  
花の雲もろこし舟も渡りけり  
音羽山の嵐はきのふ今日の花  
のぼるともおぼえぬ道や花の  
初花に足駄ゆるさぬ門の内  
島山の松に暮初む桜かな  
世は桜人を饗す網代笠  
九重の味のつくまで花見哉  
枕高ふ寝る代の上に桜かな  
只の木に馬を繫で桜かな  
遠山や月の上なる花曇り  
みのむしの桜にすがる雨氣哉  
渡月橋  
散る花や月と橋との中に落る  
雨晴や雲に継足す山桜  
花守の我世にもどる嵐かな  
芳野への道聞人や花の友  
六尺の花につかえる天窓哉  
髪結て翌の花まつ心かな

山喜	白老	明神浦	磯仙
城端	如友	二翼	而章
吳晁	文江	亞三	亞三
嵐艾	卜史	吳晁	白老
巨山	嵩平	嵐艾	如友
嵩平	杜市	巨山	城端
高山	花來	嵩平	二翼
今石動	高山	杜市	而章
文龜	楚吟	花來	亞三
久々湊	士沈	高山	吳晁
湖龍	杜明	今石動	嵐艾
生地	素秀	文龜	卜史
水見	林亭	楚吟	巨山
杜明	馬十	士沈	嵩平
素秀	凡十	杜明	高山
芸州	川尻	素秀	今石動
御手洗	小方	林亭	文龜
淡水	可友	馬十	楚吟
東升	南枝	凡十	士沈
山離	山離	芸州	杜明
豐後	豐後	御手洗	素秀

中／＼に弥生の空や花曇り  
山里の艶氣もなき桜かな  
花に心移せば近き外山哉  
翌／＼と誘合たるさくらかな  
花の山翌の近道見て置ん  
遠山や花の霞の嵐ゆかし  
花の本に田螺も壳や隅田堤  
散行ば散来る花の嵐かな  
思寄す花に行也遊さき  
散かゝる花より牛の細目哉  
長閑さや座当うかれて花に泣  
酒取にもどる人あり初桜  
一日見て跡参らせんはつ桜  
散さくら二王の腕につもりけり  
花霞山動くかと見えにけり  
雨風や花散る筋の生喫き  
花ざくら千代の古道ぬかり道  
柴舟に散込む志賀の桜かな  
花に暮る人な咎そ市もどり  
咲揃ふさくらが本の花曇り  
岩窟の花や哀に雉子の声  
花七日我に二日の隙もなし  
迎も散る風も花の景色哉  
夜を行や花に背おひし筑紫琴  
香や洩れん朝日に絞る花の露  
踏みて草なかりけり花の下  
散る花に無明の醉は醒にけり  
花の中にするどき門の二王哉  
けふもまた一人は医師よ花の連

(一オ)

江ノ水口 潮  
土山 月  
七条 其  
尓  
辻村 約  
江頭 吟  
守山 李  
二保 思  
カタ、未  
草津 月  
西湖大留 瑧  
柏  
石部 亀  
舟木 圃  
守山 花  
江東 霞  
杉江僧 素  
水口 梨  
湖東 烏  
倭  
英  
き  
知  
紅  
梅  
路  
此  
知  
き  
倭  
英  
き  
房イソムラ

(一四四)

坂負ふた人に問けり初ざくら	江ノ山上村	鷺橋
制札や花に余情のいやまさる	草津山寺	玉水
野はづれや花にとゞきし世の人氣	来石	
九重や花に日頃の曇りなき	可能	
目うつりや花を行過往かへる	辻村	多洗
凋むまで花見て御座る仏かな	蓮車	
紙むすび是も名の有桜かな	江東	有隣
花の香の交る火縄の匂ひ哉	山賤	
谷ぐくは埋がごとし山ざくら	狂笑	
山賤の袖へ吹込むさくら哉	来小人	
初ざくら樺も浅黄もなかりけり	武江戸	菊明
山ざくら蝦夷を去事一百里	行脚	瓜坊
さくら咲て暁にしかるゝ董哉	カヽ	つよ
興に折や花にのぼりし肩車	武本庄	一馬
北嵯峨や花の盛の鐘供養	みつ	
日を送る深山ざくらに世棄人	双鳥	
散初て散る日も花の五七日	李明	
仁和寺や人の背たけの花の雨	若ノ小浜	陶河
吉野何我一もとの桜咲き	西津	柳只
散る花や入江の魚の浮つるゝ	百馬	
花散て水甘嗅き谷間かな	巴陵	
山高く花の麓の一里塚	漁林	
花一木多賀の鳥居と咲にけり	古橋	
初花を見越して雪の高根哉	鬼雀	
花の香と我と残りぬよるの山	備中笠岡	文里
磯山や船にながむる朝のはな	備後福山	李朝
いと桜糸にみだれてちる日哉	田房	古声
花咲てあかるき山路／＼かな	知風	

(二四ウ)

散る花の嵐にうつる姿哉	斗外		
滝壺に凄さわするゝ桜かな	備前岡山	子坤	(二六オ)
吟ふや花にうか／＼二里三里	丹後河守	沙鷗	
外堀や桜散夜の水黒き	橋立	裸木	
世わたりや花におぼれぬ薪取	南紀	横馬	
庭の花見る人も我守も我	河守	梅居	
来るも／＼男也けり山ざくら	如暁		
伐れたる枝もつぶ／＼山桜	無諍		
花の山や桜の山や人の嘘や	丹波	洞々	
独見る物あはれさよ山ざくら	可休		
来て見ればふもとに雲や吉野山	東岐		
手折らせぬ人の誠やちる桜	河内星田	田毛	(二六ウ)
寺あればいにしへよりの桜哉	石ノ銀山	臥山	
松ざくら風二筋に分りけり	遠ノハマ松	白輶	
花の山松は色より暮にけり	揖ノ兵庫	岩苔	
花守よ樹を抱て泣か行春に	阿ノ福島	蓼花	
乞食に近よる花の鴉かな	但馬	因山	
花ざくら是なん不死の薬也	讃州	如竹	
日ざかりや花の中道人に醉	志鳥羽	蒼梧	(二七オ)
人散て我は可笑き花見哉	紀みなべ	梅旭	
散かけて花のいざよふ夕かな	尾張	士朗	
花に出て齡を松に契りけり	羅城		
いとまなき人にも逢ぬ花の中	五周		
八重桜夕旦はなかりけり	物載		
如月も後の二本を遅ざくら	素外		
羅城法律師が芳野行脚を思出づ	桂吾		
遅ざくら僧は吉野を出つらむ	紀鳳		
長閑さや散るさへ花の一重宛			
行越し桜見付る月夜哉			

(二七ウ)

夜ざくらの奢つもれば朝寝哉	斗外		
初瀬寺や念じて行ばはつ桜	甲州藤田	可都里	
休らふて海見る花の余興哉	作良		
はつざくら曇らぬもまた風情哉	唐笑		
誰をかも松の木の間に遅ざくら	鰐沢	芦船	
夕山や桜にちかく押寄る	岷山		
夜ざくらや人を誘はば更ぬべし	甲ノ藤田	黒沢坊	(二八オ)
桜戸や人を見に出る坊が妻	下毛柄木	尺樹	
何人の娘なるらん花の窓	魚尺		
花咲て酒の都となりにけり	文賀		
誰殿の使なるらんはつ桜	文化		
夢にさへ桜見る夜と成にけり	野雀		
夕月や田毎に曇る花一本	防州上ノ関	百樹	
鋸挽も花見に筵とられけり	三尾	宇宙	
山深し花より上の水の音	上州境町	専車	
下戸ばかり橋わたりけり花戻	西ノ関	龍山	
散る日こそ桜の山に暮過る	語山		
散る花に鳴さず谷の蛙哉	播ノ小ノ		
散る花を追行花のこゝろ有か	君中		
時今ぞ一鞭急げ花の山	沾節		
花なれや帰らんとすれば我に散	浪花		
寺々や都は花に能曇り	尺艾		
抱上げ扇に乗せん糸桜	花桂		
なつかしや花に垢つく墨衣	馬仏		
誰が足の跡ぞ桜の散し上			
望まれて枝折まだふ桜かな			
類なや花ちる里にすむ月夜			

(二九オ)



八十あまりいける甲斐なる桜哉	二ノ宮	羽黄
闇の夜や桜に明て鳴からす	、	尺龍
靄日もる岡辺の花に尾長啼	下仁田	暁鳥
山寺や花吹ちらす古畠	、	江朝
夜桜や油かすりし石灯籠	松井田	松和
散花を梢にまとふ松蘿	田島	南浦
山さくらほすがとく散けり	上州前橋	李雪
浦風や桜吹ちらはなれ島	女斗米	
山門に酒ゆるせかし花ざかり	杉雪	
ちればちる詠ありけり花の山	女記之	
散花に鼾の音ぞ無念なる	土卵	
おなじ色の桜にけふも暮にけり	輪賀	
見るうちは花の主とおもふ哉	四祖	
風の桜手をかざせども是非もなき	素同	

(三五ウ)

日にむけば目のくらみけり山桜	洛	完而
雲か花か鐘つく峰の朝朗	サツマ	春扈
花がきの庄は耕すさかりかな	、	立蘇
寝てもや、花におかる、心かな	阿久根	朝瓜
さくら花散日は空の曇り哉	、	机翠
見ぬ人に薰れ深谷の遅桜	長州赤間関	南巢
ちる花を吹しらむ月の夜明哉	、	里山
盃にちるや桜の八重一重	、	如翠
小袖ながらぬれてもみばや花の雨	、	後來
咲みつる花の中洩る月夜哉	、	左定
何事を花に告るか虹の声	、	模稲
池の面ちる花の泡水の沫	、	羅風
糸ざくらうたがふらくは花の波	、	薰里
花ちりてやすくぬると成にけり	信松本	可考
徒な雲みなきえでさくらかな	西万木	仰高

(三六ウ)

桜さく崖の下みち有やなし	大津	如々
山中や志賀も都も花の雲	、	井子
あけはつる雲のさかひや山桜	石州日原	万鼓
打はれて咲ものこらぬ桜かな	芳野	可翠
花に一夜桜に一夜有明し	若州	沂山
塩だちに瘦て花見の留守居哉	、	鶩少
朝の花青みの中に一つらね	越中福光	波弓
捨がたきうき世に花の罪深し	讃州仁保	指馬
雪空はあこがれぬるや雨の花	白羽	
花の陰するどき川の水煙り	宗徳	
煙たつ空や闇ゆく花の山	満里	
一宿枕かさぬるさくらかな	上総長者町	正翠
夕栄や桜に繁く牛の面ラ	加州	風手
花盛り日なれて川の水増り	、	舟苔
散花の朝に床し遅ざくら	、	蘭下
桜より暮て縄手の人通り	、	ト舟
守る花や科戸の風の雲を吹	八幡	鯉文
峠にて杖を尋る花見哉	日向美、津	一甫
約束の時刻延るや花戻り	、	可楓
少し醉心できたり花の陰	、	
春中の花に破る、衣かな	雨卜	
明の香にさくら詠る山路かな	深草	巴橋
幸と世にうとまれて花見かな	、	五牛
袖人に田楽やかす花見かな	備後福山	一声
咨ひ事忘る、ころや初桜	信州塙奈田	柯則
京に来てむかしけれとや花盛	加賀	龍石
山風や山をはなれてちる桜	宇治	方外
炭火さへ吹やむ花のあるじ哉	淡路渓竹改	黛葉
やすらはで画につしけり花の山	河内長尾	路平
遅来		
山烟やひと木立たるおそ桜	甲斐東郡	石牙
声きかぬ鐘をめぐるや夕桜	琴雪	
戸を明て桜見てゐる月夜哉	梅夜	
火ともせば虹の声あり夜の花	里塘	
此ほどや人に馴たる花の鹿	何鳥	
夜に入ば又舍りたきさくらかな	菊児	

(三九オ)

桜さく陰に臼造る山家かな  
山里や都近まるはなざかり

魚藻  
蕪人

人の来て我も花見るゆふべ哉  
世中の望思はず花のかげ

春路

此筋や木樵も通ふ山ざくら

石州日原  
李之  
義昌

京三条通寺町西江入丁

蕉門書林 菊舎太兵衛梓

(三九ウ)

(裏表紙見返し)  
(裏表紙)

花供養	花供養	花供養	花供養		
底本 白鹿本	校異 雲英本	門守りに寺の心はなかりけり 腹もたてずに女房出て行	豊後介の眉黒く見ゆ いかにせん道をさへざる雪の竹 汁の狸の友や啼らん		
良交 古律 芦涯	魯長 蛙方 白黛 杜桂	いにしへのかたちばかりに鍋祭り しなぬ湖水の魚解きつ、 名月にむかひ申せし玉の輿	枝をならさぬ御代の在がたさ、空 のけしきも心地よげなる春ごとに、此 道のしれものら、東山の芭蕉堂に		
斗流 百哺 魁渾 渥川	集りつ、花の会して其くさぐを悉 國よりも捧し花、いと若うおかしげなるも、 老てさびたるも、これみな道の恩	八束穂選りて盆にのせ置 手拭に秋の色ある紅粉絞り 鳥居の陰に恋の半面	道前によみあげ奉る。はた遠つ 像前によみあげ奉る。はた遠つ を報るたぐひなりければ、ともにかい あつめて、例のひとつ巻となし、長く 朽ざらんものとなしける。ことしは我此趣を		
(一ウ)	(一オ)	(二ウ)	(二オ)		
四山亭蟠水	所ぐぐに降花も供養の夕かな 蝶鳥帰る遠近の鐘	さそふ水さそはぬ水も花の中 蜂にもなれて蜜をとるとは 雨になを急がぬ春をとくとまり 跟の炎にすくくとたつ	寬政五年春	花の香のする夜尾上に箒かな 雲はらふ風ことによき夏の月	
(三ウ)	一座みな眠り上戸に春たけて かし傘おほくおろし置也	のさものを物にならずとさゝめきて 軍の留主に漏らぬ所なし 守袋雪隠かくしの枝にかけ 此ころ産し子のはくを着ル	貸してやる箱を開けば昔椀 報恩講の日にふたつ三つ	花の香のする夜尾上に箒かな 雲はらふ風ことによき夏の月	
(五オ)	流さじと船橋なかば切ひらき たふさぎのみに軽き人々	月晴て雪丸流る、水の底 貢ちかしとなげく鶴飼 老の身に弁慶島はにげなくて 地どりの宿の柱かたぶく	所ぐぐに降花も供養の夕かな 蝶鳥帰る遠近の鐘	花の香のする夜尾上に箒かな 雲はらふ風ことによき夏の月	
高宮 江山	百哺 魁渾 渥川 車蓋 開更	岩がねの花に酒宴や七むかし 眼ざましや森の陰よりも初桜 きのふまで酒うる人も花見哉 紙ちらす峰の嵐や花の本	芦涯 古律 芦涯 志賀の花に東あふみの雉子の声 花手折人の跡追ふ小てふ哉 散花の中や仁王の紙つぶて 花手折人の跡追ふ小てふ哉 なつかしき桜がもとや暮の人 日は入ぬしばらく花のひがし山 誰とはぬはつ花得たり垣の外 年ごとやかはらぬ花に我が皺 下市や花に水汲む岸もなし 斧の音しらぬ都のさくら哉 桜見や十日の雨もふらぬあひ います時これも咲たる桜かな かさなりし花のちりばや一重宛 遅ざくら廿日の月におもしろき 踏れけり桜がもとの墓 花の山一もとづ、のはやしかな いにしへの桜を今にそなえけり 花ざかり牛なめて行嵯峨野哉 桜木や咲が中にもはなごゝろ	草臥て嵐きく夜や花もどり 雨後の花ちるとて枝にすがりけり、 下枝は何になりしづ山ざくら 志賀の花に東あふみの雉子の声 ちる花の岩にへばりぬ雨の後 花手折人の跡追ふ小てふ哉 散花の中や仁王の紙つぶて 花手折人の跡追ふ小てふ哉 なつかしき桜がもとや暮の人 日は入ぬしばらく花のひがし山 誰とはぬはつ花得たり垣の外 年ごとやかはらぬ花に我が皺 下市や花に水汲む岸もなし 斧の音しらぬ都のさくら哉 桜見や十日の雨もふらぬあひ います時これも咲たる桜かな かさなりし花のちりばや一重宛 遅ざくら廿日の月におもしろき 踏れけり桜がもとの墓 花の山一もとづ、のはやしかな いにしへの桜を今にそなえけり 花ざかり牛なめて行嵯峨野哉 桜木や咲が中にもはなごゝろ	石部 良交 水口 蓮車 江西 瑠雀 守山 李明 ほしか 桃仙 大津 如龍 守田 未角 辻村女 りき 堅田 一之 井子 甚悦 彦城 旭鳩 湖東 桃溪 大津 井子 彦城 旭鳩 湖東 桃溪 大津 井子 彦城 旭鳩 湖東 桃溪 大塚 吾人 伴 幽川 麦牛 時中 可計 草津七十翁 葵水 、僧 涼眉 、許一 可能 陶酔 此得

夜ざくらや禁制札に魚の骨  
夢の花さめて褥も花くさし  
書を寄て花に耕谷の寺  
おくぶかき花に一步の葉かな  
かゝる日を人のまことや花供養  
初花や人住山のうちくぼみ  
いざやねん桜払ふに隙もなき  
憐むや花に魚飛ぶ山根川  
杣の子やぶりかたぎ来る花の枝  
辛崎もしづむや湖の花霞  
花にうかれ羽をうつ蝶の行ゑ哉  
河舟やもの、影そふゆふ桜  
花ふかしかたぶく月のうつり哉  
いたゞきへ行ば外山も桜かな  
谷川の水汲上るざくらかな  
咲たつや桜の中の撞樓堂  
有明に尋る浅黄ざくらかな  
僧すむといふや桜の隣山  
花色／＼月に見直すふもどかな  
花の奥松間／＼のよし野山  
咲日より花に来倦ぬ人もがな  
よし野からふくかあらしの花雪  
朧氣のぬけたる月や遅ざくら  
手折つ、花を手向ん道すがら  
桜見や都のうちはよの世界  
反古買う人にや花のはつ便  
鞍つぼに花の散こむ夕かな  
鳥の來てもつれもやらず糸桜  
かげ高き恵や花の雨零

守山 周路 枝旭  
江頭村 尾双  
義仲寺 重厚  
駒井沢 柏由  
加賀 松菊 桜嶺  
如蘭  
来々  
眠和  
舍涼  
柳化  
菱形  
綾窓  
文几  
独子  
とみ  
眉山  
加賀 竹之  
本吉 亀選  
才川 松華  
本吉 つよ  
富腰 雅石  
湖南  
小立野  
金沢 楚流  
麦風 魯文  
其子 一川

(五ウ)

破垣の柱となりし桜かな  
潜り入ぐゞり浮花やよし野川  
目にたつや花の中なる柿頭山  
一本の桜おしみて小みち哉  
野路の花大さへほえぬ月夜哉  
散花や長き門田の土蔵どめ  
花に出ぬ日の珍らしくひと  
はつ桜下戸も上戸もなかりけ  
温泉へうつる花に春ひゞき哉  
吹まはす桜の中のさくらかな  
としへの雪に老てや山ざく  
ちる花の浪間にうかぶ人魚哉  
大磯や花に船漕ぐ釣翁  
曙の花に飯喰ふ舟路哉  
鷺の子のねぐらを迷ふ桜哉  
花をめづる罪は弥勒もゆるし  
賓客も琵琶かきあはす花の下  
雨の夜や花盗人の隣から  
朝日さす額に花の雪かな  
炭籠の崩れ踏けり山ざくら  
山伏のひとり花見る深山かな  
鳥さしの罪をくゆるや花の由  
かち星や花静なる山かづら  
風絶てたゞよふ水のさくら哉  
人だちや初桜より遅ざくら  
一本の桜に霞むはたけかな  
松桜塔にのぼりて花の雲  
見かけ行花のよし野の入さ哉

雨のはなし  
してかり  
人去て蟄  
土鍋にこ  
ふり袖に  
花の陰に  
千はやべ  
曙やつじ  
眉かきに  
雲はしこ  
色く（こ）  
ほそめと  
ゆふば  
見尽やせ  
はつ花か  
ねたまよ  
猪牙漕（いのしやく）  
神の花（かみのはな）  
八重山（やえやま）  
花の雲（はなぐも）  
漕（こ）出て（で）  
杣（くわ）が家（いえ）  
御車（ごしゃ）のと  
あけぼの  
夜の花（よのはな）  
ちる花（ちるはな）  
人あり（ひとあり）

て弓はる庭  
まる花のに  
めしたく家  
夜の桜のほ  
魚のかたま  
船つゞく島  
中さくらん  
さくら植け  
る戸口に匂  
や渦まく水  
のゆふべを  
蜘蛛の巣払ふ  
や花を踏行  
しがらむ花  
とほす夕人  
がれて松の  
路の遠きさ  
桜は雨の半  
音なき雨の  
とはづかし  
や雲をわか  
夜は火もや

ところ子 桜かな ほひ哉  
山ざくら こり哉  
小川かな そくら哉  
のうねり哉  
桜宜の場  
花の旅  
夜の花  
花の塵  
花の砂  
ながれけり  
ダシ  
しき桜かな  
言り哉  
らかな  
んな  
な花の本  
る、花の色  
しらみけり  
り洗ひ髪  
桜かな

川田 鶴浜 佳超  
堀朝 蒼枝 卜尔  
几嘯 文詠  
虫之 雨卜  
剥笑 女むゐ  
みわ 大牙  
寛風 高岡  
可成 吉田  
旭山 晓泉  
高岡 楚吟  
赤倉 川田  
吉田 乃至  
好古 登都  
五雲 川田  
雨柳 乃至  
馬場 乃至  
錦川 トベ  
玉史 知一  
李月 トベ  
李溪 トベ

八重花の七重がさねに根山哉  
掃よせて世はかり枕ちり桜  
居過して我を恨みん散り桜  
帶解けばばらつく雨の桜哉  
花のあらし背負て坂の夕哉  
よきほどに顔香らせよ花の雨  
寒き日もぬき日もがな花ざかり  
すれあふて花に寝てみん東山  
木像も此比花にほひかな  
頭陀の身も桜に残る心哉  
時しらぬふもとは花の夜明かな  
花ざかり人はむかしにかわれ共  
暮おしむ花や臘の山かづら  
山ざくら咲埋たるふもとかな  
ちる花は散どもくさかり哉  
富士の雪雲に隠れて桜かな  
月白く花猶白きゆふべ哉  
水遠し酒猶遠し山ざくら  
暮やすく覚て花のたどりかな

井波　牛雅　右明　正口　梅夫　百尔　止定　奴原　其蘭　市隱　（二一〇）

、放生津　二翼　魚龍　白老　麦秀　明神浦　磯仙　、十日町　桃路　泊還量　士沈　公眉　（二一〇ウ）

二日見し山鳥にちるさくらかな  
鹿の背に桜を見たり朝朗  
打すさむ鞨鼓の撥にちる桜  
花に暮て又去りがたき月夜哉  
山里や下りて我家も花のおく  
山寺や脣の中のさくらばな  
晩鐘や明日ゆく花のみ寺より  
月落て星の光にさくら哉  
朝霞さくらとなるや向ふ島  
夕榮や少し風有て花の散  
名残ある花を斜に裏日さす

田島　南浦　下仁田　松和　松井田　松和　桃井　（二一〇）

、草津温泉　鷺白　、柳水　、魚柵　、夜雪　、菅菰　、白質　、語山　龍山　（二一〇ウ）

あみはしを渡て花の通路哉  
しなてるや片岡の花昨日より  
かた枝に霞か、れり明の花  
暮るをもしらず顔なる花見哉  
さそはんとせし人にあふ花み哉  
酒汲んで夜に足す人や桜狩  
白ざれし桜の山に雪の降  
刀さす美人や花の日暮まへ

助戸　一贊　柴駅　南楼　柴駅　雨夕　、弘前　春潮　、金桃　、燕児　、金桃　、桃仙　、草夫　利井　（二一〇）

（二一〇ウ）

花さくやしるし曲の夜の門  
、富春　（二二〇）

蝶くも人もしたぶて花供養  
上毛廻橋連室沢　兎了  
うき事も忘る、花の旅路哉　沼田亥屋　素喝  
同じ世にあらば都ぞ花の山　、平出　柳歌  
咲につけ散につけ花の面白し　桐生町　素陰  
建つくや花の山路のかし座敷　、菊夢  
ながめやうる顔へひらりと花散ぬ　まやはし町　退輪  
磯山や花咲中のしほ曇り　、素太  
雲岫をはなれて花に極りぬ　、素舟  
揃ふたる顔美しやさくら花　、径処  
さく花に風つ、がなく吹にけり　、素同  
けふはまだ延て置れぬ桜かな　、四祖  
山寺や桜につゞく鐘の声　、輪賀  
咲ごとになれて老木の桜哉　、李雪  
ひれふるや花散籠の鯛ひらめ　、土卵  
人びとにえゝ都の花盛　、米砂  
散かるさくらが本のまだら牛　下毛助戸　礪石  
生ぐさき風の香きえて磯の花　、足利　利井　（二四〇）

（二二〇）

（二三〇）

（二三〇ウ）

（二四〇）

（二四〇ウ）

（二五〇）

探りてもまがはぬ色のさくら哉 、盲人乙外  
世わたりの仏織なり花の陰 、梅中  
花守の花を見てゐる月夜哉 、梅成  
散花や鱗や筏やよしの川 、合浦宦応  
世にうとき心を花に定けり 南部花巻 鶴路  
此心夢にや入らん山ざくら 、守中  
見知たる顔して立てり花の門 、吏山  
花見んと人なき門をたゝきけり 、浣素  
（一五〇）

花の雲こゝろ競はす水の末 出羽左沢 露橋  
花の道や役の行者も出来心 、至徳庵  
宮守と豆腐喰けり雨の花 左沢 素風  
花咲て千里が浦もさかりかな 、秋田六郷 洞々  
出嫌らひの人に行けり遅桜 、支由  
雲となり雨とはならぬ桜かな 、美長  
此心常に持たき花見哉 、佳笑  
宴果て花もおぼろや長局 、衆々房  
まだ川も花の流を汲みけり 秋田仙北角間川 杵云  
散花やほろ／＼雨の暮て行 馬六  
昔鬼住にし所も花ざかり 時習  
夜桜に鐘撞坊が嘵かな 武州江戸 菊明  
臘に月の石ばしる水 瓜坊  
書を右に琴を左に春暮て 眉山  
きのふもけふも飯蛸を噛 美人  
煤を巣に軒の雀や馴めらん  
輪をなす煙雲となる迄  
ウ 直宿する身はつれぐ／＼を中宿り  
牛捨に行て卯の花の暮  
（一六〇）

岡の辺の道も当摩の練供養 坊 明  
いかにや遅き辻占の君 岩  
嵐して憎き心のみだれ糸  
散花や鱗や筏やよしの川 、合浦宦応  
世にうとき心を花に定けり 南部花巻 鶴路  
此心夢にや入らん山ざくら 、守中  
見知たる顔して立てり花の門 、吏山  
花見んと人なき門をたゝきけり 、浣素  
（一七〇）

花の雲こゝろ競はす水の末 出羽左沢 露橋  
花の道や役の行者も出来心 、至徳庵  
宮守と豆腐喰けり雨の花 左沢 素風  
花咲て千里が浦もさかりかな 、秋田六郷 洞々  
出嫌らひの人に行けり遅桜 、支由  
雲となり雨とはならぬ桜かな 、美長  
此心常に持たき花見哉 、佳笑  
宴果て花もおぼろや長局 、衆々房  
まだ川も花の流を汲みけり 秋田仙北角間川 杵云  
散花やほろ／＼雨の暮て行 馬六  
昔鬼住にし所も花ざかり 時習  
夜桜に鐘撞坊が嘵かな 武州江戸 菊明  
臘に月の石ばしる水 瓜坊  
書を右に琴を左に春暮て 眉山  
きのふもけふも飯蛸を噛 美人  
煤を巣に軒の雀や馴めらん  
輪をなす煙雲となる迄  
ウ 直宿する身はつれぐ／＼を中宿り  
牛捨に行て卯の花の暮  
（一七〇）

たはむる、鳥や散花ふくみあふ 本庄釣牛  
紐解し花に障りそ嵐山 青梅涼宇  
谷川や花のためなる橋普請 勅使河原快馬  
影あづげ暗も明るき山ざくら 江戸 清川  
散中にちらぬ桜のあはれ也 、尋古  
花のさかりなき人の今有ならば 、匪石  
花うれし人に慈悲せし寝覚より 、三彦  
さればこそこゝらにも住め山桜 、貞松  
袖ひるがへす東風の狩衣  
子に迷ふ猿の遁吼うつゝなき  
筏繫であがる雪空  
此あたり酒は富士見の名にも似ず  
隣座敷は公事の相談  
兄弟の信トを恋の丸びたひ  
心のやわら書延る文  
福原の松一しきり落葉して  
しら雨そゝぐ塵の瑞籬  
藁一手とり来て馬にはませけり  
何に替るぞ真柴椎柴  
月に茶に身を墨染の板庇  
甘干あまた置初る霜  
米絶て車休る水の筋  
乞食やさしく梳する  
それぐ／＼に浮世のかざりはかなくて  
霞にへだつ九重の宮  
花の客いつ迄草の起臥に  
麦に鶴の面白き比  
（一八〇）

笠蘭筆 蓮奴柿孝川静礎寿坊明  
雨雲はのびて桜の疊かな 上総長者町 汀鳴  
花咲て酒水くさきふもと哉 、正翠  
醉ざめや我のみ月の桜人 部田村 魚水  
花ねたむ女車の出立かな 振日村 山水  
青空に春かぜは浅黄桜哉  
（一九〇）

下臥や花の外には月も見ず

甲斐 可都里

短歌二首

春の夜や桜夢見て戸に迷ふ

といへる発句によせて

身の上に春の桜や咲ぬらむ  
ひと夜もおちず夢にし見ゆる

休らひやさくらを過て茅花  
ぬくといへる句に

山ざくらおぼつかなくにとめくれば  
野辺のつばなに夕日さす見ゆ

(二〇ウ)

さくら咲や馬上に霞む人の顔  
散がてや月も三日の夕ざくら  
桜咲ていとも行かふよるの宮  
ちり雲や桜にかかる朝ぼらけ

漢甫

作良

芦船

吉市場

美敬

折さじと火のとぼれけり夜の花

市川

台洲

山ざくら雲井にとゞくさかり哉

市川

台眼

山ざくらことしものばる命哉

市川

台眼

桜咲て寝るさへ惜しき日数哉

市川

台眼

夕ざくらおくるゝ人を散分る

小笠原

右書

醉さます葉にもなれ朝ざくら  
山本や人声ゆかし夜の花  
花の嵐江に移り行けしき哉  
木枕に寝覚おかしく宿の花  
いと桜花十分の月夜かな  
朝酒になるとて花の奢かな  
猿をがせたぐりて折や山桜  
寺の門花の夜半にも叩きけり  
ひたすらにうかる江戸の花見哉

河内破岐井 川里 飯野 静良

(二一ウ)

六ツ指はきれとや盜む花 一枝

孤山

夜ざくらにとぼし火持ぬ丈夫哉

黒沢坊

幕ごしにいびき長閑し花の昼

孤山

信濃飯田僧 忍阿

山伏の家ぶりにたり花ざくら

黒沢坊

磯山やたゞ二三本さくら花

孤山

辻堂や市女は花をつかみさし

孤山

谷間や風のくまと花の雲

孤山

峰の雲ながれて晴る遅桜

孤山

旅師花に物おもふ風情哉

孤山

夢ならじ桜ざく夜の花虱

孤山

山ざとや三度のめしも花の中

孤山

、塩名田 柯則

誰が庵ぞさくらが本の小柴垣

孤山

、文涛

弓取の忠義にもよるさくら哉

孤山

、文耕

初花の世をむつまじの隣かな

孤山

、塚原 宗剤

衣手は酒にぬれけり花の山

孤山

、片倉 畿給

薪ほど花折もどる童かな

孤山

今岡 胡園

夜ざくらや更て入さの月薄き

孤山

下県 涼山

廻りきて四方に花の香かな

孤山

町並に桜咲けり社務が門

孤山

はしり帆やいづれの花の山嵐

孤山

遠江浜松 約我庵建てみれば不自由ぞ花の山

孤山

、白輶

花咲てよききぬきたり軍書読

孤山

伊勢御園 四山 分入れば花なきおくの庵哉

孤山

花ざかり老の世の垢おしみけり

孤山

さゞ浪やはま松こゆる志賀の花

孤山

薬うり虎うごかすな花の本

孤山

御園 輓其 いとざくら鳥の背をうつ嵐かな

孤山

諸鳥の解し色音や朝ざくら  
花の山雲と見し夜は明にけり  
影ひるき日のうつり香や朝の花  
、石薬師 甘谷  
彼岸桜／＼や幾千代も  
枝折戸のしぶ茶も薰る桜哉  
、既白  
香に咽てさくら抱けり夜の山  
、露友  
花の滝ながれに頭陀を枕かな  
、上田 琵琶  
手にある女のよくやさくら狩  
、其隼  
花にふけてふとしらむかと思けり  
、龜山 凤里  
花にあまる女のも桜かな  
、思秋  
花ちるやおもへば春も化となり  
、白子 宇兆  
春みちて松の木の間も桜かな  
、寺家 带川  
しら波に花ぶりかゝる岬かな  
、無曲  
ひる過や茶色きつれし花戻り  
、  
花折ば連歌しかけん衣がづき  
、白子鱗々社中 獲車  
霞にえふて狂ふ猿丸  
、  
春の日を舟漕くらす湊江に  
、  
花の山はなれて星の薄光り  
、  
草のもちゐの価とふ暮  
、  
戦に酉の唐丸勝ぬらむ  
、  
獲車  
仰山や花ざく前の造り道  
、  
志摩鳥羽 蒼梧  
おろかさは桜ちる日も花ごろ  
、大和宇陀 芦雪  
遠のりに得たりかしこし初桜  
、三巴  
葉なき道たゞくし山ざくら  
、郡山 麦丈  
春秋に見し顔多し花の山  
、河内長尾 路平  
草つんだ手の恥かしやいと桜  
、藤坂 加友  
真直に行れぬ道のざくらかな  
、  
(二四ウ)  
(二五オ)  
(二六ウ)

世やむかしうち守りつ、花一重 摂津浪花 尺艾  
 久かたや日の光より花のちる 、 不休  
 夕暮や人になだれて散桜 、 春茅  
 人も見ぬ片山桜風そよぐ 、 文屑  
 浪の音近うなる迄山ざくら 、 蒼水  
 咲にけり散けり花のあらし山 、 盛雅  
 ちる花の台にゆるむ嵐かな 、 秀里  
 夕あらし花守こぶし握りけり 、 江涯  
 遠島や船より上を花のなみ 、 淡路  
 左遷の歌もあらん島の花 東漿  
 山人の裕をかけしさくらかな 讀岐笠井 芝峰  
 西行を夢にまつ山花ざかり 大野 三千雄 (二六〇)  
 宿とりて朝な夕なの花見哉 播州鹿古 玉屑  
 炭竈といふもの見たり桜狩 小野 君中  
 迷ひ子の行ゑや岬に山ざくら 、 沾良  
 狂へゝ狂女もひとり花の陰 、 田履  
 眠さめて迷はぬ桜散日哉 備中倉敷 玉井  
 咲崩れ花散や我趺座の上 、 苅舟  
 窓にまだあけぬ夜あかし花の色 篠岡 春千  
 待人やまたぬ心の山ざくら 女瀧  
 来る春の詠にのこせ花の枝 吉岡 象文  
 我も花にくま鶯の仲間かな 、 蓼雄  
 花ひとつ乗出けりはるの山 、 筝牙  
 たらちねの笑顔を常の花見哉 女 さな  
 鳥飛んであとにぎはしき花の山 嘉備 文谷  
 桜咲て薄紅ゐや水のおも 、 守里

(二五ウ)

花のあした心にかゝる雲もなし 倉敷 無涯  
 手向ばや山は其まゝ花供養 、 巴凌 (二七〇)  
 梅のうた花に吟る童かな 、 玉島 桃佐  
 しづまりて闇の艤や軒の花 、 桃牛  
 雪の気もさらで北山ざくら哉 、 桃枝  
 虬蜂の声あるばかり山ざくら 、 桃丸  
 峰をこす雲に桜のかぎりかな 、 桃三  
 鍬ついて花見の人を花見哉 八重村 文重  
 其薰りゆかしき花の朽木哉 、 笠岡 知風  
 色も香も空に満とや花曇 、 如水  
 世／＼になを茂れる花の手向哉 斗外  
 月と花の中にあかるきけしき哉 文里  
 山人の裕をかけしさくらかな 讀岐笠井 芝峰  
 西行を夢にまつ山花ざかり 大野 三千雄 (二六〇)  
 妻木櫻はこぶ女や花のおく 、 五沖  
 夕ざくら夜をも思ひは捨ね共 、 士芝  
 ちる花を岩にかぶせて水ぞ行 、 何笠  
 静さや浅黄桜の朝ぼらけ 、 府中 可ト  
 ちりがての花こそ花の夕べかな 、 明々  
 花咲て名をなのらする山家哉 福山 一声  
 おしめども散ありてこそ桜花 、 醉楓  
 百度も手向て見たしさくら花 、 鷺汀  
 それ／＼の花に煙のたつ日かな 、 南竹  
 夕和や花のかゞみの水しづか 、 仙魚  
 花の山もどりは月のしろき哉 、 柳里  
 散かゝる花のほひや芝むしろ 、 寛志  
 さく花やもとは一本の恵みより 、 指月  
 ちる花やわづかな雨も恨なる 、 右汐  
 草臥て児は寝にけり山ざくら 、 李朔  
 何某のあと見えけり八重ざくら 岩芸川尻 金竟  
 宵闇やいざぬれてみん花の雨 、 芳壺  
 かた道はから樽さげて花見かな 、 東升  
 律院や花に夕べのかしき水 、 御手洗 芦舟  
 道乾く日和となりてはつ桜 、  
 律院や花に夕べのかしき水 、 東升  
 はつ花や去年のまゝ成捨竈 、 柴花  
 かけ橋は草の古葉やはつ桜 、 萩露  
 公達の脚ふみ出しぬ山ざくら 、 凤洲  
 順礼の指さす軒のさくらかな 广島 中  
 さく花の実を結ぶ間の旅路哉 竹原 竹両  
 ゆく花に暁も出来つおくの坊 御手洗井 五柳  
 しん／＼と照日や花に眠氣さす 小カタ 可友  
 二三本杉の古木や花の山 周防岐波 羽仙  
 誰人ぞさくらが軒の雨やどり 、 春郷  
 ちる花に小鳥いざよぶ山辺哉 下津令 明羅  
 宿かりて我也さくらの主かな 、 安甫  
 ちる花の本に白髪の眠りけり 山口 蘭台  
 明日といふ世はなかりけり花の山、 波光  
 見てもまた又見てもまた桜かな 、 李蹊  
 掃目にちり込花の積りけり 、 孤峰  
 桜よりくだる流の薰り哉 、 孤峰  
 高野山女のしらぬさくらかな 、 鴉跡  
 ふみまよふはては桜となりにけり、 鴉跡  
 秋津洲に其香伝へて花供養 、 鴉跡

(二七ウ)

散かゝる花のほひや芝むしろ 、 寛志  
 さく花やもとは一本の恵みより 、 指月  
 ちる花やわづかな雨も恨なる 、 右汐  
 草臥て児は寝にけり山ざくら 、 李朔  
 何某のあと見えけり八重ざくら 岩芸川尻 金竟  
 宵闇やいざぬれてみん花の雨 、 芳壺  
 かた道はから樽さげて花見かな 、 東升  
 律院や花に夕べのかしき水 、 東升  
 はつ花や去年のまゝ成捨竈 、 柴花  
 かけ橋は草の古葉やはつ桜 、 萩露  
 公達の脚ふみ出しぬ山ざくら 、 凤洲  
 順礼の指さす軒のさくらかな 广島 中  
 さく花の実を結ぶ間の旅路哉 竹原 竹両  
 ゆく花に暁も出来つおくの坊 御手洗井 五柳  
 しん／＼と照日や花に眠氣さす 小カタ 可友  
 二三本杉の古木や花の山 周防岐波 羽仙  
 誰人ぞさくらが軒の雨やどり 、 春郷  
 ちる花に小鳥いざよぶ山辺哉 下津令 明羅  
 宿かりて我也さくらの主かな 、 安甫  
 ちる花の本に白髪の眠りけり 山口 蘭台  
 明日といふ世はなかりけり花の山、 波光  
 見てもまた又見てもまた桜かな 、 李蹊  
 掫目にちり込花の積りけり 、 孤峰  
 桜よりくだる流の薰り哉 、 孤峰  
 高野山女のしらぬさくらかな 、 鴉跡  
 ふみまよふはては桜となりにけり、 鴉跡  
 秋津洲に其香伝へて花供養 、 鴉跡

(二九ウ)

道の恩しるや花にも艶にも 、三尾 宇宙  
 花雲り夜は限なきけしき哉 、上閑 荷涼  
 鉢のえに鳥遊ばせて花見哉 、変白 桜二  
 花守に精進日あるぞあはれる 、大海 羽琴  
 散花やまだ四五日の春寒き 、琴那  
 世の中のしる人これや山ざくら 、室津 鯨牙  
 峰も尾も時を得る日や花供養 、長州舟木 蝶巴  
 世を捨てさくらにおしき命かな 、波月  
 遠山や雲の上ちるさくらばな 、長田僧 孤甫  
 花雲り鶯は何地へ寝に行ぞ 、赤間関 羅風  
 植し花経り行我を思ふ哉 、里山 南江  
 醉伏てあしたの桜ながめけり 、南江  
 松原に下りて寒き花見かな 、阿声  
 初花やふとおもひ出す一むかし 、文賈  
 山ざとやかはらぬ花に人ひさし 、僧枕石  
 しばらくは山をかたどる桜かな 、松雨  
 夕暮の風や花見のうしろふく 、魚能  
 蟹の子等骸乾かすや花の陰 、里江  
 奥深く分入るさとや花白し 、錦翠  
 雨晴の名残にある桜かな 、花来  
 都近き花ははやくも乱れけり 、比雪  
 散る花の陰や立て見居て思ひ 、文川  
 ゑのころのたはれ合けり花の本 、楚柳  
 花守となりて世わたる男かな 、花暁  
 人まれに山ふところのさくら哉 、南菴  
 花やさくらしらぬたつ木の雲の中 、薰里

(三〇ウ)

我事におもふ桜のあらし哉 豊前小倉 南明  
 ちる花にことたるさがの月夜哉 、南珠  
 桜ちるころやましらの人には啼 、夏夕  
 啄木鳥の音おそろしや花の山 豊後鶴崎 掏泉  
 流れ／＼ふもとは花のさかりかな 筑前飯塚 竹両  
 山ざくら酔茎うる家も出来にけり、 舎丁  
 紙つきのちらば瀧こめ山ざくら 、奇峰  
 米つきも羽織きて出る花見哉 、莞而  
 散ばこそ花幾里のながれ哉 、士沢  
 山ばなやすそに水ある花の雲 、君花  
 人絶て散かさくらのゆふ月夜 、黒崎 其柳  
 鐘輔あとに緋桜貝や岡の花 茶屋原 岡寿  
 火とぼしの宮司疎し夕ざくら 、若宮 石睡  
 咀かげや散静まつてゆふ桜 、  
 武者一騎花に睡る山辺かな 、花牒  
 風軽し花にござるも樽ひとつ 、甘木 閨雨  
 思ひ出は花のあたりの丸寝哉 、梅廬  
 守人はおろかにも花にかしこまる 、帰來  
 駕昇のうづくまる花の筵かな 、若宮 素鈞  
 境界を花にうらやむ夕かな 、蘭溪  
 鶴なかぬ闇しまりなや花ざかり 、直方 可角  
 咲初ですぐに桜のゆふべかな 、植木 此原  
 空に月花散山のあはれる 、雨萩  
 ひや／＼と釣鐘にちる桜かな 、寄来  
 うかれ氣や今日降雨に花の夢 、涼眉  
 花の本翁に舞をすゝめけり 、白移  
 桜がり心に水の音遠し 、曙川  
 花にそふ此かたはらの住家哉 、遠子

(三一オ)

(三二ウ)  
 (三三ウ)  
 (三四ウ)

人にうときながれ伝ふて花得たり 、何來  
 山中やまがへる道も花の中 、女たき  
 片里や花のみ我をそゝなかす 秋月僧 芝風  
 待花に朝夕人の侘るかな 、木や瀬 木耳  
 花散や天津乙女のきぬの色 、花情  
 花咲て雨ぎる空をいとひけり 笹田 流志  
 花の真色見よとて月の曇哉 肥前謙早 白鶩  
 立寄てふらるゝもよし花の雪 、孤石  
 只ならぬ庵に來たり山ざくら 、亀水  
 曙の風しらみて飛や山ざくら 、玉孚  
 鐘舎あとに緋桜貝や岡の花 、左東  
 火とぼしの宮司疎し夕ざくら 、雨夕  
 咀かげや散静まつてゆふ桜 、春扈  
 武者一騎花に睡る山辺かな 、花牒  
 風軽し花にござるも樽ひとつ 、甘木 閨雨  
 思ひ出は花のあたりの丸寝哉 、梅廬  
 守人はおろかにも花にかしこまる 、帰來  
 駕昇のうづくまる花の筵かな 、若宮 素鈞  
 境界を花にうらやむ夕かな 、蘭溪  
 鶴なかぬ闇しまりなや花ざかり 、直方 可角  
 咲初ですぐに桜のゆふべかな 、植木 此原  
 空に月花散山のあはれる 、雨萩  
 ひや／＼と釣鐘にちる桜かな 、寄来  
 うかれ氣や今日降雨に花の夢 、涼眉  
 花の本翁に舞をすゝめけり 、白移  
 桜がり心に水の音遠し 、曙川  
 花にそふ此かたはらの住家哉 、遠子

(三五オ)

百とせの花を替らぬ眺かな		東律
日比憎む風も猶さら散桜	、	起雪
初花のたつきとなりぬ洞の人	、	輝白
曙やはなの上行むら鴉	、	梅江
我庵やどちら向ても山桜	、	濃波
明行や松のひまより山ざくら	、	文塘
高き屋の御製を題す		
煙たつかまどは桜咲にけり	、	紅良
桜戸やはそぐそよぐ夕あらし	、	島原琪月
笠のひも花に解する山路哉		文智
三つの外たれる物あり花の庵	、	一壺
ちるまでもやさしき花の梢哉	、	竹梁
花の日やあくがる、我に暮かゝる	神代春喬	(三六〇)
みよし野や護摩の煙に桜散	、呂柏	
晴てから桜に雨のひかるかな	、利帆	
分入ておくも迷はじ遅ざくら	、画鮮	
筆持て何おもふ人ぞ花の中	島原陀雲	(三六一)
けふも花のもどりは人に後れたり、	湖竹	
ちる花は酒のさめ行心かな	、文士	
何ざくら斯ざくら終に夕嵐	肥後八代文暁	
魚は水つばくらは花の日和哉	、遊虎	
雨風にすこしはのこる山ざくら	、芦石	
谷はらや桜にかかる橋一つ	、野梅	
散るまでと花にかぎるや借座敷	、不白	
島山やさびし桜のあだ疊り	、柿青	
仰向けて笠に受ばや花の雪	野間新地竹壺	(三七〇)
花に寝てさまるはおし、夢心		
植たて、花にとみたる小家哉		芦北薦路
山陰や水もさくらの色に行		求麻石羊
檜笠ぬぐや老木のさくら陰		半橋
花ざかりまゝならぬ身は家に泣		禹巧
雨ならで柳に見越す桜かな		李程
死さうな人ひとりなき花見哉		有之
諫ればまた花折りぬねぢけ人		綺石
花で候桜で候の身はづかし		異治
其数にぬれて嬉しや花の露		長峰連山
名をのせて四方に鱗々や花車		芳山
水満て頂き近し花の雲		外山
花の香に鳥も手向を啼日哉		
僕一人犬を愛する花見哉		熊本箕溪
花ちるや僧なき寺の古瓦		
陀羅尼よむ声に散けり軒の花		尺菊
月七日花散る風もなかりけり		
花のかげとゞろくいざり車哉		李夕
山城や桜にひゞく弦の音		
花なれや雲も奥ある朝朗		飲露
行末を思ひ入けり山ざくら		
草敷つ石に憩ひつ花ざかり		文山
みな人の顔うゐ／＼し花の山		
はつ桜雁みな帰尽しけり		田鼠
山人になづねて入るや花の道		
花ちら／＼散るや小鍛冶が窓の先		真弓
月は山端しらむは花の光かな		
侘人も出よ明日なき花の色		萬が瀬線川
涯州松鳥		(三八〇)
漣やさくらがもとの石広し		
世の中のさまや散花遅ざくら		李閔
花むしるおしくもたゝむ日和哉		
桜散る岨に留たり牛車		素罷
島の花跡に見やりぬ走り船		俱山
谷ふかく住てかひあり遅桜		季由
花の山うき世の外の思ひ有		遠流
人をさす思ひ忘し花の蜂		女撻
花うりをしばしとめたり黒格子		
いとまなき人に見せたし山桜		雪花
雨の暮花にあはれを尽しけり		
下枝の冠にかかるさくらかな		孤鶴
あたゝまる曙の小雨やはつ桜		橋巴
寝ては夢起ては花の弥生哉		竹雨
しら雲の行ゑをしらず花の峰		丹泉
手を洗ふ水尋けり花の山		
花の山夢に分入る旅寝かな		三冬
月落て障子さしけり夜半の花		
遅ざくら葉がちに見ゆる盛り哉		諸鳩
振つゞみならず花見の垂髪哉		
月落て障子さしけり夜半の花		取映
遅ざくら葉がちに見ゆる盛り哉		
振つゞみならず花見の垂髪哉		梨雪
いさら井や花の影汲む古柄杓		
蜘蛛の糸花より花に光りけり		松柏
小雨晴て朝日に匂ふ桜かな		
遠近の花にも出ず家ざくら		白泉
幾めぐり下戸はありくぞ花の山		
知る人の日に／＼増るさくら哉		中山桂雪
きのふまで雪と見しまに桜がり		
八重一重霞を花の風情かな		碧水
花ちら／＼散るや小鍛冶が窓の先		
月は山端しらむは花の光かな		文里
侘人も出よ明日なき花の色		
涯州松鳥		(三九〇)

花雪吹して鳥驚きぬ暮の山 、 隣遊  
 しばらくは目も定まらず山ざくら 、 島霞  
 一筋に小道立けり花の山 、 梅山  
 静さは歌よむかたや花の山 、 山暁  
 木の本や仰向顔に桜ちる 、 錦桃  
 花の山うしろに見れば暮にけり 、 和重  
 灯消して猶艶なり峰の花 、 見鯉  
 さくや桜山見る町の朝ぼらけ 、 波文  
 あだなれや桜がもとの物狂ひ 、 和水  
 行過て樵夫にとふや初桜 、 日向  
 花あればこそ此山にうし車 、 対馬  
 一さかり花の雪ふるよしの哉 、 見志山  
 心地よの鳥のさけびや花の中 、 一洞  
 明ばのやそよ／＼風にさくら散 、 斜長  
 けふもまた花にくせあり朝曇 、 戯遊  
 ゆふ虹や花より起て花に入 、 凤沖  
 花のゆぶみな咲ざめし人の顔 、 九日市  
 入相をよそに聞けり三井の花 、 美作久世  
 うく花を鯉のなぐさむ淀ミ哉 、 吳竹  
 茶の露のめぐむ草あり花の山 、 素牛  
 折りたがる子に物くれて花見哉 、 女柳志  
 箕の蝶も飛かもはなの山 、 三蝶  
 来る人に花も見えけり花の山 、 麦丸  
 松のみか桜も花の下がり 、 但馬朝来山ノ麓  
 來た道のほど遠さよ花もどり 、 寿硯  
 咲花に踏きる草や野路山路 、 獅鳴  
 散花に髪はらひつ、女子同士 、 鯨石  
 麦雨

(四〇ウ)

炭がまの煙はたえてはつ桜 、 球竹  
 さなきだにかなしき物を塚の花 、 春紅  
 きのふけふ花にうつれる御法哉 、 生野  
 諸人や黒きたもとに桜散 、 凉秀  
 ちる花に家鴨ながる、天氣哉 丹波龜原洞々  
 よみ人もしらずぬしあるさくら哉 、 龟山  
 全瓦  
 散さくら春も甘日を限なる 、 若州  
 花山や人になれたるひとつ猿 、 鬼雀  
 ちる花や米かす女水をせく 、 西津漁林  
 大名の花しづかなり堀の内 、 雪肆  
 丈六の仏薄暮てさくら散 、 烏友  
 雲の上にのぼるや花のよしの山 、 鶴少  
 今日を花小雨くらゐに人さづ 城州八はた斗流  
 けふもの、雲にもほえず君が花 、 蛙方  
 御舍垣に裔なく日や桜ふる 、 鯉文  
 押ひらく襟へさくらの散にけり 城南五牛  
 花いづこ岩うつ波にまどふたり 、 子鬯  
 花ざかり雨の香もゆるひるのつじ、 雲坡  
 祝部が花散やどを鎮華 、 魯長  
 岸の花水をあやどる風情有 、 百哺  
 廻り来しむかしたふや花の山 、 峨乙  
 玉の緒の夜只さくらにうかれけり 深草  
 思ひ出て華遠きぞと浮れけり 、 柏葉  
 花高みうしろ望めば杉の風 、 巴橋  
 朝かげや花の下枝鳥つたふ 、 磯水

(四一オ)

夜の花や人顔うつるすり火打  
 花に行こゝろぐや西ひがし  
 花守をきけば高位の酒宴哉  
 常に見ぬ雲井の花も隣かな  
 散んとす花の上より雲がしら  
 花遠し一筋道の都鳥  
 下臥や真上の花は鳥が寝る  
 桜咲と人申より馬に鞍  
 子共等も筵敷けり花の陰  
 花に酔てかりし鼓を枕かな  
 見るもく男ばかりや山ざくら  
 花に花いらかにつゞく東山  
 御車の雪受けり雨の花  
 咲つ散つわりなき花のけしき哉  
 琴抱てねぶれる花のあるじ哉  
 都辺や花の中なる仏達  
 遠山の桜見付る小姓かな  
 夕日にも花にも青し水の色  
 踏入らば花に迷はん山のおく  
 嵐峨迄は目ぼしの花に浮れけり  
 宿かりて見に行暮の桜かな  
 日比より近まさる花の山辺哉  
 佛のえぼし忍はし夜の花  
 夕浪に磯山ざくら乱けり  
 花の陰ふところ鏡くもりけり  
 ぬる、氣で寝るも興あり花の雨  
 はつかづ、酒買庵の花見哉  
 明くれにたゞ花を守無筆哉

(四二オ)

稲渕  
 虹光  
 渥川  
 長厚  
 坐笑  
 楚椿  
 紫曉  
 凡岩  
 玄兎  
 杞柳  
 孤秀  
 桃李  
 馬蓼  
 潮路  
 志諺  
 都雀  
 甫尺  
 あふひ  
 貫子  
 僧尤  
 五芳  
 在貫  
 白黛  
 不朽  
 定雅  
 (四五オ)

桂舟  
 芦蝶  
 虎白  
 沙長  
 凌冬  
 咲花に髪はらひつ、女子同士 、 桂舟  
 散花に髪はらひつ、女子同士 、 芦蝶  
 松のみか桜も花の下がり 、 虎白  
 來た道のほど遠さよ花もどり 、 沙長  
 咲花に踏きる草や野路山路 、 凌冬  
 花高みうしろ望めば杉の風 、 咲花  
 朝かげや花の下枝鳥つたふ 、 散花

これがたや花の座敷のとりまたじ  
其中に花紅葉して散さくらかな  
虹消て花の雲覆ふ野中哉  
太刀はきし衆徒何事ぞ山桜  
花ちりて雲のみのこる夕かな  
夜桜や足にかゝりしから財布  
岩はなに上見ぬ鷺や桜散  
醉ざめや狼送る夜の花  
大寺や花にゆるさぬ門も有  
亀うりも来にけり池のさくら花  
むら君とよばる、花の主かな  
狩暮て華に臥猪の山ふかし  
つんぼりと花の山見るあした哉  
桜見る旅や去年の飛鳥山  
天人もいづや桜の中の町  
鞭あて、花のあらしに追付か  
ぬれつ、も思ひとまらず雨の花  
糸ざくらほどけてうき世心かな  
又平が画は桃にこそいとざくら  
鐘十日花に文雅のねたみかな  
雛鶴も動く色あり夜の花  
風なくて匂ひや乱る夜の花  
しるしうつ木は横にして花の中  
鏡見しあたま成らん花の塵  
西東花に二日の日をつもり  
猛者引ば何と教えんさくらかな  
咲たとて只ひとり見る桜かな  
はつ花やた、みながらの此小袖  
かざし行花おしと思ふ苔がち  
興つきて駕籠につける桜哉

嵐月	尼得終	光暁	二雷	不木	素吟	梨山	斑山	台嵩	紫蘭	葛谷	寒河	月湖	泥尾	漢水	在原	鬼口	月峰	青阿	槐路		
																郭天	明川	梵外	青路	砂文	吟賀
																在京	明川	梵外	青路	素六	(四五ウ)

(四六〇)

(四六〇)

京三条通寺町西	御俳諧書林 菊舎太兵衛	（裏表紙見返し）	（裏表紙）	陽炎の眼にたばしるや滝桜 江州辻むら 千鶴	二日来てまだ奥は見ず山桜 勢州龜山 兔秋	一筋に花を心のあゆみかな 行脚 斗醉	朝ざくら行暮人にて有けらし 、 貞天	人はいさ斯までおしき花の暮 、 里栄	蟻のごと這上る見ゆさくら人 石蘭	山ざくら心届かで暮て行 洛玄児	袖すれの桜にのこるなさけ哉 あふみ 一堯	（四八〇）	百池	車蓋	青阿	槐路	（四七〇）		

(四七〇)

(四七〇)

嵐月	尼得終	光暁	二雷	不木	素吟	梨山	斑山	台嵩	紫蘭	葛谷	寒河	月湖	泥尾	漢水	在原	鬼口	月峰	青阿	槐路	（四七〇）





山水の氣を咲こめて桜哉	川田 佳超
桜見て外に見る物なき日哉	、乃至
花さそふ嵐に鳥の高根哉	田鶴ハマ
島山や楫の音よりゆふ桜	東馬場 雨柳
花の香やくれて戻りの道遠し	高畠 西枝
花の香に人の出て居る夕哉	曾根 珠翠
まくり手の袖にすがるや花雪吹	道下 青泥
侘住や野に山ざくらみゆる里	能登部 朝々
白がねにかへてかざすや初桜	、金丸
雲動く花白妙の真上かな	、麦杜
横鞍に乗行花の麓かな	越中放生津 大西
散花やすべりし髪に付て行	、麦秀
さくら／＼咲衰へる年もなし	白老
ものゝふの心もとける桜かな	宣令
波だちてわたり絶けり島の花	二上
駕のわたし越れば花見心哉	大一
世の中の道を付たり山ざくら	世
世をいとふ人も交りて桜かな	馬下りて衣紋つくらふ花見哉
市よりも多かる人の花見哉	里泊
いも顔の被ぬぎたる花見かな	梧報
人しらで太り過ぎり山ざくら	星府
比しもや山ざくら戸へ樽ひろひ	(二一ウ)
年ぐんに人あたらしき花見哉	高岡 白雪
初ざくらちる日はことに花見哉	福野 如台
漣やざくら動きて橋むかひ	、三秀
そよとふく風も重たしいと桜	越中 白麻
女 桃河	

片手綱ゆるむ桜の山辺哉	ノカヒ 千友
煤けたる扇をさして花見哉	(二二〇)
都にて花すり衣ほころびぬ	越後十日町 桃路
花瓶にやさしよ蝶の額つき	白根 文泰
花踏でねる夜もあらん夜の鶴	上州草津 鷺白
思ひつゝ寝れば夢に桜咲	菅原
薄月に花さがしみる林かな	石魚
かり家に毛氈敷て花見哉	柳水
花の山しらゝに明て艶ちる	魚柵
花に今うたかたとなる入江哉	許一
山ざくら雲より上の枝もあれ	(二二一)
いく山や霞分行ざくら狩	夜雪
山寺や花見えそめて遠一里	宮崎 肆宇
七枝の角ひろひけり花の山	、以貫
散花や入日の松に鐘の声	、富春
凍解や花に下駄はく行もどり	一ノ宮 羽黄
花の暮戸さゝぬ庵の明り哉	(二二二)
散さくら夕日かすりて鳥の飛	、尺龍
花もどり一里の道の月夜哉	、戯月
磯山の花や帆にちり浪に散	下仁田 曙鳥
山桜遠き闇より灯影来る	松井田 松和
さくら哉こゝらで草鞋はき替ん	境町 専車
狂者なるべし雨夜の花に小松明	赤堀女 さか
駒つれて繫ぐ木もなし花の山	島村 万戸
消残る雪や岨路の花一本	駒形 岸苔
忘れては帽子撫けり花の雪	荒牧 亭祖
上州本宿 兎豪	(二二三)

春ざれて深山のさくらあらはるゝ、語山	命うれし今年も花の京上り
かくしては友さそはんにはつ桜	マヤハシ 吳川
さかりなる桜に重き寝覚哉	、素舟
雨後の花零流て色深し	、素太
酔さめて夕風寒し花の山	、素太
有明や花をあるじの二日酔	、米砂
花曇梁つたふ昼の鼠かな	(二四〇)
山ふかみ薄匂ふ花の曇かな	蓮沼 似鳩
花の山遠き花より暮にけり	、积 蝶冥
昼は曛朧のさくら香の匂ふ	、詠帰
おもしろい道に迷ふや山桜	女屋 一尺
花の山どちら向ても盛哉	、黃口
棹とめて花の山みるいくて哉	、樋越 素榮
おもしろき浜の真砂や花供養	横尾 如泉
棹負河岸	雨夕
花雪を瀬して残る月寒し	(二四一)
山めぐる霞静けしゆふ桜	シバ 南楼
一方は花に明けり檐の闇	、湖嵐
片里も人の来るなり糸桜	鶴更
灯を含て遠きさくらかな	、魚道
捨がたき世となんしりぬ初桜	僧 画山
よい時に成て降けり花の雨	(二四二)
山ざくらかりに酒うる住居哉	斗山
灯の影や鳥驚て桜かな	千里
雨はあがり風和してのち桜かな	文興
落る日の高くみえけり山桜	梅中



夜ざくらや光をそゆる絵蠟燭 飯田 蘭一

ちる花の滝も朧や夕日映 、楚洞

散花の雨したなりにひつきけり 、僧忍阿

塵湿て花に日をみる且かな

佐久八幡 信州 巴楼

散花や風より起る人の欲 佐久八幡

咲やざくら散やざくらに空暮る 一正

夕付日さくらが本のあかり哉 飯田 壺伯

遠山やなかばざくらの一朧 、蕉雨

○

一日はうき世の外ぞざくら人 奈良井 李蹊

其まゝに日は暮にけり花の雲 汝添

松を吹風やざくらの山つゞき 扇之

夕山や松もざくらもはな雲 馬風

けふもまた桜に醉か捨坊主 山暁

ふき昏て誰まつ家ぞ山桜 之彩

ながらへて命むすぶぞ糸桜 初更

山ざくら花から花へ人も来ず 凡林

○

先ひとつ羅漢出来たり初桜 伊勢御園

朝な／＼うごくは花があらし山 嶋水

花の雲見下す高見峠かな 自子 夏井

負公事の山に桜のほまれ哉 馬曹

一夜かる宿の湯風呂や窓の花 四日市

石山や石に散こむ夕ざくら 津 座聰

色も香もさこそ心の花供養 神路山 秋屋

花雲天窓の重き朝寝哉 白子 麻車

山ざくら我庵こゝにあらばやな 得車

はやもさけ桜はやさけ庭桜 九才童 還車

### はし書略

おほかたはきたなき花見心哉 白子 獲車

未練の詠人酒に酔春 麹車

(二二〇)

此弥生あらたに屋根をふきかへて

夕暮牛の声ながく吼

雨になりぬと粟かりにいで

関とりと祭角力にもてはやし

例の娘を又なぶらなん

大江山幾野の道と打かこち

はれまだになき頃日の空

とらへ得し獸のさまを訴けり

医者とよばる、前の県長

萩植ですゝきも植て月も見て

松虫もなき鈴虫もなく

くれがての秋に来てぬる旅衣

もの乞よりて人にしかられ

雪ふかき幾野の坊の冬籠

囲炉裏に細き篠を折焚

里鳥吹くる風に群騒ぎ

寺ぐゝを呼出す花の手柄かな

ふみ分し道なけばや初桜

京しらぬ深山桜のあるじ哉

精進の日に口をしき花見かな

夕陽の一重を花のいとゞかな

骨にしみたる母のくりごと

怠らず都に米を背負つれ

清河原の秋のかげろふ

まだ山は構ばかりの薄紅葉

月の戸たゞく風流雄の友

今様の声よきことは無慙なれ

影となる迄などはふれけん

入湯をはやとく／＼と進めつ、

初ほとゝぎす我也次てに

吳竹を庵の垣ほに打かけて

うときもちかき壁隣ぞよ

大声に吹笛だけのかしましき

和尚の髭のさて長き也

かきつめし花の供養のもしほ草

長閑き御代の伊勢の浦浪

○

興満て花を敷寝やひぢ枕 大和郡山 蘭陵

あだなれや高根の花に雲かゝる 女葵夕

年ぐゝや行惜まれて散ざくら 笠置之辺 嵐乙

色や花心の花はうつろはず 郡山 興花

かたつぶり花に角ふる欲もなし 未央

山住や夜風そよぎて花もとむ 、麦丈

○

寺ぐゝを呼出す花の手柄かな 河内長尾 路平

ふみ分し道なけばや初桜 招提村 雪江

京しらぬ深山桜のあるじ哉 楠葉一笑

精進の日に口をしき花見かな 交野郡づ 古光

夕陽の一重を花のいとゞかな 枯木 李山

石潜る水にも花のにほひかな 星田 田毛

○

蜂密やさればぞ花のよしの山 ナニハ 旧国

舞うたふ世にそむけたり花の寂 、丁江

終まで花訪ふ人の眉白し

夕ざくら花はみつれど唯淋し 、巾花

やどりせん先花の人花のころ 、蜂友

蝶ひとつ花のたもとに入日かな 、不舟

草の戸をとふて尊し桜人 仙処

出入の旦は数あり花の山 青鯉



町中やうき世の外の花一本、岐波羽仙  
 立よれば木の下寒し山桜、春郷  
 脣日や花にぎはふ里の者、大海羽琴  
 三月や名なきさくらの軒に散、琴那  
 しのびきて友思ひけり夜の花、明羅  
 花の酒木の下陰に眠らばや、下津令  
 はな紙を扇につかふさくら哉、室津鯨牙  
 ちる花の記念にみるや峰の雲、山口無心  
 鵬の花に居眠る真昼哉、東溪  
 夕なぎに老木の花のこぼれけり、蘭台  
 風たえて夕日に湧くや花の山、波光  
 春や都人色の花あそび、李蹊  
 道くさのなば青みてはつ桜、芦舟  
 夕暮や鳥ふくみ飛寺の花、巴龍  
 等閑に花の雪ふる夕べ哉、雨竹  
 米洗ふ流に花を汲日かな、桃之  
 滝壺に桜ちりこむ詠め哉、鴉跡  
 花の酒幕の外みぬ人も有、河柳  
 足跡に桜うづもる野寺かな、鴻南  
 磐山や波につらなる花の雲、天民  
 袋草紙てふ物をひらきて、万井  
 日のめみぬ風の祝部や花に泣、天民  
 黄鳥諷ふ松の朝月、井  
 幽なる谷の細道雪解て、民  
 都に近き風の味ひ、民  
 人足のかはる晦を駕の夢、民  
 竹の葉末にかかる夕雲、○  
 むぐなるやけふ散花の常ならず、長州赤間関羅風

(三〇ウ)

憎からぬ童や花の雪つぶて、麦子  
 花のふゞき机にゆるむ睡かな、里江  
 我に吹風なわたりそ花の上、花休  
 二つ三つ咲ても花のさくら哉、指月  
 風絶て散をさくらの誠かな、芦舟  
 暮て帰る花に浮世の名や立ん、浪和  
 散花の夕暮寒き一重かな、浪和  
 山寺の花に対して眠かな、里江  
 橋ひとつ渡れば曇る桜哉、花休  
 思ひ出にさかりの花を狩日哉、指月  
 盂に散やさくらの何地より、(三一オ)  
 滝水のひゞきに散や山ざくら、(三一オ)  
 月夜にもあらで盛の桜哉、(三一オ)  
 此庵は花を友にや暮すらん、(三一オ)  
 散花を詠る僧のなみだ哉、(三一オ)  
 山川やよどみの花いかだ、(三一オ)  
 花に来て花より嬉し花の友、(三一オ)  
 うちはらふ袖や花降小雨る、(三一オ)  
 分入れば眼くらむ花のふゞき哉、(三一オ)  
 あら楽し老を交へて桜がり、(三一オ)  
 世の中はたゞにさくらの一重哉、(三一オ)  
 などてかく散時花に人なきぞ、○  
 滝水や雲に散り又花に分、筑前飯塚竹両  
 朝淋し不斷桜の散残り、舍丁  
 石龜の水はなれけり花の本、士沢  
 我さくら客よほどに延かぬる、若松可十  
 餅酒の俗を離て花見哉、若宮蘭溪  
 ぬすまれて感ずる花の主かな、文鯉  
 踏こむや花のあらしの龜尾山、黒崎其柳

(三一ウ)

嘘からぬ童や花の雪つぶて、麦子  
 花の山夢はあらしの上を行、里江  
 分行ば青葉匂ふや花の中、花休  
 埋むごとく寺は暮けり花の山、木屋瀬青而  
 谷川や梢は花に水えらむ、木耳  
 ○  
 ざぶくと渡来て花の東山、此原  
 虚無が家の留主預らん花曇、寄木  
 高まさる浪に散らん磯の花、元二  
 花の世や所定めぬ初ざくら、白移  
 盂に散やさくらの何地より、(三四オ)  
 滝水のひゞきに散や山ざくら、(三四オ)  
 月夜にもあらで盛の桜哉、(三四オ)  
 此庵は花を友にや暮すらん、(三四オ)  
 散花を詠る僧のなみだ哉、(三四オ)  
 山川やよどみの花いかだ、(三四オ)  
 花に来て花より嬉し花の友、(三四オ)  
 うちはらふ袖や花降小雨る、(三四オ)  
 分入れば眼くらむ花のふゞき哉、(三四オ)  
 あら楽し老を交へて桜がり、(三四オ)  
 世の中はたゞにさくらの一重哉、(三四オ)  
 などてかく散時花に人なきぞ、○  
 桜散てをさまる春の心かな、肥前諫早梅江  
 散かゝる花にまたゝく座頭哉、停華  
 忘れても折な社の花めぐり、霞紅  
 旅人のゑすゆるや花のかげ、霞紅  
 奉留て見るに友なき桜かな、媚洞  
 朝まふで花汲ながす手水哉、梅枝  
 岩はなや波の折くちる桜、春芦  
 夕暮やさくらが本人よばひ、里石  
 花に暮月も花から白みけり、代の  
 さくら狩幸いけふの薄曇、春向  
 咲さかる花にまばゆき日中哉、一興  
 半蔀に花吹入る、社哉、如斐  
 花の雨鶴も聞へぬ宿り哉、飛音

(三一オ)

少年梅童、名那女

(三二ウ)

琴左、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

桃雪、(三二ウ)

うす暮や笠に花降現世町、芦屋朝三  
 花の山夢はあらしの上を行、木屋瀬青而  
 分行ば青葉匂ふや花の中、木耳  
 埋むごとく寺は暮けり花の山、直方可角  
 谷川や梢は花に水えらむ、君花  
 ○  
 ざぶくと渡来て花の東山、此原  
 虚無が家の留主預らん花曇、寄木  
 高まさる浪に散らん磯の花、元二  
 花の世や所定めぬ初ざくら、白移  
 盂に散やさくらの何地より、(三四オ)  
 滝水のひゞきに散や山ざくら、(三四オ)  
 月夜にもあらで盛の桜哉、(三四オ)  
 此庵は花を友にや暮すらん、(三四オ)  
 散花を詠る僧のなみだ哉、(三四オ)  
 山川やよどみの花いかだ、(三四オ)  
 花に来て花より嬉し花の友、(三四オ)  
 うちはらふ袖や花降小雨る、(三四オ)  
 分入れば眼くらむ花のふゞき哉、(三四オ)  
 あら楽し老を交へて桜がり、(三四オ)  
 世の中はたゞにさくらの一重哉、(三四オ)  
 などてかく散時花に人なきぞ、○  
 桜散てをさまる春の心かな、肥前諫早梅江  
 散かゝる花にまたゝく座頭哉、停華  
 忘れても折な社の花めぐり、霞紅  
 旅人のゑすゆるや花のかげ、霞紅  
 奉留て見るに友なき桜かな、媚洞  
 朝まふで花汲ながす手水哉、梅枝  
 岩はなや波の折くちる桜、春芦  
 夕暮やさくらが本人よばひ、里石  
 花に暮月も花から白みけり、代の  
 さくら狩幸いけふの薄曇、春向  
 咲さかる花にまばゆき日中哉、一興  
 半蔀に花吹入る、社哉、如斐  
 花の雨鶴も聞へぬ宿り哉、飛音

岩の花去年の足跡踏にけり 、 淡波

○

二人見し花にことしは三たり哉 、 文塘  
さくら咲山やさまぐ鳥を聞 、 梅路  
山ひとつたゞ在明のさくら哉 佐賀交更  
散比の人甚し遅ざくら 、 日向美々津 一甫

きのどくや桜に見する夕日脚 、 肥後長峰 連山  
さめてあれな家土産せん花の醉 、 芳山

事たりぬ花見るけふの此命 、 外山  
指剪て花の価やむかし人 、 熊本飲露  
花の日やしらぬ小鳥の打鳴て 、 亀令  
御車やさくらにあらき宿直人 、 湖東水口  
雨催ひ灯に見んよるのはな 、 梨風

よしや世は転ぶ處を花の宿 、 行脚丈左坊  
桜くれて聞へず成ぬ祢宜が笙 、 龍尾  
東雲や薄花ざくら峰に降 、 瓜坊

○  
雲か花か鐘つく峰の朝朗 、 サツ出水春扈  
花垣の庄は耕す盛かな 、 立蘇  
寝てもやゝ花に置るゝ心哉 、 阿久根朝瓜  
さくら花散る日は空の曇けり 、 机翠  
さまに来て一夜に花の嵐哉 、 鹿児島関叟

まだ咲ぬ花にもとゞく心かな山城八幡吉律  
ながめふりて花やにこもる山桜 、 城南魯長  
山引の舌うるほしぬ花の雲 、 鬼莉

携ばいとゞ花散る真上より 、 舍樹  
植置しさくら見に行社かな 、 貞雅  
来る人の花にたまらぬ袖もなし 、 宝珠寺三志  
花の中心すませば匂ふかな 、 深草巴橋

花最中斎のあした静なり

○

羽織着て醉はぬ女や花の本 、 大住鋤月  
関越えて見返れば散さくら哉 、 子鬯  
おもしろや月も日もある夕桜 、 (三七〇)

酒にあき花にはたらぬ夕哉 、 長池花月  
山の井も花の案内のひとつ哉 、 ピハノ庄鬼笑  
散花にいかでか鷹の眼つき 、 イノヲカ戸口

ちる花にうまく眠れる舍人哉 、 ト五牛  
山ざくら松に月みて帰けり 、 天神森平水  
うかれ出る花に幾日の翁哉 、 漢水

夜は花に明行花の動き哉 、 寺田秦夫事南和  
行こせば袖に花ちる木陰哉 、 雲裡  
散かる花にとなりの酒宴哉 、 良水  
前髪のさはる下枝や花のまく 、 サガ一鳥  
花咲てとゝのふ片輪車かな 、 杏露  
塵のうく水は去してやま桜 、 路口

○  
花の色は丸気に光る入日哉 、 百池  
西山や太秦までは花曇り 、 嵐月  
下り坂や桜の上の昼の月 、 土卵  
夜に入るや桜散つゝ酒醒る 、 渭川  
世にたがふ名のみ桜の盛哉 、 角蜂

山陰やさくらにかかる朝の雲 、 杜桂  
咲と散と花の境や山かづら 、 角蜂  
花の香の乱て去ぬ月の前 、 平呑  
花に着し蓑なつかしき夕哉 、 薫河

夜の花しづかに床の灯影哉 、 晨龍  
月にしのぶ古郷わすれて花見哉 、 桃李  
照月に一しほ花の詠かな 、 淡雪

磯水庵

○

松一本ともに桜の曇り哉 、 尼庚達  
雨催ふ滋賀の桜に曇けり 、 兔毫  
花の中人うるはしき往来哉 、 絆梅

目に付し花ぢりぐの浮世哉 、 指月改虚舟  
花の山飯貝へ下りて雲白し 、 江蓼  
柴の戸や一重桜に朝の月 、 魚泡

山ざくら松に月みて帰けり 、 志江  
うかれ出る花に幾日の翁哉 、 漢水  
天にありなばくだれ花に月 、 駢丹  
盃のまだもつれあふ桜かな 、 二雷  
巡りあふ人の告たり遅桜 、 車蓋

○  
生田旅泊 、 玄都  
沖鳴や沈てにほふ夜の花 、 紫曉  
花に競ふ人の中より散桜 、 甫尺  
花の旅見めぐりの神に誘れぬ 、 虎白  
月照やさくらにかかる雲もなし 、 尼俚尤  
九重に匂ふや花の蘭奢待 、 蛇夢  
雨のさくら伝ふ雪の詠哉 、 貫子  
日の落て花のしらめる雲間哉 、 木貞  
旅人や花に袖ふる半合羽 、 在貫  
水底や花にあかるき大井川 、 五芳

已刻の晴花に動かす心かな 、 不木  
跡とめて匂ふや花のあみだ坊 、 月峰  
松と花とまだらに雲の嵐山 、 定雅

○  
むれつゝも花によるべの翁堂 、 都雀  
嵐きて机の上やはな臘 、 (三九〇)

東雲や花の中より顔よ鳥 、 斗雪  
東雲や花の中より顔よ鳥 、 梅斜

格別に詠もふかし遅ざくら

○

松一本ともに桜の曇り哉 、 尼庚達  
雨催ふ滋賀の桜に曇けり 、 兔毫  
花の中人うるはしき往来哉 、 絆梅

目に付し花ぢりぐの浮世哉 、 指月改虚舟  
花の山飯貝へ下りて雲白し 、 江蓼  
柴の戸や一重桜に朝の月 、 魚泡

山ざくら松に月みて帰けり 、 志江  
うかれ出る花に幾日の翁哉 、 漢水  
天にありなばくだれ花に月 、 駢丹  
盃のまだもつれあふ桜かな 、 二雷  
巡りあふ人の告たり遅桜 、 車蓋

○  
生田旅泊 、 玄都  
沖鳴や沈てにほふ夜の花 、 紫曉  
花に競ふ人の中より散桜 、 甫尺  
花の旅見めぐりの神に誘れぬ 、 虎白  
月照やさくらにかかる雲もなし 、 尼俚尤  
九重に匂ふや花の蘭奢待 、 蛇夢  
雨のさくら伝ふ雪の詠哉 、 貫子  
日の落て花のしらめる雲間哉 、 木貞  
旅人や花に袖ふる半合羽 、 在貫  
水底や花にあかるき大井川 、 五芳

已刻の晴花に動かす心かな 、 不木  
跡とめて匂ふや花のあみだ坊 、 月峰  
松と花とまだらに雲の嵐山 、 定雅

○  
むれつゝも花によるべの翁堂 、 都雀  
嵐きて机の上やはな臘 、 (三九〇)

東雲や花の中より顔よ鳥 、 斗雪  
東雲や花の中より顔よ鳥 、 梅斜

尼庚達

○

松一本ともに桜の曇り哉 、 尼庚達  
雨催ふ滋賀の桜に曇けり 、 兔毫  
花の中人うるはしき往来哉 、 絆梅

目に付し花ぢりぐの浮世哉 、 指月改虚舟  
花の山飯貝へ下りて雲白し 、 江蓼  
柴の戸や一重桜に朝の月 、 魚泡

山ざくら松に月みて帰けり 、 志江  
うかれ出る花に幾日の翁哉 、 漢水  
天にありなばくだれ花に月 、 駢丹  
盃のまだもつれあふ桜かな 、 二雷  
巡りあふ人の告たり遅桜 、 車蓋

○  
生田旅泊 、 玄都  
沖鳴や沈てにほふ夜の花 、 紫曉  
花に競ふ人の中より散桜 、 甫尺  
花の旅見めぐりの神に誘れぬ 、 虎白  
月照やさくらにかかる雲もなし 、 尼俚尤  
九重に匂ふや花の蘭奢待 、 蛇夢  
雨のさくら伝ふ雪の詠哉 、 貫子  
日の落て花のしらめる雲間哉 、 木貞  
旅人や花に袖ふる半合羽 、 在貫  
水底や花にあかるき大井川 、 五芳

已刻の晴花に動かす心かな 、 不木  
跡とめて匂ふや花のあみだ坊 、 月峰  
松と花とまだらに雲の嵐山 、 定雅

○  
むれつゝも花によるべの翁堂 、 都雀  
嵐きて机の上やはな臘 、 (三九〇)

東雲や花の中より顔よ鳥 、 斗雪  
東雲や花の中より顔よ鳥 、 梅斜

山ざくら我もおとなになりにけり

子共等の論語よみけり庵の花

零して姪娜なる花の旭哉

二月やかねてまうせし花誘ふ

咲とちる其中よりぞ花供養

森少し神ありてさくら椿哉

花に笛や儀同三司の御齡ひ

寒く明て次第に花の日和哉

嵐山花も花也のどかなり

花に風酒のみたらぬ日ごとかな

暁や虹もひそみて花の枝

まだ散らぬ花の匂ひや雨の朝

朝ざくら水汲みのばる尾上哉

咲花に名高き峰の小寺哉

花ははな情寂寞と成にけり

見おろせば日裏の花も盛哉

煩脳の大ひきつれて花見哉

いつのとしにかありけん、我も来て

桜に科をおぼせけりと、共に詠め

あひける春の氣色にはとかはりに  
雨降て科なき花と成にけり

追加

伝へしる其悌や花曇り

石州銀山大森  
撮龍

みないとなみを結ぶ糸遊

(四一ウ)

蝶／＼のけふも野末に集りて

聞明

衣の袖の垣にかゝりし

月さしてたうとがりける潦

よはるきぬたにつやの出る汗

凡二  
大梁  
杞柳  
其成  
白黛  
(四〇ウ)

ふり返り古郷見にけり旅の花  
我こゝろけふは桜にまかせけり

芦江

臼転す先に花散る山路かな

、瓜瓞  
散花や裾はづかしきなら草履  
、女つる

髪ときて見られに出たり花の山  
行脚 花鯨

おろ／＼と竹やたはみて花暮る

豊前小倉 吾嶺

ぬし見えぬ夜の車にさくらかな

筑植木 湖桂

鐘の音や埋もはてぬ夕桜

ナニハ 不休

散花にや、別れたる小蝶哉

、文眉

うか／＼と人に連るや花の中

春茅改 志仙

雨の雲ふもとの花にかゝりけり

、洛 光曉

月と共にながめて行／＼山ざくら

稻肥

手折来て置所なき桜かな

、ワカサ 左橋

夜ざくらや花の木の間の咳払ひ

栗津 重厚

湯あがりに雨後の桜の詠かな

、酒井

色見えて道廻りけりやま桜

、林沙

日の中や紅かけし花の枝

、湖東水口 青楓

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四二ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四三オ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四五ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

磯山や一本さくらの夕あかり

、卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

、信上田 麦二

世や花や前鬼が末も只のひと

、如毛

君が代や親を負行花の中

、玉馬

散ざくら人にあきたるけしき哉

、洛 冬陽

(四四ウ)

醉ざめの顔ちる花にふかれけり

、南部八戸 仏更

朝虹やはつかに花の林より

、我文

9 寛政七年〔花供養〕

底本  
白鹿本

『一茶全集』に翻刻がある。

花供養

(表紙・題簽)

花田以二の花共達べ、意図圖ノハラガル刃之

もて、蕉翁の靈前に捧ぐ。もとこれ闌更  
洛に杖を停めてより、無洩遺冊子を編る

事、重霜十余年、鳥に魚に便りをもと  
めて、諸風子閑雅の信を顕し、年々歳々  
此举に預る句々倍に倍せり。年既花曇の  
みやびを手向給ひしを句の巻頭にすゑて、  
けふや席上の俳諧興に入る事、誠に氣楼に  
登るがごとく、猶、後年は又、いづれの風流客（一オ）  
あらんと、其会其日を待てる人ぐと共に  
此事を約して、爰に筆をさし置のみ

平安  
大來堂百池謹書

(一四)

桜／＼我たつ杣の花曇  
山鳥啼て山ふかき春  
裏関は牛も通らぬ永き日に  
塵選る豆を盆に転がす  
月の宿暮ぬうちより用意して  
顔に蜻蛉の行当りたり  
露残る青物市の跡なれや

芦涯

竹の細工の暖簾洩レ居る  
しのばする妹が後を隠しかね  
恋のすさびの酒あまき也  
とりかはす扇に旅の記を書て  
むすび捨つる栗の落花  
細ぐと煙の末に雨後の月  
舟銭寄る橋本の秋  
遠近に綿打音のかまびすき  
御法の松に馬繫ぎ置  
都人のあはれがりつるすまの春  
霞の中に入日真向ふ  
鶯の声もしどろに杜の中  
葎にからむ為有が軒  
鶯來し多年衣の垢づきぬ  
おもへば夢の夜を長居して  
根羽もなき矢を受取し頃日は  
木がらし強き越の川音  
雪搔のすみかは殊に侘しくて  
つぶらといへるものに子の泣  
ぼくくと砂踏路に草臥て  
薄月うつる合歛の下陰  
いつとなくあやしき神を祭來し  
絶て名のなき滝にうたれん  
雨曇日すがらものゝ腥さ  
いぶせき中に女斎

卷之二

散花を掃よせちらし散しけり　、水口　虎眼  
御車の牛も草はむ桜かな　、文之  
のほる人の少さく見えて桜山　、貫吉  
花のやどりねられぬ足のほめき哉　、一囗  
合掌の眼にたなびくや花の雲　、清川  
たはれつゝ花に起臥身となりぬ　、深川　梅田  
恨なよ遅きは土地の山ざくら　、八幡　此得  
我心なやめる雨のさくら哉　、太田　瑳雀  
山陰やさくら一木に家ひとつ　、篠原  
散るや桜なしうち鳥帽子斑なる　、堅田  
千羅

(四  
才)

(四  
ウ)

鳥鳴かで山や、深しづる桜	、古典
夕霞花は朧の渡月橋	、平松女
蝶ぬれて花に重たき姿哉	、万木里
花さくや野川流るゝ子供笛	、堅田 歌雄
散過し桜のもとのゆふべ哉	、一之
老らくのむら食しけり花の本	、籬島
花にまた田楽焼かすかり人	、素早
明樽に活てもどるや山ざくら	、吐雲
花の欲たへてまた寝やけふの雨	、守山 李明
、守山	

(三才)

月のさくらまだ落つかぬ鳥一羽 、 坊村 当会  
花になる頃やそろに旅ごろ 、 上田 無徳

花に嵐守夜を八重に明しぬる 江州坊村 蓮車  
散花を掃よせちらし散しけり 、水口 虎眼  
御車の牛も草はむ桜かな 、貫主  
のぼる人の少さく見えて桜山 、文之  
花のやどりねられぬ足のほめき哉 、一  
合掌の眼にたなびくや花の雲 、清川  
たはれつゝ花に起臥身となりぬ 、深川 梅雨  
恨なよ遅きは土地の山ざくら 、八幡 此得  
我心なやめる雨のさくら哉 、太田 瑞雀  
山陰やさくら一本に家ひとつ 、篠原 古音  
散るや桜なしうち鳥帽子斑なる 、堅田 千羅  
鳥鳴かで山や、深しづる桜 、古曲  
夕霞花は朧の渡月橋 、平松女 志宝  
蝶ぬれて花に重たき姿哉 、万木里 東嶺  
花さくや野川流るゝ子供笛 、堅田 歌雄  
散過し桜のもとのゆふべ哉 、一之  
老らくのむら食しけり花の本 、籬島  
花にまた田樂焼かすかゝり人 、素屋  
明樽に活てもどるや山ざくら 、守山 李明  
花の欲たへてまた寝やけふの雨 、吐雲  
月のさくらまだ落つかぬ鳥二羽 、坊村 当令  
花になる頃やそぞろに旅ごろ 、上田 無徳  
見残して花の嵐や奥の院 、辻村女 りき  
薄雲のたな引空やかはざくら 、春江  
一日は米の飯食て花見哉 、大塚 吾人  
下戸一人世に拘りて花戻り 、岩根 桂石  
山遠し女氣のなき花の下 、古川 一靜  
枝折して桜にあゆむ深山哉 、酒人 里童  
なりはてし身の幸や花の守り 、重野  
石かりも世の思ひ出や山ざくら、立法師村  
木本

山鳥を追出す犬やさくら狩	、大溝 一兆
鉢打の乗物もありさくら狩	、武間 眉山
客去て一輪花の散にけり	、野田 文山
我庵や問はず語らず山桜	、長浜 桃岸
吹入し花の波間や浮御堂	、大津 井子
花に寝る腸くされ雨の中	、栗津 重厚
	(五ウ)
湖の水すみにけり遠ざくら	加州金沢 松菊
人の子をいだき上けり花の中	、更々
おくふかく花曇けり二尊院	、南峰
此上も幸もなし遅ざくら	加州龍湫
飛ぶ鳥や花になれあふ東山	、金沢 対山
美しきもの手にふるゝ桜哉	、車大
花鳥や返り見らるゝ人の情	、金沢 一抄
おもひ入桜が中の忘れ水	、柏野 麋風
暮るまで眼の煩惱や花の山	、方舟
うす雲のちら／＼晴て朝桜	本吉 左来
月しづか桜のもとの人薰り	、富腰 松風
月明し花の麓の児ざくら	、雅石
遅ざくら咲や覚ゆる水の味	、金沢 凌冬
あら川や上は一瀬に花曇ル	、子風
夕暮や花の上ふく日枝おろし	、蘭吹
柴橋を過て桜の曇り哉	ひらかずにたゞ扇もつ花見哉
ひよ鳥の一群返る桜かな	李下 蘭史
湖近きさくら淋しく詠けり	吾角
鳩の声雀の声や花曇り	蒼虬
夜ざくらや暫眠る松の陰	能州黒島 球ト
山かげや桜を洩るたゞき鉢	柳汀

(六ウ)

(六オ)

(五ウ)

雲結ぶ山に入けり夕ざくら	都山
眉作る女ありけり軒の花	素玉
船寄る月の汀のさくら哉	文朝
散かる賤が膚や夕ざくら	馬涼
いさをしや彼岸日和に花七日	布遊
夜桜やきぶね詣の人逢	蓮波
さくら散籠の闇ぞ恨なる	杜川
儒者寒く友なき山家桜哉	芝僧 魯雲
呼子鳥花には寝ぬか夜の声	高岡 壺仙
我はな見人の花兒の疲かな	泊士沈
島山や波の間より花見ゆる	錦川 玉史
さくら咲遠山松の曇かな	麦秀
旅なれや我也花見のかり衣	玻井
山かげや我に情の遅ざくら	陳兆
花にうかれ暮行鐘の声長し	輪島 柳眉
日の入りや磯輪につゞく桜人	道下 誕舟
はつ桜人等閑に一ト日済	寺口 祖英
外途のほのかに明て山桜	奇哉
入相に霞のわたる桜かな	良和
日のめ見ぬ人の騒ぎや花の山	富木 蚊几
杉菜野の駒引もどすさくら哉	桂史
雲おひて見ゆる遠山桜哉	僧梅枝
提灯の貯もあり花の山	吐木
ちる花に朝声寒し鉢	柳水
しら雲の我宿近し夕桜	邦明
けふははや少し散けり初桜	二快
雨晴てす、むや花に鳥の声	道下 青泥
大寺も桜の中や鐘の声	亭祖
白声の坊主見えけり花の山	素大
初霞たな引ひまの花もがな	麥明
越中放生津二翼	土屋

(七オ)

(七ウ)

(八ウ)

花の果見ずに置うか我命	福野八十八歳
黄鳥も啼止むを知れ花散日	列戸
花に居すごし月をもみてん春の山	如台
花に迷ふ鳥かしらぬ三日の月	三秀
散花に実現なや袖の月	不存
灯のしらける花見もどり哉	蓮波
はなざかり松に暮ぬる山家哉	都山
花の座や乾く間もなき硯水	高岡 壺仙
桜狩とてもやどらむ花の陰	泊士沈
皆花の月の後光にひらく哉	百尔
花匂ふ薄紅の小袖哉	多胡 魚龍
花の陰にけふしも床し壳茶翁	川崎 桃岳
しのばしき都の跡や山ざくら	南越 溪風
夜のはな我より先に小提灯	水見 馬十
いぶかしや桜の奥に鶏の声	上毛腰橋 枕岱
乾あみに花散かる夕哉	土龍
はかなさは人の上なり花ざかり	女かな
野社や桜こと木の中に咲	丁峨
先けふはどうちらの山の桜見ん	輪賀
あけぼのや花の上なる薄曇	素大
道なくも桜たづねん山ふかみ	輪賀
夕月に庭掃花の主かな	素大
思ひ切て参らす庭の桜哉	亭祖
山越て山見ぬ人やさくら狩	麥明
花咲てまゝ大切の日和哉	亭祖
山の戸や桜に明て人の声	素大
良ありて猶珍らしや遅ざくら	素大
鳥立てさくら一枝散にけり	鶴川
へつらはぬ音に思ひ有花の琵琶	素大

(九ウ)

(八オ)

(七ウ)

(九ウ)

(一〇オ)

余処に打斧に桜の散にけり		麦四					
わりなしと思ふや花のとまり鳥		米砂					
人之情とぶさの中の花ざくら	、宮崎	朔宇					
花にたらぬ日をこそ競へ桜人		以貫					
花と雲の間行春の夕鳥							
桃さけば桜は寺に咲にけり	、一ノ宮	富春					
里近し花に琴聞風の暮		戯月					
花に起花にくれつ、朧月		尺龍					
鳥取が身がくれ桜さきにけり	、下仁田	竹輔					
よきほどに松の青みや山桜		安中	夢中斎				
身に瘤のありとは見えぬ桜哉		求我					
鉄炮の音心なし山ざくら		中宿	佐保	(二一〇)			
寺寒し浅黄桜に日のかすり	、松井田	松和					
山ざくらある夜川越す人は誰そ、境町		富岡	有隣				
分入れば曇らぬ空や山桜		島村	万戸				
花の林ひろきが中の斧の音		一ノ宮	沙明				
花の陰鐘もひゞかぬ天氣哉		亞十					
朝やけをうしろに花の嵐哉	下仁田	暁烏					
夕がてをうつろふ花の小雨哉	、沢女	沢鷺					
湖にかけ桜は花の上にちる	、亀丘	笑魚	(二一〇)				
瓶に酒さくらの宿と答けり	、尾島	官橋					
人のあと夜の桜の静まらず	、太田	掌石					
足袋ぬいで見上る花の麓哉	、本宿	語山					
あけぼの、轟は花に寝た鳥か		兎豪					
朝ひとり見直しに行桜哉		龍山					
十ばかり家見る里のさくら	下毛助戸	贊					
散花に鳥まだ去らず薄月夜		嗽石					
白妙や桜にうづむ古寺の春							
流汲ばさくらや匂ふ芳野川							
日闌るや花の中なる鳥の声							
水はやし一棹とめん岸の花							
思ひ入山ざくら戸に舒かな							
初桜弁当もなく見る日哉							
行(く)て思はず深山ざくら哉							
夕榮やいつより山のうす桜							
日下りの鐘恨しや夕桜							
何處となう山ひとつき桜哉							
吹風花や山田のさゝら浪							
雪とまで人なぐさめつ花の果							
在明にうかれ鳥や花の上							
日頃より詫なりぬ花の衆徒							
欄干に遠山桜惜みけり							
ちる花やさすがに暮の嵐山							
寝て起て錢なき花の袂哉							
いつもよし醉ざめの水山桜	羽州秋田	幽尊	(二二〇)				
塵うちちはらふ春の膝琴							
日とともに鶯の声和らぎて							
月ぞ残れる旅の菅笠							
舟たてし迹か臥たる荻す、き							
軒に露置数の貝殻							
ことの葉の物になれつる人訪て							
風折鳥帽子恋にや有らむ							
祈して神の板間に終宵							
豆腐をとりに雪の桜							
血に染みし衣をそこらに引散し							
尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆							
（二三〇）							
鳥 溪 明 烏 溪 明 素溪 李明							
逢坂は松をいのりの種にして							
曲尺讓べき子を育たり							
かりて行秋の哀の革具足							

余処に打斧に桜の散にけり 、 麦四

わりなしと思ふや花のとまり鳥 、 米砂

人之情とぶさの中の花ざくら 、 宮崎

花にたらぬ日をこそ競へ桜人 、 以貫

花と雲の間行春の夕鳥 、 富春

桃さけば桜は寺に咲にけり 、 一ノ宮

里近し花に琴聞風の暮 、 戯月

花に起花にくれつ、朧月 、 尺龍

鳥取が身がくれ桜さきにけり 、 下仁田

よきほどに松の青みや山桜 、 安中

身に瘤のありとは見えぬ桜哉 、 中宿

鉄炮の音心なし山ざくら 、 佐保

寺寒し浅黄桜に日のかすり 、 松井田

山ざくらある夜川越す人は誰そ、境町

分入れば曇らぬ空や山桜 、 富岡

花の林ひろきが中の斧の音 、 島村

花の陰鐘もひゞかぬ天氣哉 、 一ノ宮

思ひ居れば暫し溜りぬ花ふゞき 、 亞十

朝やけをうしろに花の嵐哉 、 下仁田

夕がてをうつろふ花の小雨哉 、 沢女

湖にかけ桜は花の上にちる 、 亀丘

瓶に酒さくらの宿と答けり 、 尾島

人のあと夜の桜の静まらず 、 太田

足袋ぬいで見上る花の麓哉 、 本宿

あけぼの、轟は花に寝た鳥か 、 兔豪

朝ひとり見直しに行桜哉 、 龍山

十ばかり家見る里のさくら 、 下毛助戸

散花に鳥まだ去らず薄月夜 、 嘴石

莞尔 (二二〇)

小櫛に撫る髭の色艶 花結ぶ蓮の朝かげ露光る

禪坊しんとほとゝぎす啼

野老の下を焚たつる也

花満て月薰る共うたがはれ

襟の鞞鼓の春に静けき

白妙や桜にうづむ古寺の春 流汲ばさくらや匂ふ芳野川

日闌るや花の中なる鳥の声 水はやし一棹とめん岸の花

思ひ入山ざくら戸に舒かな 鳥取が身がくれ桜さきにけり

初桜弁当もなく見る日哉 行(く)て思はず深山ざくら哉

夕榮やいつより山のうす桜 夕榮やいつより山のうす桜

日下りの鐘恨しや夕桜 日下りの鐘恨しや夕桜

何處となう山ひとつき桜哉 何處となう山ひとつき桜哉

吹風花や山田のさゝら浪 吹風花や山田のさゝら浪

雪とまで人なぐさめつ花の果 雪とまで人なぐさめつ花の果

在明にうかれ鳥や花の上 在明にうかれ鳥や花の上

日頃より詫なりぬ花の衆徒 日頃より詫なりぬ花の衆徒

欄干に遠山桜惜みけり 欄干に遠山桜惜みけり

ちる花やさすがに暮の嵐山 ちる花やさすがに暮の嵐山

寝て起て錢なき花の袂哉 寝て起て錢なき花の袂哉

いつもよし醉ざめの水山桜 いつもよし醉ざめの水山桜

塵うちちはらふ春の膝琴 嘘うちはらふ春の膝琴

日とともに鶯の声和らぎて 日とともに鶯の声和らぎて

月ぞ残れる旅の菅笠 月ぞ残れる旅の菅笠

舟たてし迹か臥たる荻す、き 舟たてし迹か臥たる荻す、き

軒に露置数の貝殻 軒に露置数の貝殻

ことの葉の物になれつる人訪て ことの葉の物になれつる人訪て

風折鳥帽子恋にや有らむ 風折鳥帽子恋にや有らむ

祈して神の板間に終宵 祈して神の板間に終宵

豆腐をとりに雪の桜 豆腐をとりに雪の桜

血に染みし衣をそこらに引散し 血に染みし衣をそこらに引散し

（二三〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二四〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二五〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二六〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二七〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二八〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二九〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二一〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二二〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二三〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二四〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二五〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二六〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二七〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二八〇）

尊 雄 鴉 塙 尊 雄 塙 執筆

（二九〇）

とつぶり暮て雁の鳴海 手に付し鰯の鱗の月にみへ	不動參に袴羽織て	後朝の桜寒しと申候	しおびの小川山吹の壓
根あがりや鳥さし転ぶ山桜 日のさすや老木桜の花散て	本庄 双鳥	花に寝る鳥あらば花の主哉	素渥
花はやく夜の明るも花の光哉、秩父吉田町周貯 かゝはゆき花白妙に照日哉	李明	散花にしづ心なき下部哉	如圭
散花に散や一本の裏表 まはりくもとの桜を詠けり	兔遊	ひとづづみ我は老けり花の山	旧路
雨の夢穂に喰せん花盛 斧の音のこだまに高し山桜	芦沢	咲花に散や一本の裏表 まはりくもとの桜を詠けり	秀哉
花に雨名残の風も思ひなり	曳尾	雨の夢穂に喰せん花盛 斧の音のこだまに高し山桜	二水
宮雀ふし木桜の巣にぞ鳴 折かけてゆりやむ花に雨の人	宮沢村 文路	花に雨名残の風も思ひなり	文路
夜の花匂ひふかきを費けり 今ははや空もひとつに花の色	野上町 蘭十	宮雀ふし木桜の巣にぞ鳴 折かけてゆりやむ花に雨の人	蘭十
嘶すこと尽て諷ふや桜狩 狩つくしけふは常陰の花に入	三峰山 歌永	夜の花匂ひふかきを費けり 今ははや空もひとつに花の色	雪鴻
寺ひけて老木の桜名を得たり 家土産や深山ざくらの猿亭組	可南	嘶すこと尽て諷ふや桜狩 狩つくしけふは常陰の花に入	歌永
高足の花をぬけたり二日月 辻占の札かけ桜さきにけり	金久保 花叶	寺ひけて老木の桜名を得たり 家土産や深山ざくらの猿亭組	快馬
なつかしの老や桜にこまがへる 去ながら月夜桜と暮にけり	民友	高足の花をぬけたり二日月 辻占の札かけ桜さきにけり	房州 路要
	五龍		

(一七〇)

(一六〇)

米貰ふ孝女も見たり山桜 酒やめて花にも心やすき哉	、 尔来	まこと似し雪よ花散る草の庵	、 桜鳥
旅の花心のひもの解そめぬ	江戸 三千彦	散はづの花は朝から散にけり	、 春蟻
散はづの花は朝から散にけり	、 左鶴	忍ぶ夜やあだな桜の顔に散	、 長翠
初桜桑待里に咲にけり	江戸 貞松	醉顔のはゞかりもなき桜かな	、 直樹
旅の放下の霞過行	菊明	酒つきて桜しらけし月夜哉	、 文夔
飯蛸に酔のきく暮を肌ぬぎて	瓜坊	中／＼に余情ふくめり遅桜	、 裏山
襖た、かば下りよ鶏	五芳	日つもりや見尽しがたき雨の花	、 台ヶ原
乘鞍に月の四方手を結び添	雲和	女子衆は花見にやりて庭桜	、 台眠
たばこの殻の稻妻や待	松	朝和や露吸ふ蝶の花誘ふ	、 裏山
酒の粕乞食に呉る秋更て	松	行春も此さくらにはとゞむべき	、 越後十日町
隣の美人髪をろしけり	明	花に蝶桜に人の夕哉	、 桃路
琴壳に双ヶ岡を二度通り	明	あけぼの、月照かへす桜哉	、 飛州高山
水鶴の昼を雨の乏しき	芳	遠州浜松 白輶	、 千足
物書た竹の皮飛ぶひとあらし	和	(一九〇)	
仏をうつす鐘の聞ゆる	松	散花にふところ明る上戸哉	、 信州塩名田 柯則
月くらき末の磯に船着て	明	醉臥は誰やらん花の蹊かな	、 文耕
暮目の絃を何に取られし	坊	花の色今もむかしの小町寺	、 胡園
色青き玄蕃が弟二十過	明	母へ持ぬ桜に罪のあらばあれ	、 洋水
風なき背戸にはこべ焼らん	和	花の香に猢猻よる月の汀哉	、 元夢
鸞の柳にも来ず花に居ず	松	日に植る桜がもとの出茶や哉	、 桃思
世は陽炎の恋はくせもの	芳	咲花に常灯くもる靈屋哉	、 志考
	坊	花に雲心にくゝも寝てけり	、 一正
	明	する墨に花の散込はにふ哉	、 佐久櫻井 心醉
	坊	啞の子のたゞ指して初桜	、 野沢 也是
	明	朝露の吹さへうきに散桜	、 片倉 仙丈
	坊	あるが中に花見の欲や遠眼鏡	、 佐久櫻井 野秀
	明	散浮し桜汲込釣瓶かな	

(一八〇)

(一八〇)

夕月や桜に塔の影法師 花の雨しみ込岩の匂ひ哉	、 平磯 宗拱
三芳野や歩行寄間も花の陰	、 川戸 松隣
初ざくら感神院の南より	豆州八幡野 買山
旅の花心のひもの解そめぬ	相州猿ヶ島 丈水
散はづの花は朝から散にけり	、 三増 白河
忍ぶ夜やあだな桜の顔に散	甲州下山 幸久
醉顔のはゞかりもなき桜かな	、 田鶏
酒つきて桜しらけし月夜哉	、 直樹
中／＼に余情ふくめり遅桜	、 文夔
日つもりや見尽しがたき雨の花	、 台ヶ原
女子衆は花見にやりて庭桜	、 台眠
朝和や露吸ふ蝶の花誘ふ	、 裏山
行春も此さくらにはとゞむべき	、 越後十日町
花に蝶桜に人の夕哉	、 桃路
あけぼの、月照かへす桜哉	、 飛州高山
遠州浜松 白輶	、 千足
(一九〇)	
散花にふところ明る上戸哉	、 信州塩名田 柯則
醉臥は誰やらん花の蹊かな	、 文耕
花の色今もむかしの小町寺	、 胡園
母へ持ぬ桜に罪のあらばあれ	、 洋水
花の香に猢猻よる月の汀哉	、 元夢
日に植る桜がもとの出茶や哉	、 桃思
咲花に常灯くもる靈屋哉	、 志考
花に雲心にくゝも寝てけり	、 一正
する墨に花の散込はにふ哉	、 佐久櫻井 心醉
啞の子のたゞ指して初桜	、 野沢 也是
朝露の吹さへうきに散桜	、 片倉 仙丈
あるが中に花見の欲や遠眼鏡	、 佐久櫻井 野秀
散浮し桜汲込釣瓶かな	

53

雨晴や花の零のうす青き  
ぬしや誰花ちる中の繁馬  
花に花の影うく水の淀ミ哉  
深山たどる葉も花の下枝かな  
花の露月の静を思ひけり

、 盛風  
、 佐久文濤  
、 家副  
、 畦給  
、 発地季広

（二〇ウ）

我が朝の桜にわたる孔雀哉  
渓ふかし桜につたふ雲の末  
一とせに我おとろへつ花の主  
醉て猶まことの雲ぞ山桜

、 飯田蘭一  
、 知足  
、 以三  
、 寄三

城外や法の車に花の塵  
城深し桜に虹のたち渡り

、 巴流  
、 梅好

さく花の下も曇や酒の間

、 飯田蕉雨  
、 壱伯

夕月やさくらが上の雲兀る  
花守の鳥放つなり朝ばらけ

、 長瀬可笑  
、 自峰

おもへとや花降かゝる駕の夢  
流れ来る花の深山を思ふ哉

面白の春のかたみや遅桜  
日ざかりや花散鳩の風白し

晩鐘をうらむ桜の日和哉  
ひとつらに咲ぬも風情山ざくら

花見衆や翁が庵の囁ひ水  
一しきり人なし花の村つゞき、善光寺猿左

松明ぶりて夜川越すあり雨の花  
散さくら此碑と共に埋れん

野や花や家を出るにしくはなし  
山ざくら人なき奥に散終る

、 文兆

(二二オ)

此ごろや桜が中の花好み  
東のまに千もと咲たつ桜哉  
山川や花に染つく洗ひ衣  
花の露月の静を思ひけり

、 神都太賛  
、 遠江  
、 知多

都辺や花たゝみ込舞の袖  
解て見ん霞の帶や花の山  
被めず御室の桜裾に散

、 津吾友  
、 梅二房

雛だなや花散かゝる造り花  
下臥や桜に星の唐にしき

、 瓦六  
、 梅好

初桜袴のひだもくづれけり  
醉さまで寝てさへ花が眼にみゆる

、 津部多方化  
、 一身田司朗

浮雲の桜のせ行日和哉  
一樹／＼我魂うつす桜かな

、 石薬師甘谷  
、 山田晴山

若もの腰もたゆみて花の山  
春なれや名のしれぬ木にも花咲ぬ

、 尾州城南梅司  
、 三州赤坂像堂

三月の夢さへ花に動きけり  
夕月やさくらが上の雲兀る

、 和泉和楽  
、 飯田蕉雨  
、 壱伯

花守の鳥放つなり朝ばらけ

、 長瀬可笑  
、 自峰

おもへとや花降かゝる駕の夢  
流れ来る花の深山を思ふ哉

面白の春のかたみや遅桜  
日ざかりや花散鳩の風白し

晩鐘をうらむ桜の日和哉  
ひとつらに咲ぬも風情山ざくら

花見衆や翁が庵の囁ひ水  
一しきり人なし花の村つゞき、善光寺猿左

松明ぶりて夜川越すあり雨の花  
散さくら此碑と共に埋れん

野や花や家を出るにしくはなし  
山ざくら人なき奥に散終る

(二二一ウ)

島の花人なつかしき風情哉  
面白や麗さだまる花の月  
花に寝て夢は胡蝶と成にけり

、 枕石  
、 淡州黛葉  
、 播州小野君中

うきも猶空に晴行桜かな

（二四オ）

ればそとはいふものばつ桜  
我物にしては短し花の馬場  
花に来て手よりも口の長き哉

、 若州黄台  
、 芳州  
、 丹波能登野  
鬼雀

しのばしき桜がもとの鳥帽子哉  
ふゞきとも頗て成べし花曇

、 丹後宮津白兎  
、 下岡村桃溪

散さぬを手がらに花の姿哉  
一枝は花見て帰るし哉

、 網野壺春  
、 福水

うすぐれて花を見越の流かな  
さくら人夕日に騒ぐ御室哉

、 但州生野文眠  
、 義風改白窟

（二四ウ）

散かゝる桜に水の斜かな備前岡山子坤改幽雅  
夕ぐれや花に埋る我からだ  
しら雲の峰を離てさくら哉

、 備中倉敷江曲  
神籬や千歳にあまる八重桜  
朝ざくら鳥もまだ来らず静也

、 一翁  
、 招提村雪江

けふぞ翁四方の花見る日成けり  
月はいさ実あけほの、花の雪

、 朱頂  
、 芥舟

雨となる雲上る山の遅桜  
夜をこめて鳴かも花に鶏の声

、 寄人  
、 和州南都麦丈

仙家尋ていざ／＼花の雲に入らん  
名にしあふ此山の花も散がてにして

、 無涯  
、 笠岡斗外

三芳野や月雪もまた見え隠れ  
さくら持し筏の上のわらべ哉

、 府中水芽  
不掃除もよし散がての花筵

、 備後福山李朝  
出ざらひの人にも逢や花の山

、 柳芽  
けぶり直き花の麓の夕哉

、 明々  
長閑さや老も童も花の客

、 上下蝙蝠  
汲ほさん此さかづきの花曇

、 布野魚一

(二三ウ)



花深し廻る日晴の氣色そふ 筑島や江を一杯に散桜	、亀令
散花やものにひかる、身の哀 たまに来て一夜に花の嵐山	、何言
	薩州 関叟
夕山や花に心の入に入ル 細川や花に水うつ裸ぼう	八幡 斗流
時しなく百花ちらふ裏の園 遅ざくらをそきも末の春辺哉	、古律
夜はもの、曉いそげ花に鳥 川音を隔て花の曇哉	城南 魯長
舞出るや諷ふ此身に散桜 散らせしとわびつ、花を捧けり	、鬼荊
	伏見向島 寛水
	醍醐 百哺
遠山やさくらの上の薄煙 蝶さしまねく玉の檻	天神森 五牛
客送る笛麗に籠連て 雨の近づく風催ふなり	、平水
ありやなき月の行ゑの明しらみ ひらく芙蓉の色浅くみゆ	大住 子鬯
イめる籬のあれて肌寒き のこること葉をくり返しつ、	飯岡 戸口
染やらぬ名の流れ行湊川 所ぐに牛市の札	長池 花月
紅粉壳の門忍ばしく呼去て 神風のつもれる塵を払へかし	水 林
谷千丈に杉聳たり	
堀出せし太刀の主のしたはしく	

(三二〇)

城南木水連	（三一〇）	雷鳴て桜ひらけし岩間哉 雉子の声を打返す波	上毛草津 鶩白
		春深く少さき蔵の素建して 竹の筈を埋替る也	魚柵 菰菰
遠山やさくらをそきも末の春辺哉 夜はもの、曉いそげ花に鳥	（三一〇）	落鮎を籠に提行朝の月 すまふ力に乗つぶす馬	涼眉 柵
舞出るや諷ふ此身に散桜 川音を隔て花の曇哉		脇ざしの小柄とばし草の露 紙戸へしのぶ影な移しそ	
散らせしとわびつ、花を捧けり 散らせしとわびつ、花を捧けり		墨色に引さき文をなつかしみ 起れる雲を詠め返しつ	
遠山やさくらの上の薄煙 蝶さしまねく玉の檻	天神森 五牛	旅人は駕立て置三島前 鶏に餌蒔て粉の押壳	涼眉 柵
客送る笛麗に籠連て 雨の近づく風催ふなり	、平水	ならび立つ桃よ桜よ像の前 一嵐浅茅にわたる昼の月	（三二〇）
ありやなき月の行ゑの明しらみ ひらく芙蓉の色浅くみゆ	大住 子鬯	秋の哀を白骨の文 胸の霧壯きはわかく打曇	
イめる籬のあれて肌寒き のこること葉をくり返しつ、	飯岡 戸口	小島隠る、あら波の末 花日の暮なんとして照返り	
染やらぬ名の流れ行湊川 所ぐに牛市の札	長池 花月	今朝をきのふに忘たる春 蜂あれて屯かへたりさくら人	
紅粉壳の門忍ばしく呼去て 神風のつもれる塵を払へかし	水 林	暮てや、月に成迄桜見し 花守が日和乞せし朝哉	
谷千丈に杉聳たり		接木せし塙釜桜咲にけり 桜盛山居の叟詩はなきか	
堀出せし太刀の主のしたはしく		散はなやそこにも小家二三軒 江州土山 素秋	

(三二一)

（三二二）	（三二三）	（三二四）	（三二五）
朝ざくら水汲ことを覚たり 師の旧庵にて	朝ざくら水汲ことを覚たり 江戸 五芳	五六町隔りて又花の声 百池	花一木昔を忍ぶ軒端哉 土佐駒のはなぐしさよ桜がり
落鮎を籠に提行朝の月 すまふ力に乗つぶす馬	落鮎を籠に提行朝の月 すまふ力に乗つぶす馬	ならび立つ桃よ桜よ像の前 百池	江戸 風化
脇ざしの小柄とばし草の露 紙戸へしのぶ影な移しそ	脇ざしの小柄とばし草の露 紙戸へしのぶ影な移しそ	散れ桜大坂もの、首筋へ 嵐月	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
墨色に引さき文をなつかしみ 起れる雲を詠め返しつ	墨色に引さき文をなつかしみ 起れる雲を詠め返しつ	桜狩鷺鷺の雛はく山路哉 八重一重花相応の日数哉	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
旅人は駕立て置三島前 鶏に餌蒔て粉の押壳	旅人は駕立て置三島前 鶏に餌蒔て粉の押壳	散れ桜大坂もの、首筋へ 嵐月	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
ならび立つ桃よ桜よ像の前 一嵐浅茅にわたる昼の月	ならび立つ桃よ桜よ像の前 一嵐浅茅にわたる昼の月	桜狩鷺鷺の雛はく山路哉 八重一重花相応の日数哉	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
秋の哀を白骨の文 胸の霧壯きはわかく打曇	秋の哀を白骨の文 胸の霧壯きはわかく打曇	散れ桜大坂もの、首筋へ 嵐月	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
小島隠る、あら波の末 花日の暮なんとして照返り	小島隠る、あら波の末 花日の暮なんとして照返り	桜狩鷺鷺の雛はく山路哉 八重一重花相応の日数哉	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
今朝をきのふに忘たる春 蜂あれて屯かへたりさくら人	今朝をきのふに忘たる春 蜂あれて屯かへたりさくら人	散れ桜大坂もの、首筋へ 嵐月	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
暮てや、月に成迄桜見し 花守が日和乞せし朝哉	暮てや、月に成迄桜見し 花守が日和乞せし朝哉	桜狩鷺鷺の雛はく山路哉 八重一重花相応の日数哉	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ
接木せし塙釜桜咲にけり 桜盛山居の叟詩はなきか	接木せし塙釜桜咲にけり 桜盛山居の叟詩はなきか	散はなやそこにも小家二三軒 江州土山 素秋	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ

(三二六)

（三二七）	（三二八）	（三二九）
花一木昔を忍ぶ軒端哉 土佐駒のはなぐしさよ桜がり	花一木昔を忍ぶ軒端哉 土佐駒のはなぐしさよ桜がり	（三二七）
江戸 風化	江戸 風化	
冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ	
冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ	冠捨て入にし跡や山ざくら 遠山や花と見るより道急ヶ	

56

月に戻る花の林の独法師	閑徒美
又類さくらに月の表かな	
花の色の静に見ゆる盛哉	
ひとり散る花の木陰の月夜哉	光暁
さぞ桜鐘に惜まん長樂寺	在貫
いづちゆく人ぞ花散磯づたひ	
夕月やさくら流るゝ滝長し	晨龍
花にあそぶ日は惜まねど暮にけり	一二三
米洗ふ谷ひかへたり花の山	(三五ウ)
曙の花に酒ふくや濃むらさき	尼俾尤
新發意の今年も出来つ花の寺	、得終
行(へ)て檜原となりぬ花の山	不豺
行ほどの処が花の都かな	古塘
月静さくら静に暮久し	紫暉
花の山風情あまりてなやましき	都雀
さくら咲路縦横の野原哉	志諺
殊更に墨染ざくら雨の降	(三六オ)
絵馬堂や花にそむける童達	渡牛
袴着て何のついでぞ花の影	木貞
朝戸出や桜見る日の握飯	江蓼
此十日心投うつさくら哉	兎毫
鳶の輪や曇はなるゝ夕桜	凡二
年ぐゝやまだ見定めぬ花の色	蘆雪
あががしの花盜人はなき世哉	芝山
散花に眉の動きし座禪哉	淋沙
灯ともせば花はあかるし春の雨	(三六ウ)
神籬や花に手あらひ口そゝぎ	杏露
名ざくらの香や転び寝の枕吹	追加
斗雪	踏んぱりし二王を過て花見哉
以外	浪花 江涯
羅外	花に酔て心を冷す杉間哉
駢丹	秀里
月居	春遠く見るやさくらの机先
泰渓	加州 栄山
燕淵	春の心花ちる夜よりからびたり
月居	丈左坊
芝山	けふもまたもとの身にして桜散
蘆雪	闌更
淋沙	(三八オ)
杏露	追加
燕淵	踏んぱりし二王を過て花見哉
月居	浪花 江涯
泰渓	花に酔て心を冷す杉間哉
羅外	秀里
駢丹	春遠く見るやさくらの机先
月居	春の心花ちる夜よりからびたり
芝山	けふもまたもとの身にして桜散
蘆雪	闌更
淋沙	(三九ウ)
杏露	追加
燕淵	さくら木の雨より茂る花供養
月居	さくら木の雨より茂る花供養
泰渓	花の雲夕日かゝりてあはれ也
羅外	醉ざめやさくら散来る岩枕
駢丹	醉ざめやさくら散来る岩枕
月居	花の雲夕日かゝりてあはれ也
泰渓	石州佐和
羅外	柏由
駢丹	眼人
月居	大坂 如障
泰渓	年ぐゝにまた新しき桜哉
羅外	、蕪城
駢丹	折そへし桜散する黒木壳
月居	長州 萩 菱可
泰渓	妓玉寺にて
羅外	咲つ散つ花の行ゑや鉢の声
駢丹	嵯峨 峨乙
月居	ひよ／＼と鳥幽なり山ざくら 羽州能代 紙秋
泰渓	日のさすや花の間の大はしご
羅外	伏見 磯水
駢丹	(四〇オ)

持かゆる杖や左近の花の陰 河州津田 杜撰  
 夕ざくらはぐれ芸者の吹れ居ル、作良  
 ちりしばし桜咲日にもどる哉、作良  
 留主しばし桜咲日にもどる哉、作良  
 はつ花に人来べきかも下り蜘蛛、作良  
 吹閉し雲花に散朝日哉、作良  
 耷や花の上行影法師、作良  
 山ふかし鶯の羽風に散桜、作良  
 歳々の花に百里の歩み哉、作良  
 風流士に宿かせ花の東山、作良  
 花の夕あかねさす顔吹れけり、作良  
 おもしろや花を隔て君と我、作良  
 月夜よく花の木陰を廻る哉、作良  
 午時中や花に居眠る桜人、作良  
 山陰や日も悠然と遅桜、作良  
 遠山や過來し花に日の落る、作良  
 花に来て無筆悲む女あり、作良  
 風あらき二月過て山ざくら、作良  
 花守や夜はわたくしの小盆、作良  
 花最中花見ぬ人の無分別、作良  
 ねよげなる苔の筵や花の下、作良  
 煙太し桜が谷のひとつ家、作良  
 ひと日／＼来て主する桜かな、作良  
 子を余多持て花見る奢哉、作良  
 窓さきやほのかに夜の桜散、作良  
 春の日の嵐は花のうき世哉 甲州一町田中方舟

甲州藤田 漢甫  
 西南湖 榎冠  
 南丸 鏡平  
 藤田 政尼  
 東南湖 鳥語  
 山之神 市川  
 唐笑  
 山寺釀 無名  
 和石  
 李冠  
 百々 令雨  
 平岡 如雪  
 飯野 真都良  
 静良  
 小笠原 都良雄  
 静管  
 藤田 可都里  
 肥前諫早 梅江  
 停華  
 梅枝  
 昏芦  
 桃局  
 濃波  
 河州津田 梅枝  
 上毛草津 梅枝  
 泉魚  
 白龜  
 懈恕道  
 (四〇ウ)

心のこる花のもどりや暮の鐘 江草津 可能  
 世の花は散て今こそ奥之院 河州弓削  
 眠がりの朝起うれし花の春 泉魚  
 惜からぬ命を花に惜みけり 湖幽  
 鐘つきの天窓の上やちる桜 湖幽  
 夜を込て桜にしらむ高根哉 清泉  
 車井に散やさくらの朝ぼらけ 勢州上田  
 山の井は浅し桜に夕付日 眠山  
 こもりくや花に沈める鐘の声 芸州甘日市  
 山里や花の木陰に臼の音 得雨  
 大仏に桜散込箭声哉 浪花  
 芦村  
 美山  
 画涼  
 見上れば誰か見おろす山桜 防州大海 羽琴  
 山頂や汗かいなぐるさくら人 旦霞尤  
 花に鳴鳥何／＼ぞ朝付日 室津鯨牙  
 夕付日花の一重の清きかな 陶楓左  
 雲折／＼桜に影の見ゆる哉 岐波春郷  
 白妙や雨にもくれず桜山 和道  
 岸陰や花踏のぼる雨蛙 引野梅曉  
 花の間やほのかに響く鈴の音 嘉川錦水  
 不毛山に花の錦や朝ぼらけ 不尤  
 音の御階に近き桜哉 志高  
 炭がまやあれたるまゝに散桜 小郡桃林  
 戯る、穴熊黒し山桜 秋月  
 見返れば晩鐘寒き桜かな 花ト  
 誉たらで科と詠けん桜花 李洞  
 又といふ春覚束なちる桜 山口八十翁  
 里ふかく何某どの、さくら哉 無心  
 手給ふ裾に静なりちる桜 鴻南  
 蘭台  
 (四一オ)

夕かげや花かすめ行一羽鶴 龍州能登部 麦杜  
 夢想之吟  
 うへ一重小松にかけて桜かな 李応  
 峰は雲眼の及ぶ花に日の移り 金丸  
 古寺や花に火ともす庭の春 朝々  
 雲白し花吹とぢて日の昇ル 里山  
 滝淵し斧の柄朽る桜哉 花休  
 散花を追行鶯の番ひ哉 里山  
 潜り出て扱は雪吹の花なりき 薫里  
 (四二ウ)

一日は人どめもあり花の山 長崎 斗醉  
 大峰や花に振へば明の雪 江州水口 梨風  
 絶／＼も花に名高し吉野山 信楽 山鳥  
 桜咲て松柏木の青き哉 田川 ノヘ  
 花にめで、扇をかざす山路哉 能川田 乃至  
 苔むして花の稀なる古枝哉 城南 貞雅  
 雨の花巖の角に散にけり 孤隣  
 花さくや戸さゝぬ庵に高鼾 都水  
 花の雲何地へ杖の曳所 浪速 素柳  
 (四三オ)

ことゞく動がごとし花の山 勢御園 四山  
 朝な／＼雲見る山の花重し 霰打  
 花よ月よ人に後れて帰るべし 白子  
 帯川  
 (四四ウ)

宮守の花や囃の夜の音 表六句  
 築芦屋 白志  
 (四五オ)

持かゆる杖や左近の花の陰 河州津田 杜撰

甲州藤田 漢甫

心のこる花のもどりや暮の鐘 江草津 可能  
 世の花は散て今こそ奥之院 河州弓削  
 眠がりの朝起うれし花の春 泉魚  
 惜からぬ命を花に惜みけり 湖幽  
 鐘つきの天窓の上やちる桜 清泉  
 夜を込て桜にしらむ高根哉 勢州上田  
 山の井は浅し桜に夕付日 眠山  
 こもりくや花に沈める鐘の声 芸州甘日市  
 山里や花の木陰に臼の音 得雨  
 大仏に桜散込箭声哉 浪花  
 芦村  
 美山  
 画涼  
 見上れば誰か見おろす山桜 防州大海 羽琴  
 山頂や汗かいなぐるさくら人 旦霞尤  
 花に鳴鳥何／＼ぞ朝付日 室津鯨牙  
 夕付日花の一重の清きかな 陶楓左  
 雲折／＼桜に影の見ゆる哉 岐波春郷  
 白妙や雨にもくれず桜山 和道  
 岸陰や花踏のぼる雨蛙 引野梅曉  
 花の間やほのかに響く鈴の音 嘉川錦水  
 不毛山に花の錦や朝ぼらけ 不尤  
 音の御階に近き桜哉 志高  
 炭がまやあれたるまゝに散桜 小郡桃林  
 戯る、穴熊黒し山桜 秋月  
 見返れば晩鐘寒き桜かな 花ト  
 誉たらで科と詠けん桜花 李洞  
 又といふ春覚束なちる桜 山口八十翁  
 里ふかく何某どの、さくら哉 無心  
 手給ふ裾に静なりちる桜 鴻南  
 蘭台  
 (四一ウ)

風絶てあくまで花の曇けり 波光  
 島陰やあぐる白帆に桜ちる 鴉跡  
 夜の花女官の袖に零せり 天民

(四三ウ)





けふも花に美しい世を遁けり 、万木里 北嶺

あしにまかす心のだけや花の山 、ハマン 契之

峰は雪麓は霞比良の花

、清水鼻 熊谷 選桜をそくて風にのがれけり 、山上 鷺橋

ちらさじと手向る花の一枝哉

、紫甲 白きより夜の桜と成にけり 、伴ノ谷 当令

不足なき其夕暮を桜哉

、大塚 吾人 羽二重に置手拭やさくらがり 、霜降村 其岩

妙なるや千手千眼山ざくら 、八幡 麦花

柴折て看はゞむや山ざくら 、八日市如来村 何樂

よきほどに都ぞむくや花のぬし 、西太田村 瑞雀

隣から來た枝もあり花ざかり 、坊村 蓮車

今も花むかしも花の忌日かな 、平松 亞溪

月の桜ある夜寝覚て心澄む 加州金沢 松菊

磯近き花に女子の渡し哉 、蛙井 醉さめて淋しき花ぞ誠なれ 、蘭尾

隔とも是なわすれそ花の友 、宮ノコシ 竹之坊

沖の帆のさくらに透る板家哉 、才川 松華

月に泣人よ桜に高わらひ 、津幡 風逸

花山や常より早き朝ばらけ 、金沢 馬仏

水音の遠ざかりけり花の山 、南峰 素流

船さして花に近付よすが哉 、李下 夕照や鳥啼尽ぬ山ざくら

しづかなる陰を誠の花見哉 、素后 人さまづく暮るや花の借座敷

花曇棹さす船の見ゆる哉 、可兆 金沢 槐路

さくら咲島をめあてか浮み舟 、対山 芦角

おく山の花もさくべき此日和

(四〇)

花咲て幾度人に行当り 、馬公 凸山

漣に棹もさすべき桜かな 、楚蹻

人々によりて興ありさくら花 、左来

花待し世を観じ居る春の雨 、金沢 丸交

分迷ふ路もさら也山ざくら 、百之

花ざかり夕日貫く山路哉 、十花

只人も多き山路や花の暮 、周馬

ちるほどは散夕栄のさくら哉 、吳水

散花にふける心や竹杷もち 、松斗

山里や花に明行馬の面 、里笑

見返れば雲と成けり山桜 、雉友

二三丁上り通せばさくら哉 、一竹

手枕に雨聞花の旅路哉 、眠和

花一本曇る檜原の奥の院 、稀才

淋しさは散すむ花の日和哉 、能瀬 美水

いそのかみ絆れ共くはつ桜 、金沢 舢哉

初花や雨のあとなる汚れ道 、宮ノコシ 故園

谷川や花見の時の料理屑 、柏野 麦風

しづの葉に桜散置山路哉 、能瀬 怨乎

山ざくら夕べの鐘の聞へけり 、千布

八十の老をかしらの花見哉 、金沢 ト木

朝曇松はかくれて花の浦 、桃脂

笠をきて行先はやし桜花 、犁松

雨の花なを分入は月の人 、兎文

下館や花の外なる笛の音 、車大

片里や四隣垣なし花の中 、可諷

手に見れば一重桜も花の雲 、文路

寺はみな花の上なり東山 、たよ女

(四一)

(六〇)

大寺や桜の中の物もらひ 、能州黒島 球ト

夜の戸や有明桜薄匂ふ 、布遊

逢坂や車にむすぶ花の夢 、玻井

嶺や登るに耐ぬ桜人 、麦秀

そぞろ氣をつくらふ花の戻哉 、犁邑

朝馬場の桜をふるふ袂かな 、都山

飴壳も灯ともす花の夜寒哉 、柳汀

負ふた子の花持ながら寝入けり 、馬涼

雉子啼遠山花の曇かな 、奇哉

桜戸に君転び寝のひと夜哉 、文朝

木枕の松脂くさし花の宿 、素玉

人過て山鳥啼けりゆふ桜 、錦川 玉史

さし汐に海の中なる桜かな 、龍州三階 吳暁

雨二日いねしかひあり夕桜 、李青

思ひ出や杖にすがりてけふの花 、ノトベ 破衣

醉さめて月に見直す桜哉 、道下 誕舟

諸鳥の声やふもとの朝桜 、徂英

浮島や人も桜も夕げしき 、寺口 良化

七日目は児見付たりさくら狩 、道下 空花

夜桜に人を咎る乞食哉 、高田 曙川

明暮にかよひしかひぞ初桜 、赤城山 阿成

遠方の香もふけ花の川つゝき 、龍州鶴浜 大牙

よぢのばる草のかぶれや遅桜 、女 蒼枝

夜桜や船ならべをくさゞれ波 、梨笑

月代に香のこぼれけり花の波 、雨卜

花の山一入月の出がてかな 、可諷

雲走る虹のひずみや夕桜 、文路

山陰や流のよどむ花曇り 、たよ女

処ぐ花にそひつゝうす煙 、むゐ女

(七〇)

（八〇）

(九〇)









したしみの落重りて夜の花	甲州浅原	真洞
朝駒の鞍静りて花の雲	、六珈	
夜桜や膝うちぬらすこぼれ酒	、友生	
東山や月を別て花白し	、南丸	
御狩野の小桶の桜咲にけり	、山ノ神	鳥語
磯寺や汐風に疾き花の色	、紫蘿	
螺貝の出しか花のはしり咲	、佰洞	
よき通伝や文の実にして初桜	、東南湖	政尼
花守の世をわたしたる花見哉	、市川	有匪
花最中しのばしき夜や月のかさ	、藤田	鏡平
見ぬひまを桜かしこく散にけり	、漢甫	作良
古寺や花ものいはず人絶ず	、暮地	五雲
ちる桜蝶は現に眠るかな	、隣車	
皆人やけふも桜に黄昏ぬ	、泮水	
雲を帶て峰のしらみや桜花	、敬之	
しるしらぬ人の往来や山ざくら	、琴水	
春を経て桜に耽る日和哉	、清父	
明べき日の暮をしむ桜かな	、豊水	
八重霞かすみにまがふ桜哉	、梅店	
花に雲に遠近山の梢かな		
桜かざすもろこし人と連だつかと		
聞へ給ひしも、今十年あまりこれとて		
いひ出すべき事なれば		
年ぐや桜かざして笑みもせず	、小笠原	静苔
暮がてや花のひま行鳥の声	、山寺	和石
山桜霞の中や人の声	、楚雀	
野宿せんけふより我も桜人	、小笠原	都良雄
疾植て人驚すさくら哉	、飯野	真都良
垣ごしに花盗の笑顔かな	、梅五	

(三〇〇)

我ありとうたふ月夜の花の陰	、静良	
花の庵なきに事たる甚太瓶	、鮎沢	孤山
朝風呂に遠山桜見付けり	、古市場	美敬
傘さして來も風情やちる桜	、平岡	如雪
不通女等も花にうかれよ酒の酔	、和水	
ほりかけの白に散けり山桜	、谷戸	花仏
さくら見や親里訪ふて山に入	、杜月	
醉人や花に五歩行五歩帰る	、三沢	をしへ
鏡にはからぬものか花の雲	、台ヶ原女	青々
山中の花や帶売さかな壳	、台眠	
散にけりさくらは桜人は人	、藤田	可都里
花の雲に乙女酒もる二階哉	信州佐久	柯則
見處は花にふきのある日哉	文涛	
翠簾影や半面美人朝桜	文耕	
漣に志賀の花散る夕べ哉	萩露	
あるは居りあるはいさくら哉	根ノ井	胡月
ひとつちる花に口あく蛙哉	桜井	楚林
朝山やうごくが如く花の露	發地	季広
しだり桜如意輪深く在けり	今岡	胡園
ひとづちる花に口あく蛙哉	七十四才	むら女
妹背山散込花の流かな	桜井	盛風
咲満し花の下枝の鳥かな	、如仙	
朝まだき鳥啼花のはやし哉	、野秀	
花山にいくつもほしき骸かな	塚原	宗剤
散込し花を双紙の葉哉	中居	可豊
ちる花の色滌込やよしの紙	下県	元夢
花の日や入相の鐘に人ごち	、桃思	
ちる花の鐘楼にのぼる辻風哉	、志考	
花に目を泣腫したる上戸哉	、天涯	
誰が魂の遊ぶか夜の花の中	浪華	大江丸
山はさくら家は野ぐるみの煙かな	、画涼	
ひと里は桜に明る夜なりけり	、長齋	

(三一〇)

世に歴るや陵守が門のはな	、仙丈	
山ざくら心ひらけて目にあまる	、善光寺	文兆
花の庵なきに事たる甚太瓶	、鮎沢	孤山
朝風呂に遠山桜見かけり	、古市場	美敬
傘さして來も風情やちる桜	、平岡	如雪
不通女等も花にうかれよ酒の酔	、和水	
ほりかけの白に散けり山桜	、谷戸	花仏
さくら見や親里訪ふて山に入	、杜月	
醉人や花に五歩行五歩帰る	、三沢	をしへ
鏡にはからぬものか花の雲	、台ヶ原女	青々
山越や桜見かけて漸一里	、木曾奈良井	扇之
動かせばひらく花ありはつ桜	、柳莊	
山飛ぶ桜の下の夜明哉	、鳥飛	
ことなるや花散さとの夕付日	、新之	
黄昏や花の木の間を下る人	、初交	
しがらみの花に魚飛流かな	、飯田	風子
山ざくらもどりは杖の情哉	、柳枝	
夜ざくらや伏ど寝られず出て歩行	、里風	
水にちる花の香添ん茶のかまど	、由梅	
醉伏さん芳野は花の木下闇	、岩村田	岷山
桜の日暮と見しは山の陰	、善光寺	猿左
花の手向酢壳も袴着せ申さん	、撰州池田	瓜坊
手折らずに行人ゆかし山桜	、西ノ宮	苑支
花咲や笛の落付く古仏	、伊丹	東瓦
花の手向酢壳も袴着せ申さん	、蕪城	
手折らずに行人ゆかし山桜	、詩紅	
花咲や笛の落付く古仏	、素柳	
花に目を泣腫したる上戸哉	、天涯	
誰が魂の遊ぶか夜の花の中	浪華	大江丸
山はさくら家は野ぐるみの煙かな	、画涼	
ひと里は桜に明る夜なりけり	、長齋	

(三一ウ)

(三三ウ)

(三四オ)

散る花になを惜るゝ入日哉  
 花鳥と共に狂ふや春の人  
 夕栄や虹吹山の花もよひ  
 咲みちて桜の上の曇哉  
 夜ざくらや公家町通ふ白拍子  
 片枝に斧のひゞきや山ざくら  
 懒兒不覺醜  
 とらへたり花盜に菓子くれん  
 柴垣一重陽炎を踏み  
 緑して露干る小綱麗に  
 鳶まだ霧もしらず顔也  
 常政が月落琵琶もなかりけり  
 秋の桜に寄る仮り殿  
 松風の題目踊見に来れば  
 世をさまぐにうしと狂ふか  
 ゆく水の水にせかる、恋をして  
 袖のわたりの雪の明ばの  
 五位の鳥神の直宿をするからに  
 二日続て君に召る、  
 酒の香に菖蒲をしづる比なれや  
 西も東も早苗とる唄  
 我世界乞食袋の面白き  
 月こそ本との主人成けり  
 雨雲の消て紅葉の散かゝり  
 渋鮎下す滝のしら糸

花の香を添て一たき苔の下、 小野沾節  
 花に曇る佛もがな春の月、 花桂  
 雨かほる山ざくら戸の夕べ哉、 龍野十洲  
 たか女  
 泥尾  
 吳雪  
 梅司  
 文莖  
 一炊庵 (三四ウ)  
 (三六〇)  
 捨鳥の身をよる方や雨の花、 加古川玉屑  
 かんがりと月洩る花の老木哉、 姫路富雪  
 ちる沙汰に鬧しうなる花見哉、 路高  
 花の後草に暮行庵かな、 後菊  
 此花は誰がみとめてや胡蝶飛ぶ、 水谷嘉那  
 茶に遊ぶ人は桜の花香哉、 瓦三  
 初ざくら朝日こぼるゝ木の間哉、 海鼠  
 月花の世をいとふてや山ざくら、 松本歌拙  
 道したふ道はあるし花の陰、 国包其跡  
 山里や名のみ残せし散ざくら、 石州大森臥山  
 見る人も其日のぬしや山ざくら、 日原三好義昼  
 谷川や又流れ来る花の枝、 作州弓削白亀  
 花の陰や再び逢し温泉友達、 海田鶴友  
 花とけふ化して千鳥と成にけり、 孤山  
 はゞからぬ道の狭さよ花最中、 市仙  
 桜田の井塞所か花の滝、 岩橋や花の下道かけわける  
 ゆく水の水にせかる、 梶原洞々  
 袖のわたりの雪の明ばの、 丹後木越  
 五位の鳥神の直宿をするからに  
 二日続て君に召る、  
 酒の香に菖蒲をしづる比なれや  
 西も東も早苗とる唄  
 我世界乞食袋の面白き  
 月こそ本との主人成けり  
 雨雲の消て紅葉の散かゝり  
 渋鮎下す滝のしら糸

花の香を添て一たき苔の下、 小野沾節  
 花に曇る佛もがな春の月、 花桂  
 雨かほる山ざくら戸の夕べ哉、 龍野十洲  
 たか女  
 泥尾  
 吳雪  
 梅司  
 文莖  
 一炊庵 (三四ウ)  
 (三六〇)  
 捨鳥の身をよる方や雨の花、 加古川玉屑  
 かんがりと月洩る花の老木哉、 姫路富雪  
 ちる沙汰に鬧しうなる花見哉、 路高  
 花の後草に暮行庵かな、 後菊  
 此花は誰がみとめてや胡蝶飛ぶ、 水谷嘉那  
 茶に遊ぶ人は桜の花香哉、 瓦三  
 初ざくら朝日こぼるゝ木の間哉、 海鼠  
 月花の世をいとふてや山ざくら、 松本歌拙  
 道したふ道はあるし花の陰、 国包其跡  
 山里や名のみ残せし散ざくら、 石州大森臥山  
 見る人も其日のぬしや山ざくら、 日原三好義昼  
 谷川や又流れ来る花の枝、 作州弓削白亀  
 花の陰や再び逢し温泉友達、 海田鶴友  
 花とけふ化して千鳥と成にけり、 孤山  
 はゞからぬ道の狭さよ花最中、 市仙  
 桜田の井塞所か花の滝、 岩橋や花の下道かけわける  
 ゆく水の水にせかる、 梶原洞々  
 袖のわたりの雪の明ばの、 丹後木越  
 五位の鳥神の直宿をするからに  
 二日続て君に召る、  
 酒の香に菖蒲をしづる比なれや  
 西も東も早苗とる唄  
 我世界乞食袋の面白き  
 月こそ本との主人成けり  
 雨雲の消て紅葉の散かゝり  
 渋鮎下す滝のしら糸

花の香を添て一たき苔の下、 小野沾節  
 花に曇る佛もがな春の月、 花桂  
 雨かほる山ざくら戸の夕べ哉、 龍野十洲  
 たか女  
 泥尾  
 吳雪  
 梅司  
 文莖  
 一炊庵 (三四ウ)  
 (三六〇)  
 捨鳥の身をよる方や雨の花、 加古川玉屑  
 かんがりと月洩る花の老木哉、 姫路富雪  
 ちる沙汰に鬧しうなる花見哉、 路高  
 花の後草に暮行庵かな、 後菊  
 此花は誰がみとめてや胡蝶飛ぶ、 水谷嘉那  
 茶に遊ぶ人は桜の花香哉、 瓦三  
 初ざくら朝日こぼるゝ木の間哉、 海鼠  
 月花の世をいとふてや山ざくら、 松本歌拙  
 道したふ道はあるし花の陰、 国包其跡  
 山里や名のみ残せし散ざくら、 石州大森臥山  
 見る人も其日のぬしや山ざくら、 日原三好義昼  
 谷川や又流れ来る花の枝、 作州弓削白亀  
 花の陰や再び逢し温泉友達、 海田鶴友  
 花とけふ化して千鳥と成にけり、 孤山  
 はゞからぬ道の狭さよ花最中、 市仙  
 桜田の井塞所か花の滝、 岩橋や花の下道かけわける  
 ゆく水の水にせかる、 梶原洞々  
 袖のわたりの雪の明ばの、 丹後木越  
 五位の鳥神の直宿をするからに  
 二日続て君に召る、  
 酒の香に菖蒲をしづる比なれや  
 西も東も早苗とる唄  
 我世界乞食袋の面白き  
 月こそ本との主人成けり  
 雨雲の消て紅葉の散かゝり  
 渋鮎下す滝のしら糸



散花や夕近づく島つ鳥	赤間関	南菓
登帆や明石過れば須磨の花	少年	羅風
花や雲影すむ水の朝ばらけ	梅童	
花守とみへて白髪の夫婦哉	錦翠	
船寒し花白妙に明にけり	指月	
麦飯に桜散込舍り哉	里江	
丙辰の春、花供養の日、赤馬関の		
僑居月窓亭に社友を会して		
如上の手向をなし奉れる		
まゝを、つばらに写て洛東の祖堂に		
送りて、いさゝか道の恩に酬ふ		
桜咲てあまんの花は土の如し	万井	
日斜や花に幸ます片山家	長州舟木	梅梢
乗捨し駒の居眠る桜かな	、芦舟	
藻塩たく煙につゞく桜哉	、子文	露濃
峰のさくら人去ぬれば雪覆ふ	、梅月	
足る事をしらぬ花見の戻哉	、アサ	羽翔
借し駕籠や花の麓に日もすがら	、子風改	寛雅
日／＼に新なる花見心かな	、文尚	
栗鼠登る九輪に花のふゞき哉	赤間関	花暁
曉の花にかへるや花のゆめ	防州山口	潮流
我罪もあへなく散ぬ遅桜	、如水	
見残した跡に鳥の桜哉	、菱波	流志
よしや日のくるゝはなげの花衣	、舎州	
ちる花にしづ心なき田打哉	、小郡	
行暮しまゝに有明ざくら哉	桃林	
、李曉		

(四五ウ)

(四五オ)

醉醒に谷水うまし山桜	、霞夕	
かぎりなき春と詠けり桜花	、花ト	(四六オ)
心をもいためる花の盛哉	、李洞	
右左花の中なる不動かな	、岐波	羽仙
桜咲て牛に跨る世成けり	、小郡	春郷
タづくやあだに野山の桜散	、和道	
桜さく中より朱の鳥居哉	、三田尻	嘯月
雲の前霞の後さくら咲	、山口	蘭台
江の花や波間に雨後の月動ぐ	、天民	
花色／＼人の心に移る哉	、天民	
世に遠き彼岸桜や藪の中	、讀州笠居	芝峰
花ざかり世上に外の噂なし	、引田	如竹
いつしかに枝もたはまん花の下	、垂水村	帶雪
ちればこそ清し桜の夕タ	、高松	吐鳥
花の色は蝶にうつろふ盛哉	、阿州西分	羽角
覆れん友や翁の花ごろも	、豊前椎田	有隣
大和路や花に惟然が拾ひ履き	筑前直方	此原
かきよする岩間の花や散惜み	、五雪	
なまめきし道恐しや花の山	、苔水	
花の風情己を夜に帰す哉	、元二	
花に住で山鳩花に詣らはす	、遠子	
夕煙雲にとゞかん花の星	、雲里	
色／＼の鳥の音聞や花の中	、嵐之	
折桜風なくて家に入りにけり	、曙川	
花降て斧を置たる男かな	、烏川	
鉄棒や花の脇道過る音	、橋雨	
散初る花や六日の月の隈	、寄木	
花の雨聲にしむや嵐山	、桃雲	

(四七ウ)

(四七オ)

咲さくら此外は何を欲にせん	肥前小倉	南明
午時からは乞食も来ぬ花の山	、佐賀	清明
鍛冶があと有明桜老にけり		
雲にむせて花見心の細き哉		
花廻り訪ふ人たらで帰けり		
うつりけり桜が本の人の声	、木屋瀬	木耳
花の雪我もとゆひにかゝる哉	豊前小倉	陀雲
鍛冶があと有明桜老にけり		
雲にむせて花見心の細き哉		
花廻り訪ふ人たらで帰けり		
咲さくら此外は何を欲にせん	肥前小倉	南明
午時からは乞食も来ぬ花の山	、佐賀	清明
【校異】某家本は四九オ・ウが脱落している。		
新鞍やことしの花に置初ん	、有田	芦風
観葉で僧をもてなす花見哉	、雪巌	
滝しづか花のひら／＼落にけり	、波声	
花の山松もゆかしきふとり哉	尹子	

(四九オ)

おもひ入るうつの暮や花の山	、神代通鮮
按摩医に花の難所を語けり	、二扇
白雲の中や一すぢ花の道	、長崎半古
盜人と名乗て折ぬ花一枝	、素人
夜部迄の桜はたゞに雪と降	、菊翁
のがれてし世にも桜の折戸哉	、季明
陵や花にふりぬる世がたらひ	、樗年
おもひなげに臥り桜の深山人	、杜陵
山の井に釣瓶かけたり花の時	、祥禾
日の筋や散かゝる花に鷗鳩の飛	、古琴
漣にさくら流るゝやよひかな	、神代仙鳥
花の色にうつろふて日も遅哉	、呂柏
おもはずも立よる花のくず家哉	、女柳枝
ちる桜ふもの人はみへぬかな	、文岱
江の花や舟さすおのこ酒くさし	、魯益
明日ありと母はいふ也夜のはな	、完雅
花の枝にあやにくに啼鳥哉	、梨水
雲と見る日は長閑也山ざくら	、雪湖
蝶鳥の心になつて花見かな	、兎丈
呼子鳥春は桜にすむものか	、春喬
うたてやな鳥とる鳥の花に来る	肥後八代文曉
花守よ雨に訪ひしは誰／＼ぞ	、熊本潭月
漕出て樹々を尋ん湖の花	、亀令
鐘遠く雲動けり夕桜	、豊後岡笛躬
其匂ひ今に聞日や花供養	、夷比竹
開帳も日延の札や遅ざくら	、高田山離
酒盛もみだれぬ浅黄桜かな	、壺月
類なや木の芽の食に山の花	、肥前薰路

(五〇ウ)

雲晴てしばしば花の朝じめり	、和十
山ざくら狩入はては斧の音	、路文
山ざくら立交る木は鳥の糞	、芳笠
かゝる代や鬼が巖も花の雲	、北華
花近し春風ゆらぐ杉のさき	、瀧吹
雲焼の夜に引したふ花の奥	、甫尺
宵の雨しほる、花のあるじ哉	、五芳
朝鮮和館よりの便に	、斯長
朝鮮の花も供養のひとつ哉	、菊大夫庵になびけり花の山
花に競ふ人の中よりちる桜	、行脚
憂人の夜見ぬ桜さきにけり	、北華
鳥と共に人間くゞる桜哉	、五茶坊
要ぬかん風もいとはる花の陰	、花縣
要ぬかん風もいとはる花の陰	、一茶坊
岩渕や影澄花の朝ぼらけ	、対州孚湫
花に精なきや此木の幾千とせ	、朝瓜
岩渕や影澄花の朝ぼらけ	、机翠
雲散て花となるらん朝朗	、日向美々津吟龍
まゝならば世に隠れたし花の山	、勢州山田木枯庵丘馬
花の夢さめてもやはり花の陰	、停花
紺衣に花の零や花供養	、霞紅
ちる花を祈とめよ山法師	、夏蓼
主は誰そ桜がもとの樽一荷	、梅枝
うらやまし花の中なる独住	、霞紅
駒とめて水飼ふ花の流哉	、梅枝
山ざくら分別ありて折にけり	、夏蓼
後向まへむく花の入江哉	、桃局
初花にことしも命延る哉	、遊鹿
人知れぬ花に弦なき琵琶も哉	、一興
花に来て花と成身の安さ哉	、孤石
磯山や鶯の羽音に散桜	、澧波
月影の桜に曇る山辺哉	、春芦
仮植のざくら／＼に苔み哉	、春芦
散る竹の中に虎の尾桜哉	、春芦

(五〇オ)

霞に遊ぶ鶴の横平	伏見あし丸
銅雀も弥生の山に連りて	梅價
削り立たる木の匂ふ也	錦圃
をのづから錢もたくみし月の客	金兔
穢多が入江の芦も散比	
何となう風吹音の秋蘭て	
心ひかる、古郷の文	
吉原に敵としらず膝を組	
圃 兔 丸 壱 梅 路 都 友	(五四オ)

曇がちなる此二三日  
贈り来し歌を葬參する

竹に乱る、竹の釣草

すべらぎの跡尋れば冬枯て

人なく月の汎渡るかも

狛犬の又もゆがみしほのぐに

浦の帆船のちとも動かず

奥の雨越シの小雨に吉野笠

桃青堂の門つゝる朝

丸 價 圏 兎 圏 兎 圭 執筆

(五四ウ)

金兔

あし丸

颪や一ふき花の雪を解く、天神森 平水  
土産に花の芳野を見る日哉、八幡 李風  
像前や紫ならぬ花の雲、白我  
螺の音や又一しきり花の雪、大住 鋤月  
関守に隔られたる桜哉、サガ 峨乙  
七曲りまがりて花のふき哉、長池 花月  
晴兼る空に花散疇哉、天神森 雨林  
散花に湯上りの身の赤さ哉、大住 子鬯  
ゆふ花に我もすこしと呼子鳥、野尻 魯長  
夜ざくらや世をすねもの、顔に散、天神森 五牛  
北山や花をうしろに家五軒、ヤハタ 巴水  
(五六ウ)

【校異】高岡本にはこの一句なく、一行分の空白がある。  
次句の「文瓜」の肩書を「ヤハタ」とする。

花の陰静りて夜と成にけり、文瓜  
花ちるや海へ嵐の曇り行、亀洞  
(五五オ)

ぬけ道をすれば初花咲にけり、江州堅田 歌雄  
暮かゝる空より花の薄白し、籬邑  
吹上て花なきかたの花曇、深川 梅二  
花を出てむかひ待けり山桜、豊前椎田 蘭丈  
(五五ウ)

武士の刀みじかしさくら狩、湖東八幡 芳志  
水ふくむ尾上の花や朝曇、伏水 梅斜  
咲初て若木の花の足くるし、在京若州 巴龍  
花を見る人を見に出る在処哉、和林  
(五七オ)

花に来て庵の普請の差図哉、泰渓  
山里や家もろともに花の雪、長道  
花を出て提灯ともすゆふべ哉、二雷  
初花や腰かける石の潦、壺山 虎白  
見あてたり花の葉の結ひ心、一堯  
(五八ウ)

おくれ來て葉桜の陰花の情、李明  
木隠れて誰やらゆするさくら哉、あふひ  
(五九オ)

散て後胸にうきけり花の情、鬼薊  
山間の水田にうつる桜かな、方広  
古き世に分入花の枝折哉、芹水  
花散し枝は日の澄あらし哉、駢丹  
まだ咲ぬ塩竈桜こがれけり、唇風  
手向なば猶清からむ雨の花、寒蓼  
吹おろす嵐も白きさくら哉、南涯  
花の駒月の鼠のおもひ哉、江蓼  
仙境は尋ぬべからず花の山、松翁  
花咲ぬ水も色みし谷の苔、芦翁  
櫻より乱れくて人憎し、車莫  
譽る中に散行彼岸桜哉、其龍  
山桜一日はあらし忍びたり、以夢  
みだれんとしてさ、曇桜かな、原水  
花を踏で紙屑拾ふ乞食哉、伴水  
幕串になすてふ花に虻の声、岡崎素柳改  
供養なり花の仏にあらし山、樗山  
花に来て庵の普請の差図哉、泰渓  
山里や家もろともに花の雪、長道  
花を出て提灯ともすゆふべ哉、二雷  
初花や腰かける石の潦、壺山 虎白  
見あてたり花の葉の結ひ心、一堯  
(五九ウ)

さくらーとばかり春のかぎり迄  
白妙やさくらにつもる人心  
花に風され共弥生なれば哉  
捻付し枝にも花のながめ哉  
申されぬ天のゆらぎや朝桜  
門のうち外もゆかしきさくら哉  
花散て翁の寝覚訪れけり  
花の下にはきためられし芥哉  
花の香やふりし頭の雪ならで  
帰るさや夜の花見る人に逢  
妻もたぬ身の上安き花見哉  
花守に道尋ねけり薄月夜  
言伝を文にそへけり花の頃  
あたら花筏へ散らす嵐哉  
花の嵐美人と見しは隠たり  
見る人に影のそひけり雨の花  
句となして遠きより来ぬ花の匂  
下駄はいてのぼる端山の桜哉  
花に染心しづむか泣上戸  
骨も身も代々に桜の翁かな  
一筋に道定りぬ花の中  
雨の日も花にいづるか桑門  
彼岸とて乞食すはれる花の陰  
誰酔てもどりし跡や散桜  
ちる花を放下が塵に畳けり  
いそがしや花見る席に小雨降  
花によるやめたのたゆたのうかれ人  
土産の花香に満る住居哉

九山凡二雀頂止履在貫可童尼哩尤青鯉園露台隆泉里樂嵐石窠阿鸞台百池志諺羅外忴美不犧兔夕玉牙松琶南來草美木貞黑樹

(五九ウ)

又たぐひ桜に月の面かな  
夕暮はちるよりかなし山桜  
誰が扇さくらに落す舞台哉  
清水にて

さくら／＼山見ぬこゝろマ  
いそがしき命よ花の一七日  
雨添も花しづかなり嵐山  
花咲や嵯峨野に霞土ぼこり  
立傘に駅路の桜散にけり  
花にはなの散かゝる山の姿  
朝桜未頼しき日数かな

【校異】高岡本の本文はこ  
さくら見るこゝろ叱るぞ市  
花に雨たまに女房の出る日  
雨の花うしや美人の骨を打  
知る人を覗き歩行の花見哉  
一日のぬしとみえけり花の  
ちる花に地を匍匐童二人哉  
みよしの、旅人も戻れ花供  
花曇紙に蚕の命かな

散がてや一重桜の近まさり  
旅人と我名呼れんはつ時雨  
いく霜むすぶ篠の古道  
西南の山松風に門さして  
色よき柿を繩につらぬる  
かたわれの月に車をおりた  
水の上にも虫の音を鳴

南明 不成 素流 夏夕 渭水 翁 改 闡更 木葉 其成 竽哨 路月 渡牛 志江 漢水 米駒 得終 松蒼 杜桂 紫水 芦涯 土卵 沙長 白黛 墨古 光曉

(一〇)  
うみ萼する桶に昔の忍ばれて  
かいはいはみな腹あしき人  
桑の木に結び付たるつり狐  
星は夜明のむら雲に入  
うたかたとなり行恋の瘦からだ  
火打ぶくろを贈る別路  
鯨取つくしは人の頑に  
からかみうたふ月の小社  
蓑の毛の細きを風の吹通し  
みなしごといふ草とひに行  
山陰の花見法師と聞へたり  
窓さしのぞくささらぎの末  
蛤をにじる湯町の裏通り  
夕陽あかく鷦鳴なり  
ふし染の着ならし衣手を組て  
妻にあはじと思ひさだめり  
酒に身をきのふは駿河けふは伊豆  
四月は夢のあとなかりけり  
高杯に残のもし打けちて  
供御とりちらしみな船に乗  
櫛柴や葉分の風の吹からに  
病鹿の来るひはり戸の本  
月よしと枕につくる青つざら  
死をくれたる露の命ぞ  
円物のあそび三度の御使  
波しづまつて谷ぐの鐘  
榎木笠花は白きをうつろはず  
見入のあさき家にすくも焚  
春の心の今もおなじく

(六四才) (六三爻) (六二爻) (六一爻)

手向

月やあらぬ松は昔を時雨けり  
遠き世の今宵や霜に心澄  
したふむかし霜の梢を月と花  
鳴衡ふるきをしたふ浦の波  
見ぬ世したふ蝦夷やうるまや松の霜  
一時雨あとからも来て冬の月  
世は水離ひとり今宵の月寒し

右

遅来

南明 不成 素流  
夏夕 菊露 渥水 花明

(六四ウ)

花か雲か妻木樵る男に物申

洛未物

笠ぬいで娘のひろふ花見かな

肥前平戸月岬改竹溪

けふの雨花は曇もなかりけり

信州飯田蘭二

すでに花の時来るけふの盛哉

洛都水

暮行や花の末なる雪白し

加州衆山

(六五オ)

咲花や園の詠の絶間なき

柏舟

親しみの友訪ふ日あり山桜

雅松

誘はれて見ぬ初花の朝氣哉

一馬

桜咲ほこり立日の最中哉

能州輪島李席

世の中やうとき人には遅桜

勢州白子宇兆

洛のはせを堂を思ひ出て

信州飯田蕉雨

咲花に夜は包まる、庵かな

蕉雨

夜の桜さくらは闇を埋みけり

壺伯

花物をいはねど庵の往来哉

備中倉敷無涯

洛東 芭蕉堂藏板

(裏表紙見返し)



花咲て雲こそ移れ桜川	、	
花咲や奈良静なる盧遮那仏	、	
朧夜のおしてる花や難波寺	、	
山里は花の七日の月夜哉	、	自楽
鐘遠し花の辺の薄曇	、	長齋
石原の桜こたへてあらし哉	加州金沢	黎松
	浪華	器友
	、	
かつほ木や鑑石光る朝ざくら	上毛草津	鷺白
花の山時なし寺ぞこのましき	、	白英
夕栄や照あふ花の真白なる	、	涼眉
花に出て中直りたる男かな	、	菅菰
世の花に人も咲添ふ如く也	、	魚柵
よの中うきは桜のさかり哉	相州猿ヶ島	丈水
五十年を心にもてり花一夜	、	半素
自ら月の被やいとざくら	、	芯山
月影にうこん桜を尋けり	武州勤使河原	快馬
思はずもやしきに入やさくら花	、	無塵
知る人にあふや花さく西東	伊丹	東瓦
水貰ふ隣は遠し山ざくら	加州	更々
雨晴や花ある里の朝朗	江州貝津	其月
しづけさや朧に匂ふ夜のはな	但馬	五雁
花守の文やとゞきて初桜	江州万木	東嶺
花遲き桜は常のあらし哉		
我ために守にはあらじ花の山	東武入間ノ里	觀心
四方の花目にあまりたる峠哉	、	朝霧
遠近の鐘静なり花の時	、	川柳
此はなに狩なす人も浮世哉	、	大兆
雪折の片枝は淋し山桜	、	白羽
山寺の桜咲けり夕べ雨	、	喜久仙

(五ウ)

(五オ)

(四ウ)

をしや散る額に花のへばり付	、	桃栄	（六オ）
咲初し千もとの花に桜人	、	瑞宜	
散ればこそ詠もふかき花の山	、	園蝶	
実花や大名通る此あたり	、	麦岱	
宮つこも三井寺諷ふ桜哉	浪花	素吼	
風の音花のよすがのかたごろ	江州万木	北嶺	
獨来て独帰るや山ざくら	、	加茂	堅山
花の雪煙の下を清めけり	筑前甘木	布館	
飲水を垂けり嵯峨の花の川	江州信樂	九岡	
白雲の落ざま見たり花の山	、	一道	
花散や日も闌に鐘霞	西湖万木	素更	
花を踏んちさく見ゆ東大寺	上毛島村	万戸	
薄暮や桜に埋む鐘の声	紀州三鍋	九臯	
夜桜に蠟燭壳をとゞめけり	但州和田	蘭山	
たちもどり手の花とはん著長し	能州	破巾	
からむしの布織軒や遅桜	飛州	東籬	
中の二日有無のなか也花の中	但州	木姿	
乱る花やかしき世とは思ひ共	越中東水橋	厥叟	
うき我を世にあらせたる桜哉	勢州四日市	化蝶	
分入て杣に物とふ桜かな	寺方	里朝	
行あたる人なつかしやさくら狩	信州林	柳枝	
鳶つがひ吹わかれけり花の空	風子		
山ざくら駒は月毛の麓哉	、	飯田	里風
煙たゞよふ幕の春風	、	柳枝	
姑射山へ入かよ花にうかれ人	、	柳枝	
陽炎消る草にぬる蝶	、	里風	
岡の桜雨夜に千鳥のぼりけり	羽州左沢	露橋	

羽州左沢  
露橋

(六ウ)

(七オ)

(八ウ)

花の色や姥と名を呼桜しも	、	白賞	（九オ）
世わたりや占かた囂花の陰	、	素風	
梶や笑はれに出る花曇り	芸州能美島	雨丹	
人しらぬ深山に在て桜哉	城南八幡	班狸	
なめて見んさくらがもとの滌	一草		
花もどり夕轟や渡月橋	阿州西分	羽角	
床しけれ花守が身の夕心	奥南部行脚	一古	
散ことのあるで桜もさくら也	浪華	蕪城	
花見るや雲の上人世すて人	甲州三日市	一古	
地の底の蟬見付たり遅桜	予州今張	巻玉	
船玉に夷の国の桜かな	、	車南	
賤の女といはれて花の主哉	、	古冬	
葉ざくらや隣は今を遅ざくら	、	李風	
桜生て硯壳嵯峨の町家哉	、	卯七	
日斜や鳥夫ぐを花に啼	江戸	松蘿	
みよしの、花や十年二十年	播州小野	君中	
でかしたり桜分行まよひ道	、	国包	其跡
雁がねの帰る名残や花の客	、	沽節	
折花は孫の手にあり山ざくら	肥前佐賀	春菴	
山畑やさくら散こむ桔槔	能州竹之津	瀧の坊	
花の頃留守の戸に迄匂ひ哉	甲州逸見	利躬	
見返れば月の影さす桜哉	上州	雨翠	
透し見る桜に二日月夜哉	、	木工	
翌日ありと思へど惜しや夕桜	、	文和	
夕日さす谷へ散行さくら哉	、	柳雪	
短冊は桜の中のさくら哉	、	前橋	香風
船とめん浦山ざくら日の静	、	庭山	

月の出て又見る夜の桜哉  
眼うつりに辺の寂る桜かな　信州浅野　株甫  
日は入て山又白しさくら狩　、　栗之  
島山やさくら咲日の朝ぼらけ　上毛大原　青蒲  
出不肖の必くもる桜かな　　芸州広島　ふみ  
咲初て雲も八重たつ桜哉　江戸　一甫  
人老ぬ今年も花の見事成　甲州暮地　琴水  
花さくや何とせぬ身も暮惜き　肥前　頂華  
帰りには枝折尋ん花の山　、　佐賀　嘯風  
日落てもしばしあかるき桜哉　遠州　幾久松  
切株やのぼりてあそぶ山桜　但州　蘭山　白老  
人群る花も六日の野山哉　　越中放生津  
鳴呼桜哉と感じて一句なし　　讚州　如竹  
桜／＼もえなん峰の入日哉　　城南　魯長  
桜咲て名馬ほしがる奈良法師　不木  
有漏無漏の境はいかに散桜　　讚州　吐鳥  
河音や花に着せたき夜の衣　粟津義仲寺　重厚  
こもりたき夜の桜や鞍馬寺　　、　班鳩  
又も花見よとて延し命かも　信州長瀬連月下坊　黒水  
三人のたはれ見にけり花の奥　、　平松亭　有声  
草の上にありたき物や散桜　、　不可  
初ざくら咲や山部の村はづれ　、　草耳  
木菟の眠りて寒し朝桜　、　斧山  
夕日さす寺や桜の下あかり　、　鬼笑  
雲と見る山迄つゞく桜哉　、　依山  
散花を紙に包んで帰けり　、　白龜  
咲や此さくらの中の鐘青し　、　春翠  
此あたり水白妙に花の雲　　長州赤間関　花休

あけぼのをこぼる、花の匂ひ哉  
かたぐ日の花に埋みし人は誰ぞ、鶴翁  
桜さく月の谷川夜明たり、嘉慶  
花やさくら高根はづれし雲もなし、里山  
眠なば花に莊子の夢もがな、水口、蜃州  
あまつゝ花も見えけり淡路島、江州岩根、桂石  
見ゆるもの皆いさぎよし花の山、甲州小沼、素蘭  
さくら咲並木のおくや白の音、、婦川  
桜咲て余所に名をうる片山家、郡内、維清  
花の山路桜狩とは覚束な、、暮地、隣車  
船つけば岩間隠れの山ざくら、武州深谷、素山  
居所も定めず花の飛鳥山、、烏東  
花に欲くれて淋しきもどり哉、、秋好  
花に来てうき世の外ぞ芳野山、、如雷  
旅人の笠に着て来る雨の花、、羅門  
君来ぬと桜の中の枝折かな、龍州、五雲  
道くや花の栞に鳥の啼、勢州雲出、菊羽  
蝕ばれて桜をちらす夕日哉、東武行脚、花縣  
手をうてば夕鳥花にさはぐ也、勢州津、方鳥  
ふいと来て桜にあそぶ夕哉、、轍左  
鳥は音のよくもかれざるぞ花雲、、内宮、右竹  
鶏の音に思ひ明すや花日和、豊前田川、蘭丈  
渓路や花ものいはず新しき、上毛西牧、白質  
居ながらに老の花見や千里鏡、、春昌  
花盗み呵れば母へと申けり、、長左  
世の中や花に心の水かゞみ、、阿石

(一〇)	雨祈る神もましませ花盛	さくら咲ころの松風色みたり 遠州浜松 白輶	咲初る花に風吹夕かな	木舟 雪桃	龍山
(一〇)	在明や四五軒ならぶ花の庵	加州金沢 春睡	果しなき世とは思へどはつ桜	、 眠和	
(一〇)	それ鞠のしばしみへけり花の中	、 魚夫	鯨寄る浦もさくらの旭かな	、 車大	(一三〇)
(一〇)	提灯の古めく花の戻り哉	越中 白木			
(一〇)	あこがれて花見世帯の奈良の里	、 如龍	花に出て氣はしかうなる女哉	、 野寺村	
(一〇)	新しき斧の跡ありはつざくら	、 噴鳳	在明や臘の花にかしこまり	、 此君	
(一〇)	うるはしく花の明りや幕の内	、 小杉 飲河	夕月の西照る花の木の間哉	、 エビエ邑	
(一〇)	響すな花の辺の薪伐	浪花 尺艾	池の桜散るは空なるさくら哉	、 大西	
(一〇)	三歳の背くらべ桜咲にけり	江州堅田 歌雄	花を照日洩てうれし吾が齡	、 加州 馬伝	
(一〇)	里ぐはみな留守もりの桜哉	芸州竹原 大椿	響すな花の辺の薪伐	、 越前敦賀 五鼎	(一三〇)
(一〇)	初老の春				
(一〇)	詠入て花にまどはぬ心かな				
(一〇)	花の山嘶く馬のふもと哉	大坂 還竹			
(一〇)	霞の中を通ふ鐘の音	、 長齋			
(一〇)	炉をふさぐ比は茶臼に眠るらん	、 英			
(一〇)	おもしろい名の手紙来る也				
(一〇)	座蒲団をはこぶ小船に八日月				
(一〇)	芦とすゝきに露の玉散				



蝶追ふて童につる、桜かな ゆふ月や騎射の嵐に桜ちる	朝さくらさすがに障る物もなし 東都 捨来 越前丸岡 八矢
花景の浮島松や柏かげ 紙鳶老と児との道すがら	鐘は霞で浪はさら／＼ 篠葉草根に風は落たり
月さへて瑞の鳴行里あらし 器氷りて豆腐ひく比	花は霞で浪はさら／＼ 篠葉草根に風は落たり
雲と咲雪に似て散桜哉 花咲て三日は空をあんじけり	月は雲に隠れもするを雨の花 月影の更て見付し花の露
雨の日や花に飢たる人の顔 夜桜や菰きた僧の物がたり	谷川や水は濁りて花の陰 鶯を尋てゆけばはつ桜
きぬぐ／＼や桜に雲のはなれ際 竹馬の鞍打つれて花見哉	柴の戸や花の香を吹七つ嶺 山ざくら我より先に人の音
水白し花に曇れる人の声 惜しやかゝる花に人なし朝朗	花七日石に雉子鳴朝ばらけ 軒の曇遠山桜咲ぬらん
ほのめくやとぎれ／＼に遅桜 散る迄も見からす花の主かな	堅神といへる里にて 春もまだ過かた神や遅桜
ちる花や風なく見せる花の奥 分のぼる六部の鉢や花の山	桜散陰を神輿の鏡かな 生船に花散城の出崎かな
古道は覚束なくも桜かな 朝船の遠山ざくらうごく也	馬乗らぬ坂に篠家の遅桜 花に来て嘵おかしき昼間哉
散花に昔しのぶや小町塚 昼中は人に動かん山ざくら	鐘遠く日をかへたる露桜 暮をしと跡じさりする桜かな
柏翠 紫石	曙に水汲花のふもと哉 夜桜やはたち若くば反吐踏ん
芳志	花越て誰やら呼し我名哉 一日の雨光りけりはつ桜
五渡	往し花に白眼之助と申けり 散花に長き思ひの醜かし
東流	長閑さや花にほたへる牛の声 醉醒の見る物にせん散桜
古光	古ざれし誰が塚なるぞ花の下 此はなにうき世を捨て庵主哉
芦風	花守に羽織たまはる国司哉 代官の花見制して花見哉
如水	花に心借る宵や雨曇り
如竹	(二二一ウ)
柏翠	河内郡づ 古光
紫石	柏翠
芳洲	芳洲
魯益	魯益
梨水	(二四一オ)
伊賀上野 未塵	伊賀上野 未塵
芸州竹原女 舌向	芸州竹原女 舌向
丹州龜山 全瓦	丹州龜山 全瓦
筑前 君花	筑前 君花
嵯峨 峨乙	嵯峨 峨乙
阿波 如陰	阿波 如陰
、女 芝蘭	、女 芝蘭
、世良田 穂月	、世良田 穂月
志州烏城 蒼梧	志州烏城 蒼梧
上毛龜丘 笑魚	上毛龜丘 笑魚
、尾島 官橋	、尾島 官橋
、亀丘 杵臼	、亀丘 杵臼
出雲 藏撲	出雲 藏撲
、蕉雨	、蕉雨
丹波梶原 洞々	丹波梶原 洞々
牛河内 東畦	牛河内 東畦
、上田 暮来	、上田 暮来
加州金沢 周馬	加州金沢 周馬
肥前有田 波声	肥前有田 波声
、雪巣	、雪巣
、島原 陀雲	、島原 陀雲
、白狼	、白狼
、董里	、董里
、神代 仙鳥	、神代 仙鳥
、呂柏	、呂柏
斎我	斎我
(二一九ウ)	(二一九ウ)
（二二〇）	（二二〇）
（二二一ウ）	（二二一ウ）
（二二二ウ）	（二二二ウ）
（二二三ウ）	（二二三ウ）
（二二四ウ）	（二二四ウ）
（二二五ウ）	（二二五ウ）
（二二六ウ）	（二二六ウ）
（二二七ウ）	（二二七ウ）
（二二八ウ）	（二二八ウ）
（二二九ウ）	（二二九ウ）
（二二一〇）	（二二一〇）
（二二一一）	（二二一一）
（二二一二）	（二二一二）
（二二一三）	（二二一三）
（二二一四）	（二二一四）
（二二一五）	（二二一五）
（二二一六）	（二二一六）
（二二一七）	（二二一七）
（二二一八）	（二二一八）
（二二一九）	（二二一九）
（二二二〇）	（二二二〇）
（二二二一）	（二二二一）
（二二二二）	（二二二二）
（二二二三）	（二二二三）
（二二二四）	（二二二四）
（二二二五）	（二二二五）
（二二二六）	（二二二六）
（二二二七）	（二二二七）
（二二二八）	（二二二八）
（二二二九）	（二二二九）
（二二二一〇）	（二二二一〇）
（二二二一一）	（二二二一一）
（二二二一二）	（二二二一二）
（二二二一三）	（二二二一三）
（二二二一四）	（二二二一四）
（二二二一五）	（二二二一五）
（二二二一六）	（二二二一六）
（二二二一七）	（二二二一七）
（二二二一八）	（二二二一八）
（二二二一九）	（二二二一九）
（二二二二〇）	（二二二二〇）
（二二二二一）	（二二二二一）
（二二二二二）	（二二二二二）
（二二二二三）	（二二二二三）
（二二二二四）	（二二二二四）
（二二二二五）	（二二二二五）
（二二二二六）	（二二二二六）
（二二二二七）	（二二二二七）
（二二二二八）	（二二二二八）
（二二二二九）	（二二二二九）
（二二二二一〇）	（二二二二一〇）
（二二二二一一）	（二二二二一一）
（二二二二一二）	（二二二二一二）
（二二二二一三）	（二二二二一三）
（二二二二一四）	（二二二二一四）
（二二二二一五）	（二二二二一五）
（二二二二一六）	（二二二二一六）
（二二二二一七）	（二二二二一七）
（二二二二一八）	（二二二二一八）
（二二二二一九）	（二二二二一九）
（二二二二二〇）	（二二二二二〇）
（二二二二二一）	（二二二二二一）
（二二二二二二）	（二二二二二二）
（二二二二二三）	（二二二二二三）
（二二二二二四）	（二二二二二四）
（二二二二二五）	（二二二二二五）
（二二二二二六）	（二二二二二六）
（二二二二二七）	（二二二二二七）
（二二二二二八）	（二二二二二八）
（二二二二二九）	（二二二二二九）
（二二二二二一〇）	（二二二二二一〇）
（二二二二二一一）	（二二二二二一一）
（二二二二二一二）	（二二二二二一二）
（二二二二二一三）	（二二二二二一三）
（二二二二二一四）	（二二二二二一四）
（二二二二二一五）	（二二二二二一五）
（二二二二二一六）	（二二二二二一六）
（二二二二二一七）	（二二二二二一七）
（二二二二二一八）	（二二二二二一八）
（二二二二二一九）	（二二二二二一九）
（二二二二二二〇）	（二二二二二二〇）
（二二二二二二一）	（二二二二二二一）
（二二二二二二二）	（二二二二二二二）
（二二二二二二三）	（二二二二二二三）
（二二二二二二四）	（二二二二二二四）
（二二二二二二五）	（二二二二二二五）
（二二二二二二六）	（二二二二二二六）
（二二二二二二七）	（二二二二二二七）
（二二二二二二八）	（二二二二二二八）
（二二二二二二九）	（二二二二二二九）
（二二二二二二一〇）	（二二二二二二一〇）
（二二二二二二一一）	（二二二二二二一一）
（二二二二二二一二）	（二二二二二二一二）
（二二二二二二一三）	（二二二二二二一三）
（二二二二二二一四）	（二二二二二二一四）
（二二二二二二一五）	（二二二二二二一五）
（二二二二二二一六）	（二二二二二二一六）
（二二二二二二一七）	（二二二二二二一七）
（二二二二二二一八）	（二二二二二二一八）
（二二二二二二一九）	（二二二二二二一九）
（二二二二二二二〇）	（二二二二二二二〇）
（二二二二二二二一）	（二二二二二二二一）
（二二二二二二二二）	（二二二二二二二二）
（二二二二二二二三）	（二二二二二二二三）
（二二二二二二二四）	（二二二二二二二四）
（二二二二二二二五）	（二二二二二二二五）
（二二二二二二二六）	（二二二二二二二六）
（二二二二二二二七）	（二二二二二二二七）
（二二二二二二二八）	（二二二二二二二八）
（二二二二二二二九）	（二二二二二二二九）
（二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二一一）	（二二二二二二二一一）
（二二二二二二二一二）	（二二二二二二二一二）
（二二二二二二二一三）	（二二二二二二二一三）
（二二二二二二二一四）	（二二二二二二二一四）
（二二二二二二二一五）	（二二二二二二二一五）
（二二二二二二二一六）	（二二二二二二二一六）
（二二二二二二二一七）	（二二二二二二二一七）
（二二二二二二二一八）	（二二二二二二二一八）
（二二二二二二二一九）	（二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二二二二二七）
（二二二二二二二二二二二二二八）	（二二二二二二二二二二二二二八）
（二二二二二二二二二二二二二九）	（二二二二二二二二二二二二二九）
（二二二二二二二二二二二二二一〇）	（二二二二二二二二二二二二二一〇）
（二二二二二二二二二二二二二一一）	（二二二二二二二二二二二二二一一）
（二二二二二二二二二二二二二一二）	（二二二二二二二二二二二二二一二）
（二二二二二二二二二二二二二一三）	（二二二二二二二二二二二二二一三）
（二二二二二二二二二二二二二一四）	（二二二二二二二二二二二二二一四）
（二二二二二二二二二二二二二一五）	（二二二二二二二二二二二二二一五）
（二二二二二二二二二二二二二一六）	（二二二二二二二二二二二二二一六）
（二二二二二二二二二二二二二一七）	（二二二二二二二二二二二二二一七）
（二二二二二二二二二二二二二一八）	（二二二二二二二二二二二二二一八）
（二二二二二二二二二二二二二一九）	（二二二二二二二二二二二二二一九）
（二二二二二二二二二二二二二二〇）	（二二二二二二二二二二二二二二〇）
（二二二二二二二二二二二二二二一）	（二二二二二二二二二二二二二二一）
（二二二二二二二二二二二二二二二）	（二二二二二二二二二二二二二二二）
（二二二二二二二二二二二二二二三）	（二二二二二二二二二二二二二二三）
（二二二二二二二二二二二二二二四）	（二二二二二二二二二二二二二二四）
（二二二二二二二二二二二二二二五）	（二二二二二二二二二二二二二二五）
（二二二二二二二二二二二二二二六）	（二二二二二二二二二二二二二二六）
（二二二二二二二二二二二二二二七）	（二二二二二二二二二二二二二二七）

散花に睡りし牛の涎かな 、 兔丈  
 花に酌酒や客なし主なし 、 完雅  
 路守に白銀くれつ花の人 、 春喬  
 夷等が肉ぶとりけり島の花 、  
 やどり木の花見てこれも桜哉 、 越後荒井 如蘭  
 ちる花と共に大井の水も行 、 肥後熊本 亀令  
 酔る花のあく迄床し芳野山 、 長浜 翔月  
 花の雲牛鳴車やどりかな 、 江州彦根 水石  
 何事に出るも花見けしき哉 、 行脚 石蘭  
 花に出て人近き人と呼れけり 筑前芦屋 希玉  
 花と月清めば昔がたりかな 、 白志  
 夜桜や人間に富貴鳥貧し 、 浪花 一炊庵  
 片枝に吹矢の跡や山ざくら 、 亀丈  
 六歳ぶり嵐もあらず桜哉 、 江州江頭 築庵  
 夜ざくらや草に洒ふく白拍子 、 越前敦賀 沢雉  
 花に付し毛虫を憎む翁哉 、 甲州暮地 隣車  
 諷ふ声花に沈むや日の暁 、 肥前平戸 魚翁  
 花の香や露の下闇明初ず 、 江戸 完来  
 いにしへよ今よ桜の散寒み 、 午心  
 初ざくら今年命の手際哉 、 浪花 大江丸  
 いつとなく浪に開くや磯桜 、 日向美々津 吟龍  
 花を見る乞食や昔何の果 、 越前敦賀 松琴  
 花に寝て狐の姿見付たり 、 江州石部 亀渕  
 待をしむ花の心の老もせず 、 東都宗讚  
 門の花さいて主の留守七日 、 、 百恐  
 夕闇や花散あととの梢より 、 江州平松 亞溪  
 黒のみだれめだちぬ花の陰 、 、 女志宇  
 又雲にわれいざなふか山桜 、 奥津輕 五英  
 白雲に雲たつ雨の桜哉 、 浪花 如流

(二四四)

初花やゆふべの雨のぬくみより 、 詩虹  
 大原女の袷ははやし初桜 、 玉房  
 口あいた人ばかり也花の山 、 梅邦  
 御園より薄茶召けり夕桜 、 蘇雄  
 羽根つよく蝶狂ひけり遅桜 、 龍州黒島 珠ト  
 天の戸やさくらに曇る鳥の声 、 玻井  
 夜桜に奥の見えすく揚家哉 、 柳汀  
 蝶鳥に梢の花のちる日哉 、 布遊  
 夜鴉の花におぼれてや鳴巡る 、 錦川 玉史  
 花に出て人近き人と呼れけり 筑前芦屋 希玉  
 花と月清めば昔がたりかな 、 白志  
 夜桜や人間に富貴鳥貧し 、 浪花 一炊庵  
 片枝に吹矢の跡や山ざくら 、 亀丈  
 六歳ぶり嵐もあらず桜哉 、 江州江頭 築庵  
 夜ざくらや草に洒ふく白拍子 、 越前敦賀 沢雉  
 花に付し毛虫を憎む翁哉 、 甲州暮地 隣車  
 諷ふ声花に沈むや日の暁 、 肥前平戸 魚翁  
 花の香や露の下闇明初ず 、 江戸 完来  
 いにしへよ今よ桜の散寒み 、 午心  
 初ざくら今年命の手際哉 、 浪花 大江丸  
 いつとなく浪に開くや磯桜 、 日向美々津 吟龍  
 花を見る乞食や昔何の果 、 越前敦賀 松琴  
 花に寝て狐の姿見付たり 、 江州石部 亀渕  
 待をしむ花の心の老もせず 、 東都宗讚  
 門の花さいて主の留守七日 、 、 百恐  
 夕闇や花散あととの梢より 、 江州平松 亞溪  
 黒のみだれめだちぬ花の陰 、 、 女志宇  
 又雲にわれいざなふか山桜 、 奥津輕 五英  
 白雲に雲たつ雨の桜哉 、 浪花 如流

(二六〇)

初花やゆふべの雨のぬくみより 、 詩虹  
 大原女の袷ははやし初桜 、 玉房  
 口あいた人ばかり也花の山 、 梅邦  
 御園より薄茶召けり夕桜 、 蘇雄  
 羽根つよく蝶狂ひけり遅桜 、 龍州黒島 珠ト  
 天の戸やさくらに曇る鳥の声 、 玻井  
 夜桜に奥の見えすく揚家哉 、 柳汀  
 蝶鳥に梢の花のちる日哉 、 布遊  
 夜鴉の花におぼれてや鳴巡る 、 錦川 玉史  
 花に出て人近き人と呼れけり 筑前芦屋 希玉  
 花と月清めば昔がたりかな 、 白志  
 夜桜や人間に富貴鳥貧し 、 浪花 一炊庵  
 片枝に吹矢の跡や山ざくら 、 亀丈  
 六歳ぶり嵐もあらず桜哉 、 江州江頭 築庵  
 夜ざくらや草に洒ふく白拍子 、 越前敦賀 沢雉  
 花に付し毛虫を憎む翁哉 、 甲州暮地 隣車  
 諷ふ声花に沈むや日の暁 、 肥前平戸 魚翁  
 花の香や露の下闇明初ず 、 江戸 完来  
 いにしへよ今よ桜の散寒み 、 午心  
 初ざくら今年命の手際哉 、 浪花 大江丸  
 いつとなく浪に開くや磯桜 、 日向美々津 吟龍  
 花を見る乞食や昔何の果 、 越前敦賀 松琴  
 花に寝て狐の姿見付たり 、 江州石部 亀渕  
 待をしむ花の心の老もせず 、 東都宗讚  
 門の花さいて主の留守七日 、 、 百恐  
 夕闇や花散あととの梢より 、 江州平松 亞溪  
 黒のみだれめだちぬ花の陰 、 、 女志宇  
 又雲にわれいざなふか山桜 、 奥津輕 五英  
 白雲に雲たつ雨の桜哉 、 浪花 如流

(二八〇)

初花やゆふべの雨のぬくみより 、 詩虹  
 大原女の袷ははやし初桜 、 玉房  
 口あいた人ばかり也花の山 、 梅邦  
 御園より薄茶召けり夕桜 、 蘇雄  
 羽根つよく蝶狂ひけり遅桜 、 龍州黒島 珠ト  
 天の戸やさくらに曇る鳥の声 、 玻井  
 夜桜に奥の見えすく揚家哉 、 柳汀  
 蝶鳥に梢の花のちる日哉 、 布遊  
 夜鴉の花におぼれてや鳴巡る 、 錦川 玉史  
 花に出て人近き人と呼れけり 筑前芦屋 希玉  
 花と月清めば昔がたりかな 、 白志  
 夜桜や人間に富貴鳥貧し 、 浪花 一炊庵  
 片枝に吹矢の跡や山ざくら 、 亀丈  
 六歳ぶり嵐もあらず桜哉 、 江州江頭 築庵  
 夜ざくらや草に洒ふく白拍子 、 越前敦賀 沢雉  
 花に付し毛虫を憎む翁哉 、 甲州暮地 隣車  
 諷ふ声花に沈むや日の暁 、 肥前平戸 魚翁  
 花の香や露の下闇明初ず 、 江戸 完来  
 いにしへよ今よ桜の散寒み 、 午心  
 初ざくら今年命の手際哉 、 浪花 大江丸  
 いつとなく浪に開くや磯桜 、 日向美々津 吟龍  
 花を見る乞食や昔何の果 、 越前敦賀 松琴  
 花に寝て狐の姿見付たり 、 江州石部 亀渕  
 待をしむ花の心の老もせず 、 東都宗讚  
 門の花さいて主の留守七日 、 、 百恐  
 夕闇や花散あととの梢より 、 江州平松 亞溪  
 黒のみだれめだちぬ花の陰 、 、 女志宇  
 又雲にわれいざなふか山桜 、 奥津輕 五英  
 白雲に雲たつ雨の桜哉 、 浪花 如流

(二九〇)

風雲のしらみがちにも月は行  
 老には過し四里の山間 、 太麻  
 雨の花人なつかしくねまりつ、  
 後れやらじのまだらひしくひ 、 梅人  
 竿舟の小くらに帆の尾をたぐり  
 膝したゝる君に泣る、 、 普撰  
 梅甫  
 (二七〇)

風雲のしらみがちにも月は行  
 老には過し四里の山間 、 太麻  
 雨の花人なつかしくねまりつ、  
 後れやらじのまだらひしくひ 、 梅人  
 竿舟の小くらに帆の尾をたぐり  
 膝したゝる君に泣る、 、 普撰  
 梅甫  
 (二七〇)



右下略

花に寄れば麓の家の近劣り 桜咲て世に余さる、碁打哉 静さや花散里の火縄店  
 みやづかひ花に一日の隙もがな 百年も遊ばんさまや花の蝶 花の雲はづれにかはら底哉  
 桜咲て世に余さる、碁打哉 、魯長 、東吳 、岩坪鳥籠 、久々江北海  
 静さや花散里の火縄店 、鴻口白楊 、里秀 、虎白 、水芝  
 みやづかひ花に一日の隙もがな 、岩坪鳥籠 、東吳 、虎白 、水芝  
 、久々江北海 、虎白 、水芝  
 初ざくら柳の春を離たり 深く香をつゝむ心か山ざくら 朝付日うるみぬけたり雨後の花  
 、如嵐 、希言 、魯丁 、魯丁  
 、如嵐 、希言 、魯丁  
 朝音に人がらしるし庭の花 、堀岡香牛 、堀岡香牛  
 咲花に懷旧の情の発りけり 敷浪や磯山ざくらちりかかる 花の秉硯の水となす日哉  
 西肥諫早孤石 、雨夕 、芳笠  
 邯鄲の枕と花をしきね哉 邯鄲の枕と花をしきね哉  
 都友 、都友  
 花の狂阿蘭陀酒に人や醉 遠騎の裾野に暮る桜哉  
 梅路 、梅路  
 あけぼのや花のまに／＼雲動く 夕鶴啼や真白き山ざくら  
 文塘 、文塘  
 狩人の起ふし安し山桜 夕鶴啼や真白き山ざくら  
 、紅良 、紅良  
 此頃は桜に奢る山家哉 雲分て稀人去れりゆふ桜  
 肥前島原几睡 、常州水府真向  
 賑ひやさくらが中の紺毛氈 花一木其のち桜咲にけり  
 筑前福岡蘭亭 東都臨海主人春蟻  
 在朝鮮孚湫 奥州冥々  
 我心なやめる雨の桜かな 江西浦璣雀  
 雨の桜衣しほれば匂ひけり 江戸芦錚  
 此花に誰が夢見しそ枕紙  
 (三五ウ)

桜見や友選ぶ間の朝曇り 信州善光寺柳莊  
 岡の花人にも春をいそがする 、杜厚  
 茶のかてに木の実出しけり花の宿 、凡化  
 初ざくら柳の春を離たり 、如嵐  
 山ざくらかごとがましく月に散 、文兆  
 うちつれて花の迎に出かけたり 、希言  
 まつ風はあちらの谷や山桜 、浪花柏庭  
 世はかくぞ花に寝転ぶ借り蒲団 、播州龍野十洲  
 うち見やる桜は明し雨の人 上毛宮崎朔宇  
 十徳の人の世界や花の陰 、以貫  
 雨恋し蒼桜に日の斜  
 暮を散花よ女の長羽織  
 夕栄や乙鳥のぐゑる花の波 、安中夢中斎  
 花ざかり昼も月夜も休かな  
 花に終見ほれ／＼て俄雨 、中宿佐保  
 うつり行花の下水影澄ぬ  
 加州石堂  
 夕されば漸静まりぬ花の声 、伏水あし丸  
 野の宮や桜にひくき朝の月 、金兎  
 山ざくら女の醉も憎からず 、錦團  
 さくらのみ風吹やうに思ひけり 、梅價  
 花散するもの見付たり鳥の声 、信州岷山  
 物がたき人や桜に片苗字 奥州一ノ関扣角  
 心こゝにありて乱る、桜かな 豊前有隣  
 花のため人の肥たる弥生哉 月峰  
 鶯は何處へなぐれて雨の花 芦涯  
 八丁の道廻りけり山ざくら 駢丹  
 (三六オ)

朝和やつもる共なき花の色 夕桜露にまがへて暮にけり  
 花もるや花過し人の閑なる 巡りあふ都の花や双林寺  
 花最中轉ん鳥は寝にも来ず 花風情足る花にむかへば月匂ふ  
 風情足る花にむかへば月匂ふ  
 木貞  
 鬼夕  
 鬼角  
 其白  
 都水  
 南來  
 松琶  
 米駒  
 不豺  
 竿哨  
 其成  
 芹水  
 南榮  
 東適  
 黒樹  
 菊後  
 觥雅  
 二雷  
 寒蓼  
 杜桂  
 尼俚尤  
 甫尺  
 白黛  
 檜雪  
 唇風  
 五六  
 (三七ウ)

桜見や友選ぶ間の朝曇り 信州善光寺柳莊  
 岡の花人にも春をいそがする 、杜厚  
 茶のかてに木の実出しけり花の宿 、凡化  
 初ざくら柳の春を離たり 、如嵐  
 山ざくらかごとがましく月に散 、文兆  
 うちつれて花の迎に出かけたり 、希言  
 まつ風はあちらの谷や山桜 、浪花柏庭  
 世はかくぞ花に寝転ぶ借り蒲団 、播州龍野十洲  
 うち見やる桜は明し雨の人 上毛宮崎朔宇  
 十徳の人の世界や花の陰 、以貫  
 雨恋し蒼桜に日の斜  
 暮を散花よ女の長羽織  
 夕栄や乙鳥のぐゑる花の波 、安中夢中斎  
 花ざかり昼も月夜も休かな  
 花に終見ほれ／＼て俄雨 、中宿佐保  
 うつり行花の下水影澄ぬ  
 加州石堂  
 夕されば漸静まりぬ花の声 、伏水あし丸  
 野の宮や桜にひくき朝の月 、金兎  
 山ざくら女の醉も憎からず 、錦團  
 さくらのみ風吹やうに思ひけり 、梅價  
 花散するもの見付たり鳥の声 、信州岷山  
 物がたき人や桜に片苗字 奥州一ノ関扣角  
 心こゝにありて乱る、桜かな 豊前有隣  
 花のため人の肥たる弥生哉 月峰  
 鶯は何處へなぐれて雨の花 芦涯  
 八丁の道廻りけり山ざくら 駢丹  
 (三八ウ)

花の雲見る我上はさくら散 花の庭匂ふや鳥の声迄も  
 折／＼や花に隠る、人の声 蕃買て案内させばや山桜  
 蕃買て案内させばや山桜  
 花に眠り月に驚く夕哉  
 庭ざくら見る事まれに主ぶり  
 花あればこそ鳥も鳴人も笑へ  
 咲満て中／＼花の朧哉  
 眼澄てあけぼの、花寒かりき  
 月となりて鳥眼覚しぬ花の山  
 見とゞめて居れば曇れり遠桜  
 朝ぼらけ初て花を遠目哉  
 (三九オ)

折といふ手に散もうし山桜  
春十日仏めでたし花の寺  
折くは花もつれけりいと桜  
灯うつりや花に動ん夜の蝶  
花さかば告よ鞍馬の石運び  
眼を閉て心の花を見る日哉  
谷間の水音淒し夕ざくら  
花雲風はむ鳥の過けり  
桜みな露と成けり山かづら

醉機嫌花にまぶれて歩けり  
磯山や春を忘れぬ遅ざくら  
我も歌に詠入られつさくら人  
花曇袷着て居るひとり哉  
遠近も花によるべの蝶よ鳥よ

あけぼのや浅黄桜の空に移り  
雨はれて花心よき二十日かな  
恋にかへし桜に暮の嵐哉  
わりなしや茎ながら散雨の花  
夜ざくらや花の後の人の顔

遅ざくら一木がもとの雪吹哉  
花に暮て山松の戸を潜る哉  
花の雲天津桜と見やりけり  
花さそふ水の上にも盛かな

洛東 芭蕉堂藏板

(裏表紙見返し)  
(裏表紙)

鉢印 百々丞  
乙道  
蘭更

(四〇オ)

嘯山 閑空 斗雪 青鯉 都雀  
土卵 松蒼 可董 草美 柏嶺  
長道 (四〇オ)

左伴 竹風 蘇江 龍美 蘭子  
得終 応美 丈左 (三九ウ)





炎に癪をおとす沓持

我守星は消ざる北のかた

簾がこひ寒き軒の梅が、

名にそよぐ真葛原の花の鞠

蝶と鳥との行ちがふさま

人媚て月にも奢る桜かな

巡り来て春告草や花供養

両峰の桜移ふ堤かな

いく曲り大河も見たり花の山

山風のこゝろはなきやはつ桜

もどかしや匂ひの遠き舟の花

山ざくらかゝる処に住居哉

遠山や霞の中の花の滝

散花を惜むは浮世心哉

生鯛の嵯峨にゆかしき桜哉

よひ闇の間を眠るさくら哉

ゆふかけの花にも忍ぶ袖香炉

日最中やしぐれ桜の雪せり

灯火をしたふ鳥有夜の花

海山の便も遠きさくら哉

何鳥や巣をくふ花の枝高し

狩／＼て田舎へ出たる桜かな

我が見ると思ふは花に罪深し

咲初て葉に埋みけり犬桜

水清き花に遊べば塩遠し

端住や先初花の便よき

麦草の匂ひ通す柴籠

蝶鳥に飴壳の笛吹立て

ならべて置し瓦かはける  
月の頃すみて流る、小石川  
こぼれそめけり露の白萩  
新酒に旅のつかれや直すらん  
童たのみて捨る灰吹

能登黒島　玻井　母　由　ト　筆　（七ウ・9）

素玉　為本　巴陵　加由　都山　馬涼　蛙水　（八オ・10）

龍玉　有龍　思童　甫立

虎洞　（九オ・11）

飛声　龍至　振　晴　声

里晴　飛声　龍至　振　晴　声

かひなく水鶏たゞ須磨寺

越かたのあはれ恋歌の朽やらで

おもひひたぶる姿がいたつき

すが／＼と竹の林に月牙ぬ

霜ふる宿に屠る懶

ひとり身の人形造り店借りて

此ほど春の心地こそすれ

広前の夕日に榮し糸桜

佃にそよぐ苗代の風

四方は花鶏の音長う鳴暮す

世の中やあら事ぐし桜狩

遠里の花にこたゆるこだま哉

山賤の薪重からむ花雪吹

薄曇かきあげ城の桜哉

朝の月傍白し花のやま

心ちらぬ一木ぞ庵の遅桜

経の声すみ渡りけり山桜

花守にけふも来て顔みられけり

心地よく花咲揃ふ弥生哉

重荷せし牛も出て来る山桜

夕日さしてもる、深山の桜哉

晨風　虎洞　（九オ・11）

雨声　帰るさは見馳る連や花の暮

雪の後ふたび白し山桜

花の世や月さし残る山かづら

深山から都貰ふてはつ桜

市人の袴をきたる花見哉

夕暮や花は朝から静なり

雨晴て花の山とぞ成にけり

棧もあれや桜の雲つゞき

うき夜の曙さくら咲にけり

角たぬ山路なりけり桜狩

花に出て花に入日やよしの山

咲花にするどき樹ぐは隠れけり

洛志諺

青松葉負人いかにはつ桜

夕日もさらず田螺なく宿

南べりの小吹になれば春過て

あそぶ工夫のいつも世話しき

有明の鬼灯はみな籠破り

鳥のふみ消す沙の白露

末枯の鳴戸の船にけぶり立

鉄漿をつけたる僧のさぶらふ

何ひとつ箸にからぬ膳まはり

凌霄咲し朝のつれなき

むら雨の物いふやうに降かゝり

打ほかす角力のあと魚の骨

霧のあちらは鏡鉢のなる

魚飛で足もと狂ふ糸桜

帰るさは見馳る連や花の暮

雪の後ふたび白し山桜

花の世や月さし残る山かづら

深山から都貰ふてはつ桜

市人の袴をきたる花見哉

夕暮や花は朝から静なり

雨晴て花の山とぞ成にけり

棧もあれや桜の雲つゞき

うき夜の曙さくら咲にけり

角たぬ山路なりけり桜狩

花に出て花に入日やよしの山

咲花にするどき樹ぐは隠れけり

洛志諺

青松葉負人いかにはつ桜

夕日もさらず田螺なく宿

南べりの小吹になれば春過て

あそぶ工夫のいつも世話しき

有明の鬼灯はみな籠破り

鳥のふみ消す沙の白露

末枯の鳴戸の船にけぶり立

鉄漿をつけたる僧のさぶらふ

何ひとつ箸にからぬ膳まはり

凌霄咲し朝のつれなき

むら雨の物いふやうに降かゝり

打ほかす角力のあと魚の骨

霧のあちらは鏡鉢のなる

雨声　友甫

鷺白

龍玉

有龍

思童

甫立

虎洞　（九オ・11）

飛声　龍至　振　晴　声

里晴　飛声　龍至　振　晴　声

雨声　友甫

鷺白

龍玉

有龍

思童

甫立

虎洞　（九オ・11）

飛声　龍至　振　晴　声

里晴　飛声　龍至　振　晴　声

雨声　友甫

鷺白

龍玉

有龍

思童

甫立

虎洞　（九オ・11）

飛声　龍至　振　晴　声

里晴　飛声　龍至　振　晴　声

松の尾の花よ神輿を轟かす 皆かげろふの顔と成けり	閑なる日を降にけり花の雪	洛 路月	左 武
汲汐に磯山ざくら散やちれ 咲花にもの拾んと思ひけり	浪花 荷的(一二ウ・14)	寛雨(一四オ・16)	萬夫
夜桜にすぐれて人の寝よき哉 児をよぶ声こだまして花の奥	丹波櫻原洞々 、牛河内 東畦 、成松 琴牙	木戸先や暮行花に田螺鳴 ヒゴ山鹿 涼瓜	やよ花に水塗染ん山かづら 柳多 竹閑
昨日けふてるや桜の飛鳥川 夕桜さとや花の奥なる水車	、柏原月壺 、来田里竹	暮る迄日のてる山やはつ桜 越後塙沢 牧之	うかひして花吐谷の流かな 山ひとつ暮残たる桜かな
曙のさくら散日と成にけり 夕山にたまれば花の匂ひ哉	城南五牛 、無兆(二三オ・15)	山ざとや花の奥なる水車 夕桜さとや花の奥なる水車	夢なれや花にうかれし花心 暁の雲消残るさくら哉
散花を来てなく鳥の心哉 こゝまでは鮎ものぼるよ遅ざくら	加州本吉 壺石 洛 芹水	暮る迄日のてる山やはつ桜 越後塙沢 牧之	夙をよぶ声こだまして花の奥 児をよぶ声こだまして花の奥
水浴し鳥すぐりに來ぬけふの花 よぢ登りのぼる甲斐有山桜	伊勢津理玉 上毛矢川如雲	山ざとや花の奥なる水車 夕桜さとや花の奥なる水車	昨日けふてるや桜の飛鳥川 夕桜さとや花の奥なる水車
心うごく隅田の縄手や花の暮 望月にちりもはじめぬ桜哉	千々の桜皆我物と思ふかな うかれくつゝい有明の桜哉	心うごく隅田の縄手や花の暮 望月にちりもはじめぬ桜哉	朝の雲消残るさくら哉 暮る迄日のてる山やはつ桜
人とへば桜咲門と教けり 花幾日つもる碁磐の埃哉	肥前諫早梅江 霞紅 青呂 梅枝	人とへば桜咲門と教けり 花幾日つもる碁磐の埃哉	暮る迄日のてる山やはつ桜 越後塙沢 牧之
雲去てげに遠山の桜哉 苔より三たびさくらの風情哉	春葱 末略	雲去てげに遠山の桜哉 苔より三たびさくらの風情哉	暮る迄日のてる山やはつ桜 越後塙沢 牧之
さかり場の桜の下や鉢たゝき みち汐や磯山ざくら影うつす	上毛三倉 里水 如榮	さかり場の桜の下や鉢たゝき みち汐や磯山ざくら影うつす	暮る迄日のてる山やはつ桜 越後塙沢 牧之
花咲て世の春を知庵かな 朝まだき身ふるふ鳥や花零	花咲て世の春を知庵かな 朝まだき身ふるふ鳥や花零	花咲て世の春を知庵かな 朝まだき身ふるふ鳥や花零	花咲て世の春を知庵かな 朝まだき身ふるふ鳥や花零
木戸先や暮行花に田螺鳴 ヒゴ山鹿 涼瓜	木戸先や暮行花に田螺鳴 ヒゴ山鹿 涼瓜	木戸先や暮行花に田螺鳴 ヒゴ山鹿 涼瓜	木戸先や暮行花に田螺鳴 ヒゴ山鹿 涼瓜
うかひして花吐谷の流かな 夢なれや花にうかれし花心	うかひして花吐谷の流かな 夢なれや花にうかれし花心	うかひして花吐谷の流かな 夢なれや花にうかれし花心	うかひして花吐谷の流かな 夢なれや花にうかれし花心
暁の雲消残るさくら哉 山ひとつ暮残たる桜かな	暁の雲消残るさくら哉 山ひとつ暮残たる桜かな	暁の雲消残るさくら哉 山ひとつ暮残たる桜かな	暁の雲消残るさくら哉 山ひとつ暮残たる桜かな
谷ぐや風をはづれて花残る 野の花や二人は狭き石の上	、チクタ 一翠 、熊本 鳥酔	谷ぐや風をはづれて花残る 野の花や二人は狭き石の上	谷ぐや風をはづれて花残る 野の花や二人は狭き石の上
出船や入江を去て峰の花 我が植て幾年見つる桜哉	尺菊 李夕	出船や入江を去て峰の花 我が植て幾年見つる桜哉	出船や入江を去て峰の花 我が植て幾年見つる桜哉
温泉あがりや眠催す昼の花 日ざかりや雲静りて花の上	箕溪(一四ウ・16)	温泉あがりや眠催す昼の花 日ざかりや雲静りて花の上	温泉あがりや眠催す昼の花 日ざかりや雲静りて花の上
我が植て幾年見つる桜哉 日ざかりや雲静りて花の上	肥前島原 雪女	我が植て幾年見つる桜哉 日ざかりや雲静りて花の上	我が植て幾年見つる桜哉 日ざかりや雲静りて花の上
駒捨て花に更るやひまの駒 騎捨て花に更るやひまの駒	芦笛 兔月	駒捨て花に更るやひまの駒 騎捨て花に更るやひまの駒	駒捨て花に更るやひまの駒 騎捨て花に更るやひまの駒
曙とさくらが中の鳥かな 月落て灯つきぬ花の下	吐龍 利貞	曙とさくらが中の鳥かな 月落て灯つきぬ花の下	曙とさくらが中の鳥かな 月落て灯つきぬ花の下
花の麓日たゞ酒壳をみな哉 月落て灯つきぬ花の下	蘭谷 井	花の麓日たゞ酒壳をみな哉 月落て灯つきぬ花の下	花の麓日たゞ酒壳をみな哉 月落て灯つきぬ花の下
美しき髪ぶりほどきく 残らず伸し合歓の朝かけ	六 亭 井	美しき髪ぶりほどきく 残らず伸し合歓の朝かけ	美しき髪ぶりほどきく 残らず伸し合歓の朝かけ
若駒に一鞭くれて飛す也 あこが年賀に城ゆすりつ、	六 亭 井	若駒に一鞭くれて飛す也 あこが年賀に城ゆすりつ、	若駒に一鞭くれて飛す也 あこが年賀に城ゆすりつ、
あこが年賀に城ゆすりつ、 若駒に一鞭くれて飛す也	六 亭 井	あこが年賀に城ゆすりつ、 若駒に一鞭くれて飛す也	あこが年賀に城ゆすりつ、 若駒に一鞭くれて飛す也
月落て灯つきぬ花の下 花の麓日たゞ酒壳をみな哉	六 亭 井	月落て灯つきぬ花の下 花の麓日たゞ酒壳をみな哉	月落て灯つきぬ花の下 花の麓日たゞ酒壳をみな哉
、 朝隈の花を過行外山哉	(一五ウ・17)	、 朝隈の花を過行外山哉	、 朝隈の花を過行外山哉
雉子もそぞろに聳ものしつ 友どちと炉ふさぐ上に酒酌て	桃仙 (一五オ・17)	雉子もそぞろに聳ものしつ 友どちと炉ふさぐ上に酒酌て	雉子もそぞろに聳ものしつ 友どちと炉ふさぐ上に酒酌て
門に仕丁が嘶あらくれ 月代の砂に手習ふ曲形り	桃仙 (一五オ・17)	門に仕丁が嘶あらくれ 月代の砂に手習ふ曲形り	門に仕丁が嘶あらくれ 月代の砂に手習ふ曲形り
あそび絶せし事のうそ寒 花にくれてそぞろ柴焚男哉	鶴の鳴沢辺くに駕をやり 眞白き髭の歌を苦しむ	あそび絶せし事のうそ寒 花にくれてそぞろ柴焚男哉	あそび絶せし事のうそ寒 花にくれてそぞろ柴焚男哉
霞晴ても道にまよへる 乙鳥は心尽しの鳥ならん	桜の木五本からげて貢けり 随分米の旨き如月	霞晴ても道にまよへる 乙鳥は心尽しの鳥ならん	霞晴ても道にまよへる 乙鳥は心尽しの鳥ならん
硫黄木のほど匂ひける冬の夜に 門水に来る鈴鶴の声	鶴とりの戻りは雨のぼろつきて くづれぬほどの花表立たり	硫黄木のほど匂ひける冬の夜に 門水に来る鈴鶴の声	硫黄木のほど匂ひける冬の夜に 門水に来る鈴鶴の声
やつれ給ひし少将の君 炎の皮をめくりかけては	古郷や松物いはず味きなき 田禾 亭	やつれ給ひし少将の君 炎の皮をめくりかけては	古郷や松物いはず味きなき 田禾 亭

禾 良

柳多 竹閑

孤秀 狐秀

万井 丹波櫻原洞々

飄亭 子良(一六オ・18)

イセ津 蠶山

萬夫 丹波櫻原洞々

肥前島原 万果

枝かはす檜の中や山ざくら

桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら

柳多 竹閑

孤秀 狐秀

万井 丹波櫻原洞々

飄亭 子良(一六オ・18)

イセ津 蠶山

萬夫 丹波櫻原洞々

肥前島原 万果

枝かはす檜の中や山ざくら

桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら

柳多 竹閑

孤秀 狐秀

万井 丹波櫻原洞々

飄亭 子良(一六オ・18)

イセ津 蠶山

萬夫 丹波櫻原洞々

肥前島原 万果

枝かはす檜の中や山ざくら

桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら

柳多 竹閑

孤秀 狐秀

万井 丹波櫻原洞々

飄亭 子良(一六オ・18)

イセ津 蠶山

萬夫 丹波櫻原洞々

肥前島原 万果

枝かはす檜の中や山ざくら

桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら

柳多 竹閑

孤秀 狐秀

万井 丹波櫻原洞々

飄亭 子良(一六オ・18)

イセ津 蠶山

萬夫 丹波櫻原洞々

肥前島原 万果

枝かはす檜の中や山ざくら

桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら

いざ我も一烈せばや花の陰 枝かはす檜の中や山ざくら	左 武
、 萬夫 丹波櫻原洞々	寛雨(一四オ・16)
やよ花に水塗染ん山かづら 柳多 竹閑	萬夫 丹波櫻原洞々
桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら 柳多 竹閑	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐秀 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
肥前島原 万果 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
枝かはす檜の中や山ざくら 桃仙 やよ花に水塗染ん山かづら	飄亭 子良(一六オ・18)
柳多 竹閑 、 萬夫 丹波櫻原洞々	飄亭 子良(一六オ・18)
孤秀 狐	



分入ば心うごくや山ざくら  
山守や二日酔する花最中  
桜盛里の名立るあるじ哉  
あたらしき道有橋有山桜  
又こよひ寝に来る鳥や森の花  
夜々は夢に通ふぞ花の山  
時として頭たれけり旅の花  
花の陰水もよどむか芳野川  
いたづらの詠やをしき海士が花  
うつり香に蝶も迷ふか花の袖  
長生の欲も起るやはなの時  
散花にましら子を呼雨夜哉  
恋外にむかしは何をさくら花  
見残しもあるらん花の嵐山  
二里下てもとの桜に休みけり  
夕桜人静まらば物いはん  
醉臥てとぼける花の雨夜哉  
門うつは月か桜かよるの人  
鹿ひとつ追る、花の嵐哉  
真夜半や花の木の間の魂結び  
ちる桜匂ひは空に帰けり  
たぐひなく花光けり桜町  
夕風や人にしられでちる桜  
雉子の声聞迄行やさくら狩  
築山や桜見へ越す舞扇  
木に昇る蟻より遅し散桜  
灯もたてぬ戸に人声や散桜  
どの顔もしらで気隨に桜守  
関越であちらははやき桜哉  
たそがれや花に思ひの結び髪

斎我	芳洲	魯盞	梨水	吳秀	原
鳥鶴	高原	夢念	完雅	(二二ウ・24)	
魯盞	芳水	一睡	几睡		
梨水	万戸	万戸	万戸		
高原	飛川	飛川	飛川		
夢念	根	根	根		
完雅	伊福	伊福	伊福		
梨水	洛	洛	洛		
芳水	関叟	関叟	關叟		
高原	東流	(二三才・25)	東流		
夢念	羽雪		羽雪		
完雅	孔阜		孔阜		
梨水	山田		山田		
芳水	晴山		晴山		
高原	蘿送		蘿送		
夢念	彈子		彈子		
完雅	吉木		吉木		
梨水	布館		布館		
芳水	一更		一更		
高原	かう女		かう女		
夢念	尾		尾		
完雅	暮臘		暮臘		
梨水	楚古(二三ウ・25)		楚古(二三ウ・25)		
芳洲	一方		一方		
魯盞	其之		其之		
梨水	未来		未来		
芳洲	烏工		烏工		
魯盞	許風		許風		
梨水	一方		一方		

乗物に人なき花の禁哉	道あれば霞隠れの桜かな
山霞む花間くの藁や哉	山霞む花間くの藁や哉
美しきかなかく花の主哉	美しきかなかく花の主哉
雨一夜千里花咲あした哉	雨一夜千里花咲あした哉
見えそめて一里つまづく山桜	見えそめて一里つまづく山桜
、	、
黄昏の狐たちけり山ざくら	能登七尾
草に寝覚る春の袖人	其之
燒若和布もとの塩氣にしなやぎて	
茶巾ひとつになら布を切	
ひめ杉の風こまやかに月の影	
鳥まつ池の水落しかへ	
ふりあげる手斧の先の赤蜻蛉	
御簾の醉にはづす肩衣	
昼の蚊屋床しう見せて開放し	
長崎女奇楠を盗み売	
薄じめり小砂の上の下駄の跡	
神輿を渡す舟の鬪引	
月の床蓋なき物に酒入て	
うつ、夜浅き閑の山風	
むねあはぬ秋の衣にしらみ紐	
もろきながらにふきやまぬ錢	
井のもとにそゝげる花の降こぼれ	
蒔種つけし坊主馬ひく	
、	、
雨そべて桜かつちる繁かな	信木曾ナラ井 李蹊
雨晴て桜に競ふ人ごゝろ	加賀金沢 槐路
けふよりや春しるさとの初桜	備中笠岡 文里
吹よせし貝散花の入江哉	備后甲山 如耕(二五ウ・27)
眉尺	菊人
可仕(二四オ・26)	三夕
何芳	百尔
百尔	
許風	
百尔(二四ウ・26)	
未来	
暮臘	
何芳	

心そぞろそぞろに花の散日哉				
花の山斯いふ姿と申けり				
朝雨や花見にゆかば簾かさん				
母負て山寺の花見にゆかん				
ついまつの墨して詩書桜哉				
ちると見て今やめで度花曇				
花に入て人なき野辺の真昼哉	イセ白子	無曲	浪花	嵐山(二六〇・28)
けふこそな花に埋ん古仏	洛都雀		白石	
花幾日此日にせまる匂ひ哉	甫尺			
あの鐘の上野に似たり花の雲	雲水	一茶		
古寺や箔代なげる花の中	桃里			
世は花になりぬる風の行ゑ哉	土卵			
竹の闇花の月夜のはせを堂	駢丹			
夕暮やちらかる花のしづ心	江蓼(二六〇・28)			
見ならはぬ心に侘し雨のはな	羅月			
花供養雲沈らんひがし山	丹後富津	百尾		
捧たきけふを桜の最中哉	馬吹			
小衣で花見る人の果報哉	洛	兎夕		
曙の花貴也けり十二日	杜桂			
見るまゝに静けき花の光り哉	棹雪			
花供養真葛が原の風もなし	百池			
花盛世は何事もさはりなし	城南魯長			
咲ぬ木も咲木も花の夕かな	ノト破巾			
浪の上も静に遠き桜哉	播姫路周泉			
物あてな実生の桜苔たり	寸草(二七〇・29)			

散花や鳥帽子の人の袖かづき	洛	白黛
庭にある物梅よりぞ花供養	其成	
行末の夕山ざくら家を蒸		
花にうき世住捨しとぞなつかしき	後樂	
山寺の仏尊きさくら哉	イセ	秋屋
あはれにも老木の桜咲事よ	洛	芦涯
おもはずも禁酒破りし桜哉	古光(二七ウ・29)	
使者付て何處へ贈る桜かな		
つまづきし石に咎なし桜狩		
雲と咲雪と踏る、桜かな	如水	
心よや花見戻りの星月夜	五峰	谷水
花散しあとに茶店の柱穴	、私市	如竹
おもひきや夜の花見の五六人	由之	ト子
ひとり来て独帰るや山ざくら	鯉山(二八オ・30)	
西湖カモ		
風の音花によすがの片ごゝろ		堅山
鳥追て鷹の入けりゆふ桜		、万木
谷川や魚の下なる花の影	加賀金沢	北嶺
世をいとふ人の濡けり花の雨	夢庵	
散し上を猶ふく花の嵐哉	巴州	
山買へばさくらの主と成にけり	周馬	
臘とはしげく時か花曇り	魯邦(二八ウ・30)	
ちる花や一日醉してけふも行		
くらべこし八十年よ花ははな	相州猿ヶ島	
花盛月にも一夜寝それけり	丈水	
遅ざくら只一すぢの詠かな	起由	
花にのむ酒や日の影月の影	松調	
山桜野越に麦の畠かな	吳雪	
及古		

花なんひかれて山に山に山	、室田	巴橋
花にこそよけれ青野の草烟	、茅が崎	曉太
年ぐの桜にふかき思ひ哉	肥前諫早	孤石(二九オ・31オ)
入相や寺の花見る人床し		
雷に雲井の桜散んとす	輝白	
深山辺や花重りて雲に入	梅路	
百敷や夜すがら花守棒の音	雨夕	
散なしていはほも花の白衣哉	文塘	
其曇り静や花の山かづら	卷玉	
花のか、浅茅が宿の五位の声	車南	
黒染の袖へも散し桜かな	素明	
入相やさくらに深き人の声	挹波	
青空へ移ふ浅黄桜かな	車南	
月晴ていよく白し花の庭	晶角	
さくら咲山静まらず人の声	閑米倉	
花咲て世を面白う暮しけり	桐生	
あたらしき硯に嵯峨の花見哉	李陰	
冷水に金かへけり山ざくら	得牛	
永き日も桜に暮る夕かな	歌江	
思ひつ、来ればちる日の山桜	豊前小倉	
花見する人に問けり物の味	南明	
雲吹や遠山ざくら今いかに	夏夕	
花みんと小船に棹をさす日哉	ノト七尾	
南氣や花ちる池の魚の渓	翠洞	
朝霞桜にもる、鉦鼓かな	夏夕	
日の影や風なき山の花曇	在京	
花浪(三〇ウ・32)	吐月	

動きけり桜にしらむ明の星	ノト	既文
咲たりと思へば雨のさくら哉	、樋越	素栄
何といふ山か桜の花ざかり		
不斷咲さくらも春ぞ桜なる	、田口	李元
まだ人の足跡はなはつ桜	込皆戸	枝雪
みよしのや花の見所咲所		
ちる花の中を往来のしらぬ人	サヌキ仁尾	宗跡
花なかばそぞろになりぬ人心	杏蘆	
捨かぬる世や初花の草鞋くひ	備后福山	李朝(三一オ・33)
山路暮て花は朧の朧かな	イセ山田	平虚
山本や花にかけたる圓籠	ヒゼン神代	画鮮
立人にはや散初るさくら哉	、諫早	都異
聞済せ花の梢の朧の琴	越中放生津	二翼
初桜覚束なしと思ひしに	、	
小座敷に傾城捨て山ざくら	紀熊渡利松島	我青
夜をこめて北山桜さきにけり	信州飯田	何頬
瓶の桜雨の降日は客もあり		
後より月は出にけり山ざくら	イセ相可	
母負てけふも暮しつ花山	蘭鶴(三一ウ・33)	
花の窓半身の美人みゆる也	、	
塗樽の赤くねれて花の雨	、	
花ざかり火入の炭の曇けり	、	
月の夜をうかれ出れば鹿の鳴	柏梁	
人とめる家の秋は広ぐ	貞律(三三オ・34)	
柏梁	楚雀	

咲つゝも幕のうち也山ざくら	肥前佐賀 涛明
花ざかり寺は七つを限り哉	江州水口 斗醉
花供養桜にあらず花にあらず	イセ津 梅二
詞書略	
鬼貫があるけぬ旅を春の花	
路通は老て芳しき草	
陽炎の朝たつ門に橋もなし	
ならんで鳩の皆静なり	
月の名によべる一木は伐残す	
霧もる膳をすゆる比ほひ	
霞に植し袖すりの松	尾張熱田 烏玉
小太郎がとしは三五の春立て	牛一 鳴保
春あたらしく稼初けり	雄里 よしめ
月かけて丸木の橋や渡るらん	万井(三三オ・35)
星のはこびも遅き秋の夜	一蝶
斯ばかり鹿居る山に酒はなく	巴三
しのばせ給ふ何某の君	
ちら／＼と目癖はなれぬ桜哉	甲州浅原 真洞
我ものとおもふ桜の暮にけり	六珈
夕闇の桜をさらぬ諷ひ哉	飯野 真都良(三三ウ・35)
何某の寺とたづねて花見哉	梅五 静良
酒もねだり花もねだりて手折けり	
糸竹のやゝひるみけり夕ざくら	山之神 鳥語
出歩行ば兎角花見の人每逢	陌洞
朝雨や匂ひ吹そふ遅ざくら	紫蘿
花に来て同じ心を隔てけり	可申
來しかたも見渡す方も桜哉	布施 夫雪
日の闌て花にふはつくはだへ哉	山寺 和石
花守の余所出をかしき月夜哉	平岡 孔阜(三四オ・36)
山鳥のねぐらや花のうら表	龍笛
めでたげに一重は散て八重桜	加水
仇ならぬ桜がもとの煙り哉	如雪
宵闇や寝せで散花あらまほし	百々 令雨
花守と呼れぬ寺の男哉	府中 杜与木
朝食のむかひうけたり花の本	いはつみ
花咲て人にうたがひなかりけり	ふたけ
糸ざくら二度来て盛定けり	藤田 漢甫
山寺や花の外には花もなし	鏡平(三四ウ・36)
人とめる有明桜咲にけり	蟹守
久しくわづらひて少し	
おこたりける頃	
咲日より膝もとにたつ桜哉	可都里
世はすでに八重桜さへ散にけり	下毛柄木 尺樹
二日目は花見のもどり暮にけり	
雨はれて思はるゝかな桜山	桃葉
あら小田や桜浮つき水もなし	津輕 里圭
片隅や見る人静花しづか	
走田川花の流るゝ時し哉	浪花 青鯉(三五オ・37)
夜ざくらや今灯火も風の前	、 一炊庵
ほのゞ／＼と夜は明にけり花の下	赤間関 鶴翁
琴の音色花のふゞきに狂らし	指月
夜の桜脇にしむ雲かな	
朝夕の露かゝらぬも花の雲	芭蕉堂藏板
花の山鳴過にけり暮の鳥	
花の山音せぬ風も覺けり	(柱刻なし)(三七オ・39)
茶煙の末や桜のひと曇	(裏表紙見返し)

咲つゝも幕のうち也山ざくら 肥前佐賀 涛明

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 イセ津 梅二

江州水口 斗醉

花供養桜にあらず花にあらず

イセ津 梅二

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 山寺 和石

山寺 和石

花供養桜にあらず花にあらず 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

待侘たる繼穂の桜咲にけり けふ見ずば人の科ある桜かな

蟻好(三五ウ・37)

丹後河守 梅居

丹後河守 梅居

露降る片山ざくら長閑也

五芳

咲つゝも幕のうち也山ざくら 布施 夫雪

江州水口 斗醉

花ざかり寺は七つを限り哉 平岡 孔阜(三四オ・36)

平岡 孔阜(三四オ・36)

詞書略

咲つゝも幕のうち也山



一応〔伊賀名張〕	天七五才	寛一1ウ
寛二8ウ	寛四14ウ	
一翁〔備中〕	寛三18才	
河内楠葉	寛七23ウ	
一魚〔近江〕	寛五48ウ	
一堺〔京〕	寛八59才	
一事〔伊勢洞津〕	寛八25才	
一贊〔上野助戸〕	寛五13ウ	
一洞〔石見〕	寛五41ウ	
一道〔加賀〕	寛三14才	寛四11才
一道〔近江信樂〕	寛九6ウ	
一如〔伊賀上野〕	天七4ウ	寛二8ウ
寛三5ウ	寛四14ウ	
一巴〔若狭〕	寛二11才	
一甫〔日向美々津〕	寛四37才	寛六35ウ
一甫〔江戸〕	寛九10才	
以中〔若狭能登野村〕	天七11才	
一路〔越中高岡〕	寛八11ウ	
一路〔近江〕	寛十3才	
一和〔若狭川原方〕	天七11ウ	
一革〔越前〕	寛十10ウ	
一董〔信濃善光寺〕	寛八33才	
逸漁〔一斗庵〕	〔伊勢山田〕	寛九31ウ
一形〔能登〕	寛三14ウ	寛四18才
一茎〔伊勢寺方〕	寛十4ウ	
一口〔近江水口〕	寛七4才	
一興〔肥前諫早〕	寛五35ウ	寛六35才
寛八52ウ		

一虎〔京〕	寛六42ウ	
一更〔近江水口〕	寛八3才	寛十23ウ
一壺〔肥前島原〕	寛四4才	寛五36ウ
一尺〔上野女屋／厩橋〕	寛六14ウ	
一堺〔京〕	寛八59才	
一事〔伊勢洞津〕	寛八25才	
一贊〔上野助戸〕	寛五13ウ	
一洞〔石見〕	寛五41ウ	
一道〔加賀〕	寛三14才	寛四11才
一道〔近江信樂〕	寛九6ウ	
一如〔伊賀上野〕	天七4ウ	寛二8ウ
寛三5ウ	寛四14ウ	
一枝〔近江堅田〕	寛八3ウ	
一抄〔抄〕	〔加賀金沢〕	寛四14ウ
寛五8才	寛七6ウ	寛八7ウ
一笑〔河内楠葉〕	寛六24ウ	寛七23ウ
寛八29ウ		
一正〔信濃塩名田〕	寛六21才	寛七20ウ
一之〔近江堅田〕	天七6ウ	寛一3才
寛二8才	寛五4ウ	寛七4ウ
寛八3ウ		
一炊庵〔浪花〕	寛八34ウ	寛九25才
寛十35ウ		
一睡〔肥前島原〕	寛九24才	寛十23才
一翠〔肥後チクタ〕	寛十14ウ	
一声〔備後福山〕	寛四37ウ	寛五28ウ
寛八38ウ		
衣翮〔南山城平川／大久保〕	寛一6ウ	
寛二4ウ	寛四38ウ	
以夢〔京〕	寛八58ウ	
為本〔能登〕	寛十6ウ	寛十8才
為梁〔江戸小川〕	寛五19ウ	
為荔〔播磨〕	寛三17才	
一川〔若狭〕	寛二10ウ	
一川〔加賀〕	寛三13ウ	寛四13ウ
飲河〔越中小杉〕	寛九13ウ	
尹口〔上野〕	寛三10ウ	
因山〔但馬〕	寛四27才	
尹子〔肥前有田〕	寛八49ウ	

一兆〔近江大溝〕	寛七5ウ	
一蝶〔尾張〕	寛十33ウ	
一茶〔肥前島原〕	寛八53才	寛十26ウ
一尺〔上野女屋／厩橋〕	寛六14ウ	
一堺〔山城嵯峨〕	寛四30ウ	寛六38才
一鳥〔備後〕	寛二14才	
一島〔山城嵯峨〕	寛七5ウ	
一斗庵→逸漁〔伊勢山田〕		
一鳥〔備後〕	寛二14才	
一枝〔近江堅田〕	寛八3ウ	
一抄〔抄〕	〔加賀金沢〕	寛四14ウ
寛五8才	寛七6ウ	寛八7ウ
一笑〔河内楠葉〕	寛六24ウ	寛七23ウ
寛八29ウ		
一正〔信濃塩名田〕	寛六21才	寛七20ウ
一之〔近江堅田〕	天七6ウ	寛一3才
寛二8才	寛五4ウ	寛七4ウ
寛八3ウ		
一方〔能登〕	寛十24才	
田舎坊〔信濃松本〕	寛三9ウ	
以手紙〔越後島新田〕	寛九3ウ	
偃武〔京〕	寛八58ウ	
衣翮〔南山城平川／大久保〕	寛一6ウ	
寛六41才	寛七3才	寛七35才
一方〔能登〕	寛十24才	
田舎坊〔信濃松本〕	寛三9ウ	
卯分〔陸奥八戸〕	寛六43才	
烏月〔近江湖東〕	寛四24ウ	
宇考〔周防香川〕	寛七26ウ	
烏工〔能登〕	寛十24才	
烏甲〔若狭〕	寛二11才	
烏甲〔加賀〕	寛三13ウ	寛四13ウ
羽黄〔上野一ノ宮〕	寛三10才	寛四34ウ
寛五12ウ	寛六13才	寛七11才
寛八13ウ		
雨降〔伊勢野田〕	天六8ウ	
于康〔能登〕	寛四17才	
禹功〔巧〕	〔肥後〕	寛四5ウ
宇剋〔安房〕	寛七19才	
宇策〔筑前芦屋／芦江〕	寛七29ウ	
寛八53ウ		

飲露〔肥後熊本〕	寛五38才	寛六36才
寛七30ウ		
一蝶〔尾張〕	寛十33ウ	
一超〔筑前〕	寛一5才	
一斗庵→逸漁〔伊勢山田〕		
一鳥〔山城嵯峨〕	寛四30ウ	寛六38才
一島〔備後〕	寛二14才	
一枝〔近江堅田〕	寛八3ウ	
一抄〔抄〕	〔加賀金沢〕	寛四14ウ
寛五8才	寛七6ウ	寛八7ウ
一笑〔河内楠葉〕	寛六24ウ	寛七23ウ
寛八29ウ		
一正〔信濃塩名田〕	寛六21才	寛七20ウ
一之〔近江堅田〕	天七6ウ	寛一3才
寛二8才	寛五4ウ	寛七4ウ
寛八3ウ		
一方〔能登〕	寛十24才	
田舎坊〔信濃松本〕	寛三9ウ	
卯分〔陸奥八戸〕	寛六43才	
烏月〔近江湖東〕	寛四24ウ	
宇考〔周防香川〕	寛七26ウ	
烏工〔能登〕	寛十24才	
烏甲〔若狭〕	寛二11才	
烏甲〔加賀〕	寛三13ウ	寛四13ウ
羽黄〔上野一ノ宮〕	寛三10才	寛四34ウ
寛五12ウ	寛六13才	寛七11才
寛八13ウ		
雨降〔伊勢野田〕	天六8ウ	
于康〔能登〕	寛四17才	
禹功〔巧〕	〔肥後〕	寛四5ウ
宇剋〔安房〕	寛七19才	
宇策〔筑前芦屋／芦江〕	寛七29ウ	
寛八53ウ		

雨山〔石見〕 寛八6ウ

一古〔甲斐三日市〕 寛九8ウ 寛九32ウ

卯十	〔伊予今治〕	寛七 27 ウ
雨什	〔上野高崎〕	寛三 10 オ
羽翔	〔長門厚狹〕	寛六 29 ウ 寛八 45 ウ
竽哨	〔京〕 寛八 2 ウ	寛八 62 オ
鳥翠	〔伊勢安濃津／津〕	寛九 38 ウ
	寛九 3 才 寛九 38 ウ	
雨翠	〔上野〕	寛九 9 オ
	寛十 11 ウ	
羽静	〔信濃飯田〕	寛五 22 オ 寛七 21 ウ
雨声	〔越前〕	寛十 11 オ
雨青	〔伊勢〕	寛四 16 ウ
烏夕	〔備中〕	寛三 17 ウ 寛四 8 オ
烏夕	〔伊賀〕	天七 5 オ 寛六 26 オ
雨夕	〔肥前諫早〕	寛四 4 オ 寛五 34 ウ
	寛七 30 才 寛八 52 ウ	寛九 35 オ
	寛十 29 ウ	
雨夕	〔上野鞠負河岸／柴村〕	寛五 13 ウ
	寛六 14 ウ 寛八 13 オ	
羽雪	〔伊勢寺方〕	寛十 4 ウ
烏雪	〔美作久世〕	寛五 42 オ
羽雪	〔肥前〕	寛八 51 ウ
羽雪	〔伊勢〕	寛十 23 ウ
烏川	〔越中〕	寛四 21 オ
烏川	〔筑前直方〕	寛八 47 ウ
羽仙	〔周防岐波〕	寛五 30 オ 寛六 30 ウ
寛八 46 ウ		
	寛五 33 ウ	

羽戴	〔伊予今治〕	寛八 41 才
雨丹	〔安芸能美島〕	寛九 8 才 寛十 21 才
雨竹	〔周防山口〕	寛五 30 ウ 寛六 31 才
宇宙	〔周防三尾〕	寛四 28 ウ 寛五 30 ウ
宇兆	〔伊勢白子〕	天七 8 ウ 寛四 16 才
	寛五 24 ウ	寛六 21 ウ 寛八 65 ウ
烏東	〔武藏深谷〕	寛九 12 才
雨麦	〔近江打風〕	天七 6 ウ
雨麦	〔大坂松花連〕	寛一 6 才
雨卜	〔能登田鶴浜〕	寛四 17 ウ 寛四 37 ウ
	寛五 9 ウ	寛八 9 才
宇明	〔上野宮崎〕	寛九 36 ウ
鳥友	〔若狭西津〕	寛三 12 才 寛五 43 才
瓜坊	〔江戸／安房／撰津池田〕	
	天七 13 ウ	寛一 8 ウ 寛二口ノ 1 ウ
	寛三 3 ウ	寛四 25 才 寛五 16 ウ
	寛五 18 ウ	寛六 36 才 寛七 18 才
	寛七 18 ウ	寛八序ウ 寛八 33 ウ
	寛八 35 オ	寛十 13 才
雨柳	〔能登東馬場〕	寛四 12 ウ 寛五 10 才
	寛六 10 ウ	
雨柳	〔伊勢安濃津〕	寛八 26 ウ
雨林	〔南山城天神森木水連〕	寛七 31 ウ
	寛八 56 ウ	
雲帶	〔信濃上田〕	寛二 18 ウ 寛二 21 ウ
雲蝶	〔薩摩〕	寛四 10 ウ
	寛三 9 ウ	

雲和	木葉	〔京〕
雲波	〔肥前天草〕	寛七 39 ウ
雲坡	〔南山城〕	寛四 37 ウ 寛五 3 ウ
		寛五 43 ウ
雲裡	〔南山城寺田〕	天七 5 ウ 寛三 22 オ
雲里	〔筑前直方〕	寛八 47 ウ
雲浪	〔能登〕	寛十 30 オ
		寛七 46 オ
英	〔安房磯村〕	天六 10 ウ 寛一 2 オ
	寛三 7 オ 寛四 23 オ	
英	〔大坂〕	寛九 14 ウ
詠帰	〔上野蓮沼〕	寛六 14 ウ
榮暉	〔上野吾妻横尾〕	寛八 12 ウ
榮子	〔肥後〕	寛四 5 オ
英之	〔肥後〕	寛四 4 ウ
英子	〔加賀女〕	寛六 5 ウ
永白	〔上野吾妻横尾〕	寛八 12 ウ
曳尾	〔武藏秩父吉田町〕	寛七 16 ウ
得終	〔京尼〕	天六 2 オ 天七 3 ウ
	寛一 8 オ 寛二 1 ウ 寛二 20 ウ	
	寛三 2 ウ 寛三 24 ウ 寛四 2 オ	
	寛四 32 オ 寛五 47 オ 寛六 41 オ	
	寛七 3 オ 寛七 36 オ 寛八 61 ウ	
	寛九 2 オ 寛九 39 ウ 寛十 1 ノ 2 ウ	
悦女	〔ゑつ〕	〔肥前諫早〕 寛五 35 オ
		寛八 52 オ

猿左	〔信濃善光寺〕	寛七 22 才 寛八 33
演之	〔遠江川崎／久嘉賣浦〕	寛三 6 ウ 寛四 2 ウ 寛九 14 ウ 寛十 26 才
遠子	〔筑前直方／植木〕	寛六 20 ウ 寛五 34 才 寛六 34 ウ 寛四 9 ウ
燕子	〔信濃佐久八幡〕	寛六 20 ウ 寛五 34 才 寛六 34 ウ 寛八 47 ウ
燕兒	〔陸奥津輕〕	寛五 15 才
園蝶	〔武藏入間ノ里〕	寛九 6 ウ 寛五 34 才 寛四 32 ウ
蘭蝶	〔京〕	寛四 38 オ
測美	〔越中〕	寛四 38 オ
燕尾	〔京〕	天七 1 ウ
遠流	〔肥後〕	寛五 39 才
応美	〔京〕	寛七 2 ウ 寛七 34 ウ 寛八 1 才 寛八 60 ウ 寛九 1 ウ 寛九 39 ウ 寛十 1 ノ 2 ウ
桜嶺	〔加賀〕	寛五 6 才
大江丸	〔浪花〕	寛八 34 ウ 寛九 25 ウ 翁〔芭蕉／桃青〕天七 1 ウ 寛八 62 ウ 奥人〔京〕寛六 38 ウ
をしへ〔甲斐三沢〕		寛八 31 ウ



可笑	〔信濃長瀬〕 寛七 21 ウ
花情	〔筑前木屋瀬〕 寛四 10 才 寛五 34 才
可上	〔能登〕 寛四 19 ウ
可茹	〔安房〕 寛七 19 才
賀松	〔薩摩〕 寬四 38 才
雅松	〔加賀〕 寬八 65 ウ
鶩少	〔若狭西津〕 寬三 12 才 審四 36 ウ
鶩	〔周防山口〕 審五 30 ウ 審六 31 ウ
可申	〔甲斐〕 審十 34 才
花岑	〔能登〕 審四 17 ウ
佳睡	〔能登川田〕 審七 8 ウ
加水	〔甲斐〕 審十 34 ウ
可翠	〔大和上市・芳野〕 審一 6 才
河翠	〔備後〕 審三 18 才
花水	〔豊前〕 審十 18 ウ
一馬	〔武藏本庄〕 審一 2 才 審四 25 才
	寛五 19 ウ
一馬	〔加賀〕 審八 65 ウ
可成	〔能登赤倉〕 審五 10 才
嘉星	〔長門〕 審六 32 ウ
夏井	〔伊勢白子〕 天七 9 才 審六 21 ウ
花井	〔近江石部〕 審六 4 才
我青	〔紀伊熊野渡利松島〕 審十 31 ウ
化石	〔肥前天草〕 審七 38 ウ 審七 39 才
化碁	〔播磨龍野〕 天七 12 才
可石	〔近江水口〕 審二 6 ウ 審六 44 ウ
夏夕	〔豊前小倉〕 審二 16 ウ 審三 21 才
	寛五 32 ウ 審七 39 ウ 審八 49 オ
歌兆	〔越中〕 審六 11 ウ
花潮	〔伊勢洞津連〕 天七 10 才

花夕	〔備後福山女〕 審五 28 ウ
霞夕	〔周防小郡〕 審八 46 才
蝸石	〔筑前〕 審三 20 ウ 審四 9 ウ
雅石	〔加賀宮腰〕 審五 7 才 審七 6 ウ
鶴跡	〔周防山口〕 審五 30 ウ 審六 31 ウ
可申	〔甲斐〕 審十 34 才
花岑	〔能登〕 審四 17 ウ
佳睡	〔能登川田〕 審七 8 ウ
加水	〔甲斐〕 審十 34 ウ
可翠	〔大和上市・芳野〕 審一 6 才
寛二	〔13 才 審三 21 ウ 審四 36 ウ〕
河翠	〔備後〕 審三 18 才
花水	〔豊前〕 審十 18 ウ
一馬	〔武藏本庄〕 審一 2 才 審四 25 才
	寛五 19 ウ
一馬	〔加賀〕 審八 65 ウ
可成	〔能登赤倉〕 審五 10 才
嘉星	〔長門〕 審六 32 ウ
夏井	〔伊勢白子〕 天七 9 才 審六 21 ウ
花井	〔近江石部〕 審六 4 才
我青	〔紀伊熊野渡利松島〕 審十 31 ウ
化石	〔肥前天草〕 審七 38 ウ 審七 39 才
化碁	〔播磨龍野〕 天七 12 才
可石	〔近江水口〕 審二 6 ウ 審六 44 ウ
夏夕	〔豊前小倉〕 審二 16 ウ 審三 21 才
	寛五 32 ウ 審七 39 ウ 審八 49 オ
歌兆	〔越中〕 審六 11 ウ
花潮	〔伊勢洞津連〕 天七 10 才

轄其	〔伊勢御園〕 審五 23 ウ
葛谷	〔京〕 審五 46 才
樂國	〔京〕 天七 2 ウ
葛三	〔江戸〕 審八 21 ウ
かつみ	〔閑都・徒・美〕 〔京〕 審六 3 才
桂	〔能登〕 審四 19 才
可都里	〔甲斐藤田〕 審一 18 才 審三 6 ウ
	寛四 28 才 審五 20 ウ 審六 18 ウ
化仙	〔肥後〕 審二 17 才
花仙	〔近江辻村〕 審三 8 才
霞川	〔近江〕 審三 8 才 審四 24 ウ
霞船	〔肥前諫早〕 審五 35 才
画鮮	〔肥前神代〕 審五 36 ウ 審十 31 ウ
鶩川	〔上野廻橋・桐生〕 審七 10 ウ
	寛八 17 才 審九 15 ウ
我桑	〔丹波〕 審六 26 ウ
柯則	〔信濃佐久郡塙名田〕 審三 9 ウ
	寛四 37 ウ 審五 22 ウ 審六 20 才
可童	〔京〕 審八 60 才
かな	〔上野廻橋女〕 審七 10 才
嘉那	〔播磨水谷〕 審八 36 ウ
金丸	〔能登能登部〕 審四 19 才 審六 11 才
	寛七 44 才
可董	〔京〕 審九 40 才
可童	〔京〕 審八 60 才
かな	〔上野廻橋女〕 審七 10 才
嘉那	〔播磨水谷〕 審八 36 ウ
金丸	〔能登能登部〕 審四 19 才 審六 11 才
	寛七 44 才
可友	〔安芸広島・小方〕 天六 12 ウ
可南	〔武藏三峰山〕 審七 17 才 審八 21 才
可能	〔近江草津〕 天七 7 才 審三 1 ウ
	寛五 9 才 審六 10 ウ
可兆	〔加賀金沢〕 審三 13 才 審四 11 才
	寛六 5 才 審七 42 オ 審八 3 ウ
歌白	〔遠江掛川〕 審六 26 ウ
	寛六 5 才 審七 42 オ 審八 3 ウ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛九 4 ウ 寫十 1 才
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛五 29 ウ 寫六 29 ウ 寫八 40 オ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛六 3 才 審七 4 ウ 審八 57 オ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛九 2 才 審九 14 オ

可諷	〔能登田鶴浜〕 審八 9 オ
香風	〔上野前橋〕 審九 9 ウ 審十 30 才
家副	〔信濃佐久郡塙原〕 審六 20 ウ
	寛七 20 ウ
花仏	〔甲斐谷戸〕 審八 31 ウ
葛谷	〔京〕 審五 46 才
樂國	〔京〕 天七 2 ウ
葛三	〔江戸〕 審八 21 ウ
かつみ	〔閑都・徒・美〕 〔京〕 審六 3 才
桂	〔能登〕 審四 19 才
可都里	〔甲斐藤田〕 審一 18 才 審三 6 ウ
	寛四 28 才 審五 20 ウ 審六 18 ウ
化仙	〔肥後〕 審二 17 才
花仙	〔近江辻村〕 審三 8 才
霞川	〔近江〕 審三 8 才 審四 24 ウ
霞船	〔肥前諫早〕 審五 35 才
画鮮	〔肥前神代〕 審五 36 ウ 審十 31 ウ
鶩川	〔上野廻橋・桐生〕 審七 10 ウ
	寛八 17 才 審九 15 ウ
我桑	〔丹波〕 審六 26 ウ
柯則	〔信濃佐久郡塙名田〕 審三 9 ウ
	寛四 37 ウ 審五 22 ウ 審六 20 才
可童	〔京〕 審八 60 才
かな	〔上野廻橋女〕 審七 10 才
嘉那	〔播磨水谷〕 審八 36 ウ
金丸	〔能登能登部〕 審四 19 才 審六 11 才
	寛七 44 才
可董	〔京〕 審九 40 才
可童	〔京〕 審八 60 才
かな	〔上野廻橋女〕 審七 10 才
嘉那	〔播磨水谷〕 審八 36 ウ
金丸	〔能登能登部〕 審四 19 才 審六 11 才
	寛七 44 才
可友	〔安芸広島・小方〕 天六 12 ウ
可南	〔武藏三峰山〕 審七 17 才 審八 21 才
可能	〔近江草津〕 天七 7 才 審三 1 ウ
	寛五 9 才 審六 10 ウ
可兆	〔加賀金沢〕 審三 13 才 審四 11 才
	寛六 5 才 審七 42 オ 審八 3 ウ
歌白	〔遠江掛川〕 審六 26 ウ
	寛六 5 才 審七 42 オ 審八 3 ウ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛九 4 ウ 寫十 1 才
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛五 29 ウ 寫六 29 ウ 寫八 40 オ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛六 3 才 審七 4 ウ 審八 57 オ
歌雄	〔近江堅田〕 天七 6 ウ 審二 8 オ
	寛九 2 才 審九 14 オ

何来〔筑前植木〕 寛三21才 寛四9才  
寛五34才

花来〔越中富山〕 寛四22才

花来〔長門赤間関〕 寛五31ウ

何樂〔近江八日市如來村〕 寛八4ウ

夏陸〔加賀〕 寛四12ウ

可立〔薩摩〕 寛四10ウ

何笠〔京〕 寛二20才

何笠〔備後三原〕 寛二14才 寛三18ウ

寛四10ウ 寛五28才 寛六29才

寛七34ウ 寛八39ウ 寛十19才

何龍〔京〕 寛四32ウ

加龍〔伊勢〕 寛五23ウ

河柳〔周防山口〕 寛六31ウ

雅龍〔能登川尻〕 寬八9ウ

夏蓼〔肥前諫早〕 寬六35才 審八52才

寛十13ウ

荷涼〔周防上関〕 寬五30ウ

画涼〔大坂・浪花〕 寬二12ウ 審三26才

寛四29ウ 審六25才 審七42ウ

花林〔豊後安岐谷〕 審九4才

歌連〔河内〕 審十28才

瓦六〔伊勢津〕 審七22ウ 審八24才

完〔筑前黒崎〕 審一5ウ

幹員〔伊勢五十鈴川〕 審八25ウ

寛雨〔上野〕 審十14才

甘雨〔武藏八幡山〕 審八20ウ

寒河〔京〕 審五46才

亘々〔江戸〕 審八21ウ

寛雅〔子風〕 〔長門厚狭〕 審八45ウ

花来〔京〕 寛九2才 審九39才

官橋〔上野尾島〕 審七12才 審八14ウ

寛九22才

卷玉〔伊予今治〕 審七27ウ 審八40ウ

寛九8ウ 審十29ウ

閑空〔京〕 審八57ウ 審九40才

菖菰〔上野草津〕 審五13才 審六12ウ

寛七32ウ 審七34才 審八14ウ

寛八16ウ 審九5才

寒鴻〔播磨姫路〕 天七12才 審一10ウ

寛二13ウ 審三17ウ

完固〔豊前〕 審十18ウ

甘谷〔伊勢石薬師〕 審一9才 審三6才

寛四15ウ 審五24才 審七23才

寛八24才

甘谷〔加賀〕 審三14才

丸交〔加賀金沢才川〕 審五7才

寛八6才

寛算〔山城〕 審一5才

寛志〔備後福山連〕 審五29才

菅之〔豊後安岐谷〕 審九4才

管史〔能登〕 審四19ウ

貫之〔近江水口〕 審八3才

寛五23才

寛九3才

寛十3才

寛三23ウ

寛五15ウ

寛五9ウ

寛二18才 審四28才

寛八30才 審九18ウ 審十34ウ

寛九16才

寛八37才 審九25ウ

寛六18ウ

寛七40ウ

寛五21才 審六18ウ 審八21才

寛八30才 審九18ウ 審十34ウ

寛九16才

寛八37才 審九25ウ

寛六18ウ

寛七40ウ

寛八21才

寛九3才

岩苔〔撰津兵庫〕 審四27才

寛五13ウ

寛六13ウ

寛三4才

寛三23ウ

寛五15ウ

寛五9ウ

寛四28才

寛五4才 審六4才 審八3才

寛九25ウ

寛五4才 審六4才 審八3才

喜花	〔伊勢八丁〕	寛四6才
其外	〔筑前僧〕	寛四10才
儀角	〔陸奥仙台〕	寛八23才
其冠	〔壱岐〕	寛十37才
其岩	〔近江霜降村〕	寛八4才
几岩	〔京〕	寛五44才
龜几	〔備中〕	寛四8才
崎給	〔信濃佐久郡片倉〕	寛五23才
萱牛	〔武藏本庄〕	寛五19才
寄筇	〔京〕	天六4才
岐曉	〔江戸〕	寛九27ウ
希玉	〔筑前芦屋〕	寛七29ウ
		寛八53ウ
	寛九25才	
菊阿坊	〔伊勢〕	寛四15ウ
菊隱	〔但馬豊岡〕	天七11ウ
菊羽	〔伊勢雲出〕	寛九12ウ
菊翁	〔肥前長崎〕	寛八49ウ
菊後	〔京〕	寛九3才
		寛九39才
菊子	〔伊勢〕	寛八24才
麴車	〔伊勢白子〕	寛五24ウ
		寛六22才
麴舟	〔上野大原〕	寛十1ウ
		寛十5ウ
菊兒	〔甲斐〕	寛四39ウ
菊人	〔能登〕	寛四17才
		寛十24才
菊二	〔安房〕	寛七19才
喜久仙	〔武藏入間ノ里〕	寛九6才
幾久成	〔三河矢作〕	寛八23才
幾久成	〔遠江〕	寛九10才
幾久成		寛九2ウ

掬泉	〔豊後鶴崎〕	寛五 32 ウ
きく丸	〔菊磨〕	〔信濃飯田〕 寛五 22 才
菊夢	〔上野桐生〕	寛五 14 才
菊明	〔江戸〕	寛三 3 ウ 寛四 25 才
	寛五 16 ウ	寛六 17 才 寛七 17 ウ
	寛八 21 才	寛九 28 ウ
菊良	〔越中〕	寛三 16 ウ
鞠令	〔近江水口〕	寛八 3 才
菊露	〔豊前〕	寛八 65 才
鬼荊	〔南山城〕	寛六 37 才 寛七 31 才
	寛十 1 ノ 2 才	
鬼薺	〔京〕	寛二 4 ウ 寛二 21 才
	寛五 3 ウ	寛八 58 才
箕溪	〔肥後熊本〕	寛二 17 才 寛四 5 才
其月	〔近江海津〕	寛五 38 才 寛十 14 ウ
琪月	〔肥前島原〕	寛八 4 才 寛九 5 ウ
戲月	〔上野一ノ宮〕	寛五 36 才
	寛六 13 ウ	
希言	〔信濃善光寺〕	寛七 22 才 寛八 33 才
季広	〔信濃発地〕	寛七 21 才 寛八 32 才
鬼口	〔在京〕	寛五 46 ウ
其交	〔近江水口〕	寛二 7 才 寛六 44 ウ
其光	〔伊予西条〕	寛七 27 才 寛八 41 ウ
蟻好	〔長門〕	寛十 35 ウ
奇哉	〔能登寺口／黒島〕	寛七 8 才
	寛八 8 才	
寄哉	寛十 3 ウ	

稀才	〔加賀金沢〕	寛八	6 ウ
寄三	〔信濃飯田〕	寛七	21 才
季山	〔備中〕	寛十	3 ウ
箕山	〔京〕	寛四	32 ウ
沂山	〔若狭〕	寛三	12 ウ
俱山	〔肥後〕	寛四	36 ウ
記之	〔上野女〕	寛四	35 才
記史	〔能登飯田〕	寛四	19 ウ
其子	〔加賀〕	寛三	13 才
		寛四	14 才
其之	〔能登七尾／所之口〕	寛五	7 才
		寛四	17 才
鬼雀	〔若狭能登野〕	寛五	8 ウ
		寛十	24 才
		寛十	24 ウ
幾秋	〔越中戸出〕	寛二	10 才
		寛三	11 ウ
		寛四	26 才
其隼	〔伊勢亀山〕	寛五	42 ウ
		寛六	26 ウ
		寛七	24 ウ
几嘯	〔能登田鶴浜〕	寛五	9 才
幾重	〔陸奥岩城平〕	寛九	29 才
鬼笑	〔南山城枇杷庄〕	寛六	37 ウ
鬼笑	〔信濃長瀬連〕	寛九	11 才
崎松	〔伊勢洞津連〕	天七	10 才
碕松	〔筑前黒崎〕	寛一	5 ウ
鬼丈	〔京〕	天七	3 才
龜丈	〔浪花〕	寛九	25 才
几丈	〔越後高田〕	寛十	36 才
貴深	〔安房前原〕	寛六	18 才
寄人	〔備中倉敷〕	寛三	18 才
		寛四	8 才
寛九	〔2ウ〕	寛六	28 ウ
		寛七	25 才
		寛八	55 ウ

磯仙	〔越中明神浦・放生津〕	寛三 16 才
寛四	21 ウ 寛五 12 才	寛八 12 才
几仙	〔浪花〕	寛十 13 ウ
龜選	〔加賀本吉〕	寛五 6 ウ
岐草	〔嵐峰〕〔能登館分〕	寛二 12 才
寛三 15 才	寛三 15 才	寛四 18 ウ
寛五 8 才	寛六 8 才	寛六 10 ウ
帰爪	〔安芸吳〕	寛八 40 才
其叟	〔加賀〕〔在京〕	寛五 46 ウ 寛六 2 ウ
寛六 6 ウ		
其岱	〔丹波園部〕	寛一 4 才 寛二 5 ウ
龜台	〔越中〕	寛四 20 ウ
寛六 6 ウ		
琪竹	〔但馬朝来山〕	寛五 42 才
喜竹	〔京〕	天六 1 ウ
淇竹	〔近江日野〕	寛七 2 才 寛七跋ウ
琪竹	〔但馬朝来山〕	寛五 42 才
義豎	〔石見日原三好〕	寛四 39 ウ
寛八 36 ウ		
其朝	〔伊賀〕	天七 4 ウ
帰朝	〔能登田鶴浜〕	寛五 9 才
其蝶	〔上野吉井〕	寛三 11 才
橘子	〔伊賀上野古雅社中〕	天七 4 ウ
吃叟	〔近江〕	天七 8 ウ
橋泉	〔肥後熊本〕	寛四 4 ウ
橘人	〔下野柄木〕	寛八 22 ウ 寛九 32 ウ
几董	〔京〕	天七 4 才
其道	〔近江七条〕	寛四 23 ウ
葵道	〔播磨姫路〕	寛三 17 才
鬼洞	〔伊予西条〕	寛七 27 才
龜洞	〔南山城八幡〕	寛八 57 才
其堂	〔若狭〕	寛一 10 才

其童	〔大和〕	寛四 30 才
義童	〔京〕	寛一 7 才
龜道	〔丹後〕	寛十 36 才
既白	〔伊勢石薬師〕	寛四 16 才 寛五 24 才
輝白	〔肥前諫早〕	寛四 3 ウ 寛五 35 ウ
寛七 30 才	寛八 52 ウ 寛九 35 才	
寛十 29 ウ		
龜白	〔武藏〕	寛十 22 才
其白	〔京〕	寛九 2 ウ 寛九 38 才
幾必	〔能登〕	寛四 17 ウ
箕風	〔甲斐小笠原〕	寛四 7 ウ 寛五 21 ウ
几風	〔伊予〕	寛三 20 才 寛四 8 ウ
季風	〔加賀〕	寛六 7 ウ
義風	〔白竈〕〔但馬生野〕	
既文	〔能登〕	寛十 31 才
季風	〔加賀〕	寛六 7 ウ
龜文	〔陸奥津軽郡黒石〕	寛五 15 ウ
寛六 15 ウ		
奇峰	〔筑前飯塚〕	寛三 21 才 寛四 8 ウ
紀鳳	〔尾張〕	寛四 27 ウ
奇峰	〔筑前飯塚〕	寛三 21 才 寛四 8 ウ
寄	〔寄〕	峰〔伊勢山田〕 寛一 1 ウ 寛五 32 ウ
岐北	〔加賀〕	寛四 12 才
寄〔寄〕木	〔筑前直方〕	寛四 9 オ
寛六 34 才	寛七 28 オ	寛八 47 ウ
其ト	〔若狭三方〕	天七 11 才
其ト	〔若狭三方〕	天七 11 才
季明	〔肥前長崎〕	寛八 50 才
器友	〔浪花〕	寛九 4 ウ
希由	〔若狭〕	寛二 10 才
季由	〔肥後〕	寛五 39 才

起由	〔相模〕	寛十 29 才
丘馬	〔木枯庵〕〔伊勢山田〕	寛八 53 ウ
狂笑	〔近江〕	寛四 25 才
競巴	〔筑前福岡〕	寛九 16 ウ
曉台	〔京〕	寛三 2 才
競巴	〔肥後〕	寛五 39 ウ
鏡平	〔甲斐藤田〕	寛七 40 ウ 寛八 30 才
杏廬	〔讚岐〕	寛十 31 才
杏露	〔山城嵯峨〕	寛四 31 才 寛六 38 才
曉字	〔近江篠原〕	天七 7 ウ 寛二 8 オ
九河	〔能登〕	寛四 17 ウ
九岡	〔近江信楽〕	寛九 6 ウ
九夏	〔加賀〕	寛四 12 ウ
九臯	〔越中放生津〕	寛九 18 オ
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕	寛十 1 ウ
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔筑前水城〕	寛七 46 才
九臯	〔紀伊三鍋〕	寛九 7 才
九山	〔京〕	寛八 59 ウ
其友	〔越前〕</	

きょへきん

旭鳩	〔近江彦根〕 寛五 4 ウ
曲阿	〔江戸〕 寛九 27 ウ
曲枕	〔上野藤岡〕 寛十 1 才
玉河	〔甲斐〕 寛四 7 ウ
玉井	〔備中倉敷〕 寛三 18 才 寛四 8 才
	寛五 26 ウ 寛六 28 ウ 寛七 25 才
	寛八 55 ウ
玉可	〔越中戸出〕 寛五 10 ウ
玉牙	〔京〕 寛八 61 才
玉屑	〔淡路／播磨加古川〕 寛一 4 ウ
	寛三 3 才 寛三 24 才 寛五 26 ウ
	寛八 36 才 寛三 36 才
玉慶	〔南山城平川〕 寛一 6 ウ 寛二 4 ウ
玉史	〔能登錦川〕 寛三 15 ウ 寛四 19 才
	寛五 10 ウ 寛六 8 才 寛六 10 才
	寛七 6 ウ 寛十 9 才
玉支	〔上野宮崎〕 寛四 34 ウ 寛五 12 ウ
玉枝	〔加賀〕 寛十 36 ウ
玉城	〔上野一ノ騎馬〕 寛八 17 ウ
玉水	〔近江草津山寺〕 寛四 24 ウ
玉翠	〔浪花〕 寛十 22 才
玉馬	〔信濃上田〕 寛六 43 才
玉尾	〔遠江久喜賀浦〕 寛九 15 才
玉斧	〔上野〕 寛三 10 ウ
玉美	〔上野高崎〕 寛八 14 才
玉歩	〔伊勢雲出川〕 寛八 24 ウ

玉房	〔浪花〕 寛九 26 才
玉李	〔肥前〕 寛四 4 才
玉孚	〔肥前諫早〕 寛五 34 ウ
居敬	〔志摩鳥羽連〕 天七 10 ウ
巨口	〔南山城〕 寛四 30 才
巨山	〔越中〕 寛四 21 ウ
魚柵	〔上野草津〕 寛五 13 才 寛六 12 ウ
	寛七 32 ウ 寛七 33 ウ 寛八 14 ウ
	寛八 17 才 寛九 5 才
巨洲	〔州〕 〔近江大津〕 天六 5 ウ
	寛二 6 才
虛舟	〔指月〕 〔京〕 寛六 39 才
	寛五 44 ウ 寛六 40 ウ 寛七 35 才
喜代女	〔武藏本庄〕 寛五 19 ウ
魚尺	〔下野〕 寛四 28 ウ
魚春	〔若狭〕 寛二 10 ウ
魚水	〔上総部田村〕 寛五 20 才
巨川	〔若狭小浜〕 寛二 9 ウ 寛三 11 才
漁船	〔加賀〕 寛三 14 才 寛四 11 ウ
虛丹	〔下野助戸〕 寛八 22 ウ
魚道	〔上野柴〕 寬六 15 才
魚能	〔長門赤間関〕 寬五 31 ウ
其綾	〔美作倉敷〕 寬六 28 才 寛七 26 才
其龍	〔京〕 寛八 58 ウ
其蓼	〔石見銀山片山〕 寬六 28 才
龜令	〔肥後熊本〕 寬五 38 ウ 寛六 36 才
宜令	〔越中〕 寬六 11 ウ
龜渕	〔龜渕〕 〔近江石部〕
	寛七 30 ウ 寛八 51 才 寛九 25 才
許風	〔能登〕 寬十 24 才 寛十 25 才
御風	〔伊勢津〕 寬三 6 才
魚夫	〔加賀金沢〕 寬九 13 才
吟水	〔上野荒牧〕 寬八 14 ウ
琴雪	〔甲斐〕 寬四 39 才
琴川	〔丹波〕 寬六 26 ウ
銀岱	〔伊勢津〕 天七 10 ウ 寛二 9 ウ
	寛三 6 才 寬六 21 ウ 寛八 24 才
金桃	〔陸奥津軽〕 寬五 15 才
金兔	〔南山城伏見〕 寬七 40 才 寬八 54 才
金英	〔陸奥本宮〕 寬六 45 才 寬八 23 才
巾花	〔浪花〕 寬六 3 才 寬六 25 才
琴牙	〔丹波成松〕 寬十 13 才

漁林	〔若狭西津〕 寛三 12 才 寛四 25 ウ
	寛五 42 ウ
寄来	〔筑前植木〕 寛五 33 ウ
帰來	〔筑前甘木〕 寛二 16 ウ 寛五 33 才
	寛七 28 才
巨口	〔近江守山〕 寛二 7 才 寛三 8 ウ
錦月	〔甲斐〕 天六 11 ウ
錦河	〔甲斐〕 天六 32 ウ
琴秋	〔伊予〕 寛四 8 ウ
琴松	〔上野藤岡〕 寬十 1 才
	寛八 40 才
其律	〔石見九日市〕 寛五 41 ウ
杞	〔杷〕 柳 〔京〕 天六 1 ウ 天七 1 才
	寛一 8 才 寬三 23 ウ 寬四 31 ウ
	寛五 44 ウ 寬六 40 ウ 寬七 35 才
寄流	〔伊賀〕 天七 5 才
希龍	〔若狭川原方〕 天七 11 ウ
起龍	〔肥後〕 寬四 4 ウ
其柳	〔薩摩〕 寬四 38 才
其柳	〔筑前黒崎〕 寬五 33 才 寬六 33 ウ
其流	〔陸奥〕 寬四 6 才
其龍	〔京〕 寬八 58 ウ
其蓼	〔美作倉敷〕 寬六 28 才 寬七 26 才
芹水	〔京〕 寬八 1 ウ 寬八 55 才
錦翠	〔長門赤間関〕 寬五 31 ウ 寬八 45 才
琴水	〔甲斐暮地〕 寬八 30 ウ 寬九 10 才
錦水	〔周防嘉川〕 寬六 30 才 寬七 43 才
琴水	〔甲斐暮地〕 寬八 1 ウ 寬八 45 才
金翠	〔武藏〕 寬九 27 才 寬九 29 ウ
吟水	〔近江江頭〕 寬四 24 才
吟水	〔上野荒牧〕 寬八 14 ウ
琴雪	〔甲斐〕 寬四 39 才
琴川	〔丹波〕 寬六 26 ウ
銀岱	〔伊勢津〕 天七 10 ウ 寛二 9 ウ
	寛三 6 才 寬六 21 ウ 寛八 24 才
金桃	〔陸奥津軽〕 寬五 15 才
金兔	〔南山城伏見〕 寬七 40 才 寬八 54 才
金英	〔陸奥本宮〕 寬六 45 才 寬八 23 才
巾花	〔浪花〕 寬六 3 才 寬六 25 才
琴牙	〔丹波成松〕 寬十 13 才

吟賀	〔京〕 寛五 45 ウ
金竟	〔安芸川尻〕 寛二 14 ウ 寛五 29 才
	寛八 40 才
居敬	〔志摩鳥羽連〕 天七 10 ウ
巨口	〔南山城〕 寛四 30 才
錦月	〔甲斐〕 天六 11 ウ
錦河	〔甲斐〕 天六 32 ウ
琴左	〔長門〕 寬六 32 ウ
琴秋	〔伊予〕 寛四 8 ウ
琴松	〔上野藤岡〕 寬十 1 才
	寛八 40 才
其律	〔石見九日市〕 寛五 41 ウ
杞	〔杷〕 柳 〔京〕 天六 1 ウ 天七 1 才
	寛一 8 才 寬三 23 ウ 審四 31 ウ
	寛五 44 ウ 審六 40 ウ 審七 35 才
寄流	〔伊賀〕 天七 5 才
希龍	〔若狭川原方〕 天七 11 ウ
起龍	〔肥後〕 審四 4 ウ
其柳	〔薩摩〕 審四 38 才
其柳	〔筑前黒崎〕 審五 33 才 審六 33 ウ
其流	〔陸奥〕 審四 6 才
其龍	〔京〕 審八 58 ウ
其蓼	〔美作倉敷〕 審六 28 才 審七 26 才
芹水	〔京〕 審八 1 ウ 審八 55 才
錦翠	〔長門赤間関〕 審五 31 ウ 審八 45 才
琴水	〔甲斐暮地〕 審八 30 ウ 審九 10 才
錦水	〔周防嘉川〕 審六 30 才 審七 43 才
琴水	〔甲斐暮地〕 審八 1 ウ 審八 45 才
金翠	〔武藏〕 審九 27 才 審九 29 ウ
吟水	〔近江江頭〕 審四 24 才
吟水	〔上野荒牧〕 審八 14 ウ
琴雪	〔甲斐〕 審四 39 才
琴川	〔丹波〕 審六 26 ウ
銀岱	〔伊勢津〕 天七 10 ウ 審二 9 ウ
	寛三 6 才 審六 21 ウ 審八 24 才
金桃	〔陸奥津軽〕 審五 15 才
金兔	〔南山城伏見〕 審七 40 才 審八 54 才
金英	〔陸奥本宮〕 審六 45 才 審八 23 才
巾花	〔浪花〕 審六 3 才 審六 25 才
琴牙	〔丹波成松〕 審十 13 才



更々	〔加賀金沢〕	寛三13ウ	寛四14才
寛五7ウ	寛六5ウ	寛七6才	
寛九5ウ			
虹光	〔京〕	天七3ウ	寛五44才
皎砂	〔上野荒口〕	寛八17ウ	
江山	〔備中〕	寛三17ウ	
江山	〔近江高宮〕	寛五5ウ	
紅枝	〔安房〕	寛四23才	
江舟	〔近江水口〕	寛一3才	寛二6ウ
岡寿	〔筑前茶屋原〕	寛五33才	
好(かう)	女〔近江水口〕	寛八3才	
寛十23ウ			
庚達	〔京尼〕	寛六38ウ	
黄台	〔若狭〕	寛七24ウ	
江朝	〔上野下仁田〕	寛四34ウ	
黄鳥	〔能登宇出津〕	寛四12ウ	
鴻南	〔周防山口〕	寛六31ウ	寛七43ウ
公眉	〔越中〕	寛五11才	
耕夫	〔阿波城北〕	寛七27ウ	
孔阜	〔伊勢玉垣〕	寛十23ウ	
孔阜	〔甲斐平岡〕	寛九30才	寛十34才
孔阜	〔甲斐平岡〕	寛九30才	寛十34才
広布	〔浪花〕	寛十21ウ	
江風	〔江戸〕	寛九28ウ	
蛤夢	〔京〕	寛六39ウ	
紅葉	〔近江東方木〕	寛八55ウ	
江良	〔肥前〕	寛四3ウ	
江蓼	〔京〕	寛六39才	寛七3ウ
寛七36ウ	寛八1才	寛八58ウ	
寛十1ノ2才	寛十26ウ		

紅良	〔肥前諫早〕	寛五36才	寛七30才
寛九35ウ			
合黎	〔能登宇出津〕	寛四13才	
五雲	〔能登武部〕	寛四17ウ	寛五10才
五雲	〔能登武部〕	寛七8ウ	寛九12才
五雲	〔甲斐暮地〕	寛八30才	
五雲	〔筑前〕	寛七46才	
五英	〔豊前〕	寛十18ウ	
五英	〔京〕	寛七3才	
五英	〔陸奥津軽〕	寛七13才	寛九26才
故園	〔加賀宮腰〕	寛五7ウ	寛八7才
故園	〔信濃今岡／塩名田〕	寛十21ウ	
胡園	〔信濃今岡／塩名田〕	寛五23才	
古音	〔近江篠原／小笠原〕	寛六20才	寛七20才
古音	〔近江篠原／小笠原〕	寛八32才	
古音	〔近江篠原／小笠原〕	寛七4ウ	
故友	〔近江堅田〕	寛八3ウ	
壺外	〔在浪花／肥前〕	寛七47ウ	
壺外	〔在浪花／肥前〕	寛八51ウ	
孤鶴	〔肥後〕	寛五39ウ	
吾角	〔加賀金沢〕	寛七7才	
木枯庵	〔丘馬〔伊勢山田〕〕		
虎眼	〔近江水口〕	寛七4才	
五雁	〔但馬船谷〕	寛八38才	寛九5ウ
五計	〔江戸〕	寛九28才	
湖桂	〔筑前植木〕	寛四9才	寛六44才
湖桂	〔筑前植木〕	寛三4才	寛三7才
孤溪	〔伊勢寺方〕	寛十4ウ	
五計	〔江戸〕	寛九28才	
吳渓	〔長門〕	寛二16才	
孤月	〔周防山口〕	寛五30ウ	寛六31ウ
孤月	〔周防山口〕	寛三14才	寛七12才
孤秀	〔紀伊〕	寛五23ウ	
孤秀	〔肥後〕	寛十14ウ	
孤秀	〔京〕	寛二2才	寛五44ウ
孤秀	〔京〕	寛三6ウ	寛四27ウ
后車	〔尾張〕	寛十22ウ	
后車	〔紀伊〕	寛五23ウ	
后車	〔尾張〕	寛三6ウ	寛四27ウ
吴秀	〔肥前〕	寛十22ウ	
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛二19才	寛二19才
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛六15ウ	
湖月	〔陸奥〕	寛六37ウ	寛十19才

五牛	〔南山城天神森卜木水連〕	寛四37ウ	寛五43ウ	寛六37ウ
五湖	〔伊賀〕	寛一1ウ		
古光	〔河内交野郡津〕	寛六25才		
寛九23ウ	寛十13才			
古極	〔志摩鳥羽連〕	天七10ウ		
五橋	〔能登三階〕	寛四16才		
吳曉	〔能登三階〕	寛五9才	寛六10ウ	
吳江	〔陸奥津軽〕	寛四6才	寛五15才	
寛六16才	寛七13才			
五毫	〔武藏金久保〕	寛六17才		
觚哉	〔加賀金沢〕	寛八7才		
湖山	〔上総〕	寛一10ウ		
湖山	〔出羽秋田〕	寛七14ウ		
孤山	〔河内〕	寛五22才		
孤山	〔甲斐鮎沢〕	寛八31才		
孤山	〔美作弓削〕	寛八37才		
孤山	〔石見日原〕	天七12ウ		
虎山	〔出羽秋田〕	寛七14ウ		
孤山	〔河内〕	寛五22才		
孤山	〔甲斐鮎沢〕	寛八31才		
孤山	〔美作弓削〕	寛八37才		
孤山	〔石見日原〕	天七12ウ		
壺山	〔京〕	寛七35才	寛八59才	
壺山	〔京〕	寛七35才	寛八59才	
寛十1才				
黑沢坊	〔甲斐藤田〕	寛四28才	寛五22才	
黑沢坊	〔甲斐藤田〕	寛四28才	寛五22才	
寛六19才				
黑郎	〔江戸〕	寛三4才	寛三7才	
黑郎	〔江戸〕	寛三4才	寛三7才	
孤溪	〔伊勢寺方〕	寛十4ウ		
孤溪	〔伊勢寺方〕	寛十4ウ		
湖桂	〔筑前植木〕	寛四9才	寛六44才	
湖桂	〔筑前植木〕	寛三4才	寛三7才	
語山	〔上野本宿〕	寛四29才	寛五13才	
語山	〔上野本宿〕	寛四29才	寛五13才	
寛六14才	寛七12才	寛八13才		
后車	〔尾張〕	寛五23ウ		
后車	〔尾張〕	寛五23ウ		
孤秀	〔京〕	寛二2才	寛五44ウ	
孤秀	〔京〕	寛二2才	寛五44ウ	
孤秀	〔肥後〕	寛十14ウ		
孤秀	〔肥後〕	寛十14ウ		
后車	〔紀伊〕	寛五23ウ		
后車	〔紀伊〕	寛五23ウ		
五周	〔尾張〕	寛三6ウ	寛四27ウ	
五周	〔尾張〕	寛三6ウ	寛四27ウ	
吳秀	〔肥前〕	寛十22ウ		
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛二19才	寛二19才	
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛六15ウ		
湖月	〔但馬夏梅村〕	寛八37ウ	寛十19才	

壺月	〔豊後高田〕	寛八51才	
五湖	〔伊賀〕	寛一1ウ	
古光	〔河内交野郡津〕	寛六25才	
寛八2ウ	寛八29才	寛九22ウ	
寛九23ウ	寛十13才		
古極	〔志摩鳥羽連〕	天七10ウ	
五橋	〔能登三階〕	寛四16才	
吳曉	〔能登三階〕	寛五9才	寛六10ウ
吳江	〔陸奥津軽〕	寛四6才	寛五15才
寛六16才	寛七13才		
五毫	〔武藏金久保〕	寛六17才	
觚哉	〔加賀金沢〕	寛八7才	
湖山	〔上総〕	寛一10ウ	
湖山	〔出羽秋田〕	寛七14ウ	
孤山	〔河内〕	寛五22才	
孤山	〔甲斐鮎沢〕	寛八31才	
孤山	〔美作弓削〕	寛八37才	
孤山	〔石見日原〕	天七12ウ	
虎山	〔石見日原〕	天七12ウ	
孤山	〔美作弓削〕	寛八37才	
孤山	〔石見日原〕	天七12ウ	
壺山	〔京〕	寛七35才	寛八59才
壺山	〔京〕	寛七35才	寛八59才
寛十1才			
黑沢坊	〔甲斐藤田〕	寛四28才	
黑沢坊	〔甲斐藤田〕	寛四28才	
寛六19才			
黑郎	〔江戸〕	寛三4才	寛三7才
黑郎	〔江戸〕	寛三4才	寛三7才
孤溪	〔伊勢寺方〕	寛十4ウ	
孤溪	〔伊勢寺方〕	寛十4ウ	
湖桂	〔筑前植木〕	寛四9才	寛六44才
湖桂	〔筑前植木〕	寛三4才	寛三7才
語山	〔上野本宿〕	寛四29才	寛五13才
語山	〔上野本宿〕	寛四29才	寛五13才
寛六14才	寛七12才	寛八13才	
后車	〔尾張〕	寛五23ウ	
后車	〔尾張〕	寛五23ウ	
孤秀	〔京〕	寛二2才	寛五44ウ
孤秀	〔京〕	寛二2才	寛五44ウ
孤秀	〔肥後〕	寛十14ウ	
孤秀	〔肥後〕	寛十14ウ	
后車	〔紀伊〕	寛五23ウ	
后車	〔紀伊〕	寛五23ウ	
五周	〔尾張〕	寛三6ウ	寛四27ウ
五周	〔尾張〕	寛三6ウ	寛四27ウ
吳秀	〔肥前〕	寛十22ウ	
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛二19才	寛二19才
吾(吳)舟	〔陸奥〕	寛六15ウ	
湖月	〔但馬夏梅村〕	寛八37ウ	寛十19才

こし～さい	壺春	〔丹後網野〕	寛七	24	ウ
孤蕭	〔肥後熊本〕	寛五	38	ウ	
三心					
「江戸」					

古水	〔若狭西津〕	寛三 12 才
湖水	〔長門〕	寛二 15 ウ
五水	〔播磨〕	寛二 13 ウ
吳水	〔加賀金沢〕	寛八 6 ウ
後水	〔伊勢山田〕	寛八 53 ウ
梢	〔筑前直方〕	寛七 28 ウ
五瀬	〔伊勢寺家〕	寛四 16 才
古声	〔備後田房〕	天七 12 才 寛一 5 才
		寛二 14 才 寛三 18 ウ 寛四 26 才
		寛六 29 才 寛七 26 才 寛八 38 ウ
	寛十 26 才	
湖青	〔近江小谷〕	天六 5 ウ
五井	〔首曉〕〔能登三階〕	寛九 33 ウ
孤石	〔肥前諫早〕	寛四 3 才 寛五 34 ウ
	寛七 29 ウ	寛八 52 ウ 寛九 35 才
	寛十 29 才	
壺石	〔加賀本吉〕	寛十 13 ウ
沾節	〔播磨国包〕	寛九 9 才
五雪	〔筑前直方〕	寛七 28 才 寛八 47 才
吳雪	〔近江〕	寛三 9 才 寛四 1 ウ
	寛四 32 才	
吳雪	〔浪花〕	寛八 34 ウ
吳雪	〔相模三浦郡長井〕	寛九 29 才
寛十 29 才		

壺仙	〔蓬戸亭〕	〔越中高岡〕	寛七 9ウ
吳川	〔上野廻橋〕	寛六 14才	寛八 10才 寛九 4ウ 寛十 5才
梧川	〔安芸川尻〕	寛八 40才	五曹 〔加賀〕 寛三 14才 寛四 11ウ
湖竹	〔肥前島原〕	寛五 36ウ	吳竹 〔美作久世〕 寛五 41ウ
五竹	〔陸奥〕	寛九 29才	吾中 〔備後〕 寛四 10ウ
五沖	〔備後三原〕	寛五 28才 寛六 29才	吳晁 〔越中〕 寛四 21ウ
湖亭	〔近江江村〕	天七 7才 寛二 7才	五鼎 〔越前敦賀〕 天六 12才 天七 13才
古塘	〔京〕	天七 3ウ 寛二 2才	寛一 4才 寛二 10ウ 寛八 23ウ
五渡	〔陸奥仙台〕	寛九 21才 寛十 18才	寛九 14才
古冬	〔伊予今治〕	寛九 8ウ	寛二 19ウ 寛三 2ウ 寛三 24ウ
			寛四 1才 寛四 33才 寛五 3才
			寛五 47ウ 寛六 2才 寛六 41才
			寛七 3才 寛七 36才 寛八 1ウ
虎洞	〔越前〕	寛十 9才 寛十 10ウ	虎洞 〔肥前〕 寛六 35才
娯洞	〔肥前〕	寛六 35才	湖南 〔加賀小立野〕 寛五 7才
湖南	〔加賀小立野〕	寛五 7才	このめ 〔近江〕 寛四 25才
湖梅	〔伊予西条〕	寛七 26ウ 寛八 41才	五梅 〔丹後〕 寛十 36才
壺伯	〔信濃飯田〕	寛五 23才 寛六 21才	寛七 21ウ 寛八 65ウ

虎白	〔京〕 寪二一才 審五45 寛六39 寛九38 才
湖帆	〔壱岐〕 審八39 寛十37 才
五風	〔伊賀上野古雅社中〕 天七4 才
五風	〔江戸〕 審九27 ウ
後風	〔筑前〕 審三20 寛四10 才
孤甫	〔周防〕 審三19 才
孤甫	〔長門長田僧〕 審五31 才
孤峰	〔周防山口〕 審五30 才
五峰	〔河内〕 審十28 才
五芳	〔京／江戸／行脚〕 審五45 寛六40 寛七18 寛七34 寛八53 才 審十36 才
梧報	〔越中〕 審六11 ウ
古木	〔筑前直方〕 審七28 ウ
五明	〔伊賀〕 天七5 才
五明	〔出羽久保田〕 審四6 ウ
湖幽	〔伊勢〕 審七42 ウ
吾友	〔近江〕 天六7 ウ
吾友	〔伊勢津・洞津〕 審二9 ウ
狐來	〔南山城〕 天六5 才
後來	〔長門赤間関〕 審四36 才
五來	〔近江〕 審二6 才
後榮	〔京〕 審十1ノ1才 審十27 寛九33 才
湖嵐	〔備中笠岡〕 天六10 才
湖嵐	〔上野柴駅〕 審五13 寛六15 才
五嵐	〔陸奥津輕〕 審九2 才

古律	〔南山城八幡〕	天六	5才	寛三	22ウ	寛十	28ウ
古龍	〔江戸〕	寛三	4才	寛三	7才	寛六	36ウ
古龍	〔越中〕	寛八	10ウ	寛七	31才	寛五	43才
古柳	〔陸奥仙台〕	寛九	20ウ	寛九	20ウ	寛四	30ウ
孤柳	〔越中北野〕	寛九	13ウ	寛九	13ウ	寛六	36ウ
湖流	〔周防山口〕	寛七	26ウ	寛八	46才	寛九	33ウ
湖龍	〔越中久々湊〕	寛四	22才	湖龍	〔近江〕	寛四	24才
五笠	〔肥前諫早〕	寛七	30才	五柳	〔安芸御手洗〕	寛五	29ウ
五立	〔和泉堺〕	寛七	24才	五龍	〔武藏金久保〕	寛七	17才
五龍	〔武藏金久保〕	寛七	17才	吳流	〔加賀〕	寛四	13ウ
後流	〔加賀久江〕	寛四	20才	壺涼	〔能登〕	寛四	19ウ
吾涼	〔筑前風羅堂下〕	寛八	48才	吾涼	〔南山城〕	寛七	45才
吾嶺	〔豊前小倉〕	寛六	44才	孤隣	〔伊賀〕	寛二	8ウ
五齡	〔播磨〕	寛二	19才	五麗	〔肥前諫早〕	寛七	42才
昏芦	〔肥前諫早〕	寛七	42才				

さいへじか

斎我	〔肥前神代〕 寛九24才 寛十22ウ
在貫	〔京〕 天六2才 天七3ウ
寛一	1ウ 寛一9才 寛二3ウ
寛二	20ウ 寛四1ウ 寛四33ウ
寛五	45才 寛六3ウ 寛六40才
寛七	35ウ 寛八60才
斎之	〔陸奥〕 寛六15ウ
清川	〔江戸〕 寛五19才
柴船	〔陸奥〕 寛十18才
才丁	〔上野〕 寛三10才
柴蘿	〔甲斐山ノ神〕 寛九19才
沙鷗	〔丹後河守〕 寛四26ウ
さか	〔上野赤堀女〕 寛六13ウ
左鶴	〔江戸〕 寛三3ウ 寛三7才
寛五	17才 寛七17ウ 寛八21才
左橋	〔若狭小浜〕 寛三11ウ 寛六42ウ
左琴	〔肥前長崎〕 寛三21ウ
朔宇	〔上野宮崎〕 天六11才 寛二18才
寛八	12才 寛九36ウ
作良	〔甲斐藤田〕 天六11ウ 寛二18才
寛四	28才 寛五21才 寛六18ウ
寛七	40ウ 寛八30才 寛九18ウ
左月	〔伊賀〕 天七4ウ
沙月	〔但馬夏梅村〕 寛八38才 寛十19才
紗言	〔江戸〕 寛七34才 寛八21ウ
寛九	27才 寛九29ウ
左々	〔筑前福岡〕 寛九17才

百々丞	〔京鉢叩〕 寛九40ウ
左史	〔筑前福岡〕 寛九17才
嵯雀	〔近江太田／大留／西浦〕
	天七6ウ 寛二8才 寛四24才
	寛五4才 寛六4才 寛七4ウ
寛八	5才 寛九36才 寛十19才
砂上	〔江戸〕 寛三4才
坐笑	〔京〕 寛五44才
沙長	〔京〕 寛四31ウ 寛五45ウ
寛七	2才 寛七37ウ 寛八61ウ
梭鳥	〔武藏金久保〕 寛七17ウ
座聴	〔伊勢津〕 寛六22才
苗葭	〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ
撮龍	〔石見銀山大森〕 寛六41ウ
左定	〔長門赤間関〕 寛四36才
左東	〔肥前諫早〕 寛五34ウ
さな	〔備中〕 寛五27才
左伴	〔京〕 寛九39ウ
左武	〔上野〕 寛十14才
沙文	〔越中〕 寛二22才
砂文	〔京〕 寛五45ウ
佐保	〔上野中宿〕 寛七11才 寛九37才
沙明	〔上野一ノ宮〕 寛七11ウ
坐幽	〔伊勢安濃津／大塚〕 寛八27才
寛八	28ウ
さよ	〔京〕 寛五47才
左来	〔加賀本吉〕 寛七6ウ 寛八6才
左柳	〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ
山活	〔安芸〕 寛三18ウ
蚕臥	〔越中戸出〕 寛五10ウ

三峡	〔加賀〕 寛三13才
山喜	〔能登川尻〕 寛八9ウ
山曉	〔越中〕 寛四21才
山曉	〔京〕 寛二1才 寛二20ウ
三彦	〔江戸〕 寛五40ウ
蚕月	〔伊予〕 寛三20才 寛四8ウ
残月	〔大和如意山〕 寛四30才
三爻	〔能登〕 寛四18才
沙尾	〔京〕 寛一2ウ 寛二1才
山尾	〔京〕 寬三23ウ
山父	〔大坂〕 天六11才 寛一6才
贊夫	〔加賀〕 天七13才
杉風	天七イ才 天七イウ
三樂	〔大和〕 寛二13才
山離	〔豊後高田〕 寛四22ウ 寛六34ウ
三巴	〔大和宇陀〕 寛五25才
三秀	〔越中福野〕 寛六12才 寛七9才
三省亭	〔李喬／三河龍城内〕
三笑	〔上野横室〕 寛九15ウ
山之	〔京〕 寛二3ウ
市隠	〔越中〕 寛五11ウ
翅英	〔近江水口〕 天六7才 寛一3才
志塙	〔上野世良田〕 寛九22才
紫燕	〔播磨〕 寛二13ウ
試測	〔馬雪／南山城佐山〕
三夕	〔能登〕 寛十24ウ
杉雪	〔上野〕 寛四35才
山黛	〔但馬生野〕 寛五42ウ
霰打	〔伊勢白子／御園〕 天六8才
天七	8ウ 寛二9才 寛七45才

山鳥	〔近江信樂長野〕 寛七44ウ
寛八	4才
三朝	〔京〕 天七2才 寛一7ウ
三蝶	〔美作久世女〕 寛五42才
残鳥	〔肥後熊本〕 寛五38ウ
山亭	寛四序1ウ 寛四1才
三冬	〔肥後〕 寛五39ウ
山尾	〔京〕 寛一2ウ 寛二1才
三峽	〔加賀〕 審三13才
山曉	〔越中〕 寛四21才
山曉	〔京〕 寛二1才 寛二20ウ
三朝	〔京〕 天七2才 寛一7ウ
三蝶	〔美作久世女〕 寛五42才
残鳥	〔肥後熊本〕 寛五38ウ
山亭	寛四序1ウ 寛四1才
三冬	〔肥後〕 寛五39ウ
山尾	〔京〕 寛一2ウ 寛二1才
三峽	〔加賀〕 審三13才
山喜	〔能登川尻〕 寛八9ウ
山曉	〔越中〕 寛四21才
山曉	〔京〕 寛二1才 寛二20ウ
三彦	〔江戸〕 寛五40ウ
蚕月	〔伊予〕 寛三20才 寛四8ウ
残月	〔大和如意山〕 寛四30才
三爻	〔能登〕 審四18才
沙尾	〔京〕 審一2ウ 審二1才
山尾	〔京〕 審三23ウ
山父	〔大坂〕 天六11才 審一6才
贊夫	〔加賀〕 天七13才
杉風	天七イ才 天七イウ
三樂	〔大和〕 審二13才
山離	〔豊後高田〕 審四22ウ 審六34ウ
三巴	〔大和宇陀〕 審五25才
三秀	〔越中福野〕 審六12才 審七9才
三省亭	〔李喬／三河龍城内〕
三笑	〔上野横室〕 審九15ウ
山之	〔京〕 審二3ウ
市隠	〔越中〕 審五11ウ
翅英	〔近江水口〕 天六7才 審一3才
志塙	〔上野世良田〕 審九22才
紫燕	〔播磨〕 審二13ウ
試測	〔馬雪／南山城佐山〕
三夕	〔能登〕 審十24ウ
杉雪	〔上野〕 審四35才
山黛	〔但馬生野〕 審五42ウ
霰打	〔伊勢白子／御園〕 天六8才
天七	8ウ 審二9才 審七45才

枝鳩〔越中海老江村〕 寛九 13ウ  
似休〔能登〕 寛五 8才  
似鳩〔上野蓮沼〕 天七 14才 寛六 14ウ  
珥丘〔能登〕 寛二 12才 寛三 15才  
四教〔周防山口〕 寛九 33ウ  
斯馨〔近江〕 寛三 9才  
枝旭〔近江〕 寛五 5ウ  
子行〔能登〕 寛四 19ウ  
思堯〔周防室〕 寛八 4ウ

此原〔筑前植木／直方〕 寛五 33ウ  
子言〔京〕 寛七 35才  
志諺〔京〕 天六 2才 寛一 7才  
紫曉〔京〕 寬二 3才 寬二 21才 寬三 22才  
寬五 3才 寬五 44ウ 寬六 2ウ  
寬七 3ウ 寬七 36才 寬八 2才  
寬八 60ウ 寬十 1ノ 1才  
寬十 11ウ

芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寛七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寛七 40才  
寬三 12ウ

時習〔出羽〕 寬五 16ウ  
自酬〔伊勢津〕 天七 9ウ 寬三 6才  
子尚〔陸奥津軽黒石〕 寬五 15才  
寬六 15才  
詩船〔浪花〕 寬十 22才  
芝仙〔安芸〕 寬三 19才  
芝川〔安芸〕 寬三 19才  
二扇〔肥前神代〕 寬八 49ウ  
四祖〔上野前橋／厩橋〕 寬三 10才  
寬四 35才 寬五 14ウ  
士沢〔筑前飯塚〕 寬三 21才 審四 9才  
寬五 32ウ 寬六 33ウ 審七 29ウ  
思竹〔伊賀〕 寬二 8ウ  
時中〔近江〕 寬五 5才  
子鬯〔南山城大住〕 寬五 43ウ 審六 37才  
寬七 31ウ 審八 56ウ  
寬十 1ノ 1ウ 審十 27ウ  
斯長〔肥前〕 審八 51ウ  
士沈〔越中生地／泊〕 審四 22才  
寬五 11才 審七 9ウ  
泰人〔近江〕 審五 5才  
止定〔越中〕 審五 11ウ  
此湊〔伊予西条〕 審七 26ウ  
思童〔越前〕 審十 11才  
此得〔近江長浜／八幡〕 審五 5ウ  
寛六 4才 審七 4才 審八 3ウ

獅子窟〔波井〕〔能登黒島〕  
芝雀〔安芸〕 寬三 19才  
思秋〔伊勢亀山〕 寬五 24才  
枝舟〔阿波徳島〕 天七 12才 審六 28ウ  
紙秋〔出羽能代〕 寛七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寛七 40才  
寬三 12ウ

土鴨〔上総長者町〕 審一 10才  
志江〔京〕 寬六 33才  
志考〔武藏八幡山〕 寬八 62才  
志考〔信濃塙名田／下県〕 寬七 20才  
寬八 32ウ  
志高〔周防嘉川〕 寬六 30ウ 審七 43ウ  
志更〔京〕 天七 1ウ  
紫甲〔京〕 寬八 2才  
紫甲〔近江〕 寬八 4ウ  
至幸〔京〕 審一 8才  
紫水〔近江〕 天六 6才 天七 7才  
紫水〔京〕 寬八 61ウ  
二水〔武藏秩父吉田町〕 審七 16ウ  
寬八 19才  
私青〔京〕 審二 2ウ 審一 21ウ  
寬三 23ウ  
柿青〔肥後八代〕 審二 17才 審五 37才  
子政〔京〕 寬九 2才  
思成〔安房〕 寬六 18ウ  
思声〔近江仁保〕 天六 6ウ  
紫石〔京〕 天七 3才  
紫石〔近江八幡〕 寬六 4ウ 審九 21才  
寬十 18ウ

史吟〔越中今石動〕 寬八 10才  
此君〔櫛石／安房〕  
此君〔越中野寺村〕 寬九 13ウ  
四溪〔伊勢山田〕 寬九 31才  
志計〔近江鏡〕 天六 6ウ  
紫圭〔芦仙〕〔京〕  
翅溪〔近江〕 審三 9才  
指月〔伊勢白子〕 審四 15才  
指月坊〔伊勢二ノ宮〕 審四 16ウ  
指月〔備後福山連〕 審五 29才  
指月〔長門赤間関〕 審六 32才 審八 45才  
寛十 35ウ  
指月→虚舟〔京〕  
思月〔丹波〕 審二 5ウ  
翫月〔近江長浜〕 審九 25才 審十 1才  
芝尔〔筑前飯塚〕 審八 48才

此原〔筑前植木／直方〕 審五 33ウ  
子言〔京〕 審七 35才  
志諺〔京〕 天六 2才 審一 7才  
紫曉〔京〕 寬二 3才 審二 21才 審三 22才  
寬五 3才 寪五 44ウ 寪六 2ウ  
寬七 3ウ 寪七 36才 寪八 2才  
寬八 60ウ 寪十 1ノ 1才  
寬十 11ウ  
思堯〔周防室〕 審八 4ウ  
子衿〔京〕 審四 32ウ  
寛七 36才  
史吟〔越中今石動〕 寪八 10才  
此君〔櫛石／安房〕  
此君〔越中野寺村〕 寬九 13ウ  
四溪〔伊勢山田〕 寬九 31才  
志計〔近江鏡〕 天六 6ウ  
紫圭〔芦仙〕〔京〕  
翅溪〔近江〕 審三 9才  
指月〔伊勢白子〕 審四 15才  
指月坊〔伊勢二ノ宮〕 審四 16ウ  
指月〔備後福山連〕 審五 29才  
指月〔長門赤間関〕 審六 32才 審八 45才  
寛十 35ウ  
之尺〔京〕 天七 1ウ 審一 7ウ  
枝雪〔上野込皆戸〕 審一 10才  
此川〔伊勢洞津連〕 天七 10才  
市仙〔美作弓削〕 審八 37才  
志仙〔春茅〕〔浪花〕 審五 25ウ  
寛六 44才  
獅子窟〔波井〕〔能登黒島〕  
芝雀〔安芸〕 審三 19才  
思秋〔伊勢亀山〕 審五 24才  
枝舟〔阿波徳島〕 天七 12才 審六 28ウ  
紙秋〔出羽能代〕 審七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
寛三 12ウ

紫夕〔出羽〕 審四 7ウ  
之尺〔京〕 天七 1ウ 審一 7ウ  
枝雪〔上野込皆戸〕 審一 10才  
此川〔伊勢洞津連〕 天七 10才  
市仙〔美作弓削〕 審八 37才  
志仙〔春茅〕〔浪花〕 審五 25ウ  
寛六 44才

獅子窟〔波井〕〔能登黒島〕  
芝雀〔安芸〕 審三 19才  
思秋〔伊勢亀山〕 審五 24才  
枝舟〔阿波徳島〕 天七 12才 審六 28ウ  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
寛三 12ウ

獅子窟〔波井〕〔能登黒島〕  
芝雀〔安芸〕 審三 19才  
思秋〔伊勢亀山〕 審五 24才  
枝舟〔阿波徳島〕 天七 12才 審六 28ウ  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
寛三 12ウ

獅子窟〔波井〕〔能登黒島〕  
芝雀〔安芸〕 審三 19才  
思秋〔伊勢亀山〕 審五 24才  
枝舟〔阿波徳島〕 天七 12才 審六 28ウ  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七 11才  
紙秋〔出羽能代〕 寪七 40才  
寛三 12ウ

104

子得	〔近江堅田〕	寛十5才
至徳庵	〔出羽左沢〕	寛五16才
自徳	〔信濃諷訪〕	寛五23才
指馬	〔讃岐仁保〕	寛三19ウ 寛四36ウ
寛六	28ウ	
紫陌	〔上野木島〕	寛九4才
枝白	〔備中〕	寛三17ウ
紙白	〔筑前福岡〕	寛八48ウ
子麦	〔伊賀上野古雅社中〕	天七4才
柿風	〔備後〕	寛一5才
子風	〔加賀金沢〕	寛七6ウ
思赴斗	〔近江仁保〕	寛四23ウ
子文	〔長門舟木〕	寛八45ウ
市文	〔伊勢内堀〕	寛十4ウ
史甫	〔越中〕	寛四20ウ
芝峰	〔讃岐笠居〕	寛五26才 寛八47才
自峰	〔信濃長瀬〕	寛七21ウ
幡鳳	〔越中野寺村〕	寛九13ウ
獅鳴	〔但馬朝来山〕	寛五42才
車蓋	〔京〕	天六初ウ 天六2ウ
	天七14才 寛一9才 寛二口ノ1才	
寛二4才	寛三23ウ 寛四34才	
寛五2才	寛五47ウ 寛六2才	
舍鳩	〔筑前黒崎〕	寛三26才
車丘	〔下野助戸〕	寛七12ウ
社牛	〔京〕	天六12才

尺菊	〔肥後熊本〕	寛五3ウ 寛五38才
		寛十14ウ
尺樹	〔下野柄木〕	寛四28ウ 寛七12ウ
		寛八22才 寛九32ウ 寛十4才
寛六	28ウ	寛十35才
紫陌	〔上野木島〕	寛九4才
枝白	〔備中〕	寛三17ウ
紙白	〔筑前福岡〕	寛八48ウ
子麦	〔伊賀上野古雅社中〕	天七4才
柿風	〔備後〕	寛一5才
子風	〔加賀金沢〕	寛七6ウ
思赴斗	〔近江仁保〕	寛四23ウ
子文	〔長門舟木〕	寛八45ウ
市文	〔伊勢内堀〕	寛十4ウ
史甫	〔越中〕	寛四20ウ
芝峰	〔讃岐笠居〕	寛五26才 寛八47才
自峰	〔信濃長瀬〕	寛七21ウ
幡鳳	〔越中野寺村〕	寛九13ウ
獅鳴	〔但馬朝来山〕	寛五42才
車蓋	〔京〕	天六初ウ 天六2ウ
	天七14才 寛一9才 寛二口ノ1才	
寛二4才	寛三23ウ 寛四34才	
寛五2才	寛五47ウ 寛六2才	
舍鳩	〔筑前黒崎〕	寛三26才
車丘	〔下野助戸〕	寛七12ウ
社牛	〔京〕	天六12才

支由	〔出羽秋田六郷〕	寛五16才
しう	〔志宇〕	〔近江平松女〕 天六6才
		天七8才 寛三8才 寛七4ウ
寛九	26才	
嵩平	〔越中〕	寛四21ウ
秋篁	〔筑前直方〕	寛七28ウ
秋好	〔武藏深谷〕	寛九12才
秋屋	〔伊勢神路山〕	寛五23ウ 寛六22才
秋月	〔防周小郡〕	寛七43ウ
秋者	〔京〕	寛四32ウ
周山	〔京〕	寛四2ウ
周泉	〔播磨姫路〕	寛十1ノ1ウ
		寛十27才
周岱	〔京〕	天七1ウ
周貯	〔武藏秩父吉田町〕	寛七16才
		寛十28ウ
周馬	〔加賀金沢〕	寛八6ウ 寛九22ウ
		寛八18ウ 寛十22才
周路	〔近江守山勝部〕	寛一2ウ
		寛二7ウ 寛三8ウ 寛五5ウ
秀孝	〔江戸〕	寛五17ウ
秀哉	〔武藏秩父吉田町〕	寛七16ウ
		寛八19才
秀川	〔江戸〕	寛五17ウ
秀里	〔浪花〕	寛五26才 寛七38ウ
秀和	〔上野薬町〕	寛五13ウ
秀朶	〔尾張〕	寛八18ウ

車輪	〔越前〕	寛十11才
支由	〔出羽秋田六郷〕	寛五16才
しう	〔志宇〕	〔近江平松女〕 天六6才
		天七8才 寛三8才 寛七4ウ
寛九	26才	
嵩平	〔越中〕	寛四21ウ
秋篁	〔筑前直方〕	寛七28ウ
秋好	〔武藏深谷〕	寛九12才
秋屋	〔伊勢神路山〕	寛五23ウ 寛六22才
秋月	〔防周小郡〕	寛七43ウ
秋者	〔京〕	寛四32ウ
周山	〔京〕	寛四2ウ
周泉	〔播磨姫路〕	寛十1ノ1ウ
		寛十27才
周岱	〔京〕	天七1ウ
周貯	〔武藏秩父吉田町〕	寛七16才
		寛十28ウ
周馬	〔加賀金沢〕	寛八6ウ 寛九22ウ
		寛八18ウ 寛十22才
周路	〔近江守山勝部〕	寛一2ウ
		寛二7ウ 寛三8ウ 寛五5ウ
秀孝	〔江戸〕	寛五17ウ
秀哉	〔武藏秩父吉田町〕	寛七16ウ
		寛八19才
秀川	〔江戸〕	寛五17ウ
秀里	〔浪花〕	寛五26才 寛七38ウ
秀和	〔上野薬町〕	寛五13ウ
秀朶	〔尾張〕	寛八18ウ
捨來	〔江戸〕	寛九19ウ
斜柳	〔伊勢高角〕	寛十4ウ
舍涼	〔加賀〕	寛五6才



如圭	〔武藏秩父吉田町〕	寛七 16才
寛八	18ウ 寛十 22才	
如珪	〔石見〕	寛二 15才
如月	〔但馬芝村僧〕	寛十 21才
初更	〔交〕〔信濃奈良井〕	寛六 21ウ
寛八	33才	
如耕	〔備後甲山〕	寛十 25ウ
如光	〔周防嘉川〕	寛六 30ウ
如江	〔近江水口〕	天六 7才 天七 8才
如行	〔越中野寺村〕	寛八 10才
如此	〔京〕 天六 3ウ 天七 2才	
如障	〔大坂〕	寛七 40才
如々	〔近江大津〕	寛三 7ウ 寛四 36才
徐翠	〔越後〕	寛三 16ウ
如翠	〔長門赤間関〕	寛四 36才
如水	〔伊賀〕	天七 4ウ
如水	〔大和葛城〕	寛三 22才
如水	〔加賀高松〕	寛四 13ウ
如水	〔伊勢久居〕	寛四 16ウ
如水	〔備中〕	寛五 27ウ
如水	〔周防山口〕	寛八 46才
如水	〔河内郡津〕	寛八 29才 寛九 22ウ
寛十 28才		
曙川	〔筑前直方／勝野〕	寛五 33ウ
如雪	〔甲斐平岡〕	寛四 7才 寛五 21ウ
寛六 19ウ	寛七 41才 寛八 31才	
寛九 30才	寛十 34ウ	
如仙	〔信濃佐久桜井〕	寛七 20才
寛八 32ウ		

如泉	〔上野吾妻横尾〕	寛六 14ウ
寛八	12ウ 寛九 19ウ	
如竹	〔河内郡津〕	寛九 22ウ 寛七 9才
汝添	〔信濃〕	寛六 21才
如竹	〔讃岐引田〕	寛四 27才 寛七 27ウ
寛八	47才 寛九 10才	
如泥	〔京〕	寛四 31才
女桃	〔京〕	天六 2才
怨道	〔伊勢〕	寛七 42才
如風	〔京〕	天七 2才 寛一 7ウ
如方	〔加賀〕	寛四 11ウ
如北	〔京〕	寛一 8才
序明	〔甲斐藤田連〕	寛九 18ウ
如毛	〔近江〕	寛二 7才
如毛	〔信濃上田〕	寛六 43才
如友	〔越中〕	寛三 15ウ 寛四 21才
如毛	〔丹波龜山女〕	寛八 37ウ
紫蘭	〔在京女〕	天六 2才 寛一 7ウ
自楽	〔浪花〕	寛九 4ウ
白雄	〔江戸〕	寛一 10ウ
如樂	〔上野〕	寛十 14才
如雷	〔武藏深谷〕	寛九 12才
如蘭	〔加賀〕	寛四 13ウ 寛五 6才
如蘭	〔越後荒井〕	寛七 19ウ 寛八 18才
止履	〔京〕	寛八 59ウ
歯柳	〔薩摩〕	寛一 5ウ
之柳	〔越中〕	寛四 20ウ
尔流	〔近江〕	寛四 23ウ
二柳	〔浪花〕	天六 10ウ 天七 6才
寛六 25ウ		
子良	〔伊勢〕	寛八序ウ 寛八 24ウ
寛九 24ウ	寛十 20ウ	
如柳	〔肥前佐賀〕	寛七 30ウ
如流	〔加賀金城〕	寛一 4才
如流	〔越中海老江村〕	寛八 10才
如龍	〔浪花〕	寛九 26才
如龍	〔近江大津〕	寛五 4才

如龍	〔越中〕	寛九 13ウ
如臨	〔下野足利阿波〕	寛八 22才
紫蘿	〔甲斐山ノ神〕	寛八 29ウ
寛十 34才		
如台	〔越中福野〕	寛六 12才 寛七 9才
如竹	〔讃岐引田〕	寛四 27才 寛七 27ウ
寛八	47才 寛九 10才	
時来	〔伊勢一身田〕	天七 9ウ
自来	〔京〕	寛三 3才 寛三 24ウ
寛四 2才 寛四 32才 寛五 47才		
二雷	〔京〕	寛四 2ウ 寛四 32ウ
寛五 47才	寛六 39ウ 寛七 35才	
寛八 59才	寛九 39才	
爾來	〔武藏金久保〕	寛六 17ウ 寛七 17ウ
白雄	〔江戸〕	寛一 10ウ
自楽	〔浪花〕	寛九 4ウ
白雄	〔江戸〕	寛一 10ウ
如毛	〔近江〕	寛九 4ウ
如毛	〔丹波龜山女〕	寛八 37ウ
芝蘭	〔在京女〕	天六 2才 寛一 7ウ
紫蘭	〔在丹波龜山女〕	寛五 46ウ
自楽	〔浪花〕	寛九 4ウ
申之	〔武藏秩父吉田町〕	寛八 19才
新之	〔信濃木曾奈良井〕	寛八 33才
申之	〔武藏秩父吉田町〕	寛八 19才
振々	〔越前丸岡〕	寛十 9才 寛十 10才
蜃州	〔洲〕〔近江水口〕	天六 6ウ
晒之	〔安芸〕	寛三 18ウ
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔甲斐浅原〕	寛九 19ウ
信雅	〔江戸〕	寛六 16ウ
紫蘿	〔甲斐山ノ神〕	寛八 29ウ
真爰	〔山城〕	寛二 4才
甚悦	〔近江水口〕	寛五 4ウ
真貫	〔甲斐飯野〕	寛九 29ウ
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
真弓	〔肥後熊本〕	寛五 38ウ
真弓	〔甲斐淺原〕	寛九 19ウ
真弓	〔江戸〕	寛五 19才
真弓	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛九 35才
尋古	〔江戸〕	寛五 19才
芯山	〔相模猿ヶ島〕	寛九 5ウ
真向	〔常陸水戸〕	寛八 55ウ 寛



せっ～そう

雪江〔武藏熊谷〕	寛八 20ウ
雪香〔陸奥仙台連〕	寛九 31才
雪鴻〔武藏野上町〕	寛七 16ウ
浙江〔武藏本庄〕	寛六 17ウ 寛九 27才
舌向〔安芸竹原女〕	寛七 26ウ
	寛九 20才
雪士〔肥前諫早〕	寛七 30才
雪枝〔肥後上野〕	寛五 40ウ
雪巵〔肥前有田皿山〕	寛四 4才
	寛八 49ウ 寛九 24才
雪肆〔若狭西津〕	寛三 12才 寛五 43才
雪女〔肥前島原〕	寛十 15才
雪川〔陸奥〕	寛三 11才
雪鳥〔長門舟木〕	寛六 30才
雪桃〔遠江木舟〕	寛九 13才
雪馬〔加賀〕	寛五 7ウ
雪馬〔肥前天草〕	寛七 39才
雪馬〔備後新市〕	寛八 39才
雪仏庵〔能登金丸〕	寛十 30ウ
世涼〔加賀〕	寛六 7ウ
蟬雨〔安芸〕	寛三 18ウ
仙鳥〔肥前〕	寛十 22ウ
千鶴〔江戸〕	寛三 4ウ
千崖〔江戸〕	寛五 17才
千鶴〔近江辻村〕	天七 7才 寛二 7ウ
全瓦〔丹波亀山〕	寛五 42ウ 寛八 37ウ
	寛三 7ウ 寛四 38才 寛五 48才
寛六 5才	寛九 20ウ
寛九 20才	寛九 20才

仙魚	〔備後福山〕 寛五 28 泉魚	〔上野草津〕 寪七 42 仙家	〔周防室津〕 寪八 40 千鯢	〔近江辻村〕 寪三 8 仙紫	〔陸奥仙台連女〕 寪九 30 仙芝	〔越中高岡〕 寪八 11 仙舟	〔若狭能登野〕 寪三 11 仙処	〔浪花〕 寪六 25 千之	〔伊勢白子連女〕 天六 8 専車	〔上野境町〕 寪一 3 寛三 10 寛六 13 扇之	〔信濃木曾奈良井〕 寪六 21 浅生	〔浪花〕 寪九 16 仙丈	〔信濃片倉〕 寪七 20 千尺	〔京〕 天七 2 専児	〔近江〕 寪二 8 洗耳	〔武藏三峰山〕 寪七 17 寛八 21 寛十 21 線川	〔肥後方が瀬〕 寪五 39 千足	〔飛驒高山〕 寪七 19 仙鳥	〔肥前神代〕 寪八 50 洗竹	〔肥後熊本〕 寪五 38 全潮	〔薩摩〕 寪三 21 千亭	〔周防〕 寪八 40 千布	〔加賀能瀬〕 寪八 7 仙風	〔武藏〕 寪二 18 川風	〔武藏金久保〕 寪七 46 仙僕	〔丹後網野〕 寪六 27 才
----	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	----------------------	--------------------	---------------------	------------------	---------------------	-------------------------------------	-----------------------	------------------	--------------------	----------------	-----------------	---------------------------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------	------------------	-------------------	------------------	---------------------	-------------------

そ

千友	〔越中ノカヒ〕	寛二 22才 寛六 12才
千羅	〔近江堅田〕	天七 6ウ 寛一 3才
	寛二 8才 寛七 4ウ	
千里	〔若狭藤井〕	寛一 3ウ 寛三 11ウ
	千里	〔安芸御手洗〕 寛五 29ウ
千里	〔陸奥〕	寛六 15ウ
仙梨	〔長門赤間関〕	寛六 33才
	寛九 11才 寛十 36ウ	
川里	〔河内破岐井〕	寛四 7才 寛五 22才
	潜鯉	〔上総長者町〕 寛一 10才
川柳	〔武藏入間ノ里〕	寛九 6才
泉柳	〔近江新城〕	天六 5ウ
	潛龍	〔伊予西条〕 寛八 41才
千鶩	〔伊予西条〕	寛七 27才
仙露	〔長門赤間関〕	寛十 36ウ
素陰	〔上野桐生／廻橋〕	寛五 14才
	寛七 10ウ 寛八 17才 寛九 15ウ	
双鳥	〔武藏本庄〕	寛四 25ウ 寛五 19才
	寛六 17ウ 寛七 15才 寛七 16才	
寛八 19才 寛八 20ウ		
宗応	〔上野廻橋〕	寛九 15ウ 寛十 30才
双我	〔能登〕	寛四 20才
草牙	〔京〕	寛三 3才 寛三 24ウ
箒牙	〔備中吉岡〕	寛五 27才

蒼虬	(槐庵)	(加賀金沢/京)	寛七七才
	寛八序才	寛八二ウ	寛八七ウ
	寛八七ウ	寛十1ノ1才	
寛十33才	寛十36ウ		
巢居	〔京〕	寛六3ウ	
宗拱	〔安房平磯/七浦〕	寛七19才	
	寛九3ウ		
桑戸	〔伊勢山田〕	寛九31ウ	
草戸	〔信濃長瀬〕	寛七22才	
蒼梧	〔志摩鳥羽/烏城〕	天七11才	
	寛四27才	寛五25才	寛六44ウ
	寛九21ウ		
宗剤	〔信濃塚原〕	寛五22ウ	寛八32ウ
宗讃	〔江戸〕	寛三7才	寛八21ウ
	寛九26才		
蒼山	〔伊勢相可〕	寛七37ウ	寛十32才
草耳	〔信濃長瀬連〕	寛九10ウ	
蒼水	〔浪花〕	寛四29ウ	寛五25ウ
宗跡	〔讃岐仁尾〕	寛十31才	
双石	〔伊勢山田〕	寛九31ウ	
漱石	〔下野助戸〕	寛五14ウ	寛七12才
	寛八22ウ		
漱石	〔肥前天草〕	寛七39才	
巣兆	〔江戸〕	寛八22才	
蒼椿	→厲掲〔備後南方〕		
宗徳	〔讃岐〕	寛三19ウ	寛四37才
像堂	〔三河赤坂〕	寛七23才	
草白	〔肥後〕	寛五39才	
草美	〔京〕	寛八61才	寛九40ウ

草夫〔陸奥弘前〕 寛三11才 寛四6ウ  
寛五15才

藏撲〔出雲〕 寛九2ウ 寛九22才  
寛八21才 寛十22才

楚雲〔武藏秩父三峰山〕 寛七17才  
寛八38ウ 寛九32才

備後作木〔三測〕 寛七25ウ  
寛八31ウ 寛九32才

素栄〔上野厩橋郡樋越〕 寛六14ウ  
寛七10ウ 寛八17才 寛九15才  
寛十31才

徂英〔能登寺口／道下〕 寛七8才  
寛八8ウ

鼠角〔南山城〕 天六5才

素外〔尾張〕 寛四27ウ  
〔上野沼田亥屋〕 寛五14才

素喝〔上野厩橋郡荒口〕 寛七10ウ  
〔上野厩橋郡荒口〕 寛五14才

素閑〔江戸〕 寛八17ウ  
〔上野棚下〕 寛八14才

素牛〔美作久世〕 寛五41ウ  
〔加賀金沢〕 寛八6才

楚躡〔能登黒島〕 寛二11ウ 寛三14ウ  
寛四19才 寛五8ウ 寛六7ウ  
寛六10才 寛七7才 寛八8才  
寛十6才 寛十8才

素供〔京〕 寛四31才  
〔上野棚下〕 寛八14才

素玉〔能登黒島〕 寬二11ウ 寬三14ウ  
寛四19才 寬五8ウ 寬六7ウ  
寛六10才 寬七7才 寬八8才  
寛十6才 寬十8才

素鈞〔筑前若宮〕 寛四10才 寛五33才  
〔加賀／在京〕 寛四14才 寛五46ウ  
〔越中高岡〕 寛四22才 寛五10才  
〔加賀〕 寛三14才 寛六6ウ  
寛六7才

素吟〔筑前若宮〕 寛四10才 寛五33才  
〔加賀／在京〕 寬四14才 寛五46ウ  
〔越中高岡〕 寛四22才 審五10才  
〔加賀〕 寛三14才 審六6ウ  
寛六7才

楚吟〔筑前若宮〕 寬四10才 審五33才  
〔加賀／在京〕 寬四14才 審五46ウ  
〔越中高岡〕 寛四22才 審五10才  
〔加賀〕 寬三14才 審六6ウ  
寛六7才

素兄〔筑前若宮〕 寬四10才 審五33才  
〔加賀／在京〕 寬四14才 審五46ウ  
〔越中高岡〕 寛四22才 審五10才  
〔加賀〕 寬三14才 審六6ウ  
寛六7才

素兄〔筑前若宮〕 寬四10才 審五33才  
〔加賀／在京〕 寬四14才 審五46ウ  
〔越中高岡〕 寬四22才 審五10才  
〔加賀〕 寬三14才 審六6ウ  
寛六7才

素溪〔武藏本庄〕 審五19ウ 審六17ウ

寛七15才 審七16才

鋤月〔南山城大住木水連〕 審六37才  
寛七31ウ 審八56ウ

楚古〔但馬夏梅村〕 審八38才  
〔越中高岡〕 審十23才

素己〔上野横室〕 審八14ウ  
〔越中〕 審九29ウ

楚鴻〔伊勢津洞津連〕 天六8ウ  
天七10才 審八24才

楚口〔越中〕 審九29ウ  
〔越中〕 審九29ウ

素交〔江戸〕 審九28才  
〔安芸〕 審三19才

素候〔近江万木〕 審七6才 審八5ウ  
〔信濃飯田〕 審六20ウ

素更〔近江万木〕 審八4才 審九6ウ  
〔信濃飯田〕 審六20ウ

素吼〔浪花〕 審九6ウ  
〔上野前橋・厩橋〕 審三10才

蘇江〔京〕 審九39ウ  
〔加賀〕 審三13才

素山〔武藏深谷〕 審五20才 審九12才  
〔甲斐山寺〕 審八31才

楚雀〔甲斐相可〕 審十32才 審十32才  
〔伊勢相可〕 審八31才

素秀〔越中〕 審三16才 審四22才  
〔近江土山〕 天七8ウ 審七34才

素秋〔近江土山〕 天七8ウ 審七34才  
〔上野厩橋〕 審五14才 審六14才

楚雀〔伊勢相可〕 審十32才 審十32才  
〔加賀小松〕 審五7ウ

素舟〔上野厩橋〕 審五14才 審六14才  
〔加賀小松〕 審五7ウ

素人〔肥前長崎〕 審八49ウ  
〔信濃〕 審六20才

楚水〔信濃〕 審六20才  
〔近江水口〕 天六7才 天七8才

素水〔近江水口〕 天六7才 天七8才  
〔上野厩橋〕 審六44ウ

素石〔能登福浦〕 審十30ウ  
〔上野厩橋〕 審八14才

素雪〔伊予今治〕 審八40ウ  
〔越後高田〕 審八18才  
〔伊予今治〕 審三2才

蘇遊〔肥前古人〕 審七39ウ  
〔肥後〕 審五14才  
〔肥後〕 審五14才

蘇雄〔浪花〕 審九26ウ 審十22才  
〔肥後〕 審五14才  
〔肥後〕 審五14才

鼠来〔大和〕 審三21ウ  
〔大和〕 審三21ウ  
〔大和〕 審三21ウ

鼠洛〔伊勢〕 審二9才 審三2才  
〔甲斐小沼〕 審九11ウ  
〔甲斐小沼〕 審九11ウ

素蘭〔京〕 審三2才  
〔京〕 審三2才  
〔京〕 審三2才

素里〔京〕 審三2才  
〔京〕 審三2才  
〔京〕 審三2才

訴岱〔上野〕 審十31才  
〔伊賀上野古雅社中〕 天七4ウ  
〔筑前〕 審一10ウ

蘇竹〔伊賀上野古雅社中〕 天七4ウ  
〔加賀〕 天六10ウ 審六25ウ  
〔筑前〕 審一10ウ

蘇蝶〔筑前〕 審一10ウ  
〔京〕 審五44才

楚椿〔京〕 審五44才  
〔近江堅田〕 審七5才

楚洞〔信濃飯田〕 審六20ウ  
〔上野前橋・厩橋〕 審三10才

楚同〔信濃飯田〕 審六20ウ  
〔近江大津〕 天七6才 審一2才

楚南〔近江大津〕 天七6才 審一2才  
寛四35ウ 審五14ウ

楚罷〔肥後〕 審五39才  
〔近江土山〕 天七8ウ 審三9ウ

楚風〔出羽左沢〕 審四7ウ 審五16才  
寛四38ウ 審五39才

楚風〔近江杉江〕 審三8ウ 審四24ウ  
寛六5才 審四38ウ

楚風〔近江杉江〕 審三8ウ 審四24ウ  
寛六5才 審四38ウ

楚風〔近江杉江〕 審三8ウ 審四24ウ  
寛六5才 審四38ウ

楚風〔三河池鯉鮒〕 審九21才  
〔京〕 審四32ウ

祖明〔越後高田〕 審八18才  
〔伊予今治〕 審三20才 審十29ウ

大一〔越中〕 審六11ウ

た

鱈魚〔甲斐市川〕 審九19才

鱈魚〔甲斐市川〕 審九19才  
〔信濃〕 審八32才

鱈魚〔甲斐市川〕 審九19才  
〔信濃〕 審八32才

鱈魚〔甲斐市川〕 審九19才  
〔信濃〕 審八32才

鱈魚〔甲斐市川〕 審九19才  
〔信濃〕 審八32才

たいへん

大牙	〔能登田鶴浜〕 寛四 20才
寛五 9ウ 寛八 9才	
太賀	〔伊勢神都〕 寛七 22ウ
大旗	〔越中高岡〕 寛八 10ウ 寛八 11ウ
寛九 34ウ	
大貴	〔伊勢五十鈴川〕 寛八 25ウ
大渓	〔加賀〕 寛四 12才
大（泰）渓	〔京〕 天六 4才 寛七 37才
寛八 59才	
大梧	〔丹波黒井〕 寛九 22ウ
対山	〔加賀金沢〕 寛五 7ウ 寛六 5ウ
寛七 6才 寛八 5ウ	
台洲	〔甲斐市川〕 寛五 21才
泰昌	〔江戸〕 寛六 16ウ
乃至	〔能登川田〕 寛四 17ウ
怡水→柳汀	〔能登黒島〕 寛五 10才 寛六 10ウ 寛七 44ウ
苔水	〔筑前直方〕 寛八 47ウ
台嵩	〔京〕 寛五 46ウ
帶雪	〔讃岐垂水村〕 寛八 47才
帶川	〔伊勢白子寺家〕 寛八 22才
寛三 5ウ 寛四 16才 寛五 24ウ	
寛六 44ウ 寛七 45才 寛八 29才	
黛朧	〔淡路〕 寛五 26才
大椿	〔京御室〕 天七 5ウ
大兆	〔武藏入間ノ里〕 寛九 6才
大通	〔伊勢〕 天六 8ウ
待兎	〔山城山崎〕 天七 5ウ
太麻	〔江戸〕 寛九 28才

台眠	〔甲斐台ヶ原〕 寛五 21才
寛七 19ウ 寛八 31ウ	
大夢	〔近江湖東〕 天七 7ウ
退冥	〔越中富山〕 天六 12ウ
大西	〔越中放生津／那古／海老江村〕 寛八 9才
寛三 16才 寛四 20ウ 寛六 11才	
寛八 10才 寛九 14才 寛九 17才	
黛葉	〔溪竹〕 〔淡路〕 寛四 38才
寛六 26才 寛七 24才	
大来堂→百池	〔京〕 寛九 33才
退輪	〔上野廻橋〕 寛五 14才
寛七 6才 寛八 5ウ	
大梁	〔京〕 寛六 40ウ
苔露	〔京〕 寛四 31才
陀雲	〔肥前島原〕 寛五 36ウ 寛八 49才
乃至	〔能登川田〕 寛四 17ウ
寛九 24才	
たか女	〔浪花〕 寛八 34ウ 寛十 22才
瀧	〔備中女〕 寛五 26ウ
たき	〔筑前女〕 寛五 34才
瀧の坊	〔能登竹之津〕 寛九 9才
棹雪	〔京〕 寛九 1ウ 寛九 37ウ
棹雪	〔京〕 寛九 1ウ 寛九 37ウ
寛十 1ノ 2ウ 寛十 27才	
淡水	〔筑前直方〕 寛七 28ウ
淡水	〔河内村野〕 寛八 29才 寛九 23才
湍水	〔筑前直方〕 寛七 28ウ
丹泉	〔肥後〕 寛五 39ウ
淡水	〔筑前〕 寛六 38ウ
淡水	〔肥前〕 寛六 35ウ
湛露	〔肥前〕 寛四 4才
知一	〔能登東馬場〕 寛五 10才
遅逸	〔能登川尻〕 寛七 8ウ 寛八 9ウ
千恵	〔肥後熊本女〕 寛五 38ウ
竹雨	〔上野〕 寛三 10ウ
多洗	〔近江辻村〕 寛四 24才

染々房	〔出羽秋田六郷〕 寛五 16ウ
陀仏	〔近江大津〕 天七 6才 寛一 2才
寛二 20ウ 寛二 22才 寛三 7ウ	
たよ女	〔能登田鶴浜〕 寛八 9才
寛六 34ウ	
太蔑	〔伊勢神都〕 寛七 22ウ
寛九 34ウ	
太旗	〔越中高岡〕 寛八 10ウ 寛八 11ウ
寛九 34ウ	
太渓	〔加賀〕 寛四 12才
寛九 34ウ	
大（泰）渓	〔京〕 天六 4才 寛七 37才
寛八 59才	
大梧	〔丹波黒井〕 寛九 22ウ
対山	〔加賀金沢〕 寛五 7ウ 寛六 5ウ
寛七 6才 寛八 5ウ	
台洲	〔甲斐市川〕 寛五 21才
泰昌	〔江戸〕 寛六 16ウ
乃至	〔能登川田〕 寛四 17ウ
寛五 10才 寛六 10ウ 寛七 44ウ	
苔水	〔筑前直方〕 寛八 47ウ
苔露	〔京〕 寛四 31才
陀雲	〔肥前島原〕 寛五 36ウ 寛八 49才
乃至	〔能登川田〕 寛四 17ウ
寛九 24才	
退輪	〔上野廻橋〕 寛五 14才
寛七 6才 寛八 5ウ	
大梁	〔京〕 寛六 40ウ
苔露	〔京〕 寛四 31才
陀雲	〔肥前島原〕 寛五 36ウ 寛八 49才
乃至	〔能登川田〕 寛四 17ウ
寛九 24才	
端周	〔能登道下〕 寛九 29ウ
誕舟	〔能登道下〕 寛六 10ウ 寛七 8才
寛八 8ウ	
端周	〔能登道下〕 寛十 9才
誕舟	〔能登道下〕 寛六 10ウ 寛七 8才
寛八 8ウ	
端周	〔能登道下〕 寛十 9才
彈子	〔陸奥仙台〕 寛九 21才 寛十 23才
寛八 8ウ	
端周	〔能登道下〕 寛九 29ウ
誕舟	〔能登道下〕 寛六 10ウ 寛七 8才
寛八 8ウ	
端周	〔能登道下〕 寛十 9才
彈子	〔陸奥仙台〕 寛九 21才 寛十 23才
寛八 8ウ	
端周	〔能登道下〕 寛九 29ウ
誕舟	〔能登道下〕 寛六 10ウ 寛七 8才
寛八 8ウ	
竹両	〔筑前飯塚〕 寛三 21才 寛四 8ウ
寛五 32ウ 寛六 33ウ	
竹両	〔安芸竹原〕 寛五 29ウ
寛五 32ウ 寛六 33ウ	
竹両	〔筑前飯塚〕 寛三 21才 寛四 8ウ
寛五 32ウ 寛六 33ウ	
竹和	〔陸奥仙台連〕 寛九 30ウ
寛五 32ウ 寛六 33ウ	
竹和	〔陸奥仙台連〕 寛九 30ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
竹梁	〔肥前島原〕 寛五 36ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
竹梁	〔肥前島原〕 寛五 36ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
竹和	〔陸奥仙台連〕 寛九 30ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
知十	〔上野〕 寛三 11才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知水	〔安房〕 寬四 23才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知水	〔安房〕 審四 23才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
ちせ	〔近江女〕 審六 4ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知石	〔近江〕 審十 1ウ 寪十 3才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知石	〔近江〕 審十 1ウ 寪十 3才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知双	〔伊勢西ノ田〕 審八 26才 寪八 28ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知双	〔伊勢西ノ田〕 審八 26才 寪八 28ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知足	〔信濃飯田〕 審五 22ウ 寪七 21才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知足	〔信濃飯田〕 審五 22ウ 寪七 21才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知多	〔伊勢津野田〕 審七 22ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知多	〔伊勢津野田〕 審七 22ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
遅竹	〔大坂〕 審九 14才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知蝶	〔武藏秩父吉田町〕 審八 19才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
竹闇	〔肥後〕 審十 14ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
竹闇	〔肥後〕 審十 14ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
竹渕	〔月岬〕 〔肥前平戸〕 審八 65才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
竹渕	〔月岬〕 〔肥前平戸〕 審八 65才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知白	〔遠江〕 審二 17ウ 寪三 6ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知白	〔遠江〕 審二 17ウ 寪三 6ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知風	〔備中笠岡〕 審四 26才 寪五 27ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知風	〔備中笠岡〕 審四 26才 寪五 27ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
雉鳴	〔江戸〕 審九 28ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
茶煙	〔伊勢雲出川〕 審八 24ウ
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	

竹蓑	〔浪花〕 審十 21才
竹堂主人	寛六 1ウ
竹風	〔京〕 審九 39ウ
竹輔	〔上野下仁田〕 審七 11才
寛八 13才	
竹茂	〔越後高田〕 審五 12才
竹由	〔安芸御手洗〕 審八 40才
竹葉	〔近江〕 審三 9才
竹里	〔河内村野〕 審九 23才
竹両	〔筑前飯塚〕 審三 21才 審四 8ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
竹梁	〔肥前島原〕 審五 36ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
竹和	〔陸奥仙台連〕 審九 30ウ
寛五 32ウ 寪六 33ウ	
知十	〔上野〕 審三 11才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知水	〔安房〕 審四 23才
寛十 1ノ 2ウ 寪十 27才	
知水	〔安房〕 審四 23才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
ちせ	〔近江女〕 審六 4ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知石	〔近江〕 審十 1ウ 寪十 3才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知石	〔近江〕 審十 1ウ �铨十 3才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知双	〔伊勢西ノ田〕 審八 26才 寪八 28ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知双	〔伊勢西ノ田〕 審八 26才 �铨八 28ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知足	〔信濃飯田〕 審五 22ウ �铨七 21才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知足	〔信濃飯田〕 審五 22ウ �铨七 21才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
遅竹	〔大坂〕 審九 14才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知蝶	〔武藏秩父吉田町〕 審八 19才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
竹闇	〔肥後〕 審十 14ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
竹渕	〔月岬〕 〔肥前平戸〕 審八 65才
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知白	〔遠江〕 審二 17ウ 寪三 6ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
知風	〔備中笠岡〕 審四 26才 寪五 27ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
雉鳴	〔江戸〕 審九 28ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	
茶煙	〔伊勢雲出川〕 審八 24ウ
寛十 1ノ 2ウ �铨十 27才	

茶暉	〔上野〕 寛九 20才
茶菊	〔伊勢山田〕 寛三 6才
茶川	〔陸奥〕 寛六 16才
茶暮	〔江戸〕 寛八 21ウ
茶丸	〔河内招堤〕 寛五 25ウ
虫之	〔能登田鶴浜〕 寛五 9ウ
雉友	〔加賀金沢〕 寛八 6ウ
ちよ	〔京女〕 天六 4才
頂華	〔肥前〕 寛九 10才
澄水	〔伊勢地家〕 天六 7ウ 天七 9才
朝瓜	〔薩摩阿久根〕 寛四 35ウ
朝霧	〔武藏入間ノ里〕 寛四 19才 寛六 11才
朝炉	〔筑前水城〕 寛七 44才
朝露	〔近江水口〕 寬六 43才
朝叟	〔京〕 天六 12ウ 寛一 9才
潮花	〔近江水口〕 寬一 3才 寛二 6ウ
	寛四 23ウ
潮路	〔京〕 寬一 2才 寛五 44ウ
蝶巴	〔陸奥八戸〕 寬七 13才
蝶夫	〔筑前芦屋〕 寬七 29ウ
調呂	〔備後福山〕 寬八 39才
長広	〔京〕 天六 1ウ 寛一 1才
	寛二 20ウ 寛六 41才

長斎	〔浪花〕 寛八 34ウ 寪九 4ウ
長左	〔上野本宿／西牧〕 審八 13ウ 審九 13才
長道	〔京〕 審七 38才 審八 59才
	寛九 40才
鳥語	〔甲斐山ノ神〕 審七 41才
	寛八 29ウ 審九 19才 審十 34才
鳥周	〔安房磯村〕 審八 23ウ 審十 20ウ
鳥翠	〔江戸〕 審五 20才
鳥醉	〔肥後熊本〕 審十 14ウ
鳥跡	〔加賀小松〕 天七 13才
鳥泰	〔江戸〕 審八 22才
鳥路	〔越後〕 審三 16ウ
鳥籠	〔越中岩坪〕 審九 34ウ
鳥輔	〔伊予〕 審三 20才 審四 8ウ
鳥路	〔肥後芦北〕 審二 17才 審五 37ウ
釣牛	〔武藏本庄〕 審五 18ウ
	寛七 24才
枕岱	〔上野廻橋〕 審七 9ウ 審八 14才
陳兆	〔能登錦川〕 審七 7ウ
椿葉	〔伊勢二宮〕 審四 16ウ
椿羅	〔江戸〕 審九 27才
	寛六 40才 審七 35ウ
汀画	〔加賀小松〕 天七 13才 審四 14才
丁江	〔浪花〕 天七 6才 審六 3才
	寛一 7才 審二 3ウ 審三 2ウ
定雅	〔京〕 天六 2才 天七 4才
	寛三 24才 審四 33才 審五 45才
定斎	〔能登所口〕 審四 20才
庭山	〔信濃長瀬〕 審七 22才 審九 11才
庭山	〔上野前橋〕 審九 9ウ
貞松	〔京〕 審四 1才 審四 33才
貞松	〔二夜庵〕 〔江戸〕 審五 19才
	寛六 17才 審七 17ウ 審八 22才
禎祥	〔浪花〕 審九 14ウ
亭祖	〔上野廻橋／荒牧〕 審六 13ウ
亭々	〔上野〕 審三 10ウ
丁々坊	〔安房清澄山〕 審六 18ウ
貞天	寛五 48才

樗石	〔此君〕 〔安房〕 審三 7才 審十 19ウ
樗年	〔肥前長崎〕 審八 50才
樗葉	〔筑前本木〕 審九 16ウ
馳来	〔越中〕 審三 16才
樗雲	〔備後府中〕 審三 18ウ
知柳	〔伊予西条〕 審八 41ウ
枕雲	〔備後府中〕 審三 18ウ
枕石	〔筑前〕 審四 8ウ
枕石	〔長門赤間関僧〕 審五 31ウ
枕石	〔紀伊高野山僧〕 審五 43才
	寛七 24才
枕岱	〔上野廻橋〕 審七 9ウ 審八 14才
陳兆	〔能登錦川〕 審七 7ウ
椿葉	〔伊勢二宮〕 審四 16ウ
椿羅	〔江戸〕 審九 27才
	寛六 25才
汀画	〔加賀小松〕 天七 13才 審四 14才
丁江	〔浪花〕 天七 6才 審六 3才
	寛一 7才 審二 3ウ 審三 2ウ
定雅	〔京〕 天六 2才 天七 4才
	寛三 24才 審四 33才 審五 45才
定斎	〔能登所口〕 審四 20才
庭山	〔信濃長瀬〕 審七 22才 審九 11才
庭山	〔上野前橋〕 審九 9ウ
貞松	〔京〕 審四 1才 審四 33才
貞松	〔二夜庵〕 〔江戸〕 審五 19才
	寛六 17才 審七 17ウ 審八 22才
禎祥	〔浪花〕 審九 14ウ
亭祖	〔上野廻橋／荒牧〕 審六 13ウ
亭々	〔上野〕 審三 10ウ
丁々坊	〔安房清澄山〕 審六 18ウ
貞天	寛五 48才

て	捷
停華	〔花〕 〔肥前諫早〕 審五 35才
汀化	〔筑前福岡〕 審八 48ウ
丁峨	〔上野廻橋〕 審七 10才 審八 14才
貞雅	〔南山城〕 審六 37才 審七 44ウ
	寛八 55ウ
定雅	〔京〕 天六 2才 天七 4才
	寛六 40才 審七 35ウ
汀画	〔加賀小松〕 天七 13才 審四 14才
丁江	〔浪花〕 天七 6才 審六 3才
	寛一 7才 審二 3ウ 審三 2ウ
定斎	〔能登所口〕 審四 20才
庭山	〔信濃長瀬〕 審七 22才 審九 11才
庭山	〔上野前橋〕 審九 9ウ
貞松	〔京〕 審四 1才 審四 33才
貞松	〔二夜庵〕 〔江戸〕 審五 19才
	寛六 17才 審七 17ウ 審八 22才
禎祥	〔浪花〕 審九 14ウ
亭祖	〔上野廻橋／荒牧〕 審六 13ウ
亭々	〔上野〕 審三 10ウ
丁々坊	〔安房清澄山〕 審六 18ウ
貞天	寛五 48才

貞三	〔下野足利〕	寛八 22才
泥尾	〔京／浪花〕	寛五 46才 寛八 34才
汀鳴	〔上総長者町〕	寛一 10才 寛五 20才
貞保	〔尾張〕	寛十 33才
貞律	〔伊勢相可〕	寛十 32才
笛躬	〔豊後岡〕	寛八 51才
荻人	〔伊勢地家〕	天六 7才 天七 9才
荻風	〔京〕	天七 1才
荻邑	〔能登〕	寛四 17才
荻里	〔伊賀〕	天七 4才
鉄翁	〔近江菩提寺〕	天六 6才
轍左	〔伊勢津〕	寛九 12才
鉄寿	〔長門〕	寛二 16才
鉄船	〔陸奥仙台〕	寛六 16才
田禾	〔伊勢津雲水〕	寛十 5才
田鶴	〔浪花〕	寛十 29才
田鶴	〔甲斐下山〕	寛四 29才
沾節	〔伊勢津雲水〕	寛十一 11才
田鼠	〔播磨小野〕	寛一 27才
天民	〔肥後熊本〕	寛三 17才
田鼠	〔播磨小野〕	寛四 29才
天民	〔周防山口〕	寛六 27才
田毛	〔播磨小野〕	寛七 24才
沾良	〔河内星田〕	寛八 36才
田履	〔播磨小野〕	寛五 38才
沾里	〔播磨小野〕	寛五 26才
田毛	〔播磨小野〕	寛一 4才 寛五 26才
沾良	〔播磨小野〕	寛九 29才
田履	〔播磨小野〕	寛七 44才 寛八 46才

吐阿	〔石見〕	寛二	15才	
東烏	〔若狭西津〕	寛二	10才 寛三	12才
東雨	〔京〕	天六	1才 天七	1才
稻渕	〔京〕	寛五	44才	
桃栄	〔武藏入間ノ里〕	寛九	6才	
冬鳥	〔武藏野上町〕	寛七	16ウ	
桃家	〔伊勢山田〕	寛十	26才	
島霞	〔涯州〕	寛五	40ウ	
東閣	〔筑後柳川〕	天七	12ウ	
桃岳	〔越中川崎〕	寛三	15ウ 寛七	9ウ
桃岸	〔近江長浜〕	寛六	4才 寛七	5ウ
桃河	〔越中女〕	寛六	12才	
桃丸	〔備中玉島〕	寛五	27ウ	
冬芽	〔備後府中〕	寛八	39ウ	
投我	〔京〕	寛四	2ウ	
東河	〔越中〕	寛四	20ウ	
東我	〔伊勢山田〕	寛九	31ウ	
東我	〔安房〕	天六	10才	
東瓦	〔摂津伊丹〕	寛三	21ウ 寛八	34才
陶河	〔若狭小浜〕	寛二	10才 寛三	11ウ
東岐	〔丹波〕	寛四	26ウ	
灯居	〔下野柄木〕	寛七	12ウ 寛八	22ウ
桃牛	〔備中玉島〕	寛五	27ウ	
東溪	〔志摩鳥羽〕	天六	9ウ 天七	10ウ
	寛九	33才 寛十	35才	

東渓	〔周防〕	寛六 31才
東畦	〔肥前佐賀〕	寛九 32才
	〔丹波牛河内〕	寛八 37ウ 寛九 22才
桃溪	〔丹後下岡村〕	寛七 24ウ
	寛十 13才	
桃溪	〔毛拳〕〔近江〕	
桃局	〔局〕〔肥前諫早〕	寛五 35ウ
	寛七 42才	寛八 52才
踏月	〔南山城〕	天六 4ウ
	〔伊予西条〕	寛七 26ウ
冬江	〔若狭〕	寛二 10ウ
東考	〔近江草津〕	寛三 7ウ
東郊	〔越中高岡〕	寛八 11ウ 寛九 34才
東吳	〔越中高岡〕	寛九 34才
	寛九 34ウ	
桃佐	〔備中玉島〕	寛五 27ウ
	〔備中玉島〕	寛五 27ウ
桃三	〔備中玉島〕	寛五 27ウ
桃山	〔肥前〕	寛十 15ウ
唐笑	〔甲斐市川〕	寛四 28才 寛五 21才
	寛六 19才	寛七 41才
東升	〔安芸川尻〕	寛四 22ウ 寛五 29才
東漿	〔淡路〕	寛五 26才
桃子	〔豈前小倉〕	寛十 18ウ
桃思	〔信濃下県／塙名田〕	寛六 20ウ
	寛七 20才	寛八 32ウ
桃枝	〔備中玉島〕	寛五 27ウ
桃脂	〔加賀金沢〕	寛八 7才
桃之	〔京〕	寛四 31ウ
	寛四 31ウ	
桃之	〔周防山口〕	寛六 31才
桃之	〔備後作木〕	寛七 25ウ

藤紫	唐水	〔京〕	寛二 15 才
東吹	〔安芸広島〕	寛一 4 ウ	寛二 14 ウ
		寛三 18 ウ	
桃水	〔薩摩〕	寛一 6 才	
桃睡	〔京〕	寛一 1 才	寛二 口ノ 1 才
		寛二 3 才	寛三 2 ウ
		寛四 1 ウ	寛四 34 才
		寛五 48 才	寛五 3 才
桃青	〔越後〕	寛一 9 才	
桃井	〔越中〕	寛五 11 才	
桃仙	〔陸奥弘前〕	寛四 6 ウ	寛五 15 才
		寛九 29 才	
桃仙	〔近江欲賀〕	寛五 4 才	
桃仙	〔肥前〕	寛十 15 才	寛十 16 才
桃川	〔伊勢〕	寛四 16 ウ	
桃川	〔能登田鶴浜〕	寛八 9 ウ	
桃零	〔筑前直方〕	寛四 9 ウ	寛六 34 ウ
		寛七 28 才	寛八 48 才
桃零	〔長門舟木〕	寛六 30 才	
桃朶	〔備中〕	寛四 8 才	
陶耐	〔近江草津〕	寛五 5 ウ	
東適	〔京〕	寛九 38 ウ	
登都	〔越中〕	寛五 10 才	
洞々	〔丹波梶原〕	天六 9 才	天七 11 ウ
		寛一 4 才	寛二 6 才
		寛四 26 ウ	寛五 42 ウ
		寛七 24 ウ	寛八 37 ウ
		寛九 22 才	寛十 13 才

洞々〔越前〕 寛十 10ウ  
洞々〔出羽秋田六郷〕 寛五 16才

稲肥	〔京〕	寛六	44才
壹父	〔江戸〕	寛九	28ウ
桃峰	〔近江長浜〕	寛八	3ウ
東麻	〔甲斐布施〕	寛九	19才
東明	〔安芸能美〕	寛十	19ウ
濤明	〔肥前佐賀〕	寛八	49才
		寛九	3ウ
	寛十	32ウ	
冬陽	〔京〕	寛六	43才
東洋	〔京〕	寛三	3才
桃葉	〔備中〕	寛三	18才
桃葉	〔下野柄木〕	寛八	22ウ
		寛九	33才
	寛十	35才	
桃李	〔京〕	寛五	44ウ
		寛六	38ウ
董里	〔肥前島原〕	寛七	3ウ
桃柳	〔京〕	寛七	35才
		寛八	1才
桃里	〔越中〕	寛八	59才
		寛九	2ウ
桃里	〔京〕	寛九	39ウ
		寛十	26ウ
桃林	〔周防小郡〕	寛六	30才
		寛七	43ウ
	寛八	46才	
東律	〔肥前諫早〕	寛一	5ウ
		寛五	35ウ
東流	〔陸奥仙台〕	寛九	21才
		寛十	18才
東流	〔伊勢神戸〕	寛十	23才

東籬	〔近江万木〕	寛七4ウ 寬八4才
桃路	〔越後十日町〕	寛三16ウ
	寛四38ウ 寬五12才	寛六12ウ
	寛七19ウ 寬八18才	
吐雲	〔若狭能登野／向笠〕	天七11ウ
	寛一3ウ 審二10才	寛三11ウ
吐雲	〔加賀〕	寛三13才
吐雲	〔近江堅田〕	寛七5才
吐雲	〔上野桐生〕	寛十5才
斗英	〔伊予西条〕	寛七27才
杜影	〔伊勢洞津連〕	天七10才
	寛二9ウ 寬八24才	
都鷲	〔京〕	寛一8才
	寛七25ウ	
斗外	〔備中笠岡〕	寛四26才 寬五27ウ
兔角	〔京〕	寛九3才 寬九38才
渡牛	〔京〕	寛四33才 寬七36才
	寛八62才	
肚牛	〔肥前天草〕	寛七39ウ
得雨	〔伊予西条〕	寛七26ウ 寬八41才
得雨	〔安芸廿日市〕	寛七42ウ
得牛	〔上野桐生〕	寛八17才 寬九15ウ
得之	〔武藏中瀬〕	寛八22ウ
得車	〔伊勢〕	寛六22才
徳島連	〔阿波〕	寛六28ウ
	寛十30才	
	寛九5ウ	
當令	〔近江坊村／伴ノ谷〕	寛七5才
	寛八4ウ	

獨子	〔加賀〕	寛五 6 紫
杜桂	〔京〕	寛二 2 紫 寛四 2 才
	寛四 32 才	寛五 2 紫 寛六 2 才
	寛六 38 紫	寛七 2 紫 寛七 35 才
	寛八 1 才	寛八 61 紫 寛九 39 才
	寛十 27 才	
兔月	〔但馬夏梅村〕	寛八 38 才
兔月	〔上野世良田〕	寛九 22 才
兔月	〔肥前〕	寛十 15 才
吐月	〔在京（能登）〕	寛十 30 紫
杜月	〔甲斐谷戸〕	寛八 31 紫
奴原	〔越中〕	寛五 11 紫
戸口	〔南山城飯岡〕	寛六 37 紫 寛七 31 紫
	寛八 56 才	
杜厚	〔信濃善光寺〕	寛九 36 才
渡江	〔但馬生野〕	天六 9 才 天七 11 紫
渡江	〔武藏秩父吉田町〕	寛八 18 紫
兎豪	〔上野本宿〕	寛六 14 才 寛七 12 才
兎毫	〔京〕	寛六 39 才 寬七 36 紫
斗山	〔陸奥〕	寛六 15 紫
外山	〔肥後長峰〕	寛五 38 才 寛六 36 才
都山	〔能登黒島〕	寛二 11 才 寛三 15 才
	寛四 18 紫	寛五 8 紫 寛六 8 才
	寛六 9 紫	寛七 7 才 寛八 8 才
	寛十 6 才	寛十 8 才
杜市	〔在京／越中城端〕	天六 4 紫
	天七 13 紫	寛一 4 才 寛二 12 紫
	寛四 22 才	
土芝	〔備後三原〕	寛三 18 紫 寛四 10 紫
	寛七 34 才	寛八 39 紫 寛十 19 才

都雀	〔京〕	天六	4ウ	天七	4才
		寛一	7才	寛一	3才
		寛五	44ウ	寛六	3ウ
		寛七	3ウ	寛七	36才
		寛八	57ウ	寛九	2才
		寛十	26ウ		
兎秋	〔伊勢亀山〕	寛五	48才		
斗十	〔安房〕	寛六	18才		
兎丈	〔肥前神代〕	寛八	50ウ	寛九	24ウ
斗醉	寛十	22ウ			
斗醉	〔肥前長崎〕	寛七	44ウ		
斗醉	〔近江水口〕	寛十	32ウ		
都水	〔京〕	寛七	45才	寛八	65才
		寛九	38才		
兎石	〔京〕	天六	3ウ		
兎夕	〔京〕	寛八	1才	寛八	61才
		寛九	1ウ	寛九	38才
杜夕	〔伊予西条〕	寛八	41ウ	寛十	27才
都夕	〔在京〕	寛六	41才		
斗雪	〔京〕	寛四	33才	寛六	40ウ
兎仙	〔京〕	寛八	序ウ		
		寛七	37才	寛八	57ウ
都川	〔越中福野〕	寛七	9才	寛九	40才
兎泉	〔能登二宮〕	寛四	17ウ		
杜撰	〔河内津田〕	寛七	40ウ		
都巽	〔肥前諫早〕	寛十	31ウ		
吐鳥	〔讃岐高松〕	寛八	47才	寛九	10ウ
凸山	〔加賀金沢〕	寛八	6才	寛十	36才

斗南〔若狭野登野〕	寛三 11 ウ
兎文〔若狭〕	寛二 11 オ
鬼文〔加賀金沢〕	寛三 12 ウ 寛四 14 ウ
寛五 7 ウ 寛六 5 ウ 寛七 46 オ	
斗米〔上野女〕	寛四 35 オ
寛八 7 オ 寛十 5 オ	
吐木〔能登富木〕	寛七 8 オ
寛九 32 オ	
木〔能登富木〕	寛七 8 オ
寛九 32 オ	
とみ〔加賀金沢〕	寛四 14 オ 寽五 6 ウ
寛五 6 ウ	
とみ女〔と美〕〔周防室津〕	寛八 40 ウ
寛九 32 オ	
杜明〔越中水見〕	寛四 22 オ
ともを〔筑前木駅〕	寛九 32 ウ
兎遊〔武藏秩父吉田町〕	寛七 16 オ
寛八 18 ウ	
都友〔肥前諫早〕	寛四 3 ウ 寛八 53 オ
寛九 35 オ	
都邑〔越中〕	寛三 16 オ
杜与木〔甲斐府中〕	寛十 34 ウ
土卵〔京〕	寛二 2 オ 寛二 21 ウ
寛三 23 オ 寛四 1 ウ 寛四 33 ウ	
寛五 3 オ 寛五 47 ウ 寛六 2 オ	
寛六 38 オ 寛七 3 オ 寛七 34 ウ	
寛八 1 オ 寛八 61 ウ 寛九 40 ウ	
寛十 1 オ 1 ウ 寛十 26 ウ	
寛七 10 ウ 寛八 18 オ	
土卵〔土蘭〕〔上野厩橋・前橋〕	
寛三 9 ウ 寛四 35 オ 寛五 14 ウ	
寛七 10 ウ 寛八 18 オ	

斗流	〔南山城八幡・男山〕	天六5才
天七5ウ	寛一6ウ	寛四1ウ
寛四30ウ	寛五2才	寛五43才
寛六2才	寛七2ウ	寛七31才
寛八2ウ	寛八56才	寛九2才
斗龍	〔伊予西条〕	寛八41才
吐龍	〔肥前〕	寛十15才
土龍	〔上野廐橋〕	寛七10才 寛八14才
兎了	〔上野廐橋連室沢〕	寛五14才
杜陵	〔肥前長崎〕	寛八50才
とろゝ庵	→獲車	〔伊勢白子・鱗々社中〕
吞牛	〔越中堀岡〕	寛九35才
吞空	〔若狭西津〕	寛二10才 寛三12才
吞孤	〔若狭能登野村〕	天七11才
曇水	〔京〕	天七1才 寛二1ウ
宍鳥	〔京〕	寛三23才
呑鳥	〔甲斐鍛冶軒居〕	寛九19才
鈍人	〔京〕	天七2ウ
鈍鷺	〔加賀〕	寛三13ウ 寛四13ウ
名那女	〔長門〕	寛六32才

南榮〔京〕	天六初ウ	天六一才
天七一才	寛二口ノ一才	寛二二才
寛七37ウ	寛九1ウ	寛九38ウ
寛十1ノ2ウ		
南化〔南山城〕	天六5才	
南菴〔長門赤間関〕	寛八44ウ	
南我〔京〕	天六3ウ	
南涯〔京〕	寛八2才	寛八58才
南岳〔備後福山連〕	寛五29才	
南丸〔甲斐浅原〕	寛七40ウ	寛八29ウ
南玉〔越中水見〕	寛九21ウ	
南江〔長門赤間関〕	寛二16才	寛五31ウ
南耕〔丹波〕	寛六26ウ	
南枝〔備中〕	寛二13ウ	寛三18才
南枝〔筑前芦屋〕	寛七29才	寛八54才
南珠〔豊前小倉〕	寛五32才	
南巢〔長門赤間関〕	寛三19才	寛四35ウ
南竹〔備後福山〕	寛五28ウ	
南甫〔上野〕	寛三10ウ	
南浦〔能登川尻〕	寛八9ウ	
南浦〔上野田島〕	寛四35才	寛五13才
南峰〔加賀金沢〕	寛三13ウ	寛四11才
寛六6ウ	寛六7才	寛七2才
寛七6才	寛八5ウ	
南明〔豊前小倉〕	寛二16ウ	寛三21ウ
寛四10才	寛五32才	寛八49才
寛八62ウ	寛八64ウ	寛十30ウ
寛八61才	寛九38才	
南來〔京〕		

南路〔京〕	天六3ウ
南樓〔上野柴駅〕	寛五13ウ 寛六15才
南和→秦夫〔南山城寺田〕	寛九23ウ
南路〔近江高島郡朽木〕	寛十5ウ
二夜庵→貞松〔江戸〕	
忍阿〔信濃飯田僧〕	寛五22才
寛六20ウ 寛七39ウ	
は	
濃波〔肥前〕	寛四3才
破衣〔能登能登部〕	寛四19ウ 寛八2才
梅英〔南山城平川〕	寛一6ウ 寛二4ウ
梅塙〔出羽秋田〕	寛七13ウ 寛七14ウ
佩霞〔筑前福岡〕	寛九17才
梅價〔南山城伏見〕	寛六40ウ 寛八54才
梅旭〔紀伊南部〕	寛四27ウ
梅岐〔安房前原〕	寛四23才 寛六18才
梅喜〔安房磯村〕	天六10才 寛一2才
梅曉〔加賀〕	寛四12才
梅曉〔周防引野〕	寛七43才

ばい～はく

梅月〔長門舟木〕 寛六30才 寛八45ウ  
海月庵↓波入〔伊勢山田〕

梅好〔信濃飯田〕 寛七21才

寛六 34ウ 寛七 41ウ 寛八 52才

寛十 13 ヴ

梅居  
〔丹後河守〕  
寛十 36 才  
寛四 26 ウ  
寛六 27 オ

梅五〔若狭〕 天六 9ウ

梅五〔京北野〕 天七5ウ

梅五〔甲斐飯野〕  
寛十34才  
寛八31才  
寛九29才  
ウ

梅山〔近江勝部〕 寛三八ウ

梅山〔涯州〕 寛五40ウ

買山  
〔伊豆八幡野〕 寛七19才

梅司〔廣弘明〕 寛七〔中〕 寛十2不

梅支〔近江彦根〕 天六6ウ

梅支〔越中〕 寛五11ウ

柳枝〔歌前説早〕 寛四3才 寛五3才

寬十  
14  
才

梅枝〔能登富木僧〕 寛七8才

**梅枝**〔上野草津〕 寛七 4才

寛八 57 ウ

梅梢〔長門舟木〕 寛六30才 寛八45才

梅児  
〔梅〕〔近江深川〕 寛七4才

三

房	〔伊勢津部田〕	天六 8 才
寛七	22 紋	寛八 24 才 寛九 16 才
江戸	寛九 28 才	
〔陸奥津軽黒石〕	寛四 6 紋	
寛五 15 紋	寛六 16 才 寛九 33 才	
〔近江辻村〕	天六 6 才 天七 7 才	
寛一 2 紋		
〔陸奥仙台〕	寛九 20 紋	
〔陸奥津軽黒石〕	寛五 15 紋	
寛六 15 紋	寛九 33 才	
〔甲斐暮地〕	寛八 30 紋	
〔長門〕	寛六 32 紋 寛八 44 紋	
〔安房〕	寛三 7 紋	
〔長門厚狭〕	寛九 23 紋	
〔越中〕	寛五 11 才	
〔安芸広島〕	寛十 4 才	
〔江戸〕	寛九 28 才	
〔浪花〕	寛九 26 才	
〔能登〕	寛二 12 才	
〔甲斐〕	寛四 39 才	
〔丹後〕	天六 12 才	
〔伊予西条〕	寛六 28 紋 寛七 27 才	
寛八 41 紋		
〔甲斐山寺〕	寛六 19 才	
〔加賀金沢〕	寛三 13 才 寛四 14 紋	
〔肥前諫早〕	寛四 3 紋 寛五 35 才	
寛六 35 紋	寛七 30 才 寛八 52 紋	
寛九 35 才	寛十 29 紋	

波弓	〔越中福光〕	寛五 33 才
巴橋	〔相模室田〕	寛十 29 才
破巾	〔能登〕	寛九 1 ウ 寬九 7 才
白移	〔筑前植木／直方〕	寛五 33 ウ
	寛六 34 才	寛七 28 ウ
白羽	〔讃岐〕	寛三 19 ウ 審四 36 ウ
白羽	〔武藏入間ノ里〕	寛九 6 才
麦雨	〔但馬朝來山〕	寛五 42 才
白英	〔上野草津〕	寛八 15 才 審八 17 才
麥栄	〔京〕	天七 2 才
白河	〔相模三増〕	寛七 19 才
白我	〔南山城八幡〕	寛八 56 ウ 審九 8 才
白鷺	〔肥前諫早〕	寛四 3 才 審五 34 ウ
麦花	〔近江八幡〕	寛八 4 ウ
麦雅	〔浪花〕	天六 11 才
泊鳩	〔加賀〕	寛四 12 才
白亀	〔美作弓削〕	寛七 42 才 審八 37 才
白亀	〔信濃長瀬連〕	寛九 11 才
白義	〔加賀〕	寛三 14 才 審四 12 才
麦牛	〔近江〕	寛五 5 才
白質	〔上野本宿／西牧〕	寛四 29 才
剥笑	〔能登田鶴浜〕	寛五 9 ウ
柏子	〔近江〕	天六 6 才
柏舟	〔加賀〕	寛四 12 ウ 審八 65 ウ

柏舟	〔伊賀上野〕	寛十3ウ
白志	〔筑前芦屋〕	寛七29ウ
白賞	寛七45才 寛八53ウ 寛九25才	寛九8才
白児	〔丹後宮津〕	寛七24ウ
麦四	〔上野厩橋〕	寛七10ウ 寛九15ウ
	寛十30才	
麦子	〔南山城泊〕	寛二4才 寛二21ウ
	寛三22才	寛四30ウ
麦子	〔長門〕	寛二15ウ 寛六32才
麦秀	〔能登黒島／綿川〕	寛二12才
	寛三14ウ	寛四19才 寛六67ウ
	寛六10才	寛七7ウ 寛八7ウ
	寛十6ウ	寛十8ウ
麦秀	〔越中奈古／放生津〕	寛三15ウ
	寛四21才	寛五12才 寛六11才
麦秀	〔伊勢〕	寛四15ウ
麦秀	〔但馬芝村〕	寛十21才
麦二	〔信濃上田〕	寛六43才
麦丈	〔大和郡山〕	寛六24ウ 寛七23ウ
伯水	〔信濃下県〕	寛六20才
柏翠	〔近江八幡山〕	寛九21才
白石	〔肥前〕	寛十26才
白雪	〔越中高岡〕	寛六12才 審八10ウ
	寛九34才	
白選	〔武藏粉川〕	寛五14才 審六17才
白川	〔近江大津〕	寛五40才
白泉	〔肥後〕	寛五40才
麦盛	〔近江〕	寛三9才
白岱	〔京〕	天六初ウ

白黛	〔京〕 天六 3才 天七 14才 寛一 9才 寛三 23才 寛四 1才 寛四 33才 寛五 2才 寛五 45才 寛六 40才 寛七 2才 寛七 37才 寛八 序ウ 寛八 61才 寛九 1才 寛九 39才 寛十 1ノ2才 寛十 27才
麦岱	〔武藏入間ノ里〕 寛九 6ウ
麦太	〔若狭〕 天六 9ウ
白雉	〔丹波黒井〕 寛八 37ウ
柏庭	〔浪花〕 寛九 36ウ
麦田	〔上野厩橋〕 寛八 14才
白斗	〔上野大原〕 寛十 5ウ
佰	〔陌〕 洞〔甲斐山ノ神〕 寛七 41才 寛八 29才 寛九 19才 寛十 34才
麦杜	〔能登能登部〕 寛四 20才 寛五 10才 寛六 11才 寛七 44才 寛十 21才
麦奴	〔上野厩橋〕 寛八 14才
泊帆	〔浪花〕 寛七 23ウ
白眉	〔京〕 寛四 1ウ
白布	〔若狭藤井〕 寛一 3ウ
麦風	〔加賀柏野〕 天六 10ウ 寛三 12ウ 寛五 7才 寛六 6ウ 寛八 7才
白木	〔越中海老江村〕 寛八 10才
麦甫	〔上野厩橋〕 寛八 18才
白麻	〔越中〕 寛六 12才
白夢	〔肥前島原〕 寛十 26才
麦明	〔上野厩橋〕 寛七 10才
柏茂	〔能登宇出津〕 寛四 13才
寛九 13ウ	

柏茂	〔武藏秩父吉田町〕	寛八 18 ウ
柏由	〔近江駒井沢〕	天六 7 才 天七 7 才
	寛一 3 才 寛二 7 才 寛三 3 才	
寛三	8 才 寛四 1 才 寛四 24 才	
寛五	3 才 寛五 5 ウ 寛六 5 才	
寛七	40 才	
白遊	〔長門〕 寛二 15 ウ	
柏葉	〔南山城深草〕 寛二 5 才 寛五 43 ウ	
白楊	〔越中渴口〕 寛九 34 ウ	
柏梁	〔伊勢相可〕 寛十 32 才 寛十 32 ウ	
柏嶺	〔京〕 寛九 40 ウ	
白鯉	〔陸奥仙台連〕 寛九 31 才	
白狼	〔肥前島原〕 寛九 24 才	
白老	〔越中放生津〕 寛三 16 才 寛四 21 才	
	寛五 12 才 寛六 11 ウ 寛八 12 才	
寛九	10 才 寛九 17 才 寛九 32 ウ	
寛十	31 ウ	
白轄	〔遠江浜松〕 寛一 3 ウ 寛二 17 ウ	
	寛三 6 ウ 寛四 27 才 寛五 23 才	
寛六	42 才 寛七 19 ウ 寛八 23 ウ	
寛九	13 才	
坡君	〔安房磯村〕 寛一 2 才	
馬群	〔能登輪島〕 寛三 15 才	
波月	〔長門舟木〕 寛五 31 才 寛六 30 才	
巴孝	〔大坂松花連〕 寛一 6 才	
波光	〔周防山口〕 寛五 30 才 寛六 31 才	
	寛七 43 ウ	
馬公	〔加賀金沢〕 寛八 6 才	
はこふ	〔丹波園部〕 寛一 4 ウ 寛二 5 ウ	
婆婆	〔在京〕 寛五 46 ウ	

巴三〔尾張〕	寛十 33 紗
巴州〔加賀金沢〕	寛九 22 紗 寛十 28 紗
馬樹〔備後〕	寛一 5 才
馬十〔越中水見〕	寛三 16 才 寛四 22 紗
波松〔備後三原〕	寛六 29 才
巴丈〔能登諸橋〕	寛四 15 才
芭蕉→翁	
馬杖〔備後〕	寛二 14 才
馬丈〔越中高岡〕	寛四 20 紗
巴水〔南山城八幡〕	寛八 57 才
馬吹〔丹後宮津〕	寛十 1 ノ 1 紗
寛十 27 才	
馬水〔加賀〕	寛四 12 才
波声〔肥前有田〕	寛八 49 紗 寛九 24 才
波静〔若狭〕	寛二 10 紗
波井〔獅子窟〕〔能登黒島〕	寛二 11 紗
寛三 14 紗 寬四 19 才 寬五 8 才	
寛六 7 紗 寬六 10 才 寬七 7 紗	
寛八 7 紗 寬九 26 紗 寬十序 1 紗	
寛十序 1 紗 寬十 6 才 寬十 8 才	
馬成〔豊前小倉〕	天七 12 紗
馬雪〔試済〕〔南山城佐山〕	天七 5 紗
天七 5 紱 寬三 22 才 寬四 30 才	
馬曹〔伊勢四日市〕	天六 9 紱
寛三 6 紱 寬六 21 紱	
坡仄〔梅月庵〕〔伊勢山田〕	寛九 31 紱
秦夫〔南和〕〔南山城寺田〕	天七 5 紱
寛三 22 才 寬四 30 才 寬六 37 紱	
寛六 37 紱	

八矢	〔越前丸岡〕	寛九 19
八龍	〔伊予道前〕	寛七 27 ウ
白花	〔肥前〕	寛十 26 才
白窟	〔義風〕	〔但馬生野〕 寛六 27 ウ
		寛七 25 才 寛七 25 才 寛八 38 才
白圭	〔上野〕	寛三 11 才
白慶	〔江戸〕	寛九 27 才
怕乎	〔加賀野瀬〕	寛八 7 才
馬風	〔信濃〕	寛六 21 才
馬仏	〔加賀金沢〕	寛二 11 才 寛四 13 才
		寛四 29 才 寛八 5 ウ 寛九 14 才
波文	〔涯州〕	寛五 41 才
馬來	〔加賀金沢〕	天六 10 ウ 寛二 11 才
		寛三 14 ウ 寛四 11 才 寛六 6 ウ
芭洛	〔京〕	寛六 42 ウ
杷柳	↓杞柳	〔京〕
巴流	〔信濃飯田〕	寛七 21 才
巴龍	〔京〕	寛三 3 才 寛三 24 才
巴龍	〔周防山口〕	寛六 31 才
巴龍	〔若狭小浜〕	〔在京〕 寛六 26 ウ
	寛八 57 ウ	
巴凌	〔京〕	天六 3 才
巴凌	〔備中倉敷〕	寛五 27 才
巴陵	〔若狭西津〕	寛三 12 才 寛四 25 ウ
巴陵	〔能登僧〕	寛四 16 才 寛十 8 才
馬涼	〔能登黒島〕	寛二 11 ウ 寛三 15 才
		寛四 18 ウ 寛四 20 才 寛五 8 ウ
		寛六 8 才 寛六 9 ウ 寛七 7 ウ
		寛八 8 才 寛十 6 ウ 寛十 8 才
馬蓼	〔京〕	寛五 44 ウ

はる～ひや

巴樓	〔信濃〕 寛六 20ウ
巴六	〔京〕 寛三 23才
馬六	〔出羽〕 寛五 16ウ
飯扇	〔相模赤羽村〕 寛六 16才
凡翁	〔河内楠葉〕 寛八 29才
凡化	〔信濃善光寺〕 寛八 33才 寛九 36才
梵外	〔京〕 寛五 46才
万果	〔肥前島原〕 寛十 16才
万化	〔伊勢津部田／安濃津〕
	天六 8才 天七 14才 寛一 10ウ
	寛三 5ウ 寛七 23才 寛八 23ウ
	寛八 25才 寛八 26才 寛八 26ウ
班鳩	〔近江栗津義仲寺〕 寛七 39ウ
	寛八 56才 寛九 10ウ
半橋	〔肥後〕 寛四 5ウ 寛五 37ウ
半古	〔肥前長崎〕 寛八 49ウ
万戸	〔肥後〕 寛四 4ウ
	万戸〔上野島村〕 寛六 13ウ 寛七 11ウ
	寛八 13才 寛九 7才
万戸	〔肥前伊福〕 寬十 23才
万鼓	〔石見日原〕 寬四 36ウ
斑山	〔京〕 寬五 46ウ
凡十	〔大坂／安芸〕 寬一 6才 寛二 14ウ
	寛三 19才 寬四 22ウ
凡二	〔京〕 寬一 1才 寬二 21才
	寛六 40ウ 寬七 36ウ 寬八 59ウ
	寛十 1才
凡二	〔上野宮崎〕 寬五 12ウ 寬八 12ウ

幡水 (四山亭) 〔伊勢白子連・御園〕

天六 7ウ 天七 9才 天七 9才

寛五 1ウ 寛五 2才 寛四 15才 寛五 1ウ

寛六 21ウ 寛七 45才 寫五 23ウ

寛八 24ウ

寛五 1ウ 寛五 2才 審四 15才 審五 1ウ

寛六 35ウ

寛九 27ウ

寛八 6才

寛五 17才

寛十 35才

寛四 18才 審五 11ウ

寛十 24ウ

寛五 21才 審八 31才

寛七 28ウ

寛五 19ウ 審六 31ウ

寛八 41ウ

寛八 42ウ 審八 43才 審八 43ウ

寛八 44才 審八 44ウ 審八 45才

寛八 45才

寛十 16才

寛七 38ウ

寛七 30ウ 審十 32ウ 審十 33才

寛四 20才

寛九 5才

寛八 54才

寛六 16才 審九 33才

寛十 15ウ 審十 16才

寛五 19才

寛五 39才

寛七 12ウ

寛九 8才

寛三 33ウ

寛八 20才

寛九 21才

ひ

ひさ (筑前直方) 寛七 28ウ

眉山 (京／加賀金沢／江戸／近江武問)

寛一 8ウ 審二 4才 審二 21才

寛三 23ウ 審四 2才 審四 19ウ

寛五 6ウ 審五 16ウ 審七 5ウ

寛八 7ウ

尾山 (肥前) 審四 3ウ

美山 (浪花) 審七 42ウ

比雀 (京) 天六 3ウ 審一 7ウ

眉尺 (能登) 審十 24才

萬遷 (能登) 審四 20才

半直 (能登輪島) 審八 54才

凡鳥 (陸奥津軽) 寬六 16才 寬九 33才

万夫 (肥前島原) 審十 15ウ 審十 16才

比雪 (長門赤間関) 審二 15ウ 審五 32才

飛声 (越前) 審十 9ウ 審十 10才

匪石 (江戸) 審五 19才

糸梅 (京) 審六 39才

蟠楓 (下野柄木) 審九 8才

班狸 (南山城八幡) 審九 8才

凡林 (信濃) 審六 21ウ 審八 33ウ

蟠榴 (筑前) 審三 20才

蟠龍 (越中) 審六 11ウ

百榮 (京) 天六 2才  
百鯨 (江戸) 審三 4才  
百柿 (江戸) 審五 17才  
百之 (加賀金沢) 審八 6才

百尺 (下野間中) 審十 35才

百尔 (能登) 審四 18才 審五 11ウ

百尔 (越中泊) 審七 9ウ

百鬼 (肥後) 審四 5才

百樹 (周防上ノ関) 審四 28ウ 審六 29ウ

百静 (江戸) 審三 3ウ 審五 17才

百川 (越中高岡) 審八 12才

百池 (大来堂) (京) 審一 7才

寛二口ノ 1ウ 審二 3才 審三 2ウ

寛三 24才 審四 1ウ 審四 34才

寛五 2ウ 審五 47才 審六 2才

寛六 38才 審七 1ウ 審七 1ウ

寛七 3才 審七 34ウ 審八 序ウ

寛八 60ウ 審九 1才

寛十 1ノ 2才 審十 27才

百鳥 (京) 審二 2ウ 審四 31ウ

百馬 (若狭小浜) 審二 10才 審三 11ウ

百道 (江戸) 審九 27才

百尾 (丹後宮津) 審十 1ノ 1ウ

寛十 27才

百哺〔南山城醍醐〕 天六4ウ 天七5ウ

寛一6ウ 寛二5才 寛三22才

寛四38ウ 寛五2才 寛五43才

寛六45才 寛七2才 寛七31ウ

寛八56才

百明〔京〕 天六3ウ

百来〔加賀〕 寛四12ウ

百和〔播磨〕 寛二13ウ

百花〔伊勢山田〕 寛九31才

百稀〔江戸〕 寛三3ウ

百機〔江戸〕 寛三3ウ

百几〔能登字出津〕 寛四13才

百恐〔江戸〕 寛九26才

百壺〔豊後安岐谷〕 寛九4才

評一〔上野宮崎〕 寛四34ウ

瓢舟〔但馬夏梅村〕 寛八38才

瓢亭〔伊勢〕 寛十16才

瓢馬〔陸奥八戸〕 寛七13才

瓢風〔備後布野〕 寛八38ウ

翡翠〔甲斐小笠原〕 寛五21ウ

日和良〔武藏三峰山／秩父〕 寛八21才  
寛十21ウ

## ふ

風逸〔加賀津幡〕 天七13才 寛四14ウ

寛八5ウ

風化〔江戸〕 寛六16ウ 寛七34才  
寛九27才 寛十22才

風壺〔筑前若松〕 寛七29才

楓国〔桃洞〕〔伊予道前〕 寛七27ウ

楓左〔周防陶〕 寛七43才

楓沙〔京〕 寛四31ウ

富之〔陸奥津軽黒石〕 寛五15ウ

寛九33才

風子〔信濃飯田／林〕 寛八33ウ

寛九7ウ 寛十11ウ

風手〔加賀〕 寛四37才

楓梁〔伊予西条〕 寛七27才 寛八41才

不可〔信濃長瀬連〕 寛九10ウ

布館〔筑前甘木〕 寛七28ウ 寛八48才

寛九6ウ 寛十23ウ

不朽〔大和〕 天七14才

寛二1才 寛二20ウ

寛三2ウ 寛三24才 寛四1才

寛四32才 寛五45才

不休〔浪花〕 寛四29才 寛五25ウ

寛六44才

不及〔伊勢山田〕 寛八53ウ 寛九31ウ

不吸〔上野厩橋〕 寛八14才

不求〔甲斐藤田連〕 寛九18ウ

不玉〔下野内西方〕 寛九33才

富久〔甲斐鍛冶軒居〕 寛九19才

福二〔陸奥仙台〕 寛九20ウ 寛十18才

福水〔丹後網野〕 寛七24ウ

富彦〔伊予西条〕 寛七27才

不才〔京〕 寛七2ウ 寛七36才

寛八1ウ 寛八60ウ 寛九2ウ

寛九38ウ

斧山〔信濃長瀬連〕 寛九11才

富春〔上野宮崎〕 天六11才 寛三10才

寛五12才 寛六13才 寛七11才

仏平〔陸奥八戸〕 寛七13才

寛八12ウ

不舟〔浪花〕 寛六25ウ

布舟〔播磨高砂〕 天六12ウ 天七4才

孚湫〔対馬／在朝鮮〕 天七13才

寛三21ウ 寛四27才 寛五41才

寛六42才 寛七30ウ 寛八51ウ

寛九35ウ 寛十3ウ

不十〔浪花〕 天六11才

寛七40才 寛八34才

寛九8才

燕人〔甲斐〕 寛四39ウ

不成〔豊前小倉〕 寛八49才 寛八62ウ

寛八64ウ

不石〔越中〕 寛二22才

寛八37才

富雪〔美作倉敷〕 寛六28才 寛七26才

寛八37才

不石〔越中〕 寛二22才

寛八37才

富雪〔播磨姫路〕 寛八36才

夫雪〔甲斐布施〕 寛十34才

燕雪〔筑前芦屋〕 寛七29ウ

不染〔河内楠葉〕 天六5才

寛六25才

不染〔能登〕 寛四18才

婦川〔甲斐小沼〕 寛九11ウ

普撰〔江戸〕 寛九28才

文允〔筑前若松〕 寛九16ウ

文詠〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ

文瓜〔南山城八幡〕 寛八57才

文化〔下野〕 寛四28ウ

文花〔近江八幡〕 天七7ウ

文賈〔長門赤間関〕 寛五31ウ

仏更〔陸奥八戸〕 寛六42ウ

物載〔尾張〕 寛四27ウ

仏大〔南山城醍醐〕 寛四30ウ

仏平〔陸奥八戸〕 寛七13才

寛五37才

不白〔肥後八代〕 寛五37才

夫木〔京〕 天六1ウ

不木〔京〕 寛三2才 寛三24才

寛五47才 寛六40才 寛九10ウ

寛二11才 寛三14ウ

寛四18ウ 寛五8才 寛六7ウ

寛六10才 寛七7才 寛八7ウ

寛九26ウ 寛十6才 寛十8ウ

寛六10才 寛七7才 寛八7ウ

寛九9ウ

ふもと〔備後布野〕 寛九31ウ

不尤〔周防嘉川〕 寛六30ウ 寛七43才

寛三14ウ

布遊〔能登黒島女〕 寛六30ウ 寛七43才

寛四18ウ 寛五8才 寛六8才

寛六10才 寛七7ウ 密八7ウ

寛九26ウ 密十6ウ 密十8ウ

浮遊〔京〕 密四1才 密四34才

寛九26ウ 密十6ウ 密十8ウ

武菱〔江戸〕 密八21才

武陵〔丹波〕 密六27才

旧国〔大坂〕 密三21ウ 密六3才

寛六25才

不玉〔下野内西方〕 密九33才

寛九33才

富久〔甲斐鍛冶軒居〕 密九19才

寛九19才

福二〔陸奥仙台〕 密九20ウ 密十18才

寛七24ウ

富彦〔伊予西条〕 密七27才

寛九19才 密十22才

寛九27才 密十22才

寛九27才 密十22才

文珍〔能登〕 寛二11ウ 寛十6ウ  
文賀〔下野〕 寛四28ウ  
蚊几〔能登富木〕 寛七8才 寛九16ウ  
文几〔加賀〕 寛五6ウ  
文龜〔越中高岡／今石動〕 寛四22才  
文杏〔出羽〕 寛四7才  
文興〔陸奥〕 寛六15ウ  
文變〔甲斐下山〕 寛七19ウ  
文曉〔肥後八代〕 寛二17才 寛五37才  
寛八50ウ  
文莖〔浪花〕 寛八34ウ  
文絹〔武藏本庄女〕 寛五20才  
文虎〔丹波水上〕 天六9才  
文江〔越中〕 寛四21ウ  
文耕〔信濃塙名田〕 寛五22ウ 寛六20才  
文考〔江戸〕 寛九28ウ  
文考〔下総水海道〕 寛九29才  
文谷〔備中吉備〕 寛五27才  
文左〔筑前本木〕 寛九16ウ  
文山〔肥後熊本〕 寛五38才  
文山〔近江高島町野田〕 寛七5ウ  
寛八4才  
文之〔近江水口〕 寛七4才  
文之〔筑前若松〕 寛七29才  
文士〔肥前島原〕 寛五37才  
文士〔能登羽坂〕 寛七8ウ 寛九12才  
文舎〔武藏秩父宮沢〕 寛八20ウ

文尚〔長門厚狭〕 寛六29ウ 寛八45ウ  
文樵〔丹波〕 寛二5ウ  
文若〔肥前〕 寛四3才  
蚊几〔能登富木〕 寛七8才 寛九16ウ  
文几〔加賀〕 寛五6ウ  
文龜〔越中高岡／今石動〕 寛四22才  
寛八10ウ 寛八12才  
文杏〔出羽〕 寛四7才  
文興〔陸奥〕 寛六15ウ  
文變〔甲斐下山〕 寛七19ウ  
文曉〔肥後八代〕 寛二17才 寛五37才  
寛八50ウ  
文莖〔浪花〕 寛八34ウ  
文絹〔武藏本庄女〕 寬五20才  
文虎〔丹波水上〕 天六9才  
文江〔越中〕 寛四21ウ  
文耕〔信濃塙名田〕 寬五22ウ 寬六20才  
文考〔江戸〕 寛九28ウ  
文考〔下総水海道〕 寛九29才  
文谷〔備中吉備〕 寛五27才  
文左〔筑前本木〕 寛九16ウ  
文山〔肥後熊本〕 寛五38才  
文山〔近江高島町野田〕 寛七5ウ  
寛八4才  
文之〔近江水口〕 寛七4才  
文之〔筑前若松〕 寛七29才  
文士〔肥前島原〕 寛五37才  
文士〔能登羽坂〕 寛七8ウ 寛九12才  
文舎〔武藏秩父宮沢〕 寛八20ウ

文尚〔長門厚狭〕 寛六29ウ 寛八45ウ  
文樵〔丹波〕 寛二5ウ  
文若〔肥前〕 寛四3才  
蚊几〔能登富木〕 寛七8才 寛九16ウ  
文几〔加賀〕 寛五6ウ  
文龜〔越中高岡／今石動〕 寛四22才  
寛八10ウ 寛八12才  
文杏〔出羽〕 寛四7才  
文興〔陸奥〕 寛六15ウ  
文變〔甲斐下山〕 寛七19ウ  
文曉〔肥後八代〕 寛二17才 寛五37才  
寛八50ウ  
文莖〔浪花〕 寬八34ウ  
文絹〔武藏本庄女〕 寬五20才  
文虎〔丹波水上〕 天六9才  
文江〔越中〕 寛四21ウ  
文耕〔信濃塙名田〕 寬五22ウ 寬六20才  
文考〔江戸〕 寛九28ウ  
文考〔下総水海道〕 寛九29才  
文谷〔備中吉備〕 寛五27才  
文左〔筑前本木〕 寛九16ウ  
文山〔肥後熊本〕 寛五38才  
文山〔近江高島町野田〕 寛七5ウ  
寛八4才  
文之〔近江水口〕 寛七4才  
文之〔筑前若松〕 寛七29才  
文士〔肥前島原〕 寛五37才  
文士〔能登羽坂〕 寛七8ウ 寛九12才  
文舎〔武藏秩父宮沢〕 寛八20ウ

文波〔伊勢津〕 天六8ウ  
文眠〔但馬生野〕 寛六27ウ 寛七24ウ  
寛八38才  
文重〔備中八重村〕 寛五27ウ  
文若〔肥前〕 寛四3才  
文推〔京〕 天六4ウ  
文推〔筑前風羅堂下〕 寛八48才  
文翠〔陸奥八戸〕 寛七13才  
文顕〔加賀僧〕 寬三14才 寛四11才  
文石〔浪花〕 寬五25ウ 寛六44才  
文屑〔浪花〕 寬五25ウ 寛六44才  
文川〔陸奥〕 寬四6才  
文雄〔長門赤間関〕 寛五32才  
文泰〔越後白根〕 寬六12才  
文岱〔伊勢〕 天六8ウ  
文岱〔肥前神代〕 寬八50ウ  
文知〔智〕〔肥前〕 寬四4才 寛五36才  
文中〔能登千路〕 寬四19ウ  
文兆〔信濃善光寺〕 寬七22才  
文朝〔能登黒島〕 寬二11ウ 審三15才  
寛八33才 審九36才  
文里〔筑前飯塚〕 審三21才 審四9ウ  
文里〔肥後〕 審五40才  
文龍〔出雲松江〕 審十3才  
分路〔越中〕 審四21才  
文路〔能登田鶴浜〕 審七8ウ 審八9才  
文路〔武藏秩父宮沢〕 審七16ウ  
寛八20ウ  
文和〔上野〕 審九9ウ  
寛八1才  
米度〔上野荒口〕 審十30才  
碧水〔肥後〕 審五40才  
碧斗〔越中〕 審二12ウ 審三16ウ  
ノハ〔近江田川〕 審六43ウ 審七44ウ  
麥白〔周防上関〕 審五30ウ  
蝙蝠〔備後上下〕 審七25ウ

米砂〔木兔庵〕〔上野厩橋〕 審五14ウ  
寛六14才 審七10ウ 審八18才  
寛八18才 審九16才 審九16才  
寛十30ウ  
平松亭〔有声〕〔信濃長瀬〕  
米充〔上野荒口〕 審八17ウ 審九15ウ  
米二〔伊勢〕 天六8才  
平水〔南山城天神森〕 審四30ウ  
寛六37ウ 審七31ウ 審八56才  
米倉〔上野東箱田〕 審九15才  
寛六38ウ 審七34ウ  
米舎〔上野田雁〕 審八17ウ  
平呑〔京〕 天六1才 天七1才  
寛二20才 審三23才 審六2ウ  
寛六38ウ 審七2ウ 審七34ウ  
米度〔上野荒口〕 審十30才  
寛八1才  
米器〔上野厩橋連鼻毛石〕 審八17才  
寛九15才  
米丘〔上野東箱田〕 審九15才  
寛八32才  
米駒〔京〕 審六3才 審六41才  
寛七3ウ 審七38才 審八62才  
寛九3才 審九38ウ

平虚〔伊勢山田〕 審十31ウ  
米器〔上野厩橋連鼻毛石〕 審八17才  
寛九15才  
暮一〔近江守山〕 審三9才 審五4才  
方云〔筑前若松〕 審九16ウ  
方鳥〔伊勢津〕 審九12ウ  
方外〔南山城宇治〕 審四37ウ  
抱琴〔肥後谷尾崎〕 審四5ウ

寛一〔近江守山〕 審三9才 審五4才  
方云〔筑前若松〕 審九16ウ  
方鳥〔伊勢津〕 審九12ウ  
方外〔南山城宇治〕 審四37ウ  
抱琴〔肥後谷尾崎〕 審四5ウ

寛一〔近江守山〕 審三9才 審五4才  
方云〔筑前若松〕 審九16ウ  
方鳥〔伊勢津〕 審九12ウ  
方外〔南山城宇治〕 審四37ウ  
抱琴〔肥後谷尾崎〕 審四5ウ

蛭玉	〔近江石部〕	寛八 3 才
方広	〔京〕	寛八 58 才
方壺	〔遠江入野〕	寛八 23 ウ
芳壺	〔安芸川尻〕	寛五 29 才
蓬戸亭	↓壺仙	〔越中高岡〕
豊耕	〔上野川原湯温泉〕	寛八 13 才
芳杉	〔筑前風羅堂下〕	寛八 48 才
保山	〔大坂松花連〕	寛一 6 才
芳山	〔肥後長峰〕	寛五 38 才
方舟	〔寛六 36 才	
方舟	〔加賀〕	寛七 6 ウ
方舟	〔甲斐一町田中〕	寛七 42 才
方舟	寛九 4 才	
芳志	〔近江八幡〕	寛八 57 ウ
		寛九 21 才
	寛十 18 ウ	
芳洲	〔肥前神代〕	寛九 24 ウ
		寛十 22 ウ
鳳洲	〔安芸御手洗〕	寛五 29 ウ
芳水	〔肥前〕	寛十 23 オ
豊水	〔甲斐暮地〕	寛八 30 ウ
彌水	〔江戸〕	寛九 28 ウ
鳳声	〔江戸〕	寛六 16 ウ
		寛七 34 才
鳳爪	〔武藏〕	寛二 18 ウ
鳳沖	〔石見〕	寛二 14 ウ
		寛五 41 ウ
矛滴	〔伊勢〕	寛四 15 ウ
方明	〔尾張名古屋原〕	寛八 18 ウ
邦明	〔能登富木〕	寛七 8 ウ
蜂友	〔浪花〕	寛六 25 オ
芳笠	〔肥前諫早〕	寛五 34 ウ
		寛七 30 オ
邦明	〔伊勢亀山〕	寛五 24 オ
蜂友	寛八 53 オ	寛九 35 オ

卜史	〔越中〕	寛四 21 ウ
卜子	〔河内私市〕	寛九 23 才 寛十 28 才
卜舟	〔加賀〕	寛三 12 ウ 寛四 37 才
		寛十 4 ウ
卜之	〔安房七浦〕	寛九 3 ウ
牧之	〔越後塩沢〕	寛九 3 ウ 寛十 13 才
卜尔	〔能登田鶴浜〕	寛五 9 才
北翠	〔若狭〕	寛三 12 ウ
北川	〔能登川尻〕	寛八 9 ウ
墨水	〔備後三原〕	寛六 29 才
卜貞	〔陸奥〕	寛四 6 才
北生	〔能登能登部〕	寛四 19 才
北川	〔越後塩沢〕	寛九 3 ウ
朴風	〔筑前〕	寛三 20 ウ
牧父	〔甲斐〕	天六 11 ウ
卜木	〔加賀金沢〕	寛八 7 才
北洋	〔丹後琴弾浦〕	寛六 27 才
北嶺	〔近江万木〕	寛八 4 才 寛九 6 ウ
	寛十 28 ウ	
浦圭	〔陸奥〕	寛四 6 才
蒲月	〔京〕	寛四 33 ウ
牡厚	〔信濃善光寺〕	寛八 33 才
甫山	〔石見〕	寛二 15 才
菩山	〔京〕	寛四 32 才 寛五 44 才
圃(甫)	〔丈〕	〔近江高島郡舟木〕
	天七 6 ウ	寛一 2 ウ 寛一 8 ウ
	寛四 24 才	寛六 4 才

七

甫尺	〔京／行脚〕	天六2ウ 天七4才
補石	〔若狭能登野〕	天七11才
浦雪	〔長門赤間関〕	寛四38ウ 寛五3ウ 寛五45才
甫雪	〔京〕	寛六39ウ 寛八53才 寛九39才
甫雪	〔京〕	寛十26ウ
北華	寛八1才 寛八53才	
北海	〔越中久々江〕	寛九34ウ
墨古	〔京〕	寛八2才 寛八61才
暮来	〔丹波上田〕	寛九22ウ
甫立	〔越前〕	寛十9才 寛十11才
暮留	〔能登〕	寛四15才
暮臘	〔能登七尾所口村〕	寛二12才
	寛三14ウ 寛四16ウ 寛五3才	
	寛五8ウ 寛八10才 寛十24才	
ます	〔長門〕	寛二15ウ
ま	寛十24ウ	
埋木	〔周防室津〕	寛九32才
磨牛	〔豊後〕	寛二17才
麻三	〔甲斐一町田中〕	寛九4才
真菅	〔南山城杜多〕	寛二20才
真須魚	〔甲斐〕	寛三22才 寛八55ウ
真都魚	〔甲斐小笠原〕	寛六19才
万都斗	〔まつと〕〔筑前黒崎〕	寛三20才
寛八48ウ		

五

真都良〔甲斐飯野〕	寛六19ウ	寛七41ウ
寛八31才	寛十33ウ	
み		
未央〔大和郡山〕	寛六24ウ	
未角〔近江堅田／大津〕	寛一3才	
未塵〔伊賀上野〕	寛四24才	寛五4ウ
三千雄〔讃岐大野〕	寛六26才	寛九20才
三千国〔上野坂本〕	寛五13ウ	
未物〔京〕	寛八2ウ	寛八65才
みほ〔京〕	寛十24才	寛十24ウ
未来〔能登〕	寛十24才	寛十24ウ
みわ女〔能登田鶴浜〕	寛五9ウ	
寛八9ウ		
民化〔武藏粉川〕	寛五13ウ	寛六17才
眠江〔京〕	寛五24才	寛七42ウ
珉〔眠〕山〔伊勢上田／在大阪〕	寛二9才	寛三6ウ
寛五24才	寛五19ウ	寛十3才
岷山〔甲斐市川〕	寛四28才	寛五21ウ

みん～ゆう		
岷山	〔信濃岩村田〕	寛八 33 ウ
民子	〔近江〕	寛五 4 ウ
民吉	〔伊豆伊兵〕	寛十 4 才

眠石〔伊豆伊浜〕 寛十4才  
眠人〔石見佐和谷〕 寛六28才 寛七40才  
民友〔武藏金久保〕 寛六16ウ 寛七17才  
岷靈〔伊賀名張〕 寛一1ウ 寛二8ウ

眠和〔加賀金沢〕 寛五6才 寛八6ウ  
寛九13才 寛十28ウ

む

夢庵〔加賀金沢〕 寛十5才 寛十28ウ  
むゐ女〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ

め

夢庵  
〔肥前島原〕  
無涯  
〔備中倉敷〕  
寛五 27 才 寛七 25 才

明五  
〔京〕 天七1  
明川 宽五46才

夢丸  
〔美作久世〕 寛五  
〔京〕 天七 2 ウ 42 才  
寛六 27 ウ

明々〔備後府中〕 寛五28才 寛七25立

無曲  
〔伊勢白子地家〕 天六七ウ

七

貢一  
二

無心 [周防山口] 寛六 31才 寛七 43ウ

無塵  
〔武藏勅使河原〕 寛六 17才

木耳	〔筑前木屋瀬〕 寛四10才 寪九30才
木腸	〔豊前小倉〕 天七12ウ 審二16ウ
木貞	〔京〕 審六2ウ 審六40才
木葉	〔雲和〕 〔京〕 審八62才
木鳴	〔能登〕 審一1ウ 審一9才
木鬼	〔近江立法師村〕 審七5ウ
木工	〔上野〕 審九9才
模稜	〔長門赤間関〕 審四36才
野芹	〔加賀〕 審四11才
約我	〔遠江浜松〕 審一4才 審二17才
八雲	〔浪花〕 審七46才
野恵	〔近江〕 審六4ウ
野雀	〔下野〕 審四28ウ
野秀	〔信濃佐久桜井〕 審七20ウ
也是	〔信濃野沢〕 審七20ウ
夜雪	〔上野草津〕 審五13才 審六13才
埜鳥	〔能登〕 審四19ウ
野笛	〔京〕 審三2才
毛拳	(桃溪) 〔近江〕 審五4ウ
寛六	寛六43ウ 審六43ウ
木越	〔丹後田辺〕 天六12才 審八37ウ
木姿	〔但馬〕 審九7才
も	
明五	〔京〕 天七1ウ
明川	〔京〕 審五46才
鳴泉	〔石見大森〕 審八36ウ
冥々	〔陸奥〕 審九36才
明々	〔備後府中〕 審五28才 審七25ウ
寛八	寛八39才
明羅	〔周防下津令〕 審五30才 審六30ウ
め	
無轍	〔肥前大村〕 審七30ウ
無兆	〔南山城〕 審十13才
夢半	〔上野〕 天七13ウ
夢明	〔浪花〕 審四29ウ
無名	〔甲斐山寺釈〕 審六19才
寛七	寛七41才
夢友	〔京〕 審一7才 審二12ウ
寛三	寛三22ウ
無友	〔伊勢〕 審四15ウ
むら女	〔信濃今岡〕 審八32才
や	
木兎庵	↓米砂 〔上野廻橋〕
木鳴	〔能登〕 審一1ウ 審一9才
木葉	〔雲和〕 〔京〕 審八62才
木鬼	〔近江立法師村〕 審七5ウ
木工	〔上野〕 審九9才
模稜	〔長門赤間関〕 審四36才
野芹	〔加賀〕 審四11才
約我	〔遠江浜松〕 審一4才 審二17才
八雲	〔浪花〕 審七46才
野恵	〔近江〕 審六4ウ
野雀	〔下野〕 審四28ウ
野秀	〔信濃佐久桜井〕 審七20ウ
也是	〔信濃野沢〕 審七20ウ
夜雪	〔上野草津〕 審五13才 審六13才
埜鳥	〔能登〕 審四19ウ
野笛	〔京〕 審三2才

野梅	〔肥後八代〕	寛五 37 才
夜卜	〔但馬千原〕	天六 9 ウ
野陽	〔筑前福岡〕	寛八 48 ウ
		寛十 6 才 寛十 8 ウ
幽雅	〔子坤〕	〔備前岡山〕 寛三 17 ウ
		寛四 26 才 寛六 3 才 寛六 28 ウ
	寛七 25 才	寛七 25 才 審八 38 ウ
右魚	〔陸奥仙台連〕	寛九 30 ウ
友卦	〔越中〕	寛四 21 才
熊谷	〔近江清水鼻〕	寛八 4 ウ
友光	〔河内私部〕	寛九 23 才
友国	〔浪花〕	寛九 23 才
遊虎	〔肥後八代〕	寛五 37 才
邑戸	〔加賀〕	寛四 14 才
有之	〔肥後〕	寛四 5 ウ 審五 37 ウ
有之	〔出羽〕	寛四 7 才
宥深	〔山城〕	寛二 5 才
祐之	〔越中氷見〕	寛九 21 ウ
雄芝	〔周防上ノ関〕	寛六 29 ウ
雄之	〔遠江久喜賀浦〕	寛九 15 才
右書	〔甲斐小笠原〕	寛四 7 才 審五 21 ウ
遊水	〔筑前〕	寛四 9 才

右汐	〔備後福山連〕	寛二 14 才
友生	〔甲斐浅原〕	寛五 29 才
幽川	〔近江伴〕	寛八 29 才
有声	〔平松亭〕	〔信濃長瀬〕
幽尊	〔甲斐淺原〕	寛九 10 才
右竹	〔出羽秋田〕	寛九 19 才
梶波	〔伊勢内宮〕	〔五十鈴川〕
由梅	〔信濃飯田〕	寛九 12 才
有匪	〔甲斐市川〕	寛十 5 才
友尾	〔筑前木屋瀬宿〕	寛八 41 才
勇夫	〔加賀〕	寛三 20 才
友甫	〔越前〕	寛八 41 才
有方	〔伊勢〕	寛十 29 才
遊峰	〔但馬夏梅〕	寛九 8 才
有無	〔肥前平戸〕	寛十 19 才
右明	〔越中〕	寛四 11 才
幽明	〔豊後安岐谷〕	寛九 4 才
有庸	〔京〕	寛四 2 才
有隣	〔近江〕	寛四 33 才
由來	〔江戸〕	寛四 25 才
有龍	〔越前〕	寛十 11 才
有隣	〔上野富岡〕	寛十 2 才
寛十 2 ウ		寛七 11 ウ
		寛一 8 ウ

よ

有隣	〔豊前椎田〕	寛七30ウ	寛八47才
雄里	〔尾張〕	寛九1才	寛九37ウ
遊鹿	〔肥前諫早〕	寛八52ウ	寛十33才
よ			
遙江	〔伊勢津野田／安濃津／西ノ田〕		
	寛七22ウ	寛八26才	寛八26ウ
	寛八28ウ		
洋水	〔信濃塩名田〕	寛七20才	
羊石	〔下野梁田〕	寛八22ウ	
櫻丸	〔江戸〕	寛九28ウ	
よしめ	〔尾張〕	寛十33ウ	
代の	〔肥前〕	寛六35才	
ら			
来止	〔加賀〕	寛四14才	
来小人	〔近江〕	寛四25才	寛六43ウ
来石	〔近江草津〕	寛四24ウ	寛六44ウ
雷扇	〔薩摩〕	寛一6才	
來々	〔加賀〕	寛五6才	
羅外	〔京〕	寛六2ウ	寛七2ウ
	寛四32ウ	寛七37才	寛八60ウ
樂山	〔加賀金沢〕	寛一4才	
羅月	〔京〕	寛十27才	
羅交	〔近江〕	寛十2才	寛十3才
羅城	〔尾張名古屋〕	寛二17ウ	寛四27ウ
寛八1ウ	寛八18才		

5

羅水〔京〕	寛二口ノ1才
蘿送〔伊勢津〕	寛十23ウ
蘿道〔伊勢〕	寛一9才
蘿風〔長門赤間関〕	寛三19ウ 寛四36才
寛五31才	寛六32才 寛八44ウ
羅仏〔上野上ノ宮〕	寛九15ウ
裸木〔丹後橋立〕	寛四26ウ
羅門〔武藏深谷〕	寛五20才 寛九12才
羅葉〔加賀〕	寛三13才
闌雨〔筑前甘木〕	寛五33才
闌下〔加賀〕	寛四37才
嵐艾〔越中〕	寛四21ウ
闌鴉〔伊勢相可〕	寛十31ウ
蘭居〔近江駒井沢〕	寛一3才
蘭溪〔筑前鞍手／若宮〕	寛四10才
寛五33ウ	寛六33ウ 寛七29才
寛八48ウ	寛八48ウ
嵐桂〔京〕	寛八60才
嵐月〔京〕	天六3才 天七1ウ
寛一7才	寛二3才 寬四34才
寛五2ウ	寛五47才 寛六38才
寛七34ウ	寛七34ウ
蘭月〔伊勢雲出川〕	寛八24ウ
藍江〔筑前〕	寛二16ウ 寛三26才
蘭谷〔肥前〕	寛十15才

關更〔京〕	天六初才 天六12ウ
嵐山	天七ハウ 天七14才 寬一1才
蘭山	寛一9ウ 寬二口ノ1才
嵐枝	審二19才 審二19ウ 審三2才
嵐芝	審三24ウ 審四1才 審四34才
嵐之	審五2才 審五48才 審六2才
嵐史	審六25ウ 審六41ウ 審七1才
蘭子〔京〕	審七2才 審七38才 審八序ウ
蘭子〔豊後〕	審八62才 審九1才 審九40ウ
嵐松	審十1ノ1才 審十15ウ
嵐樵	審十32才
蘭丈	審十3ウ
蘭十〔武藏野上町〕	審十36ウ
嵐水〔信濃飯田〕	審七16ウ
蘭二〔陸奥〕	審七30ウ 審八57才 審九12ウ
蘭水〔加賀金沢〕	審七21才 審八65才 審十3ウ
嵐石〔京〕	審八60ウ

蘭夕〔筑前福岡〕 寛九17才  
蘭台〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才  
寛七43ウ 寛八46ウ  
鬱台〔京〕 寛六43ウ 寛八2才  
寛八60ウ

蘭乃〔京〕 天七2ウ  
蘭亭〔大坂〕 寛十3才  
蘭亭〔筑前福岡〕 寛九35ウ  
蘭島〔伊勢〕 寛十32才  
蘭尾〔加賀金沢〕 寛三12ウ 寛四13才  
寛八5才  
嵐峰〔石見〕 寛二15才  
嵐峰→岐草〔能登〕  
蘭陵〔大和郡山〕 寛六24才  
寛八5才

利躬〔甲斐逸見〕 寛九9才  
李喬〔三秀亭〕〔三河龍城内〕 寛九21才  
蘭亭〔長門〕 寛十35ウ  
李曉〔周防小郡〕 寛八46才  
里曉〔石見〕 寛二15才  
里翹〔長門〕 寛十35ウ  
李曉〔周防小郡〕 寛八46才  
理玉〔江戸〕 寛九27ウ  
理玉〔伊勢津〕 寛十13ウ  
里桂〔筑前〕 寛四10才  
李溪〔能登田鶴浜〕 寛四15才 寛五9才  
寛六10ウ  
李蹊〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才  
李蹊〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才  
寛十25ウ  
李蹊〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ  
里圭〔陸奥津軽〕 寛十35才  
寛五28才 寛七34才 寛八39ウ  
梨陰〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ  
李月〔能登七尾所之口〕 寛四18才  
寛五10ウ 寛八9ウ  
李元〔上野田口〕 寛十31才  
鯉湖〔加賀〕 寛三13才 寛四12才  
李耕〔陸奥〕 寛六15才  
里江〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32才  
寛八45才  
李下〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八5ウ  
寛十36ウ  
里楽〔京〕 寛八60才  
李冠〔甲斐山寺〕 寛七41才

李閔〔肥後〕 寛五39才  
りき〔近江辻村〕 寛二7ウ 寛三8才  
寛四38才 寛五4ウ 寛六5才  
寛七5才

里旧〔伊勢〕 寛四15才  
利躬〔甲斐逸見〕 寛九9才  
李喬〔三秀亭〕〔三河龍城内〕 寛九21才  
里翹〔長門〕 寛十35ウ  
李曉〔周防小郡〕 寛八46才  
理玉〔伊勢津〕 寛十13ウ  
里桂〔筑前〕 寛四10才  
李溪〔能登田鶴浜〕 寛四15才 寛五9才  
寛六10ウ  
李蹊〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才  
李蹊〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才  
寛十25ウ  
李蹊〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ  
里圭〔陸奥津軽〕 寛十35才  
寛五28才 寛七34才 寛八39ウ  
梨陰〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ  
李月〔能登七尾所之口〕 寛四18才  
寛五10ウ 寛八9ウ  
李元〔上野田口〕 寛十31才  
鯉湖〔加賀〕 寛三13才 寛四12才  
李耕〔陸奥〕 寛六15才  
里江〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32才  
寛八45才  
李下〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八5ウ  
寛十36ウ  
里楽〔京〕 寛八60才  
李冠〔甲斐山寺〕 寛七41才

李三〔加賀〕 寛一9ウ  
李山〔備中笠岡〕 寛三17ウ  
李山〔京〕 寛六2ウ  
寛六25才 寛七23ウ 寛八29才  
李山〔河内桔木／河西／村野〕  
寛七5才

利躬〔甲斐逸見〕 寛九9才  
李喬〔三秀亭〕〔三河龍城内〕 寛九21才  
里翹〔長門〕 寛十35ウ  
李曉〔周防小郡〕 寛八46才  
理玉〔伊勢津〕 寛十13ウ  
里桂〔筑前〕 寛四10才  
李溪〔能登田鶴浜〕 寛四15才 寛五9才  
寛六10ウ  
李蹊〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才  
李蹊〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才  
寛十25ウ  
李蹊〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ  
里圭〔陸奥津軽〕 寛十35才  
寛五28才 寛七34才 寛八39ウ  
梨陰〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ  
李月〔能登七尾所之口〕 寛四18才  
寛五10ウ 寛八9ウ  
李元〔上野田口〕 寛十31才  
鯉湖〔加賀〕 寬三13才 寛四12才  
李耕〔陸奥〕 寛六15才  
里江〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32才  
寛八45才  
李下〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八5ウ  
寛十36ウ  
里楽〔京〕 寛八60才  
李冠〔甲斐山寺〕 寛七41才

李夕〔肥後熊本〕 寛四4ウ 寛五38才  
李雪〔上野厩橋・前橋〕 寛四35才  
寛五14ウ 寛九9ウ 寛十31才  
寛十14ウ

利躬〔甲斐逸見〕 寛九9才  
李喬〔三秀亭〕〔三河龍城内〕 寛九21才  
里翹〔長門〕 寛十35ウ  
李曉〔周防小郡〕 寛八46才  
理玉〔伊勢津〕 寛十13ウ  
里桂〔筑前〕 寛四10才  
李溪〔能登田鶴浜〕 寛四15才 寛五9才  
寛六10ウ  
李蹊〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才  
李蹊〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才  
寛十25ウ  
李蹊〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ  
里圭〔陸奥津軽〕 寛十35才  
寛五28才 寛七34才 寛八39ウ  
梨陰〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ  
李月〔能登七尾所之口〕 寛四18才  
寛五10ウ 寛八9ウ  
李元〔上野田口〕 寛十31才  
鯉湖〔加賀〕 寬三13才 寛四12才  
李耕〔陸奥〕 寛六15才  
里江〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32才  
寛八45才  
李下〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八5ウ  
寛十36ウ  
里楽〔京〕 寛八60才  
李冠〔甲斐山寺〕 寛七41才

りはへりよ

里泊	〔越中〕 寛四 20 ウ 寛六 11 ウ
利帆	〔肥前神代〕 寛五 36 ウ
李風	〔南山城八幡〕 寛七 45 ウ 寛八 56 ウ
李風	〔伊予今治〕 寛八 41 オ 寛九 8 ウ
梨風	〔近江水口〕 天六 7 オ 寛二 7 ウ
寬三 9 オ 寛四 24 ウ 寛六 36 オ	寛七 44 ウ
里風	〔信濃飯田林〕 寛八 33 ウ
柳文	〔南山城八幡〕 寛四 37 オ 寛五 43 オ
鯉文	〔南山城八幡〕 寛四 27 オ 寛五 36 オ
鯉文	〔南山城八幡〕 寬四 24 ウ 寛六 11 ウ
柳子	〔若狭〕 寬四 33 オ
柳只	〔若狭西津〕 寬三 12 オ 寛四 25 ウ
柳支	〔美作久世女〕 寬五 41 ウ
柳旨	〔若狭〕 寬三 10 オ
柳枝	〔上野宮崎〕 天六 11 オ
柳枝	〔加賀二ノ宮〕 寛四 20 オ
柳枝	〔信濃飯田〕 寬八 33 ウ 寛九 7 ウ
柳枝	〔長門〕 寬二 16 オ 寛六 33 オ
里芳	〔美作〕 寬六 28 オ
李牧	〔李朝〕 〔若狭〕 寬二 11 オ
李明	〔近江守山京〕 審二 7 ウ
李明	〔近江守山京〕 審三 9 オ 寛四 23 ウ 審五 3 オ
寬五 4 オ 審七 5 オ 審八 2 ウ	寛八 59 オ
李明	〔武藏本庄〕 審四 25 ウ 審五 19 ウ
李明	〔武藏本庄〕 審四 25 ウ 審五 19 ウ
寬六 17 ウ 審七 15 オ 審七 16 オ	寛八 19 オ 審八 20 ウ
李友	〔能登〕 審二 12 オ 審三 15 オ
俚尤	〔京尼〕 審五 3 オ 審五 45 オ
寬六 2 ウ 審六 39 ウ 審七 3 オ	寛七 36 オ 審八 2 ウ 審八 60 オ
寬九 1 ウ 審九 39 オ	寛九 1 ウ 審九 39 オ
籬邑	〔近江堅田〕 審七 4 ウ 審八 57 オ
柳園	〔肥後〕 審四 4 ウ
柳歌	〔上野平出〕 審五 14 オ

柳化	〔加賀〕 審五 6 オ
柳芽	〔備後府中〕 審七 25 ウ 審八 39 オ
柳橋	〔甲斐小笠原〕 審五 21 ウ
柳月	〔安房〕 天六 10 ウ
柳光	〔京〕 審四 33 オ
柳子	〔若狭〕 審二 11 オ
柳只	〔若狭西津〕 審三 12 オ 審四 25 ウ
柳志	〔美作久世女〕 審五 41 ウ
柳旨	〔上野宮崎〕 天六 11 オ
柳枝	〔加賀二ノ宮〕 審四 20 オ
柳枝	〔信濃飯田〕 審八 33 ウ 審九 7 ウ
柳枝	〔長門〕 審二 16 オ 審六 33 オ
里芳	〔美作〕 審六 28 オ
李牧	〔李朝〕 〔若狭〕 審二 11 オ
李明	〔近江守山京〕 審二 7 ウ
李明	〔近江守山京〕 審三 9 オ 審四 23 ウ 審五 3 オ
寬五 4 オ 審七 5 オ 審八 2 ウ	寛八 59 オ
李明	〔武藏本庄〕 審四 25 ウ 審五 19 ウ
柳水	〔能登富木〕 審七 8 ウ
柳雪	〔安房〕 審六 18 オ
柳莊	〔能登善光寺〕 審七 22 オ
柳水	〔上野田口〕 審九 9 ウ
柳多	〔肥後〕 審十 14 ウ
柳汀	〔怡水〕 〔能登黒島〕 審二 11 ウ
流志	〔筑前篠田〕 審五 34 オ
流志	〔周防山口〕 審八 46 オ 審九 33 ウ
隆泉	〔京〕 審八 60 オ
笠蘭	〔江戸〕 審五 18 ウ
了江	〔浪花〕 審九 16 オ
了砂	〔肥前天草〕 審七 39 ウ
綾窓	〔加賀〕 審五 6 ウ
菱秀	〔能登〕 審五 8 ウ
菱丈	〔大和郡山〕 審五 25 オ
菱風	〔加賀柏野〕 審七 6 ウ

柳里	〔備後福山〕 審五 28 ウ
柳鄙女	〔筑前福岡〕 審八 48 ウ
龍湫	〔加賀〕 審七 6 オ
龍湫	〔京〕 審四 1 オ 審九 39 ウ
龍湫	〔筑前黒崎〕 審一 5 ウ
龍花	〔越前〕 審十 11 オ
龍山	〔上野西ノ関〕 審八 2 ウ
龍山	〔但馬和田〕 審九 13 ウ
龍山	〔但馬芝村〕 審十 21 オ
龍石	〔加賀〕 審四 37 ウ
龍堆	〔但馬芝村〕 審十 21 オ
龍爪	〔京〕 審二 19 ウ
龍笛	〔甲斐平岡〕 審九 30 オ 審十 34 ウ
龍尾	〔出雲〕 審二 14 ウ
龍尾	〔但馬生野〕 審三 17 オ 審五 42 ウ
涼秀	〔武藏青梅〕 審五 19 オ
涼花	〔加賀〕 審四 11 ウ
涼山	〔信濃下県〕 審五 23 オ
涼山	〔信濃下県〕 審六 27 ウ 審八 38 オ 審十 19 オ
涼眉	〔筑前植木〕 審四 9 オ 審五 33 ウ
涼眉	〔近江草津〕 審五 5 オ
涼眉	〔上野草津〕 審六 13 オ 審七 32 ウ
涼眉	〔上野草津〕 審七 33 ウ 審八 15 オ 審八 16 ウ
良化	〔能登寺口〕 審八 8 ウ
良交	〔更〕 〔近江石部〕 天六 5 ウ
天七 7 ウ 審五 2 ウ 審五 4 オ	寛六 4 オ 審八 3 オ
良水	〔南山城寺田〕 審三 22 オ 審四 30 オ
良水	〔能登輪島〕 審四 15 オ 審七 8 オ
良和	〔能登寺口〕 審七 8 オ

菱可	〔長門萩〕 審七 40 オ
菱歌	〔加賀〕 審四 13 ウ 審六 5 ウ
菱形	〔加賀〕 審五 6 オ
菱波	〔周防山口〕 審八 46 オ
凌花	〔安房〕 審三 7 ウ
凌冬	〔加賀金沢〕 審三 14 オ 審四 11 オ
凌冬	寛五 45 ウ 審七 6 ウ
梁園	〔山城宇治〕 審二 5 ウ
梁園	〔山城宇治〕 審二 21 オ 審八 56 オ
涼瓜	〔肥後山鹿〕 審十 14 ウ
涼瓜	〔肥後山鹿〕 審八 21 オ 審八 56 オ
涼化	〔武藏八幡山〕 審八 20 オ
涼化	〔武藏八幡山〕 審八 20 オ
涼山	〔信濃下県〕 審五 23 オ
涼山	〔信濃下県〕 審六 27 ウ 審八 38 オ 審十 19 オ
涼字	〔武藏青梅〕 審五 19 オ
涼秀	〔但馬生野〕 審三 17 オ 審五 42 ウ
涼秀	〔但馬生野〕 審三 17 オ 審五 42 ウ
涼眉	〔筑前植木〕 審四 9 オ 審五 33 ウ
涼眉	〔近江草津〕 審五 5 オ
涼眉	〔上野草津〕 審六 13 オ 審七 32 ウ
涼眉	〔上野草津〕 審七 33 ウ 審八 15 オ 審八 16 ウ
良化	〔能登寺口〕 審八 8 ウ
良交	〔更〕 〔近江石部〕 天六 5 ウ
天七 7 ウ 審五 2 ウ 審五 4 オ	寛六 4 オ 審八 3 オ
良水	〔南山城寺田〕 審三 22 オ 審四 30 オ
良水	〔能登輪島〕 審四 15 オ 審七 8 オ
良和	〔能登寺口〕 審七 8 オ



路翠	〔京〕 宽七 37 ウ
芦錐	〔江戸〕 宽九 36 オ
魯水	〔紀伊〕 宽二 13 オ
芦盛	〔長門〕 宽六 32 ウ
芦石	〔肥後八代〕 宽五 37 オ
芦汐	〔武藏秩父吉田町〕 宽七 16 ウ
	寬八 19 オ
芦雪	〔大和多武峰／宇陀〕 宽二 13 オ
	寬四 30 オ 宽五 25 オ
廬雪	〔越前福井〕 天七 13 ウ
	寬七 36 ウ
鷺雪	〔甲斐駹沢〕 宽四 28 オ 宽五 21 オ
魯仙	〔越中永見〕 宽九 21 ウ
芦仙	〔紫桂〕 〔京〕 天六 12 オ
魯川	〔伊予道前〕 宽七 27 オ
廬泉	〔肥前〕 宽八 51 ウ
魯仙	〔安房〕 宽六 18 ウ
露仙	〔陸奥仙台〕 宽七 13 オ 宽八 23 オ
	寬九 30 ウ
芦村	〔浪花〕 宽七 42 ウ 宽八 55 ウ
呂岱	〔能登七尾〕 宽四 17 ウ
芦丹	〔安芸御手洗〕 宽八 40 オ
芦丹	〔近江貝津〕 宽九 5 ウ
駢丹	〔京〕 宽六 3 オ 宽六 39 ウ
	寛七 3 ウ 宽七 37 オ 宽八 1 ウ
	寛八 58 オ 宽九 2 オ 宽九 37 ウ
	寛十 1 ノ 1 オ 宽十 26 ウ
露竹	〔石見日原〕 天七 12 ウ

芦蝶	〔京〕	寛五45ウ
芦調	〔近江長浜〕	寛八4才
魯丁	〔越中渴口〕	寛九35才
魯長	〔南山城野尻〕	寛二ノ1ウ
	寛一4ウ	寛三22ウ
	寛四30ウ	寛五2ウ
	寛五43ウ	寛六3才
	寛六36ウ	寛七2ウ
	寛七31才	寛八56ウ
	寛九10才	寛十1ノ1ウ
	寛十27ウ	寛九34ウ
魯長	〔越中高岡〕	寛八11ウ
	寛九34才	寛九34ウ
路鳥	〔伊勢津・洞津連〕	天六9才
	天七10才	寛八25ウ
露朝	〔備中倉敷〕	寛三17ウ
	寛四7ウ	寛八29ウ
六珈	〔甲斐浅原〕	寛九19才
	寛十33ウ	寛十33ウ
鷺汀	〔備後福山〕	寛五28ウ
	寛十15才	寛十15才
芦笛	〔肥前〕	寛十15才
駢童	〔肥後山鹿〕	寛三21ウ
	寛四5ウ	寛八45ウ
露濃	〔長門舟木〕	寛八45ウ
鷺白	〔上野草津〕	寛五13才
	寛六12ウ	寛七32ウ
	寛八14ウ	寛九5才
鷺白	〔越前〕	寛十11才
魯畔	〔加賀〕	寛四13ウ
呂柏	〔肥前神代〕	寛五36ウ
	寛八50才	寛九24才
露帆	〔陸奥〕	寛九29ウ
芦風	〔肥前有田〕	寛八49ウ
芦風	〔河内郡津〕	寛九22ウ
	寛十28才	寛九22ウ

わ

和扇	〔安芸能美〕	寛七 46 ウ
和水	〔肥前天草〕	寛七 38 ウ 寛七 39 才
和水	〔河内楠葉〕	寛八 29 才
和水	〔甲斐平岡〕	寛八 31 才 寛九 30 才
和睡	〔陸奥仙台連〕	寛九 30 ウ
和井	〔下野足利〕	寛七 12 ウ 寛八 23 才
和石	〔甲斐山寺／平岡〕	寛六 19 才
寛七 41 才	寛八 30 ウ 寛九 30 才	
寛十 34 才		
駢鳴	〔京〕	寛四 2 ウ
路明	〔長門赤間関〕	寛六 33 才 寛八 43 ウ
露友	〔伊勢石薬師〕	寛五 24 才
路要	〔武藏黛村〕	寛七 17 才
芦流	〔若狭長江〕	天七 11 才
和十	〔肥前〕	寛八 51 才
和重	〔涯州〕	寛五 41 才
倭水	〔安房〕	天六 10 ウ
和吹	〔遠江久喜賀浦／植松〕	寛九 15 才
寛十 1 ウ	寛十 4 才	寛十 37 ウ
和水	〔薩摩鹿兒島〕	寛四 10 ウ
和水	〔涯州〕	寛五 41 才
和水	〔肥前天草〕	寛七 38 ウ 寛七 39 才
和水	〔河内楠葉〕	寛八 29 才
和水	〔甲斐平岡〕	寛八 31 才 寛九 30 才
和睡	〔陸奥仙台連〕	寛九 30 ウ
和井	〔下野足利〕	寛七 12 ウ 寛八 23 才
和石	〔甲斐山寺／平岡〕	寛六 19 才
寛七 41 才	寛八 30 ウ 寛九 30 才	
寛十 34 才		
駢鳴	〔京〕	寛四 2 ウ
路明	〔長門赤間関〕	寛六 33 才 寛八 43 ウ
露友	〔伊勢石薬師〕	寛五 24 才
路要	〔武藏黛村〕	寛七 17 才
芦流	〔若狭長江〕	天七 11 才
和十	〔肥前〕	寛八 51 才
和重	〔涯州〕	寛五 41 才
倭水	〔安房〕	天六 10 ウ
和吹	〔遠江久喜賀浦／植松〕	寛九 15 才
寛十 1 ウ	寛十 4 才	寛十 37 ウ
和水	〔薩摩鹿兒島〕	寛四 10 ウ
和水	〔涯州〕	寛五 41 才
和水	〔肥前天草〕	寛七 38 ウ 寛七 39 才
和水	〔河内楠葉〕	寛八 29 才
和水	〔甲斐平岡〕	寛八 31 才 寛九 30 才
和睡	〔陸奥仙台連〕	寛九 30 ウ
和井	〔下野足利〕	寛七 12 ウ 寛八 23 才
和石	〔甲斐山寺／平岡〕	寛六 19 才
寛七 41 才	寛八 30 ウ 寛九 30 才	
寛十 34 才		

倭泉	〔京〕	和旦	〔但馬千原〕	天六 9 ウ	天七 12 オ
和道	〔周防岐波〕	小郡	寛三 17 才	寛八 46 ウ	寛七 43 才
倭風	〔安房磯村〕	天六 10 才	寛一 2 才	寛三 7 ウ	寛四 23 才
和睦	〔陸奥仙台〕	寛八 23 才	寛六 17 ウ	寛三 7 ウ	寛四 23 才
和由	〔長門〕	寛十 35 ウ	寛六 17 ウ	寛三 7 ウ	寛四 23 才
和養	〔江戸〕	寛九 27 ウ	寛六 17 ウ	寛三 7 ウ	寛四 23 才
和楽	〔和泉〕	寛七 23 才	寛六 17 ウ	寛三 7 ウ	寛四 23 才
和林	〔在京若狭〕	寛八 57 ウ	寛六 17 ウ	寛三 7 ウ	寛四 23 才

付表一 各年本の編成

寛政十	寛政九	寛政八	寛政七	寛政六	寛政五	寛政四	寛政三	寛政二	寛政一	天明七	天明六	丙午花供養	年次	標題			参列者	奉納発句・連句	※連句の発句を除く	備考	
														序文	卷頭連句	句数					
一順	百韻一順	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	於南無庵興行	寛政元酉年三月十二日	なし	芭蕉堂	なし	なし	蘭更	渭川	8	句数
波井	芦丸	蒼虬	百池	竹堂	蟠水	山亭	可能	無署名	なし	不記	不記	〔百韻〕	〔百韻〕	芦涯	蘭更	不記	不記	渭川	8	京都	
蟹洲	百池	兎仙	蟹洲	斗流	蟠水	山亭	清秋	羅水	芦涯	不記	不記	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	蘭更	蘭更	蘭更	蘭更	8	近江	
蘭更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	闌更	渭川	8	他地		
32	42	〔百韻〕	44	36	35	34	34	25	10	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	〔百韻〕	句数	
区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	句数	
40	42	67	49	45	49	40	26	25	10	16	14	174	174	174	丁数	※発句	連句	跋文	区別せず	区別せず	
434	545	785	619	571	692	620	333	281	156	214	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
13	9	18	8	8	4	2	3	3	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	なし	
なし	なし	なし	淇竹	なし	なし	なし	芦涯	なし	なし	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	
芭蕉堂藏板	芭蕉堂藏板	芭蕉堂藏板	芭蕉堂藏板	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	菊舍太兵衛	刊行書肆	
*地域毎に奉納俳諧、蒼虬句を巻末に配置、 追加有	*地域毎に奉納俳諧、「句順従遅速」、洛を 最後に配置	*地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、 遅来有	*地域毎に奉納俳諧、「遅參」、洛を最後に 配置、追加、獲車筆「花をめづる記」有	*地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、追 加有	*地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、追 加、遅来有	*地域毎に奉納俳諧、短歌二首有、洛を最 後に配置、追加有	*地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、追 加、遅来有	*地域毎に奉納俳諧、「奉納句順任到来」、 「一座捻香」を最後に配置、遅来有	*地域毎に奉納俳諧、「奉納句順任到来」、 「一座」句を最後に配 置、追加有	*「奉納句順任到来」、 「一座」句を最後に配 置、「遅來」有	*卷頭に杉風発句桃青脇の歌仙、蘭更句を 卷末に配置、「百韻あり略之」とのみ有	*卷頭連句は短句一字下げ、以下連句は同 様の形式、蘭更句を巻末に配置									

付表Ⅱ 各年別・国別諸国奉納発句数

計	寛10	寛9	寛8	寛7	寛6	寛5	寛4	寛3	寛2	寛1	天7	天6	地域
109	6	33	5	8	21	18	13	3	2				陸奥
36	2	3	2	9	3	11	4		1		1		出羽
45	5	7	12	11		2	5	1	2				下野
325	31	48	55	48	45	46	21	25	2	2	2		上野
4		2	1						1				常陸
50	2	3	1	5	15		9	4		4	1	6	安房
13						4				9			上総
4		1				1	1					1	下総
193	9	30	42	37	19	29	5	15	2	4	1		江戸・武藏
14	7	4		2	1								相模
2	1			1									伊豆
198	23	43	37	27	18	19	23	1	5	1		1	甲斐
3				1		1	1						駿河
32	4	8	2	1	2	3	1	5	4	2			遠江
4		2	1	1									三河
15			4	1			8	1	1				尾張
163	10	20	37	41	30	17	2	5			1		信濃
3		1	1	1									飛騨
2									1		1		美濃
26	4	6	3	3	2	2	1	4		1			越後
174	4	31	21	14	18	24	35	17	6	1	1	2	越中
310	40	13	41	36	24	43	73	21	17	2			能登
282	15	11	49	24	20	38	75	33	3	4	6	4	加賀
37	21	5	1	1			2		1	1	2	3	越前
85			2	2	3	5	9	23	21	5	12	3	若狭
244	29	19	35	20	12	20	24	14	15	4	29	23	伊勢
12		1			1	1	1				7	1	志摩
34	3	1			3		3	2	5	3	14		伊賀
426	19	26	46	45	42	41	39	38	38	21	39	32	近江
814	31	63	110	83	88	79	81	25	69	50	68	67	京・南山城
23				2	5	3	4	4	3	1	1		大和
50	10	10	8	7	5	5	4					1	河内
124	19	23	17	14	10	9	11	2	3	6	4	6	浪花・大坂・攝津
4				3	1								和泉
11	1	1		2	2	1	2		2				紀伊
9				1	1	5	1			1			淡路
59	4	4	12	2	3	4	3	7	10	5	4	1	播磨
55	4	6	5	2	12	3	4	3	9	3	2	2	丹波
22	6		1	4	4		5					2	丹後
56	14	4	12	2	3	8	1	3			5	4	但馬
5	2	2							1				出雲
36			3	4	6	6	3		12		2		石見
24			7	5	6	6							美作
5			1		1		1	1		1			備前
67	1		4	7	2	21	14	13	1		1	3	備中
100	7	4	17	12	8	21	8	8	9	5	1		備後
59	5	6	8	4	4	10	4	11	4	2		1	安芸
104		10	23	22	26	20	2	1					周防
116	11	6	16	5	33	19	8	3	13	1	1		長門
10		2	1	1	2			2	1		1		阿波
25	3	3	4	1	2	2	4	6					讃岐
55	4	5	16	17	1		6	6					伊予
223	2	19	34	38	33	30	30	22	5	10			筑前
2	1										1		筑後
42	8	2	13	3	2	3	1	2	4	1	3		豊前
13	1	4	4		1	1	1		1				豊後
3	3												壱岐
246	42	31	55	29	17	39	27	1	2	1	1	1	肥前
113	9	1	2	2	6	60	25	1	6				肥後
8	1	1	1	1	1	1	2						日向
22			2	1	5		9	1		4			薩摩
10	1	1	1	2	1	1	1	1			1		対馬
10						10							涯州
5370	425	526	775	615	570	692	617	335	282	155	213	164	計
	44	45	47	51	48	46	50	38	37	29	31	20	国数

(注1)「行脚」「雲水」など地域未詳の者は除いた。

(注2) 同年の複数句の入集は、重複して算入しない。

『花供養』所藏一覽

年次 編者 所藏先

【備考】丙午花供養

23	22
十三	九
蒼虬	蒼虬
月明・竹冷・白鹿・武藏	綿屋・月明・糸井・白鹿・學習院大・石見(合本)
愛知県大・石見(合本)	石川歎博
【備考】文化八年興行も入集	

【備考】文化八年興行も入集

天明 六 闌更 編屋・糸井・白鹿・柿衛・国会・愛知県大・※芭蕉堂  
七 闌更 編屋・※芭蕉堂・愛知県大・中島杏文庫

23	22
十三	九
蒼虬	蒼虬
綿屋・月明・糸井・白鹿・學習院大・石見（合本）・石川歷博	綿屋・月明・糸井・白鹿・學習院大・石見（合本）・石川歷博
麗沢・石川歷博	麗沢・石川歷博
[備考] 文化八年興行も入集	[備考] 文化八年興行も入集

**備考** 文化二、三年興行も入集  
明治二十六年六月三日

文政十一年  
白鹿・武藏・時雨  
三部・玉川大・麗沢大  
天保元年  
蒼丸・錦屋・月明  
二郎・竹令・白鹿・石川整博・芭蕉翁記念・※

芭蕉堂・愛知芸大・愛知県大

26  
三 千崖 月明・糸井・武藏・石川歴博・立教大・下垣内・山田・雲英・

※芭蕉堂

27  
四 蒼虬 編屋・月明・糸井・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・徳島県図・燕々・

下垣内・愛知芸大・愛知教大・麗沢・白鹿(三部)・九州大・  
長崎県立吉塚

28  
五  
蒼虻  
月明・白鹿(二部)・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・山田・古宅家  
長崎縣医師

天保十朝陽月明・白鹿・武藏・※芭蕉堂・某家(国文研マイクロ)

30  
十一 朝陽 白鹿・立教(袋付)・九州大・大内初夫

31  
十二 九起 立教・山崎・櫻井

〔備考〕刊年無記載。九華序

十三 九起 編屋・糸井・白鹿・山田・八戸市岡・※芭蕉堂・蝸牛廬文庫・  
八戸市岡百山洞・九州大

八月十四日、百忙之中、九起、十  
四、綿屋・月明(袋付)・大阪府因・芭蕉翁記念・立教大・武藏・

中島杏・※芭蕉堂・山本唯一・正宗文庫・下垣内・富山県図・

山田・奈良文庫・燕々

【備考】芭蕉百五十回忌（二冊）

弘化元九起月明・武藏・国会・下垣内・※芭蕉堂・雲英

—  
33  
— 九起 月明・白鹿・武藏・※芭蕉堂・高岡・九州大・櫻井・燕々

**【備考】**芭蕉百五十回忌（二冊）

月明・武藏・国会・下垣内・※芭蕉堂・雲革  
一月一日更

月明・白鹿・武藏・芭蕉堂・高岡圓・九州大・櫻井・燕々

130

52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	
慶応	元治	元	元	文久	万延	元	公成	五	四	三	元	安政	元	九起	三	九起	
二	二	二	三	三	六	公成	公成	公成	公成	公成	公成	九起	九起	九起	九起	九起	
公成	公成	公成	公成	公成	月明	白鹿	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫						
三康	綿屋	綿屋	綿屋	綿屋	中島杏	立教大・下垣内	立教大・下垣内	立教大・下垣内	立教大・下垣内	立教大・下垣内							
※芭蕉堂	・白鹿	・白鹿	・白鹿	・白鹿	・古宅家	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井							
					・奈良大	・竹内千代子	・竹内千代子	・竹内千代子	・竹内千代子	・竹内千代子							
					・富山県図	・下垣内	・下垣内	・下垣内	・下垣内	・下垣内							
					白鹿	・石川歴博・三康	・石川歴博・三康	・石川歴博・三康	・石川歴博・三康	・石川歴博・三康							
					・中島杏	・下垣内・古宅家	・下垣内・古宅家	・下垣内・古宅家	・下垣内・古宅家	・下垣内・古宅家							
					・山本唯	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井	・奈良大・櫻井							
					(欠損有)	・(袋付)	・(袋付)	・(袋付)	・(袋付)	・(袋付)							

【備考】嘉永元年興行も入集

三 九起 月明・白鹿（三部）・国文研・愛知県大・九州大・※芭蕉堂・燕々・竹内千代子

四 九起 月明・白鹿・芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市岡矢部・小林孔・大内初夫

三 公成 編屋・月明・白鹿・芭蕉翁記念・三康・名古屋市鶴舞中央図・東海女短大関山文庫・燕々・櫻井・東海学園名古屋哲誠

四 九起 編屋・白鹿・芭蕉翁記念・三康・櫻井

【備考】明治二年興行、同三年刊

53

三 良大 編屋・月明・白鹿・芭蕉翁記念・三康・名古屋市鶴舞中央図・東海女短大関山文庫・燕々・櫻井・東海学園名古屋哲誠

54

明治 三 良大 編屋・白鹿・芭蕉翁記念・三康・櫻井

一 略記号は次の通りである。

愛知県大 愛知県立大学附属図書館

時雨 秋田県立秋田図書館時雨庵文庫

石川歴博 石川県立歴史博物館大鋸コレクション

糸井 京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫

石見 弘前市立弘前図書館石見文庫

穎原 京都大学文学部図書館穎原文庫

燕々 岡山市立図書館燕々文庫

下垣内 尾道市立大学附属図書館下垣内文庫

河野美 今治市河野美術館

雲英 早稲田大学図書館雲英文庫

月明 石川県立図書館月明文庫

櫻井 立命館大学アート・リサーチセンター 櫻井文庫

関口 長野県立長野図書館関口文庫

高岡図 高岡市立高岡図書館

竹冷 東京大学附属図書館竹冷文庫

中島杏 富山県小矢部市立礪中図書館

白鹿 兵庫県西宮市笛部桜コレクション——白鹿記念酒造博物館寄託——

堀家 京都府城陽市歴史民俗資料館マイクロ資料

武藏 武藏野大学図書館旧前田利治蔵

森 大阪市立大学附属図書館森文庫

山崎 大阪府立大学学術情報センター山崎文庫

山田 大阪府立大学山田文庫

麗沢 麗沢大学附属図書館田中文庫

綿屋 天理大学附属天理図書館綿屋文庫

一 ※記号は、目録などに記載はあるが、所在確認のできないもの  
一 写本は原則として記載しない

## 参考文献

櫻井武次郎 「花供養所蔵先リスト」(大阪俳文学研究会「会報」38号)

## 『古典籍総合目録』

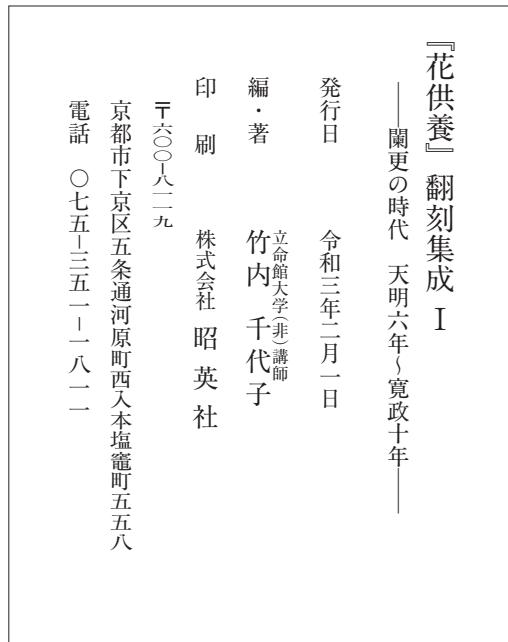
国文学研究資料館古典籍データベース  
各図書館・文庫目録及びデータベース

## 付記

- 一本稿は、京都俳諧研究会の成果の一部である。研究メンバーは、竹内千代子、松本節子、小林孔、高井悠子、青木亮人、金子貴昭、赤間亮（敬称略）。
- 一 科学研究費助成事業・基盤研究（C）「近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧の研究」（課題番号 20K00353）の成果の一部である。
- 一 立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」 共同研究課題「花供養と芭蕉顕彰俳諧の研究」（代表：竹内千代子）の一部である。なお、成果の一部はWEB公開中である。

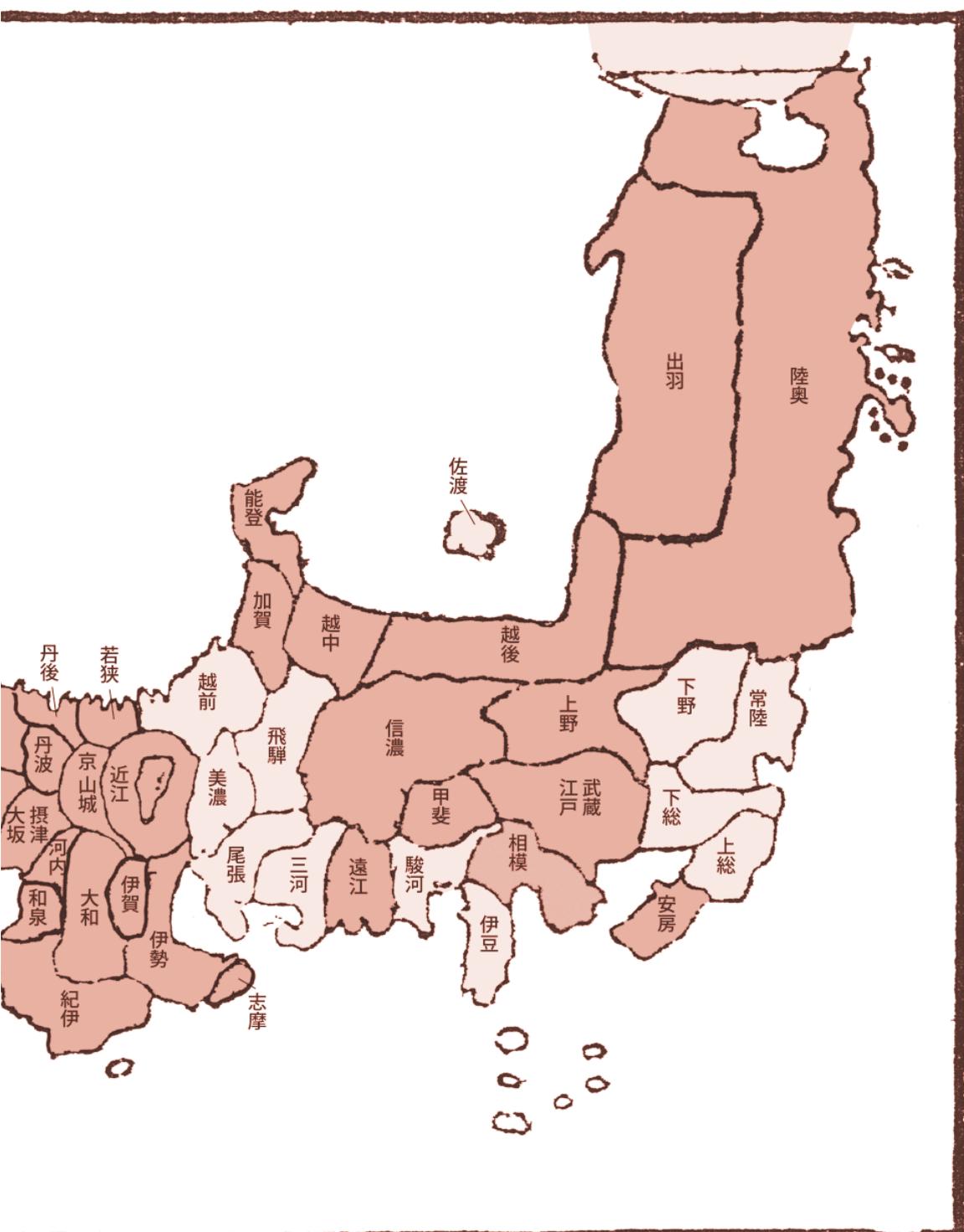
<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/rarebook/2/3/post-48.html>

表紙『芭蕉堂二代発句集』（架蔵）



寛政六年『花供養』より

■ 入集  
■ 未入集



『花供養』翻刻集成 I 正誤表

頁	誤	正
91	なし(俳号索引 凡例)	<p>— 次のものは、特に習慣によって読む。</p> <p>青銭(あおぜに)、青人(あおんど)、一茶(いっさ)、得終(えしゅう) (俳号索引 凡例)</p> <p>— 刊記の人名は取らない。(俳号索引 凡例)</p> <p>— 次のように改号、別号などの併記がある場合は、所在を重複して記し、傍線等を付し、所在に対応する。</p> <p>軸磨更 <b>簞渢</b> → 寛二13才 <b>寛二13才</b> (俳号索引 凡例)</p>
128	なし(付表 I)	※本文の底本による(付表 I)
128	※連句の発句を除く(付表 I)	※連句の発句を除く・ <b>延数</b> (付表 I)
129	付表 II 各年別・国別諸国 <b>奉納</b> <b>発句数</b>	付表 II 各年別・国別諸国 <b>奉納者</b> 数
129	なし(付表 II)	※本文の底本による
129	(注2)同年の複数句の <b>入集</b> は、重複して算入しない。(付表 II)	(注2)同年の複数句の <b>入集者</b> は、重複して算入しない。
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	14 享和元 小林孔(まつり見)
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	22 文化九 竹内千代子
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	28 天保五 神戸大
130～132	柿衛文庫(『花供養』所蔵一覧)	柿衛文庫(『花供養』所蔵一覧)
130～132	石見文庫(『花供養』所蔵一覧)	岩見文庫(『花供養』所蔵一覧)